

大 学 院 案 内

令和 8 年（2026 年）度

医学研究科医科学専攻
（修士課程）

埼玉医科大学大学院

目 次

1 校 歌	1
2 序 文	3
3 埼玉医科大学の教育方針	5
4 埼玉医科大学大学院医学研究科医科学専攻の概要	11
5 埼玉医科大学大学院学則等	15
6 履修に関する事項	27
(1) 埼玉医科大学学位規則	31
(2) 医学研究科医科学専攻の履修モデル	37
(3) 大学院修士課程の長期履修生制度	40
(4) 埼玉医科大学大学院科目等履修生受託規則	46
7 授業科目・教員一覧	49
8 シラバス	59
(1) 共通科目	63
(2) 専門科目	108
9 学生生活に関する規定	233
(1) 埼玉医科大学保健医療学部危機管理マニュアル（抄）	250
(2) 図書館利用案内	269
(3) 諸手続き	273
(4) 諸規則等	276

校 歌

埼玉医科大学校歌

作詞 栗原 浩
作曲 林 光

♩ = 96

1) あも けと ゆーくそらーにだーあさかんぜのはせい
2) もみ とど むりーるのたかーにだーあさかんぜのへかせい
3) み とど むりーるのたかーにだーあさかんぜのへかせい

てわてーがくのえみーんものもとぎーりをさたきやずわぐぬめとれつ
てわてーがくのえみーんものもとぎーりをさたきやずわぐぬめとれつ

きばつーせよろじょうのきのーはちーこところとしをぶをあらこぎ
きばつーせよろじょうのきのーはちーこところとしをぶをあらこぎ

いろむーしいしそがめうくいはのさみちゆてにるーいいわきかこたすうかべど
いろむーしいしそがめうくいはのさみちゆてにるーいいわきかこたすうかべど

しくのーわはくれれらのつまばこいびうててわわられらのつまばこ
しくのーわはくれれらのつまばこいびうててわわられらのつまばこ

いびうてて 1) こここにあり 2) こここにあり 3) こここにあり

こ に あ り

前奏

一、明け行く空に

学園の森

清浄の気は

思想は冴えて

われら集いて

ここにあり

朝風馳せて

さやぐとき

心を洗い

意気高し

われら集いて

二、求むるはただ

その源流を

よろずの命

医学の道に

われら学びて

ここにあり

久遠の平和

たずぬれば

貴ぶ精神

活かすべく

われら学びて

三、翠の丘陵に

真理と技を

毛呂山の地に

使命に燃ゆる

白亜の母校

ここにあり

抱かれて

究めつつ

歴史をきざむ

若人の

白亜の母校

序 文

序 文

本学の大学院は、昭和 53（1978）年に開設された医学研究科博士課程に始まります。この時の目的は、「学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて文化の進展に寄与すること」とされ、「専攻分野について、医学研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養う」ことを目標としてきました。

一方、わが国の大学院については、様々な課題が指摘されてきました。これに対して、中央教育審議会から、大学院の実質化ならびにグローバル化を推進することを目的に「新時代の大学院教育―国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて―」（平成 17 年 9 月 5 日）、続いて「グローバル化社会の大学院教育～世界の多様な分野で大学院修了者が活躍するために～」（平成 23 年 1 月 31 日）という 2 つの答申が示されました。その後、これらの答申の進捗状況を踏まえて、「未来を牽引する大学院教育改革「社会と協働した「知のプロフェッショナル」の育成」（平成 27 年 9 月 15 日）、さらに「2040 年を見据えた大学院教育のあるべき姿」（平成 31 年 1 月 22 日）が公表されました。各大学では、これらを参考に大学院改革を進めております。

本学においては、1) 大学院組織と指導教員の体制整備、2) 選択必修コース(実用実験医学特別講義、最新医学特別講義)による体系的なプログラムの組み立て、3) 専門医養成を目標とするがんプロフェッショナル養成プランへの参画、4) 社会人および外国人選抜枠の設置、5) 学位審査の適正化および透明性の確保、6) 秋入学制度の導入、7) 卒後臨床研修と大学院履修が同時に可能な臨床研修プログラム(研究マインド育成自由選択プログラム)の導入、8) 指導教員資格の見直し、等々の改革を実行してまいりました。

また、本学では平成 18 年(2006)4 月に保健医療学部が開設され、平成 22 年(2010 年)に保健医療学部から初めての卒業生が誕生するのにあわせて、大学院修士課程が設置されました。その目指すところは、「広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うこと」であり、「建学の理念」に基づいて描かれた「埼玉医科大学の期待する医療人像」にふさわしい人材を育成し、社会に送り出すことを通じて、世の中の保健、医療、福祉の向上に寄与する、という本学の目標を具体化したものです。

本学の医学研究科ならびに看護学研究科の修士課程は、これまで順調に発展してきました。今後も、研究に専念できる環境整備、経済的支援、研究指導および支援体制の強化などに取り組み、質の高い大学院教育に務めていきたいと考えます。大学における研究の一翼を担う大学院生ならびに学位取得者の今後の活躍に大きな期待を寄せております。

令和 8 年度の入学生を心から歓迎し、皆さんが所期の目的を達成することを祈念いたします。

令和 8 年 4 月

学長 竹内 勤

埼玉医科大学の教育方針

埼玉医科大学の教育方針

1. 埼玉医科大学の教育方針

(1) 建学の理念

埼玉医科大学は以下の建学の理念の下、1972年に毛呂山の地に創立されました。

【建学の理念】

- 第1. 生命への深い愛情と理解と奉仕に生きるすぐれた実地臨床医家の育成
- 第2. 自らが考え、求め、努め、以て自らの生長を主体的に開展し得る人間の育成
- 第3. 師弟同行の学風の育成

(2) 埼玉医科大学の期待する医療人像

本学の目指すところは、「建学の理念」にすべて言い尽くされており、基本的にはこれに付け加えるものは何もありません。

しかし、本学創立から現在までの間に医学・医療は過去に例を見ない急激な進歩を遂げ、また、社会情勢も大きく変化しました。ことに患者さんの意思尊重の重要性が一層認識され、加えて情報公開時代を迎え、新しい患者－医療人関係の構築が求められています。

1999年11月に制定(2017年4月改訂)された「埼玉医科大学の期待する医師像」は、埼玉医科大学が創立30周年を迎えるにあたり、改めて建学の理念を敷衍し、本学の期待する医師像を描いたものでした。

そして、2006年4月、本学は日高キャンパスに保健医療学部を設置し、医師のみならず保健・医療・福祉の担い手である多種多様な医療人を育成する医療系総合大学として、新たな飛躍への道を歩み始めることとなりました。また、これを機に、この四半世紀余の変化をふまえて「埼玉医科大学の期待する医療人像(2017年改定)」を示し、その目指すところを一層明確にして、本学活動の精神的基盤を再確認することとしました。

【埼玉医科大学の期待する医療人像】

■高い倫理観と人間性の涵養

- ・医療人は、生命に対して深い愛情と畏敬の念を持ち、病める人々の心を理解し、その立場に立って、十分な説明と相互理解のもとに医療を行わなければならない。
- ・医療人は、豊かな人間性を育成すべく、常に倫理観を磨き、教養を積むことに努力しなければならない。

■国際水準の医学・医療の実践

- ・医療人は、生涯にわたり常に最新の知識・技術を学び、自信を持って国際的に最も質の高い医療を提供するよう心掛けなければならない。
- ・医療人は、医療における課題を自ら解決する意欲と探求心を持ち、国際的視野をもって医学・医療の進歩に貢献することを心掛けなければならない。

■社会的視点に立った調和と協力

- ・医療人は自らの能力の限界を自覚し、謙虚に他者と協力し、それぞれの立場で患者中心の医療を実践するために、統合力を磨かなければならない。
- ・医療人は、社会的視野を持ち、健康の保持・増進、疾病の予防から社会復帰、さらに社会福祉に至る保健・医療全般に責任を有することを自覚し、地域ならびに国際社会の保健・医療に貢献しなければならない。

(3) 埼玉医科大学の3ポリシー

本学の「建学の理念」に基づき、大学・各学部・各学科および大学院において、以下の3ポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を定めています。

- ・ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）
学位授与の判断のために、どのような能力を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本方針であり、在学生の学修到達目標となるものです。
- ・カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）
在学生の学修目標達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容をどのような方法で実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本方針です。
- ・アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）
建学の理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき教育内容等を踏まえ、どのような入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める能力や素養を示すものです。

■埼玉医科大学 ディプロマ・ポリシー

本学の所定の課程を修了し、建学の理念および「埼玉医科大学の期待する医療人像」に基づいた以下の資質・能力等を身につけた者に対し、学士の学位を授与する。

- 1) 生命に対して深い愛情と畏敬の念を持ち、病める人々の心を理解し、その立場に立って、十分な説明と相互理解のもとに医療を行う能力
- 2) 豊かな人間性および、常に倫理観を磨き教養を積む努力を怠りなく続ける意欲と習慣
- 3) 生涯にわたり常に最新の知識・技術を学び、自信をもって国際的に最も質の高い医療を提供する気概
- 4) 医療における課題を自ら解決する意欲と探求心を持ち、国際的視野をもって医学・医療の進歩に貢献できる能力

- 5) 自らの能力の限界を自覚し、謙虚に他者と協力し、それぞれの立場で患者中心の医療を实践できる統合力
- 6) 社会的視野を持ち、健康の保持・増進、疾病の予防から社会復帰、さらに社会福祉に至る保健・医療全般に責任を有する自覚、地域ならびに国際社会の保健・医療に貢献しようとする熱意
- 7) 協調性に富んだ社会人として様々な職種の人々と協力し、医療の安全につねに留意するとともに、地域の保健医療に積極的に関わろうとする姿勢

■埼玉医科大学 カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに掲げた学修成果を達成するため、下記のような方針でカリキュラムを編成し教育を行う。

- 1) 人間性の涵養と社会人としての成熟を促し、医学の枠にとらわれない幅広い見識を修得させるための、多彩な選択制科目の提供
- 2) 複数領域にわたる知識を総合的・多角的に応用する能力を確立させるための、統合カリキュラムの充実
- 3) 省察の習慣、協働的な学修技能、主体的学修姿勢を涵養するための、グループワーク等の少人数による学修の充実
- 4) 実際の医療の中での経験を通して実践的な知識・技能・態度を修得するための、臨床現場における実習の重視

■埼玉医科大学 アドミッション・ポリシー

カリキュラム・ポリシーに基づいたカリキュラムによって学修することによって、ディプロマ・ポリシーに掲げた学修成果を達成するため、入学前に以下のような能力・素養を身につけている学生を求める。

- 1) 豊かな人間性、生命への愛情と奉仕する精神
- 2) 社会のルールや規範を遵守して行動することができる倫理観
- 3) 高いコミュニケーション能力および、相手の立場に立つことのできる協調性
- 4) 医療専門職としての責任を果たすために必要な知識を修得し、知識を適切に応用するための基礎学力
- 5) 自ら求めて学び、物事を吟味し考察する能力
- 6) 医療や健康問題への関心および、医学・医療を通じて社会に貢献しようとする意欲と情熱

2. 埼玉医科大学大学院医学研究科医科学専攻のポリシー

(1) ディプロマポリシー

本専攻では、次の要件を満たすとともに、所定の単位を修得し、修士論文を提出して、論文審査および最終試験に合格した人材に対して大学院修士課程の修了が認定され、修士の学位が授与される。

- ① 医科学に係わる様々な分野において、幅広く深い学識と高い倫理観を有する。
- ② 専門領域において活躍できる卓越した専門的知識および技能を身につけている。
- ③ 学際的分野へ対応可能な専門的研究能力を身につけている。

(2) カリキュラムポリシー

本専攻は、生体機能科学分野、生体医工学分野及び理学療法学分野の3分野で構成されている。カリキュラムは講義・演習と特別研究にわけられ、講義科目は医学関連領域の共通科目と各分野の専門科目に分かれている。

各分野ではそれぞれの専門領域にみあった専門科目を必要十分なだけ配置するとともに、学生の多様なニーズに応えるための特別研究およびその演習を用意している。

- ① 共通科目は高い倫理観の醸成を含む3分野に共通の医学的知識や医学関連領域の高度な専門知識を修得し、活用できる能力を養うために設けている。履修時期は、その後の研究の基礎となることを考慮して、全ての分野において1年次に配置してある。
- ② 専門科目として、各専門分野に応じた高度な専門的知識を習得するための講義と専門的スキルを身につけたための演習を設定している。講義は、大学レベルでの知識を基礎とし、各分野での研究や専門職に適した内容を特論として設定し、目指す進路に応じて選択可能としている。
- ③ 専門的研究能力を身につけるための特別研究、特別演習が2年次に配当されている。これに先立って、1年次には学生の希望を勘案して指導教員が決定される。その後、国際的な学術水準と社会のニーズを満たす研究テーマが検討され、研究指導が開始される。

(3) アドミッションポリシー

本専攻の教育課程に基づいて学習を重ね、修了に至るためには一定以上の基礎的学力を備えていることが必要条件となるが、これに加えて本専攻では下記のアドミッション・ポリシーを提示している。

- ① 医学・医療に積極的な関心を持つとともに、ふさわしい倫理観を備え、くわえて他者の意見に耳を傾けることができる人
- ② 本専攻の教育課程に基づいて学習を重ね、修了に至るために必要な一定以上の基礎的学力を備えており、根気よく学習を継続できる人

- ③ 論理的に考えを整理し、自分の考えを適確に表現できる人
以上の観点に立ち、筆記試験（英語および専門科目）および面接において適切に評価する。

埼玉医科大学大学院修士課程カリキュラムマップ

倫理・共通基盤

専門的知識・技能

研究能力

医学に係わる様々な分野において、幅広く深い学識と高い倫理観を有する。

専門領域において活躍できる卓越した専門的知識および技能を身につけている。

学際的分野へ対応可能な専門的研究能力を身につけている

ディプロマ
ポリシー

高い倫理観の醸成および、3分野に共通の医学的知識や高度な専門知識を修得および活用できる能力の養成

各専門分野に応じた高度な専門的知識を習得するための講義と専門的技量を身につけるための演習

専門的研究能力を身につけるための特別研究、特別演習

カリキュラム
ポリシー

研究の実践（特別研究、特別演習）

2年次

共通科目

分野別の専門科目

医学・医療への積極的関心、倫理観、協調性

一定以上の基礎的学力、根気づよい学習継続力

論理的考え方、表現力

1年次

アドミッション
ポリシー

筆記試験(英語、専門科目)

面接試験

医学・医療の領域に貢献できる人材を目指す

埼玉医科大学大学院医学研究科医科学専攻の概要

埼玉医科大学医学研究科医科学専攻の概要

1. 埼玉医科大学大学院の歩みとその教育理念

埼玉医科大学は1892年（明治25年）に創設された毛呂病院を母体として、1972年（昭和47年）に設立されました。その後34年を経て、平成18年4月には保健医療学部が設置され、医療系の総合大学として発展し現在に至っています。

埼玉医科大学大学院医学研究科は、学部の第1回目の卒業生が出る昭和53年（1978年）に開設されました。大学院設置の目的は、「学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて文化の進展に寄与すること」にあり、また、「博士課程は、専攻分野について、医学研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うものとする」とされました。

その後、大学院をとりまく環境が変化するのにもとない、本学の大学院も少しずつ形を変えてきました。その一つは大学院医学研究科の教育目標を「高度で最先端の基礎的・臨床医学研究に従事し、豊かな学識を持つすぐれた医学・医療の指導者を養成することを目標とする」として、新たに臨床的医学研究を目標の一つに据え、しかも医師だけでなく、広く医療人の養成を掲げたことです。また、平成17年9月の中央教育審議会答申「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－」において提唱された、大学院教育の実質化、国際的な通用性、信頼性の向上に関する基本的な考え方をうけて、平成19年に大学院教員の組織を改変し、学位論文審査委員の資格要件を定めています。さらに、平成20年度から、従来の一般選抜のほかに、社会人選抜、外国人選抜制度を導入し、受験回数もⅠ期・Ⅱ期の2回行い、昼夜開講するなど、大学院入学の機会を広げるための制度改正を行ってきました。

2. 医学研究科医科学専攻（修士課程）の設置計画

このように本学に博士課程が設置され30年以上が経過しましたが、医学・医療を取り巻く社会環境の変化、発展とともに、自然科学だけでなく関連科学分野との調和を目指した医科学の発展・充実が望まれ、これらの専門家を育成することが要請されています。

平成18年の保健医療学部の設置とともに、保健医療関係の大学院の設置計画については、埼玉医科大学の「第2次長期総合計画」（平成18年度～22年度）において示されています。その内容は「…医用生体工学科（現臨床工学科）においても、医用生体工学分野の研究をさらに充実させるとともに、研究や医用機器の開発等に意欲を持つ卒業生を受け入れる大学院修士課程を設置することが構想されている。健康医療科学科（現臨床検査学科）においても、たとえば遺伝子診断の高度の検査技術など、特に研究の進展が望まれる分野をカバーする領域において大学院を置いて研究、教育を進展させることには意義があると考えられる。これらの修士課程については、保健医療学部関係で単独の専攻を立ち上げることも考えられるが、医学部と協同して医科学修士課程を新設し、その分野構成に加わるのがむしろ本学全体の構想としては適切なのではないかと考えられる。」と指摘しています。なお、この計画の作成当時は理学療法学科がまだ設置されていないので、この部分についての記述はありませんが、修士課程設置の方向としては同様に考えています。

3. 医学研究科医科学専攻（修士課程）の目的

本研究科の医科学専攻（修士課程）では、医学に係わる様々な分野において、幅広く深い学識の涵養を図るとともに、生命の尊厳に関する高い倫理観を持ち、学際的分野へも対応可

能な専門的研究能力ならびに高い専門性が求められる職業等に必要な卓越した能力を培うことを目的とします。

本専攻は生体機能科学分野、生体医工学分野及び理学療法学分野の3分野構成としました。医療・医科学系学部の卒業生、社会人を主な対象とし、ゲノム医科学や再生医科学、環境衛生科学などの学修を目指す生体機能科学分野、生体とその生理現象を医学と工学の両面から解明する生体医工学分野、さらに、各種の生体機能損傷への適切な対応とより高度な機能再生戦略を迫及する理学療法学分野を併設することで、入学者の幅広いニーズに対応できるよう工夫しています。また、3分野の共通科目を設けることにより、多様な人的交流が促進されること、さらに、専攻内の研究報告会などで他分野のスタッフや院生から評価・助言を受けることにより、新たな視点の導入が可能となることも期待されます。

具体的には、既存の医学研究科博士課程、医学部、保健医療学部の教員が協力して構築する共通科目として、医療政策学概論、生命倫理学概論、遺伝カウンセリング学概論、行動科学概論、細胞生物学概論、医療安全管理学概論、病理学概論、生体機能形態学概論、リハビリテーション医療学概論、実験動物学概論、実用実験医学特別講義、統計情報解析特論、疫学方法特論、最新医学特別講義の14科目が開講されることで、3分野の学生には幅広い学問領域を選択受講できる環境が整えられることとなります。これまで学んでこなかった新しい領域の知識を獲得し、また、すでに学んできた知識を深めることで、自らの研究テーマの方向性を模索し、あるいは内省するにあたって、学生には大きな意義のあることと考えられ、さらに学際的なテーマ選択への道も拓ける可能性が考えられます。

例えば、リハビリテーション医療学や医療政策学、医療安全管理学の知識を得ることで、生体機能科学分野や生体医工学分野の学生は、損傷された人体の機能再生に関する安全かつ効率的な成果を生む研究の必要性を考え、また、理学療法学分野の学生は、生体病理病態学や生体機能形態学をより深く学ぶことで、基礎医学的研究の成果に基盤をおいた理学療法の改善を目指し、さらに行動科学理論に裏づけされた実践的な能力の向上にもつながることと思われれます。

なお、研究職や教育職を目指す者については、既存の大学院博士課程に進学して、より高度な研究活動を行うための基盤を作ること、また、修士卒業後、技術員等として就職を希望するものについては、各種の現場において大きく貢献できるだけの技術と能力を身に付けさせることが求められると考えています。

4. 各分野の人材養成の目標と卒業後の進路

(1) 生体機能科学分野

本分野では、分子レベルや人体レベルでの生体機能を科学する研究者あるいは高度専門職業人を育成することを目的としています。この分野で学ぶことにより、環境や食品の安全を測定する分析技術の開発領域や、遺伝性疾患の病態解明や遺伝子治療、再生医学等の最先端領域で活動できる人材となることが期待され、具体的な進路としては学内・学外の博士課程への進学、官公庁等における食品衛生管理部門への就職、大学の教員・研究員・技術員としての就職、未病医学に関わる医療開発分野への就職などが挙げられます。

研究対象とする中心的な学問分野としては、分子医科学、ゲノム医科学、再生医科学、生体病態医科学、生体機能医科学、食品機能学があります。

(2) 生体医工学分野

生体医工学は医学・生物学と工学の学際領域であり、生体とその生理現象を医学的立場と工学的立場の両面から解明し、その成果を生命科学や医療に役立てることを目的としており、本分野では医学と工学の境界領域において、研究開発に従事する人材ならびに高度専門職業人として指導的役割を果たし得る臨床工学技術者を育成することを目指しています。

医療の発展・高度化に伴って、生体医工学の研究成果の実用化を目指す研究機関や企業、高度な医療機器を開発・販売する企業が増加しており、また、高度な医療機器の維持や安全

管理のための専門的な知識や技能を有する人材の必要性も増加しています。これらを受けて、卒業後の具体的な進路としては、企業の研究開発部門、営業技術部門、エンジニアリング・サービス部門等のスタッフとしての活躍や、医療現場における「医療機器安全管理責任者」としての指導的活動を期待しています。また、本学ないしは他大学の大学院博士課程に進学すれば、大学や研究所等の研究スタッフとなる進路も開けてきます。

研究対象とする中心的な学問分野としては、医療安全工学、生体機能代行工学、生体システム工学、生体信号処理学、生体情報計測学、人間工学、レーザ医工学、光応用計測があげられます。

(3) 理学療法学分野

本分野では、生命倫理学、行動科学、医療安全管理学、実験動物学、統計情報解析学など、幅広い医科学領域の知識を身につけるとともに、生体病理病態学や生体機能形態学などの基礎医学的知識を深めつつ、理学療法の実践に寄与しうる基礎的な研究能力を養い、加えて理学療法の実践能力をさらに向上させることで、様々な疾患や病期・生活環境に対応し、かつ高度な理学療法が実践できる専門職業人を育成することを目的とします。卒業生は高い倫理観と卓抜な実践・教育能力を備え、研究的な視点を絶やすことのない理学療法士として、臨床現場において指導的な活躍ができるようになると考えています。

高齢化が進み高齢者のリハビリテーションのニーズが高まる中、社会からはより高度な理学療法が求められるようになってきました。病院での急性期疾患への対応とともに、デイケア施設や在宅での慢性期疾患への対応がその重要性を増している昨今、高度な能力を備えた理学療法士の存在意義は高まる一方と思われます。卒業後の具体的な進路としては、基幹病院から地域の各種施設への就職が期待できます。

研究対象とする中心的な学問分野としては、筋骨格の機能・構造やスポーツ障害を含めた筋骨格理学療法、高齢者の運動耐容能や内部疾患、高次脳機能を含めた神経理学療法があげられます。

埼玉医科大学大学院学則等

埼玉医科大学大学院学則

(昭和53年 3月24日制定)

改正	昭和57年	4月 1日	平成元年	4月 1日
	平成 3年	9月27日	平成 3年	12月 1日
	平成 4年	4月 1日	平成 6年	4月 1日
	平成 7年	4月 1日	平成 8年	4月 1日
	平成 9年	4月 1日	平成10年	4月 1日
	平成11年	3月20日	平成12年	4月 1日
	平成13年	4月 1日	平成14年	4月 1日
	平成17年	4月 1日	平成18年	4月 1日
	平成19年	4月 1日	平成19年	12月 1日
	平成20年	4月 1日	平成21年	4月 1日
	平成22年	4月 1日	平成24年	4月 1日
	平成25年	4月 1日	平成26年	4月 1日
	平成27年	4月 1日	平成28年	4月 1日
	平成29年	3月25日	平成30年	3月24日
	平成31年	3月23日	令和元年	11月30日
	令和 2年	3月30日	令和 3年	3月27日
	令和 4年	3月26日	令和 6年	3月30日
			令和 7年	3月29日

目 次

- 第1章 総則
- 第2章 組織
- 第3章 修業年限
- 第4章 学年度、学期及び休業日
- 第5章 授業科目、研究指導及び履修方法
- 第6章 入学、留学、休学、転学及び退学等
- 第7章 課程修了及び学位の授与
- 第8章 除籍及び賞罰
- 第9章 学費
- 第10章 教員組織
- 第11章 運営
- 第12章 特別研究学生、協力研究員及び科目等履修生
- 第13章 補則
- 附 則

第1章 総則

(目的)

- 第1条 埼玉医科大学大学院（以下「本大学院」という。）は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて文化の進展に寄与することを目的とする。
- 2 本大学院に置く課程は、修士課程及び博士課程とし、その目的は次のとおりとする。
- (1) 修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。
 - (2) 博士課程は、専攻分野について、医学研究者として自立して研究活動を行うのに必要な、高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うものとする。
- 3 本大学院は、研究科又は専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的等を定めるものとする。

第2章 組織

(研究科・専攻・課程)

第2条 本大学院に、次の研究科、専攻及び課程を置く。

研究科名	専攻名	課程名
医学研究科	生物・医学研究系専攻	博士課程
	社会医学研究系専攻	
	臨床医学研究系専攻	
	医科学専攻	修士課程
看護学研究科	看護学専攻	修士課程

第3条 削除

第4条 削除

(定員)

第5条 各専攻の定員は、次のとおりとする。

研究科・専攻	入学定員	収容定員
医学研究科生物・医学研究系専攻	10名	40名
医学研究科社会医学研究系専攻	4名	16名
医学研究科臨床医学研究系専攻	36名	144名
医学研究科医科学専攻	8名	16名
看護学研究科看護学専攻	10名	20名

第3章 修業年限

(修業年限・在学年限)

第6条 修士課程の標準修業年限は2年とし、博士課程の標準修業年限は4年とする。

2 各研究科の修士課程においては、別に定めるところにより、学生が職業を有している等の事情により、2年の標準修業年限を超えて、一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望することを申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

3 在学年限は、本条第1項の標準修業年限の2倍を超えることができない。

第4章 学年度、学期及び休業日

(学年)

第7条 学年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。ただし、第13条の規定により後期の始めに入学させた者の学年度は、10月1日に始まり、翌年9月30日に終わる。

(学期)

第8条 学年度を分けて次の2学期とする。

- (1) 前期 4月1日から9月30日まで
- (2) 後期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第9条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
- (3) 大学創立記念日 5月4日
- (4) 春季休業日 4月1日から同月7日まで
- (5) 夏季休業日 7月11日から9月10日まで
- (6) 冬季休業日 12月25日から翌年1月7日まで

2 学長は、必要により前項各号の休業日を変更し、あるいは臨時に休業日を設け、又は休業日に授業を行うことができる。

第5章 授業科目、研究指導及び履修方法

(授業科目及び研究指導)

第10条 研究科における教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によって行うものとする。

2 研究科の各専攻における授業科目は、別表1から3のとおりとする。

3 研究指導については、別に定める。

(他の大学院等における研究指導)

第10条の2 研究科において教育上有益と認めるときは、他の大学院又は研究所等との協議に基づき、学生が当該他の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。

2 前項の研究指導のうち連携大学院に関し必要な事項は、別に定める。

(履修方法)

第11条 学生は、前条に定める授業科目について、別表に従って医学研究科では30単位以上、看護学研究科では32単位以上を履修しなければならない。

2 前項の単位の計算については、埼玉医科大学学則第13条の規定を準用する。

3 履修する授業科目の選定は、指導教員の指示に従うものとする。

4 指導教員が、研究指導上必要があると認めるときは、研究科長の承認を得て、他の専攻又は学部の授業科目を履修させることができる。

5 学生は、履修する授業科目を所定の届書に記載し、指定の期日までに研究科長に提出しなければならない。

6 この条に定めるもののほか、授業科目の履修について必要な事項は研究科委員会が定める。

(教育方法の特例)

第11条の2 本大学院は、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

(履修単位の認定)

第12条 履修単位の認定は、筆記又は口述試験若しくは研究報告等により行うものとする。

2 疾病その他やむを得ない事情のため、正規の試験を受けることができなかつた者には、追試験を受けさせることができる。

3 各授業科目の試験又は研究報告の成績は、A. B. C. Dをもって表し、A. B及びCを合格、Dを不合格とする。

第6章 入学、留学、休学、転学及び退学等

(入学の時期)

第13条 入学の時期は、学期の始めとする。ただし、学長は後期の始めに入学を許可することができる。

(入学資格)

第14条 修士課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者

(2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者

(3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者

(4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者

(5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

(6) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(7) 文部科学大臣の指定した者

(8) 学校教育法第102条第1項に規定する学士の学位を有する者

(9) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学の大学に在学した者であつて、本学大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者

(10) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者

2 博士課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 大学の医学、歯学又は修業年限が6年の薬学若しくは獣医学を履修する課程を卒業した者
- (2) 外国において、学校教育における18年の課程(最終の課程は、医学、歯学、薬学又は獣医学)を修了した者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程(最終の課程は、医学、歯学、薬学又は獣医学)を修了した者
- (4) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程(最終の課程は、医学、歯学、薬学又は獣医学)を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 学校教育法第102条第1項に規定する修士の学位を有する者
- (7) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学に在学した者であって、本学大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
- (8) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者
(入学試験)

第15条 入学を志願する者は、入学検定料30,000円を添えて、所定の入学願書及び必要書類を指定の期日までに提出しなければならない。

2 入学者の選抜時期、選抜方法等は、別に定める。

(入学手続)

第16条 入学を許可された者は、所定の期日までに入学金その他の学納金を添えて、誓約書を提出しなければならない。

2 前項に規定する手続を取らない者は、入学の許可を取り消すことがある。

(留学)

第17条 本大学院との協定による国内外の大学院又はこれに相当する教育研究機関に留学しようとする者は、研究科委員会に願い出なければならない。

2 休学することなく留学できる期間は、原則として1年とする。ただし、教育上必要と認めるときは更に1年以内に限り延長を認める。

(休学)

第18条 疾病その他やむを得ない事由のため、3箇月以上修学することができないときは、所定の願書に必要書類を添えて、学長に願い出て休学することができる。

2 学長は、特に必要と認められた者には、休学を命ずることがある。

3 休学の期間は、1年を超えることはできない。ただし、特にやむを得ない事由があると認められるときは、更に1年を限り延長することがある。

4 休学の期間は、第6条第3項の修業年限に算入しない。

(復学)

第19条 休学期間の満了のとき又は休学期間中にその事由が削減したときは、所定の復学願により、学長の許可を得て復学することができる。

(転学)

第20条 他の大学院に在学する者が、本大学院に転入学を願い出たときは、欠員ある場合に限り、選考のうえ、これを許可することがある。

2 学生が、他の大学院に転学しようとするときは、所定の転学願により、学長の許可を受けなければならない。

(退学)

第21条 疾病その他の事由により退学しようとするときは、所定の退学願により、学長の許可を受けなければならない。

(再入学)

第22条 前条の規定により退学した者で、退学後1年以内に再び入学を願い出る者があるときは、欠員のあるときに限り考査のうえ、これを許可することがある。ただし、研究科委員会が特に認めたときは、退学後1年を超える者についても再入学を認めることがある。

2 考査の方法、授業科目の履修その他必要な事項は、研究科委員会が定める。

第7章 課程修了及び学位の授与

(課程修了)

第23条 本大学院の修士課程の修了は、次のとおりとする。

(1) 所定の授業科目について、医学研究科では30単位以上、看護学研究科では32単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。

(2) 在学期間に関しては、研究科に2年以上在学すること。ただし、優れた研究業績をあげた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。

2 本大学院の博士課程の修了は、次のとおりとする。

(1) 所定の授業科目について30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。

(2) 在学期間に関しては、研究科に4年以上在学すること。ただし、優れた研究業績をあげた者については、3年以上在学すれば足りるものとする。

3 修了時期は学期の区分に従う。

(学位の授与)

第24条 前条の規定により課程を修了した者には、次の学位を授与する。

研究科・専攻	学位
医学研究科生物・医学研究系専攻(博士課程)	博士(医学)
医学研究科社会医学研究系専攻(博士課程)	
医学研究科臨床医学研究系専攻(博士課程)	
医学研究科医科学専攻 生体機能科学分野(修士課程)	修士(医科学)又は修士(臨床検査学)
医学研究科医科学専攻 生体医工学分野(修士課程)	修士(医科学)又は修士(医工学)
医学研究科医科学専攻 理学療法学分野(修士課程)	修士(医科学)又は修士(理学療法学)
看護学研究科看護学専攻(修士課程)	修士(看護学)

2 大学院医学研究科博士課程の課程を経ない者で、学位論文を提出し、その審査及び試験に合格し、前条に定める者と同等以上の学力があると認められた者には、博士(医学)の学位を授与する。

3 学位に関する事項は、埼玉医科大学学位規則で定める。

第8章 除籍及び賞罰

(除籍)

第25条 次の各号の一に該当する者は、除籍する。

(1) 故なくして3箇月以上授業料その他の学費の納付を怠り、督促してもなお納付しない者

(2) 在学の期間が、修士課程にあつては4年、博士課程にあつては8年を超える者

(3) 死亡した者

(4) 行方不明の届出のあった者

(表彰)

第26条 優れた研究業績を挙げ、又は学生の模範となる者があるときは、学長は研究科委員会の意見を聴いてこれを表彰することがある。

(懲戒)

第27条 学生が、本学の教育方針に違背し、又は学生としての本分にもとる行為のある者は、学長は研究科委員会の意見を聴いてこれを懲戒する。

2 懲戒は、けん責、停学及び退学とする。

(退学の要件)

第28条 前条の退学は、次の各号の一に該当する者について行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 正当の事由なくして出席常でない者

(3) 学則に違背し、又は本学の秩序を乱した者

第9章 学費

(学費)

第29条 入学金及び授業料は、次のとおりとする。

- (1) 入学金（入学時のみ） 300,000円
- (2) 授業料（年額）博士課程 500,000円
授業料（年額）修士課程 700,000円
- (3) 施設設備費（年額） 200,000円

2 第6条第2項の規定に基づき、当該標準修業年限を超えて、一定の期間にわたり計画的に履修して課程を修了することを認められた者（「長期履修生」という。）については、前項の規定にかかわらず、別に定める。

(学費の納入)

第30条 授業料は、所定の期日までに納入しなければならない。ただし、願い出により2期に分納することができる。

- 2 授業料は、休学又は停学中であっても徴収する。
- 3 退学、除籍又は懲戒退学の場合における授業料は、その納期に属する分はこれを徴収する。
- 4 授業料を所定の期日までに納入しないときは、授業への出席、図書閲覧、その他施設の利用を認めない。
- 5 学費の納入の時期その他細目については、別に定める。

第10章 教員組織

(教員組織)

第31条 研究科における授業は、本学の大学院教員が担当する。

- 2 研究科における研究指導は、本学の指導教員が担当する。
- 3 大学院教員及び指導教員の資格要件については、別に定める。

(研究科長)

第32条 各研究科に研究科長を置く。

- 2 選考については、別に定める。

第11章 運営

(大学院委員会)

第33条 本大学院に大学院委員会を置き、次の委員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 各研究科長
- (3) 学校法人埼玉医科大学の理事若干名
- (4) 各研究科から選出された教員若干名
- (5) その他学長が必要と認め、大学院委員会の承認を得た者
(大学院委員会の役割)

第34条 大学院委員会の役割は、次のとおりとする。

- (1) 各研究科の連絡調整に関する事項
- (2) 大学院と学部その他の機関との連絡調整に関する事項
- (3) その他学長の諮問事項

(大学院委員会の招集)

第35条 大学院委員会は、学長が招集し、その議長となる。

- 2 学長に事故あるときは、委員のうちからあらかじめ学長の指名する者が、その職務を代行する。
(大学院委員会の職務)

第36条 第33条から前条までに定めるもののほか、大学院委員会について必要な事項は、学長が定める。

(研究科委員会)

第37条 各研究科に、研究科委員会を置く。

- 2 研究科委員会の構成員及び運営に関する事項は、別に定める。

(研究科委員会の審議事項)

第38条 研究科委員会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものと

する。

(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了

(2) 学位の授与

(3) 前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、研究科委員会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

2 研究科委員会は、前項に規定するもののほか、学長及び研究科長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

（研究科委員会の招集）

第39条 研究科委員会は、研究科長が招集し、その議長となる。

2 研究科長に事故あるときは、委員のうちからあらかじめ研究科長が指名する者が、その職務を代行する。

（研究科委員会の職務）

第40条 第37条から前条までに定めるもののほか、研究科委員会について必要な事項は、研究科委員会が定める。

第12章 特別研究学生、協力研究員及び科目等履修生

（特別研究学生）

第41条 国内外の他の大学院から大学院学生の研究指導の申入れがあったときは、研究科委員会の意見を聴いて受け入れることができる。

2 特別研究学生の受託規則は、別に定める。

（協力研究員）

第42条 公共又は民間の諸機関から学外研究者の研究指導の申入れがあったときは、研究科委員会の議を経て受け入れることができる。

2 協力研究員の受託規則は、別に定める。

（科目等履修生）

第43条 本大学院の学生以外の者から本大学院が定める所定の授業科目のうち、一又は複数の授業科目について履修の申入れがあったときは、研究科委員会の意見を聴いて受け入れることができる。

2 科目等履修生の受託規則は、別に定める。

（大学院研究生）

第44条 本大学院教員の指導を受け、特定の専門事項を研究しようとする者があるときは、研究科委員会の意見を聴いて受け入れることができる。

2 大学院研究生に関する事項は、別に定める。

第13章 補則

（補則）

第45条 この学則に定めるもののほか、別段の定めがない限り、学部学生に関する規定を準用する。

2 前項の規定により、学部学生に関する規定を準用するに当たっては、「教授会若しくは教員代表者会議」とあるのは、「研究科委員会」と読み替えるものとする。

附 則

この学則は、昭和53年4月1日から施行する。

附 則（昭和57年4月1日）

この学則は、昭和57年4月1日から施行する。

附 則（平成元年4月1日）

この学則は、平成元年4月1日から施行する。ただし、平成元年度入学生については、改正後の規定にかかわらず、前年度の3月31日までに納入した入学金については、なお従前の額による。

附 則（平成3年9月27日）

この学則は、平成3年9月27日から施行する。

附 則（平成3年12月1日）

この学則は、平成3年12月1日から施行する。

附 則（平成4年4月1日）

この学則は、平成4年4月1日から施行する。

附 則（平成6年4月1日）

この学則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則（平成7年4月1日）

この学則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則（平成8年4月1日）

この学則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則（平成9年4月1日）

この学則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則（平成10年4月1日）

この学則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則（平成11年3月20日）

この学則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則（平成12年4月1日）

この学則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平成13年4月1日）

この学則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則（平成14年4月1日）

この学則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成17年4月1日）

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則（平成18年4月1日）

この学則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則（平成19年4月1日）

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成19年12月1日）

この学則は、平成19年12月1日から施行する。

附 則（平成20年4月1日）

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成21年4月1日）

この学則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成22年4月1日）

この学則は、平成22年4月1日から施行する。ただし、平成22年3月31日以前に入学した学生に係る授業料等学納金の額は、改正後の学則第29条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成24年4月1日）

この学則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成25年4月1日）

この学則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（平成26年4月1日）

この学則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（平成27年3月20日）

この学則は、平成27年4月1日から施行する。ただし、平成27年3月31日以前に入学した学生に係る別表3の適用については、なお従前の例による。

附 則（平成28年4月1日）

この学則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成29年3月25日）

この学則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（平成30年3月24日）

この学則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（平成31年3月23日）

この学則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則（令和元年11月30日）

この学則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則（令和2年3月30日）

この学則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則（令和3年3月27日）

この学則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則（令和4年3月26日）

この学則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則（令和6年3月30日）

この学則は、令和6年4月1日から施行する。

附 則（令和7年3月29日）

この学則は、令和7年4月1日から施行する。

別表 2 (第 10 条関係) 医学研究科医科学専攻 (修士課程) 授業科目及び単位数

◎印の科目は必修科目

修了要件 30 単位

共通科目

授業科目名	授業の形式	単位数	備考
医療政策学概論	講義	2	8 単位 以上
生命倫理学概論	講義	2	
遺伝カウンセリング学概論	講義	2	
行動科学概論	講義	2	
細胞生物学概論	講義	2	
医療安全管理学概論	講義	2	
病理学概論	講義	2	
生体機能形態学概論	講義	2	
リハビリテーション医療学概論	講義	2	
実験動物学概論	講義	2	
実用実験医学特別講義	講義	2	
統計情報解析特論	講義	2	
疫学方法特論	講義	2	
最新医学特別講義	講義	2	
老年学概論	講義	2	

専門科目

分野	授業科目名	授業の形式	単位数	備考
生体機能科学分野	ゲノム医学特論	講義	2	必修を含む 22 単位以上
	生体・病態医科学特論	講義	2	
	生体機能科学特論	講義	2	
	栄養学特論	講義	2	
	環境衛生科学特論	講義	2	
	環境微生物学特論	講義	2	
	脳科学特論	講義	2	
	分析医科学特論	講義	2	
	臨床検査医学特論	講義	2	
	◎生体分子機能医科学演習	演習	4	
◎生体分子機能医科学特別研究	実験・実習	8		
生体医工学分野	医療安全工学特論	講義	2	
	生体機能代行工学特論	講義	2	
	生体システム工学特論	講義	2	
	生体信号処理特論	講義	2	
	生体情報計測特論	講義	2	
	人間工学特論	講義	2	
	レーザー医工学特論	講義	2	
	光応用計測特論	講義	2	
	◎生体医工学演習	演習	4	
	◎生体医工学特別研究	実験・実習	8	
理学療法学分野	理学療法研究方法論	講義	2	
	人体機能形態学特論 I	講義	2	
	人体機能形態学特論 II	講義	2	
	徒手理学療法学特論	講義	2	
	がん理学療法学特論	講義	2	
	予防理学療法学特論	講義	2	
	筋骨格理学療法学特論 I (上肢・脊椎)	講義	2	
	筋骨格理学療法学特論 II (下肢)	講義	2	
	神経理学療法学特論 I	講義	2	
	神経理学療法学特論 II	講義	2	
	スポーツ理学療法学特論	講義	1	
	スポーツ理学療法学演習	演習	1	
	◎理学療法学演習	演習	4	
◎理学療法学特別研究	実験・実習	8		

埼玉医科大学大学院の目的に関する規則

(平成21年11月13日制定)
改正 平成25年 3月15日

(趣 旨)

第1条 この規則は、埼玉医科大学大学院学則第1条第3項の規定に基づき、大学院の各研究科におく専攻ごとの人材養成に関する目的その他の教育研究上の目的を定めるものとする。

(各研究科専攻の目的)

第2条 各研究科におく専攻ごとの目的は、次のとおりとする。

- (1) 医学研究科生物・医学研究系専攻(博士課程)は、生物・医学研究分野に関する研究者として、高度で最先端の基礎的研究に従事し、自立して研究活動を行うに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。
- (2) 医学研究科社会医学研究系専攻(博士課程)は、社会医学研究分野に関する研究者として、高度で最先端の社会医学研究に従事し、自立して研究活動を行うに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。
- (3) 医学研究科臨床医学研究系専攻(博士課程)は、臨床医学研究分野に関する研究者並びに職能人として、高度で最先端の臨床医学研究に従事し、自立して研究・医療活動を行うに必要な能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。
- (4) 医学研究科医科学専攻(修士課程)は、医科学に係わる様々な分野において、幅広く深い学識と高い倫理観を持ち、学際的分野へも対応可能な専門的研究能力並びに卓越した技能を有する高度専門職者を育成することを目的とする。
- (5) 看護学研究科看護学専攻(修士課程)は、科学的・研究的視点をもとにして、高い倫理観と高度な研究能力、実践能力及び多様な人々に対する生活支援能力を有する看護職者を育成し、地域のケアニーズに応えることを目的とする。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則(平成25年3月15日)

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

履修に関する事項

履修に関する事項

授業科目の履修に当たっては、以下の内容を十分理解のうえ、履修登録を行うこと。

1 共通科目

共通科目には医療政策学概論等 14 科目の授業科目（講義）があり、このうち 8 単位以上を修得しなければならない。（教員一覧、シラバス参照）

2 専門科目

各分野の演習及び特別研究の必修科目を含む計 22 単位以上を、修得しなければならない。（教員一覧、シラバス参照）

3 成績は毎学期に筆記試験等により行う

- (1) 授業科目の成績は、A、B、C、D による評価とし、A、B 及び C を合格とし、D を不合格とする。
- (2) 学位論文及び最終試験の成績は、合否をもって評価し、合を合格、否を不合格とする。
- (3) 病気その他やむを得ない事由により成績評価を受けることができなかつた者は、願い出により研究指導教員の指定する方法により評価を受けることができる。

4 修了要件

分野ごとの各科目の取得要件を満たし、合計 30 単位以上を修得して、必要な研究指導を受けたうえ、学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。（大学院学則、学位規則参照）

5 学位の授与

最終試験に合格した者には修士(医科学)の学位が与えられる。（学位規則参照）

6 履修モデル

授業科目の履修例について、各分野別の履修モデルを示しているので、履修科目を選択すること。（履修モデル参照）

7 長期履修生

修士課程の標準修業年限は 2 年であるが、職業を有し就業しているなどのため、標準修業年限内では修学が困難な学生について、修業年限を 3 年として修学を認めるものである。この制度を活用する場合は、届出ること。（長期履修生制度参照）

8 履修登録

研究指導教員と相談して履修科目を選択し、履修届を提出すること。なお研究指導教員が確認し、押印したものを届出ること。

9. 科目等履修生

科目等履修生を希望する場合には、科目等履修生受託規則を参照すること。

医学研究科医科学専攻（修士課程） 学位審査の運用方法

1. 学位審査の申請

学位審査の申請にあたって、申請者は提出期限までに以下の書類を提出する。

- (1) 学位論文審査願
- (2) 履歴書
- (3) 学位論文
- (4) 論文内容の要旨
- (5) 学位論文に関する関係倫理指針に基づいて適正な手続きがなされていることを示す書類

2. 学位審査申請資格の審査

提出された申請書類および取得単位数により、下記の申請資格要件を満たしているかの審査を修士課程運営委員会にて行う。

- (1) 学位論文および申請書類等が適正に提出されていること
- (2) 学位審査の判定時において、修士課程修了の要件に必要な単位取得が見込めること
- (3) 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」、「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」等、研究の遂行に際して必要な倫理指針およびCOIに関して適正な手続きを経ていること。

3. 学位審査委員会の設置

（学位審査委員会の体制）

- (1) 学位審査委員会は主査1名、副査2名から構成される。
- (2) 申請者の論文指導を行った指導教員及び論文作成に関わった教員は、審査委員になることはできないものとする。
- (3) 原則として主査は申請者と同じ分野から、副査は同じ分野から1名、他分野から1名選出することとするが、学位論文の内容から見て、他に適切な委員がいる場合には、その選出は妨げないものとする。

（学位審査委員会の設置方法）

- (1) 申請資格が認定された場合は、修士課程運営委員会にて学位審査委員（主査、副査）の候補者を選出し、医学研究科委員会に報告する。
- (2) 修士課程運営委員会の報告を受けて、医学研究科委員会において主査・副査を決定し、学位審査委員会を設置する。

4. 学位審査委員会の進め方・項目

- (1) 学位審査委員会の開催日程
主査は学位審査委員会の審査結果の提出期限を考慮して開催日程を調整する。
- (2) 学位審査委員会の運営

①審査委員会の参加者

学位審査委員会は、基本的には非公開とするが、主査、副査および申請者のほか、参加を希望する者はオブザーバーとして出席することを認める。ただし、オブザーバーの発言は認めない。なお指導教員もオブザーバーとして出席可能とする。また、参加者は全員参加表への記名を義務づける。

②学位審査委員会の進行

委員会の時間・進行方法は下記の進行を基本とするが、詳細は主査が決定する。

- ア 主査による委員会の開始の挨拶、司会進行、審査委員・申請者の紹介
- イ 申請者のプレゼンテーション
- ウ 審査委員による質疑応答
- エ 学位審査の判定

(3) 学位論文が満たすべき基準

学位審査判定で提出された論文の評価の基準は以下による。

- ① 研究の目的（研究の必要性や意義・将来への有用性）が明確であること。
- ② 研究目的を達成するための対象・方法が科学的根拠に基づき妥当であること。
- ③ 結果・結論が客観的なデータが信頼される形で正確に示され、重要な知見および新規性が示されていること。
- ④ 申請論文の記述（本文、図表、引用文献など）が十分かつ適切であること。
- ⑤ 申請論文が関係倫理指針に基づき、適正な手続きと必要な記述がなされていること。

(4) 学位審査の判定、報告

学位審査の判定にあたっては、学位審査委員会にて以下の点を評価して修士の学位の授与するに適格であるか否かの判定を行い、修士課程運営委員会に報告する。

- ① 審査委員は専門領域の知識や経験に基づき科学的に審査し、申請論文が論文審査の基準を満たしているかを評価する。
- ② 審査委員は学位申請論文を中心とした研究成果の発表、審査委員との質疑応答等を通じて、申請者の学力、研究能力、態度及び人格等の総合的な評価をする。

5. 学位授与の判定

- (1) 学位審査委員会からの判定結果の報告に基づき、修士課程運営委員会にて学位授与の判定について審議し、結果を医学研究科委員会に報告する。
- (2) 修士課程運営委員会の報告を受けて、医学研究科委員会において学位授与の判定について審議し、決定する。

6. 早期修了

早期修了については、学位論文審査願等の提出期限までに、早期修了の資格を満たして必要な書類を提出したものに限るものとする。

7. 学位審査関係諸規則等

- ① 埼玉医科大学大学院学則
- ② 埼玉医科大学学位規則

③埼玉医科大学学位規則のうち修士に関する運用細則

④「臨床研究に関する倫理指針と学位申請論文の取扱いについて(学位申請論文に関する3病院の
病院長、IRB委員長、倫理委員会委員長との申し合せ)」

⑤厚生労働省一研究に関する指針について一

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyou/i-kenkyu/index.html>

8. 学位審査関係の問い合わせ先

保健医療学部事務室

電話:042-984-4801(内線42-3102)

FAX:042-984-4804

Eメール: hmaster@saitama-med.ac.jp

埼玉医科大学学位規則

(昭和53年 3月24日制定)

改正 平成 8年 4月 1日 平成12年 4月 1日
平成13年 4月 1日 平成18年 4月 1日
平成18年11月20日 平成19年 4月 1日
平成22年 4月 1日 平成23年11月18日
平成24年 5月21日 平成25年 3月15日
平成26年 3月12日 平成27年 3月12日
平成27年11月20日 平成29年11月17日
平成31年 3月15日 令和 2年 3月24日

(趣旨)

第1条 この規則は、学位規則(昭和28年文部省令第9号。)第13条の規定に基づき、埼玉医科大学(以下「本学」という。)において授与する学位に関し必要な事項を定めるものとする。

(学位の種類)

第2条 本学において授与する学位は、学士、修士及び博士とする。

(学位授与の要件)

第3条 次の各号のいずれかに該当する者には、学位を授与する。

- (1) 学士の学位は、本学学部を卒業した者
- (2) 修士の学位は、本学大学院の修士課程を修了した者
- (3) 博士の学位は、本学大学院の博士課程を修了した者
- (4) 前号に規定するもののほか、本学に学位論文を提出してその審査に合格し、かつ、専攻学術に
関し本学大学院博士課程の修了者と同等以上の学力を有することが確認された者には博士の学位
を授与することができること。

2 前項の規定により学位を授与するに当たっては、別表に掲げる区分により、専攻分野の名称を付記するものとする。

(学位論文提出の資格)

第4条 修士課程又は博士課程の学生が、修士又は博士の学位論文(以下「学位論文」という。)を提出するためには、所定の単位等を修得し、学位論文の主題及びその研究計画書を当該指導教員に提出し、その承認を受けなければならない。

2 前条第1項第4号の規定により本学に学位論文を提出することのできる者は、卒業・修了した課程に応じた研究歴がなければならない。なお、研究歴期間等については、別に定める。

(学位論文の提出)

第5条 本学大学院の修士課程に1年以上在学し、所定の科目について医学研究科にあっては30単位以上、看護学研究科にあっては32単位以上を取得した者は、学位論文審査願により学位論文を提出することができる。

2 本学大学院の博士課程に3年以上在学し、所定の科目について30単位以上を取得した者は、学位論文審査願(様式第1号)により学位論文を提出することができる。

3 学位論文は、在学期間中に提出するものとし、その期日は研究科委員会において別に定める。

4 本学大学院の博士課程に4年以上在学し、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けたのみで退学した者が学位を申請する場合は、第3条第1項第4号の規定の該当者として取り扱う。

(博士の学位授与の申請)

第6条 第3条第1項第4号の規定により博士の学位の授与を申請する者は、学位申請書に、学位論文、履歴書及び学位論文審査手数料(以下「審査手数料」という。)を添えて研究科長を経て学長に提出するものとする。

2 学位論文の提出は、次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 主論文1編とし、他に参考論文を添えることができること。この場合において、論文目録を付すものとする。

(2) 審査のため必要があるときは、研究歴証明書の関係資料を提出させることがあること。

(審査手数料)

第7条 審査手数料は、次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 第5条第2項の規定により申請する場合 30,000円

(2) 前条第1項の規定により申請する場合 200,000円

(学位論文及び審査手数料の返付)

第8条 いったん受理した学位論文及び納入した審査手数料は、いかなる事由があっても返却しない。

(学位論文の審査)

第9条 第5条第1項及び第2項又は第6条第1項の規定により提出された学位論文を受理したときは、学長は研究科委員会にその審査を付託する。

(審査委員会)

第10条 審査委員会は、研究科委員会が指名する委員をもって構成する。

2 審査委員会は、博士課程にあつては4名以上、修士課程にあつては3名以上とする。

3 審査の主査は、審査委員のうちから研究科委員会が指名する者をもって充てる。

(学位論文の審査及び学力の確認等)

第11条 審査委員会は、次の各号に定めるところにより学位論文の審査、最終試験及び学力の確認を行う。

(1) 最終試験は学位論文を中心として、口答又は筆答試験によって行うこと。

(2) 第6条第1項の規定により学位論文を提出した者の論文審査については前号と同一の方法によるものとし、更に学力の確認のための試験を行うこと。この場合において、外国語を課すものとする。ただし、医学研究科に所定の年限以上在学し、所定の単位を修得した者については、学力確認のための試験を免除することがある。

2 審査委員会は、審査の結果を研究科委員会に報告する。

3 研究科委員会は、審査について必要があるときは、他の大学の大学院等の教員等の協力を得ることができる。

4 前3項に定めるもののほか、必要な事項については、別に定める。

(学位論文の審査期限)

第12条 審査委員会は、第5条第1項又は第2項の規定に係る者については、在学期間中に審査を終了するものとする。

2 審査委員会は、第5条第4項又は第6条第1項の規定に係る者については論文の審査を委嘱されてから1年以内に審査及び試験を終了するものとする。ただし、特別の事由があるときは、研究科委員会の意見を聴いて学長がその期間を1年以内に限り延長することができる。

(判定)

第13条 研究科委員会は、第11条第2項の規定による報告に基づき、学長が決定するに当たり学位論文の審査、学力の確認及び試験の可否を議決する。

2 前項の議決に当たっては、研究科委員会の3分の2以上の出席を要し、出席委員の3分の2以上の同意を要する。

3 前項の議決は、無記名投票をもって行う。

(学位の授与)

第14条 学長は、埼玉医科大学学則第15条及び第16条の規定により卒業した者並びに前条の議決により課程を修了した者及び論文審査に合格した者に対し、学位記により学位を授与し、学位を授与できない者にはその旨通知する。

(論文要旨の公表)

第15条 学長は、博士の学位を授与したとき、当該博士の学位を授与した日から3月以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

(学位論文の公表)

第16条 博士の学位を授与された者は、授与された日から1年以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前に既に公表したときは、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、本学の承認を受けて、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において、本学はその論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 博士の学位を授与された者が行う前二項の規定による公表は、本学の協力を得て、インターネットの利用により行うものとする。

(博士の学位の名称)

第17条 博士の学位の授与を受けた者が学位の名称を用いるときは、当該学位名の下に、「埼玉医科大学」と大学名を付記するものとする。

(学位の取消し)

第18条 本学において学位の授与を受けた者が次の各号の一に該当する場合は、学長は関係学部の教授会又は研究科委員会の意見を聴いて、既に授与した学位を取り消し、学位記を返付させ、かつ、その旨を公表するものとする。

(1) 不正の方法によって学位を受けた事実が判明した場合

(2) 名誉を汚す行為があると認められた場合

2 学部教授会又は研究科委員会において、前項の議決を行う場合は、第13条第2項の規定を準用する。

(学位記の再交付)

第19条 学位記の再交付を受けようとする者は、理由を明記して、学長に申請しなければならない。

(登録及び報告)

第20条 本学において博士の学位を授与したときは、学長は学位簿に登録し、併せて3か月以内に学位(博士)授与報告書により文部科学大臣に報告するものとする。

(学位記等の様式)

第21条 学位記及び学位授与申請関係書類等の様式については、別に定める。

附 則

この規則は、昭和56年4月1日から施行する。

附 則(平成8年4月1日)

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則(平成12年4月1日)

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(平成13年4月1日)

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則(平成18年4月1日)

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成18年11月20日)

この規則は、平成18年11月20日から施行する。

附 則(平成19年3月19日)

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成21年11月13日)

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則(平成23年11月18日)

この規則は、平成23年11月18日から施行する。

附 則(平成24年5月21日)

この規則は、平成24年5月21日から施行し、平成24年3月31日から適用する。

附 則(平成25年3月15日)

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則(平成26年3月12日)

この規則は、平成26年3月12日から施行する。

附 則(平成27年3月12日)

この規則は、平成27年4月1日から施行する。なお、平成27年3月31日以前に入学した学生に係る別表(学位及び専攻分野の名称)の適用については、従前の例による。

附 則(平成27年11月20日)

この規則は、平成27年11月20日から施行する。

附 則(平成29年11月17日)

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則(平成31年3月15日)

この規則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則(令和2年3月24日)

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

埼玉医科大学学位規則のうち修士に関する運用細則

(令和7年10月24日制定)

(趣旨)

第1条 埼玉医科大学(以下「本学」という。)における修士の学位(医科学、臨床検査学、医工学、理学療法学、看護学。以下「学位」という。)の運用については、埼玉医科大学学位規則(昭和53年3月24日制定。以下「規則」という。)に定めるもののほか、この細則の定めるところによる。

(学位授与の要件)

第2条 学位は、規則第3条第1項第2号に規定する区分により、埼玉医科大学大学院医学研究科修士課程又は埼玉医科大学大学院看護学研究科修士課程(以下「修士課程」と総称する。)において所定の単位を修得し、学位申請論文の審査及び最終試験に合格した者に授与する。

(学位申請論文)

第3条 学位申請論文は単著論文とし、原著論文として取り扱わないものとする。

2 学位申請論文は、次の各号に掲げるいずれの要件を満たさなければならない。

(1) 学位申請論文の研究内容又は論文作成に本学の大学院指導教員が、次のいずれかの要件に関与し、かつ、当該研究を主として実施した施設の倫理審査申請書及び研究計画書に、申請者及び指導教員の氏名が記載されていること。

ア 学位申請論文の謝辞に氏名が記載されていること。

イ 当該研究に関与していることが証明でき、かつ、所定の書類を提出し、埼玉医科大学大学院医学研究科修士課程運営委員会又は埼玉医科大学大学院看護学研究科修士課程運営委員会(以下「修士課程運営委員会」と総称する。)が認めたものであること。

(2) 申請者の所属に本学の名称が記載されていること。

3 学位授与の申請に当たっては、修士課程での研究成果を報告するものとする。

4 学位論文の審査は、複数回かつ審査項目に基づいて厳密に行われ、相当の期間を要することができる。

5 学位申請論文には、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(平成3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号)、研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針(平成18年文部科学省告示第71号)その他研究の実施に当たり必要な法令及び指針に基づき適正な手続を経ていることを記載するものとする。

6 前各項に定めるもののほか、学位申請論文に関し必要な細目については、学位申請論文作成の手引(修士課程運営委員会作成)の定めるところによる。

(審査委員の選出)

第4条 規則第10条の審査委員会は、原則として主査1名及び副査2名の計3名の審査委員(以下「審査委員」という。)をもって組織する。

2 審査委員の選出は、次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 代表指導教員は、大学院に属する教員のうちから候補者を指名し、修士課程運営委員会に推薦すること。

(2) 申請者の論文指導を行った指導教員は、原則として審査委員になることができないこと。ただし、正当な理由があると認められる場合は、この限りでない。

(3) 医学研究科修士課程にあつては、原則として主査及び副査の各1名は申請者の属する大学院基本学科の教員とし、他の副査1名は当該申請者が属さない大学院基本学科の教員から選出すること。ただし、正当な理由があると認められる場合は、この限りでない。

(4) 修士課程運営委員会は、推薦された審査委員候補者を参考に、審査委員(主査及び副査)を選出し、埼玉医科大学大学院医学研究科委員会又は埼玉医科大学大学院看護学研究科委員会(以下「研究科委員会」と総称する。)にその旨を報告すること。

(5) 当該研究科委員会は、報告された審査委員について意見を聴いて決定すること。

(審査委員会での審査項目)

第5条 審査委員会での審査項目は、次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 研究背景の理解度

研究テーマの背景について正しく理解し、その分野の先行研究に対して、精確な読解及び的確な評価が行われているかその適否

(2) 研究テーマの妥当性

研究背景に基づき、どのような問題意識で研究テーマを設定したかを十分に説明できるかその適否

(3) 研究手法の妥当性

研究テーマの探求のための方法論について正しく理解し、その結果、適切な理論、実験、調査又は情報収集を行っているかその適否

(4) 研究の倫理性

研究の倫理に関して研究計画と論文内容が一致していること。また、特定不正行為(捏造・改ざん・盗用)その他の不正行為(二重投稿等)が行われていないかその適否

(5) 論文の論理性

論文の記述(本文、図表、引用文献等)が十分かつ適切であり、首尾一貫した論理構成になっており、論理的に明確な結論が導かれているかその適否

(6) 論文の学術的意義

当該研究領域の理論的見地又は実証的見地に加え、国際学術水準及び学際的観点からみて独自の価値を有するものとなっているかその適否

(7) 申請者の学識・識見

研究テーマについて、その研究の将来の展望を十分に説明でき、審査委員会における質問に対して、適切に回答することができるかその適否

(学位論文の図書館への提供)

第6条 修士の学位を授与された者は、本学の日高キャンパス分館図書館及び川角キャンパス分館図書館(以下「図書館」と総称する。)での配架のために当該学位論文を製本し、図書館に提供する。

附 則

この細則は、令和7年10月24日から施行する。

(2) 医学研究科医科学専攻の履修モデル

生体機能科学分野

区分	授業科目名	開講時期	単位数	分子レベルの生体機能研究	未病医科学関連の研究	臨床検査関連の研究	食品の機能や毒性の研究
共通科目	医療政策学概論	1・前	2				
	生命倫理学概論	1・後	2	2			
	遺伝カウンセリング学概論	1・前	2		2		
	行動科学概論	1・後	2		2		
	細胞生物学概論	1・後	2	2			
	医療安全管理学概論	1・後	2				2
	病理学概論	1・前	2			2	
	生体機能形態学概論	1・前	2			2	
	リハビリテーション医療学概論	1・後	2				
	実験動物学概論	1・前	2	2	2	2	2
	実用実験医学特別講義	1・前	2	2			2
	統計情報解析特論	1・前	2		(2)*	2	2
	疫学方法特論	1・後	2		2		
	最新医学特別講義	1・通	2	(2)*		(2)*	(2)*
専門科目	ゲノム医学特論	1・前	2	2		2	
	生体・病態医科学特論	1・後	2	2	2		
	生体機能科学特論	1・前	2	2		2	2
	栄養学特論	1・後	2	2	2		2
	環境衛生科学特論	1・前	2		2		2
	環境微生物学特論	1・前	2		2	2	2
	脳科学特論	1・前	2	2	2	2	
	分析医科学特論	1・後	2			2	2
	臨床検査医学特論	1・後	2				
	生体分子機能医科学演習	2・通	4	4	4	4	4
	生体分子機能医科学特別研究	2・通	8	8	8	8	8
合計				30	30	30	30

()*は、余裕がある場合に履修を薦める科目

生体医工学分野

区分	授業科目名	開講時期	単位数	研究開発者向け	高度専門職：臨床工学技術者向け
共通科目	医療政策学概論	1・前	2		
	生命倫理学概論	1・後	2	2	2
	遺伝カウンセリング学概論	1・前	2		
	行動科学概論	1・後	2		(2)*
	細胞生物学概論	1・後	2		
	医療安全管理学概論	1・後	2	2	2
	病理学概論	1・前	2		
	生体機能形態学概論	1・前	2	2	2
	リハビリテーション医療学概論	1・後	2	(2)*	
	実験動物学概論	1・前	2		
	実用実験医学特別講義	1・前	2		
	統計情報解析特論	1・前	2	2	2
	疫学方法特論	1・後	2		
	最新医学特別講義	1・通	2		
専門科目	医療安全工学特論	1・前	2		2
	生体機能代行工学特論	1・後	2		2
	生体システム工学特論	1・前	2	2	
	生体信号処理特論	1・後	2	2	
	生体情報計測特論	1・前	2	2	2
	人間工学特論	1・後	2	2	2
	レーザー医工学特論	1・前	2		2
	光応用計測特論	1・後	2	2	
	生体医工学演習	2・通	2	4	4
	生体医工学特別研究	2・通	2	8	8
合計				30	30

(*)は、余裕がある場合に履修を薦める科目

理学療法学分野

区分	授業科目名	開講時期	単位数	筋骨格理学療法モデル	神経理学療法モデル
共通科目	医療政策学概論	1・前	2		
	生命倫理学概論	1・後	2	2	2
	遺伝カウンセリング学概論	1・前	2		
	行動科学概論	1・後	2		
	細胞生物学概論	1・後	2		
	医療安全管理学概論	1・後	2		
	病理学概論	1・前	2		(2)*
	生体機能形態学概論	1・前	2		
	リハビリテーション医療学概論	1・後	2	2	2
	実験動物学概論	1・前	2	(2)*	
	実用実験医学特別講義	1・前	2		
	統計情報解析特論	1・前	2	2	2
	疫学方法特論	1・後	2		
	最新医学特別講義	1・通	2		
	老年学概論	1・前	2	2	2
専門科目	理学療法研究方法特論	1・前	2	2	2
	人体機能形態学特論Ⅰ	1・前	2	2	
	人体機能形態学特論Ⅱ	1・後	2		
	徒手理学療法学特論	1・後	2	(2)*	
	がん理学療法学特論	1・後	2		2
	予防理学療法学特論	1・前	2		2
	筋骨格理学療法学特論Ⅰ(上肢・脊椎)	1・前	2	2	
	筋骨格理学療法学特論Ⅱ(下肢)	1・後	2	2	
	神経理学療法学特論Ⅰ(治療計画)	1・前	2		2
	神経理学療法学特論Ⅱ(手技)	1・後	2		2
	スポーツ理学療法学特論	1・前	1	2	
	スポーツ理学療法学演習	1・前	1		
	理学療法学演習	2・通	4	4	4
理学療法学特別研究	2・通	8	8	8	
合計				30	30

(*)は、余裕がある場合に履修を薦める科目

大学院修士課程の長期履修生制度

修士課程の標準修業年限は2年ですが、職業を有し就業しているなど、標準修業年内では、修学が困難な学生について、修業年限を3年として修学を認めるものです。

(埼玉医科大学大学院長期履修生規則(以下「規則」という。)を参照してください。)

1 修学が困難な者として認める理由(規則第2条の各号)

- (1) 職業を有し、就業している者
- (2) 家事、育児、介護等に当たる必要がある者
- (3) その他学長が相当と認めた者

※(3)については、(1)や(2)に準じた理由が必要です。

2 長期履修生に志願する手続き(規則第3条)

(志願手続は入学手続き期間内に行う必要があります。)

- (1) 長期履修生志願書
- (2) 理由書
- (3) 職業を有する場合には在職証明書又は在職が確認できる書類
- (4) その他学長が必要と認める書類

※(4)については、育児や介護等を行っている場合に必要な書類とします。

3 長期履修生のための教育課程

(指導教員とご相談ください。)

4 学 費

区 分	学 年	入学金	授業料	施設設備費	修業期間の 学費の計
一般学生	1	300,000 円	700,000 円	200,000 円	2,100,000 円
	2	—	700,000 円	200,000 円	
長期履修生	1	300,000 円	470,000 円	140,000 円	2,130,000 円
	2	—	470,000 円	140,000 円	
	3	—	470,000 円	140,000 円	

なお長期履修生の学費は、入学金以外を修業年限の2年分を3年間で支払う計算となりますが、1万円未満は切り上げます。

埼玉医科大学大学院長期履修生規則

(趣旨)

第1条 埼玉医科大学大学院学則(以下「大学院学則」という。)第6条第2項の規定に基づき、修士課程において計画的な長期履修を認められた者(以下「長期履修生」という。)の取扱いについては、この規則の定めるところによる。

(志願資格)

第2条 長期履修生に志願できる者は、本学大学院修士課程へ入学する者で、次の各号のいずれかに該当し、標準修業年限内での修学が困難な者とする。

- (1) 職業を有し、就業している者
- (2) 家事、育児、介護等に当たる必要がある者
- (3) その他学長が相当と認めた者

(志願手続)

第3条 長期履修生に志願する者は、入学手続き期間内に次の書類を提出しなければならない。

ただし、原則として入学後1年未満の者については、研究科委員会の議を経て提出期間の延長を認めることがある。

- (1) 長期履修生志願書
- (2) 理由書
- (3) 職業を有する場合には在職証明書又は在職が確認できる書類
- (4) その他学長が必要と認める書類

(履修期間の変更)

第4条 長期履修生が、認められた履修期間の変更を希望する場合には、各研究科が定める期日までに、次の書類を提出しなければならない。

- (1) 長期履修生履修期間変更申請書
- (2) 理由書
- (3) その他学長が必要と認める書類

(学費)

第5条 大学院学則第29条に定める授業料及び施設設備費の年額については、標準修業年限の2年分の授業料及び施設設備費の額を、認められた履修期間で除した額(その額が1万円未満の場合には1万円に切り上げるものとする。)とする。ただし、前条の規定により履修期間の延長が認められた場合においても、授業料及び施設設備費の年額は変更しない。

(決定及び許可)

第6条 長期履修生の決定及び前条に規定する履修期間の変更の許可は、研究科委員会の議を経て学長がこれを行う。

(その他)

第7条 この規則に定めるもののほか、長期履修生に関して必要な事項は、各研究科が定める。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

研究科長 殿

長 期 履 修 生 志 願 書

私は、大学院修士課程の長期履修生として認めていただきたく、
別紙の理由書を添えて志願書を提出します。

年 月 日

大学院修士課程

研究科

専攻

氏 名 _____ (印)

指導教員（予定）氏名 _____ (印)

長期履修生志願理由書

研究科
専攻名

氏名

(志願理由)

研究科長 殿

長期履修生履修期間変更申請書

私は、履修期間の変更を認めていただきたく、別紙の理由書を添えて申請書を提出します。

年 月 日

大学院修士課程

研究科

専攻

氏 名 (印)

長期履修生履修期間変更理由書

研究科 専攻名		氏 名	
(変更理由)			

埼玉医科大学大学院科目等履修生受託規則

第1章 目的

(目的)

第1条 この規則は、埼玉医科大学大学院学則(昭和53年3月24日制定。以下「大学院学則」という。)第43条第2項の規定に基づき、正規学生の研究及び指導に支障のない範囲において、医学研究科及び看護学研究科における科目等履修生を受託するために必要な事項を定めることを目的とする。

第2章 科目等履修生の受託(科目等履修生の受入れ)

(資格)

第2条 各研究科の科目等履修生として受入れすることができる者は、本大学院学則第14条に定める入学資格を持つ者と同等の者とする。

(申請)

第3条 科目等履修生としての受入を志願する者は、所定の期間内に関係書類を添えて学長に申請するものとする。

2 申請の方法、時期については別に定める。

(選考)

第4条 学長は前条の申請があったとき、研究科長に審議を委託する。

2 研究科長は書類審査等大学が定める必要な方法により選考を行い、研究科委員会の議を経て、その受入れの可否を決定し学長にその旨報告するものとする。

3 学長は研究科長の報告を受けて申請者に結果を通知するものとする。

(受入手続、許可)

第5条 合格の通知を受けた者は、所定の期日までに登録料その他の学納金を添えて、誓約書を提出しなければならない。

2 学長は、前項の受入手続きを完了した者について受入を許可する。

(受入の時期)

第6条 受入の時期は学年又は学期の始めとする。

(履修期間)

第7条 履修期間は、受入を許可された時より1年以内とする。

2 前項の履修期間を超えて引き続き科目等履修生として在学する場合は、学長に願い出てその許

可を受けなければならない。

(科目の履修)

第8条 履修できる科目は、各研究科において当該年度に開講される科目とする。

2 履修の登録及び方法については別に定める。

(単位の授与)

第9条 履修を許可された科目を履修し、その試験に合格した場合は単位を授与する。

2 科目等履修生として修得できる単位は年間10単位を上限とする。

(受入許可の取消し)

第10条 科目等履修生が次の各号の一に該当する場合は、学長は審議の上、受入許可を取り消しその旨を当該学生に通知するものとする。

(1) 本学の諸規程その他遵守事項に違反したと認められるとき。

(2) 各研究科で科目の履修を受けることが適当でないと認められるとき。

(授業料及びその納付)

第11条 科目等履修生の授業料等は次のとおりとする。

(1) 検定料 20,000 円

(2) 登録料 30,000 円

(3) 授業料：1単位あたり 30,000 円

2 一旦納入された検定料、登録料及び授業料は一切返還しない。

(災害保険等への加入)

第12条 科目等履修生は、学生教育研究災害傷害保険等に加入しておくものとする。

(損害賠償)

第13条 学長は、科目等履修生が故意又は重大な過失により、各研究科の施設・設備等に損害を及ぼしたとき、当該学生に対して、損害の全部又は一部について賠償を求めるものとする。

(補足)

第14条 この規則に定めるもののほか、科目等履修生に関し必要な事項は、本学大学院学則を準用するものとする。

(その他)

第15条 各研究科の科目等履修生として特別なコースを履修する場合の規則については別に定める。

担当教員・教員一覧

共通科目

授業科目名	授業の形式	学期	曜日・時限	曜日・時限	学年	単位数	授業科目責任者	頁
医療政策学概論	講義	前期	火・3		1	2	小野寺亘	63
生命倫理学概論	講義	後期	木・4	木・6	1	2	大西正夫 (非常勤)	66
遺伝カウンセリング学概論	講義	前期	水・3		1	2	難波 聡	69
行動科学概論	講義	後期	木・1	月・6	1	2	菅 理江	71
細胞生物学概論	講義	後期	水・1		1	2	西本正純	75
医療安全管理学概論	講義	後期	火・4	土・1	1	2	滝沢牧子	78
病理学概論	講義	前期	月・1	月・6	1	2	木下勇一	80
生体機能形態学概論	講義	前期	火・2		1	2	山岸敏之	83
リハビリテーション医療学概論	講義	後期	月・4	木・7	1	2	國澤洋介	85
実験動物学概論	講義	前期	木・1		1	2	水野由美	89
実用実験医学特別講義	講義	前期	火・6		1	2	永島雅文	92
統計情報解析特論	講義	前期	木・2	木・6	1	2	椎橋実智男	94
疫学方法特論	講義	後期	木・1		1	2	太田晶子	99
最新医学特別講義	講義	通年	金・6		1	2	高橋健夫	101
老年学概論	講義	前期	火・1	木・7	1	2	新井智之	103

専門科目

分野	授業科目名	授業の形式	学期	曜日・時限	曜日・時限	学年	単位数	授業科目責任者	頁
生体機能科学分野	ゲノム医学特論	講義	前期	月・3	水・6	1	2	奥田晶彦	107
	生体・病態医科学特論	講義	後期	金・1	金・7	1	2	前田卓哉	111
	生体機能科学特論	講義	前期	金・2	木・6	1	2	藤原智徳	113
	栄養学特論	講義	後期	木・1	月・6	1	2	伴場裕巳	117
	環境衛生科学特論	講義	前期	水・5	水・7	1	2	與五沢真吾	122
	環境微生物学特論	講義	前期	月・4	月・6	1	2	酒井 純	126
	脳科学特論	講義	前期	月、木・5		1	2	淡路健雄	130
	分析医科学特論	講義	後期	火・3	火・7	1	2	飯野 望	133
	臨床検査医学特論	講義	後期	火・1	火・6	1	2	小野川傑	136
	生体分子機能医科学演習	演習	通年			2	4	藤原智徳	140
生体分子機能医科学特別研究	実験・実習	通年			2	8	藤原智徳	141	
生体医工学分野	医療安全工学特論	講義	前期	金・3	金・6	1	2	川邊 学	142
	生体機能代人工学特論	講義	後期	月・4	月・7	1	2	奥村高広	147
	生体システム工学特論	講義	前期	月・3	月・6	1	2	下岡聡行	152
	生体信号処理特論	講義	後期	月・3	月・6	1	2	山下高生	155
	生体情報計測特論	講義	前期	-	-	1	2	生体医工学分野講師	159
	人間工学特論	講義	後期	木・3	水・6	1	2	宮本裕一	163
	レーザー医工学特論	講義	前期	木・2	水・木6	1	2	笠松直史	167
	光応用計測特論	講義	後期	火・3	火・7	1	2	若山俊隆	171
	生体医工学演習	演習	通年			2	4	若山俊隆	175
	生体医工学特別研究	実験・実習	通年			2	8	若山俊隆	177
理学療法学分野	理学療法研究方法論	講義	前期	月・4	水・6,7	1	2	高倉保幸	179
	人体機能形態学特論Ⅰ	講義	前期	月・2	水・6,7	1	2	時田幸之輔	184
	人体機能形態学特論Ⅱ	講義	後期	水・4	水・6	1	2	時田幸之輔	188
	徒手理学療法特論	講義	後期	木・3	火・6	1	2	赤坂清和	192
	がん理学療法特論	講義	後期	金・3	月・6,7	1	2	高倉保幸	196
	予防理学療法特論	講義	前期	火・4	月・6,7	1	2	新井智之	200
	筋骨格理学療法特論Ⅰ(上肢・脊椎)	講義	前期	木・4	火・6,7	1	2	赤坂清和	205
	筋骨格理学療法特論Ⅱ(下肢)	講義	後期	木・5	火・7	1	2	赤坂清和	209
	神経理学療法特論Ⅰ	講義	前期	木・5	月・6,7	1	2	高倉保幸	213
	神経理学療法特論Ⅱ	講義	後期	金・5	月・6,7	1	2	高倉保幸	217
	スポーツ理学療法特論	講義	前期	火・1.2.3	土・1.2.3	1	1	赤坂清和	221
	スポーツ理学療法演習	演習	前期	火・1.2.3	土・1.2.3.6.7	1	1	赤坂清和	224
	理学療法演習	演習	通年	木・4,5	木・6,7	2	4	赤坂清和	228
	理学療法特別研究	実験・実習	通年	月、水、金・4,5	月、水、金・6,7	2	8	赤坂清和	230

令和 8 年度 医科学専攻修士課程 教員一覧

分野	区分	教員氏名	資格	所属(大学院基本学科名)
生体機能科学分野	●	藤原 智徳	教授	生体機能科学
	●	小野川 傑	教授	生体機能科学
	●	飯野 望	教授	生体機能科学
	●	木下 勇一	教授	生体機能科学
	●	山岸 敏之	教授	生体機能科学
	●	小野 公嗣	准教授	生体機能科学
	●	金子 優子	准教授	生体機能科学
	●	黒田 真代	准教授	生体機能科学
	●	酒井 純	准教授	生体機能科学
	○	與五沢 真吾	准教授	生体機能科学
	●	高橋 祐介	講師	生体機能科学
	●	伴場 裕巳	講師	生体機能科学
	●	森 幸太郎	講師	生体機能科学
	○	水谷 諭史	講師	生体機能科学
	●	山本 晃司	講師	生体機能科学
	●	山本 梓司	講師	生体機能科学
	○	山賀 貴	助教	生体機能科学
	●	奥田 晶彦	客員教授	生体機能科学
	●	浦西 洸介	講師	生体機能科学
	●	片桐 岳信	教授	生体機能科学
	●	三谷幸之介	教授	生体機能科学
	●	堀江公仁子	教授	生体機能科学
	●	池田 和博	准教授	生体機能科学
	●	西本 正純	准教授	生体機能科学
	●	水野 洋介	准教授	生体機能科学
	●	永島 雅文	教授	生体機能科学
	●	前田 卓哉	教授	生体機能科学
	生体医工学分野	●	若山 俊隆	教授
●		小林 直樹	客員教授	生体医工学
●		下岡 聡行	教授	生体医工学
○		田邊 一郎	特任教授	生体医工学
●		宮本 裕一	教授	生体医工学
●		笠松 直史	教授	生体医工学
●		奥村 高広	教授	生体医工学
●		川邊 学	准教授	生体医工学
●		脇田 政嘉	講師	生体医工学
●		白石 直子	講師	生体医工学
●		スコバグース トリスント	講師	生体医工学
理学療法学分野	●	赤坂 清和	教授	理学療法学
	●	高倉 保幸	教授	理学療法学
	●	國澤 洋介	教授	理学療法学
	●	新井 智之	教授	理学療法学
	●	大久保 雄	准教授	理学療法学
	●	時田幸之輔	講師	理学療法学
	○	金井 欣秀	講師	理学療法学
	○	森田 泰裕	講師	理学療法学
	○	服部 寛	助教	理学療法学
	○	清水 夏生	助教	理学療法学
	○	三浦 佳代	講師	理学療法学
	○	飛田 和基	助教	理学療法学
	○	姉帯 沙織	助教	理学療法学

●は指導教員 ○は大学院教員

《共通科目》

【科目名】 医療政策学概論

担当者	所属	E-mail
小野寺 亘		

【科目名】 生命倫理学概論

担当者	所属	E-mail
大西 正夫		

【科目名】 遺伝カウンセリング学概論

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
難波 聡					
齋藤 恵					
大竹 明					

【科目名】 行動科学概論

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
菅 理江					
吉川 圭介					
椎橋 実智男					
林 禅之					
小柴 満美子					
稲川 健太郎					
五十嵐 友里					

【科目名】 細胞生物学概論

担当者	曜日	時間	場所	E-mail
西本 正純				

【科目名】 医療安全管理学概論

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
滝沢 牧子					

【科目名】 病理学概論

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
木下 勇一					

【科目名】生体機能形態学概論

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
山岸 敏之					
小野 公嗣					
時田 幸之輔					

【科目名】リハビリテーション医療学概論

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
國澤 洋介					
赤坂 清和					
新井 智之					
高倉 保幸					

【科目名】実験動物学概論

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
水野 由美					
富永 信子					
掘切 一美					

【科目名】実用実験医学特別講義

担当者	曜日	時間	場所	E-mail
永島 雅文				

【科目名】統計情報解析特論

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
椎橋実智男					

【科目名】疫学方法特論

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
太田 晶子					

【科目名】最新医学特別講義

担当者	曜日	時間	場所	E-mail
高橋 健夫				

【科目名】老年学概論

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
新井 智之					

《専門科目》

<生体機能科学分野>

【科目名】 ゲノム医学特論

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
奥田 晶彦					
浦西 洸介					

【科目名】 生体・病態医科学特論

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
前田 卓哉					
藤原 智徳					
永島 雅文					

【科目名】 生体機能科学特論

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
藤原 智徳					
山本 梓司					
金子 優子					

【科目名】 栄養学特論

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
伴場 裕巳					

【科目名】 環境衛生科学特論

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
與五沢 真吾					

【科目名】 環境微生物学特論

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
酒井 純					

【科目名】 脳科学特論

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
淡路 健雄					
小谷 典弘					

魚住 尚紀	
中野 貴成	
周防 諭	
柳下 楠	
吉川 圭介	
北條 泰嗣	
橋爪 幹	

【科目名】分析医科学特論

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
飯野 望					

【科目名】臨床検査医学特論

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
小野川 傑					

【科目名】生体分子機能医科学演習・生体分子機能医科学特別研究

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
藤原 智徳					
前田 卓哉					
奥田 晶彦					

＜生体医工学分野＞

【科目名】 医療安全工学特論

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
川邊 学					
加納 隆					

【科目名】 生体機能代行工学特論

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
奥村 高広					
白石 直子					

【科目名】 生体システム工学特論

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
下岡 聡行					

【科目名】 生体信号処理特論

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
山下 高生					

【科目名】 生体情報計測特論

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
未定	臨床工学科				

【科目名】 人間工学特論

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
宮本 裕一					

【科目名】 レーザー医工学特論

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
笠松 直史					
宮本 裕一					
田邊 一郎					

【科目名】 光応用計測特論

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
若山 俊隆					

【科目名】 生体医工学演習・生体医工学特別研究

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
若山 俊隆					
下岡 聡行					
宮本 裕一					
笠松 直史					
山下 高生					
奥村 高広					
川邊 学					
脇田 政嘉					
白石 直子					
小林 直樹					

＜理学療法学分野＞

【科目名】 理学療法研究方法論

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
高倉 保幸					
赤坂 清和					

【科目名】 人体機能形態学特論 I

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
時田 幸之輔					

【科目名】 人体機能形態学特論 II

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
時田 幸之輔					

【科目名】 徒手理学療法学特論・筋骨格理学療法学特論 I（上肢・脊椎）・筋骨格理学療法学特論 II（下肢）

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
赤坂 清和					
大久保 雄					
服部 寛					
乙戸 崇寛					

【科目名】 スポーツ理学療法学特論・スポーツ理学療法学演習

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
赤坂 清和					
大久保 雄					
服部 寛					

【科目名】 がん理学療法学特論・神経理学療法学特論 II

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
高倉 保幸					

【科目名】 予防理学療法学特論

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
新井 智之					

【科目名】 神経理学療法学特論 I

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
高倉 保幸					

【科目名】理学療法演習・理学療法特別研究

担当者	所属	曜日	時間	場所	E-mail
赤坂 清和					
高倉 保幸					
新井 智之					
國澤 洋介					
時田 幸之輔					

シラバス
(第 14 条特例含む)

【令和8年度 医学研究科 時間割表】 (通常版)

《前期》 1年次

時限	分野	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ~ 10:30	共通科目		老年学概論		実験動物学概論		
	専 門 科 目	生体機能					
		生体医工					
		理学療法		スポーツ理学療法学特論 スポーツ理学療法学演習			
2 10:40 ~ 12:10	共通科目		生体機能形態学概論		統計情報解析特論		
	専 門 科 目	生体機能				生体機能科学特論	
		生体医工	医療安全工学特論			レーザー医工学特論	
		理学療法	人体機能形態学特論 I	スポーツ理学療法学特論 スポーツ理学療法学演習			
3 13:10 ~ 14:40	共通科目		医療政策学概論	遺伝カウンセリング学概論			
	専 門 科 目	生体機能	ゲノム医学特論			環境微生物学特論	
		生体医工	生体システム工学特論				
		理学療法					
4 14:50 ~ 16:20	共通科目						
	専 門 科 目	生体機能					
		生体医工	生体情報計測特論				
		理学療法	理学療法研究方法論	予防理学療法学特論		筋骨格理学療法学特論 I (上肢・脊椎)	
5 16:30 ~ 18:00	共通科目						
	専 門 科 目	生体機能		環境衛生科学特論			
		生体医工	生体情報計測特論				
		理学療法				神経理学療法学特論 I	
6 18:10 ~ 19:40	共通科目		実用実験医学特別講義 (於:毛呂山キャンパス)			最新医学特別講義 (於:毛呂山キャンパス)	
	専 門 科 目	生体機能					
		生体医工					
		理学療法					
7 19:50 ~ 21:20	共通科目						
	専 門 科 目	生体機能					
		生体医工					
		理学療法					

※1年前期 脳科学特論 8月集中講義

《後期》1 年次

時限	分野	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ~ 10:30	共通科目			細胞生物学概論	疫学方法特論 行動科学概論		
	専門科目	生体機能	臨床検査医学特論		栄養学特論	生体・病態医学科学特論	
		生体医工					
		理学療法					
2 10:40 ~ 12:10	共通科目						
	専門科目	生体機能					
		生体医工					
		理学療法					
3 13:10 ~ 14:40	共通科目						
	専門科目	生体機能	分析医科学特論				
		生体医工	生体信号処理特論	光応用計測特論		人間工学特論	
		理学療法				徒手理学療法学特論	がん理学療法学特論
4 14:50 ~ 16:20	共通科目	リハビリテーション医療学概論			生命倫理学概論		
	専門科目	生体機能					
		生体医工	生体機能代行工学特論				
		理学療法			人体機能形態学特論Ⅱ		
5 16:30 ~ 18:00	共通科目						
	専門科目	生体機能					
		生体医工					
		理学療法				筋骨格理学療法学特論Ⅱ(下肢)	神経理学療法学特論Ⅱ
6 18:10 ~ 19:40 14条 特例	共通科目		医療安全管理学概論			最新医学特別講義 (於:毛呂山キャンパス)	
	専門科目	生体機能					
		生体医工					
		理学療法					
7 19:50 ~ 21:20 14条 特例	共通科目						
	専門科目	生体機能					
		生体医工					
		理学療法					

【令和8年度 医学研究科 時間割表】 (第14条特例)

《前期》 1年次

時限	分野	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ~ 10:30	共通科目						
	専門科目	生体機能					
		生体医工					
		理学療法					
2 10:40 ~ 12:10	共通科目						
	専門科目	生体機能					
		生体医工					
		理学療法					
3 13:10 ~ 14:40	共通科目						
	専門科目	生体機能					
		生体医工					
		理学療法					
4 14:50 ~ 16:20	共通科目						
	専門科目	生体機能					
		生体医工					
		理学療法					
5 16:30 ~ 18:00	共通科目						
	専門科目	生体機能					
		生体医工					
		理学療法					
6 18:10 ~ 19:40 14条 特例	共通科目	病理学概論	実用実験医学特別講義 (於:毛呂山キャンパス)		統計情報解析特論 (於:毛呂山キャンパス)	最新医学特別講義 (於:毛呂山キャンパス)	
	専門科目	生体機能	ゲノム医学特論			生体機能科学特論	環境微生物学特論
		生体医工	生体システム工学特論			レーザー医工学特論	医療安全工学特論
		理学療法	予防理学療法学特論		理学療法研究方法論		
			神経理学療法学特論 I	筋骨格理学療法学特論 I (上肢・脊椎)	人体機能形態学特論 I		
7 19:50 ~ 21:20 14条 特例	共通科目				老年学概論		
専門科目	生体機能			環境衛生科学特論			
	生体医工						
	理学療法	予防理学療法学特論	スポーツ理学療法学特論	理学療法研究方法論			
		神経理学療法学特論 I	スポーツ理学療法学演習	人体機能形態学特論 I			

※1年前期 脳科学特論 8月集中講義

《後期》1年次

時限	分野	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1 9:00 ~ 10:30	共通科目						
	専門科目	生体機能					
		生体医工					
		理学療法					
2 10:40 ~ 12:10	共通科目						
	専門科目	生体機能					
		生体医工					
		理学療法					
3 13:10 ~ 14:40	共通科目						
	専門科目	生体機能					
		生体医工					
		理学療法					
4 14:50 ~ 16:20	共通科目						
	専門科目	生体機能					
		生体医工					
		理学療法					
5 16:30 ~ 18:00	共通科目						
	専門科目	生体機能					
		生体医工					
		理学療法					
6 18:10 ~ 19:40 14条 特例	共通科目	行動科学概論 (於:毛呂山キャンパス)			生命倫理学概論	最新医学特別講義 (於:毛呂山キャンパス)	
	専門科目	生体機能	栄養学特論	臨床検査医学特論			
		生体医工	生体信号処理特論			人間工学特論	
		理学療法	がん理学療法学特論 神経理学療法学特論Ⅱ	徒手理学療法学特論	人体機能形態学特論Ⅱ		
7 19:50 ~ 21:20 14条 特例	共通科目		医療安全管理学概論		リハビリテーション医療学 概論		
	専門科目	生体機能		分析医科学特論		生体・病態医科学特論	
		生体医工		光応用計測特論			
		理学療法	がん理学療法学特論 神経理学療法学特論Ⅱ	筋骨格理学療法学特論Ⅱ (下肢)			

講義名	医療政策学概論			
講義開講時期	前期	講義区分	講義	
基準単位数	2	時間	30.00	
代表曜日	火曜日	代表時限	3限	
校地	日高キャンパス			
単位数	2単位/30時間			
必修・選択	共通科目			
配当年次	1年前期			
担当教員				
職種	氏名	所属		
指定なし	◎ 小野寺 亘	医学部教員		
担当教員	小野寺 亘			
科目の目標	人口構成や経済状況の変化は日本の医療に大きな影響を及ぼしている。一方で長年の制度疲労、構造問題、患者や医療者の行動の問題なども顕在化している。国の政策に依存するだけでなく、地域主導とオーナーたるステークホルダーの義務と責任の明確化をキーワードに、日本の医療の在るべき姿を考える。そのため、医療法の成り立ちや身分法、医療資源の配置状況、医療保険者の役割などを検証し、一人称で考え、自ら実践できるようにする。			
学習の具体的な目標	1. 制度創設時の時代背景を知ること、現在求められている改革の必要性について論じることができる。 2. 共助を基本として運営されてきた日本の医療、その担い手は誰か？ それぞれの役割は何か？を考えることで、これからの医療の目指すべき方向を論じることができる。 3. 病床機能報告制度による医療ビッグデータを活用した地域医療ビジョンの策定が進められてきた。これを基に地域医療の姿を考えるとともに、地域医療の理念について論じることができる。			
授業計画表				
1	年月日(曜日)	令和 8年04月14日(火)	時限	3限
	担当者	小野寺		
	テーマ	時代とともにあった医療制度①(制度改革等)		
	授業内容	1. 社会状況の変化が医療に及ぼす影響について説明できる。 2. 医療界で、いま起きていることを説明できる。 3. 制度改革で医療構造は変わったか説明できる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月21日(火)	時限	3限
	担当者	小野寺		
	テーマ	時代とともにあった医療制度②(国の主張等)		
	授業内容	1. 国の主張と国民の反応について説明できる。 2. マニフェスト・プラン・構想の内容を説明できる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月28日(火)	時限	3限
	担当者	小野寺		
	テーマ	時代とともにあった医療制度③(社会保障制度改革)		
	授業内容	1. 社会保障と税の一体改革が目指すものについて説明できる。 2. 地域包括ケアの背景と方向を説明できる。		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月12日(火)	時限	3限
	担当者	小野寺		
	テーマ	日本の医療構造と医療経済		
	授業内容	1. 日本の医療構造とそれぞれの想い、医療経済の特殊性を説明できる。 2. 医療政策を担うキープレーヤーについて、その役割を説明できる。		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月19日(火)	時限	3限
	担当者	小野寺		
	テーマ	医療のあるべき姿		
	授業内容	1. 社会保障審議会の基本方針について説明できる。 2. 診療報酬改定項目から見る主な視点を説明できる。		

6	年月日(曜日)	令和 8年05月26日(火)	時限	3限
	担当者	小野寺		
	テーマ	日本における医療の特徴		
	授業内容	1. 様々な視点から日本の医療の現状を説明できる。 2. 法令や制度と医療実態のギャップについて説明できる。		
7	年月日(曜日)	令和 8年06月02日(火)	時限	3限
	担当者	小野寺		
	テーマ	医療法から見る日本の医療		
	授業内容	1. 医療法が規定している内容について説明できる。 2. 医療基本法の性格を理解した上で現行医療法の考え方を説明できる。		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月09日(火)	時限	3限
	担当者	小野寺		
	テーマ	日本の医療保険制度		
	授業内容	1. 医療保険制度の構造について説明できる。 2. 国民を含む関係者の役割について説明できる。		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月16日(火)	時限	3限
	担当者	小野寺		
	テーマ	人生100年時代の社会保障制度改革の方向		
	授業内容	1. 新時代の社会保障改革プランについて説明できる。 2. 人生100年時代構想会議について説明できる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月23日(火)	時限	3限
	担当者	小野寺		
	テーマ	医療制度改革の方向		
	授業内容	1. 医療提供体制における改革について説明できる。 2. 医療保険制度改革について説明できる。		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月30日(火)	時限	3限
	担当者	小野寺		
	テーマ	地域医療の分析(地域格差を中心に)		
	授業内容	1. 一人当たり医療費の地域格差について説明できる。 2. 地域格差の背景を知るための指標について説明できる。		
12	年月日(曜日)	令和 8年07月07日(火)	時限	3限
	担当者	小野寺		
	テーマ	都道府県医療計画と地域医療ビジョン		
	授業内容	1. 都道府県医療計画の概念と構成について説明できる。 2. 地域医療ビジョンの概要と意義について説明できる。		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月14日(火)	時限	3限
	担当者	小野寺		
	テーマ	地域医療ビジョン実現に向けた取り組み		
	授業内容	1. 地域医療調整会議の意義と課題について説明できる。 2. 地域医療の「見える化」の必要性について説明できる。		
14	年月日(曜日)	令和 8年07月21日(火)	時限	3限
	担当者	小野寺		
	テーマ	医療の質と診療報酬体系		
	授業内容	1. 医療の質の向上についての諸外国の取組み状況を説明できる。 2. 診療報酬体系の特殊性と課題について説明できる。		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月28日(火)	時限	3限
	担当者	小野寺		
	テーマ	一人称で語る日本の医療		
	授業内容	1. 自らが描く「日本の医療の姿」について説明できる。 2. 改革に必要な制度改正について説明できる。		
評価方法	課題レポートによって評価する。			
教科書	討論、研究の参考となる資料については毎回の講義時に配布する。			

参考書	国民衛生の動向、厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会
連絡先/オフィスアワー	面接希望者は各日の授業後に申し出ること。即時対応する。 授業日以外はメール（教員一覧参照）にてアポイントメントをとること。
履修上の注意、履修要件	既成概念にとらわれずに積極的に議論する。 日本の医療のあるべき姿を一人称で考える。

科目名		形態	配当年次	単位	科目区分	担当教員
生命倫理学概論		講義	1年 後期	2	共通科目	大西 正夫
到達目標						
生命倫理学を理解し、医療、医科学研究に役立てることができる。						
授業計画						
回	月日	曜日	時限	講義室	担当者	テーマ
1	10/8	木	4限	かわクリ	大西	医療・医科学研究の生命倫理
2	10/15	木	4限	かわクリ	大西	研究倫理の歴史的理解——法、判例、綱領（指針）
3	10/22	木	4限	かわクリ	大西	インフォームドコンセントの源流から今日まで
4	10/29	木	4限	かわクリ	大西	インフォームドコンセントの実践的理解
5	11/5	木	4限	かわクリ	大西	医科学研究と利益相反
6	11/12	木	4限	かわクリ	大西	医療資源の配分——功利主義と自由主義、Justis
7	11/19	木	4限	かわクリ	大西	個人情報と守秘義務、変容する守秘の概念
8	11/26	木	4限	かわクリ	大西	脳死と臓器移植、生体肝移植の倫理性
9	12/3	木	4限	かわクリ	大西	末期医療——延命と尊厳死、安楽死——世界の潮流
10	12/10	木	4限	かわクリ	大西	人工妊娠中絶禁止と容認。世界で未だに続く対立
11	12/17	木	4限	かわクリ	大西	体外受精医療の進展と影の側面
12	12/24	木	4限	かわクリ	大西	LGBTQsに象徴されるセクシュアリティの新たな様相
13	1/7	木	4限	かわクリ	大西	遺伝子の諸問題、ゲノム医療時代の生命倫理
14	1/14	木	4限	かわクリ	大西	ジェンダー差別、マイノリティへの眼差し、強姦罪から不同意性交罪に切り替った刑法改正
15	1/21	木	4限	かわクリ	大西	医療人・研究者に求められる新たな時代の倫理規範。
評価方法					連絡先/オフィスアワー	
課題レポート、自由研究レポートおよびその発表によって評価する。					教員一覧参照	
教科書・参考書					履修上の注意・履修要件	
教科書：特になし 参考書：特になし					かわごえクリニックにて対面のための講義	

授業内容	
<p>1. 医療・医科学研究と生命倫理</p> <p>内 容： 1.医療のあるべき姿を説明できる。 2.医科学研究の歩みを説明できる。</p>	
<p>2. 研究倫理の歴史的理解</p> <p>内 容： 1.医の四原則——自律尊重・善行・無危害・正義を基に倫理的な医療・研究を説明できる 2.人体実験、独善的医療から患者・被験者の自律、意思を尊重した時代背景を説明できる。</p>	
<p>3. インフォームドコンセント (IC) の源流から今日まで</p> <p>内 容： 1.医学研究倫理の原型であるニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言を説明できる。 2.欧米で確立されたICについて診療、研究両面で説明できる。</p>	

4. インフォームドコンセント (IC) の実践的理解

- 内 容 1. 患者・被験者が理解して同意するICの意義を医療者・研究者として十分説明できる。
2. 研究協力にいったん同意しても撤回し、不利益を被らない同意撤回について説明できる。

5. 医学研究と利益相反

- 内 容 : 1.利益相反の意味と透明性確保の重要性を説明できる。
2.国・大学・研究機関の各利益相反基準を説明できる。

6. 医療資源の配分——功利主義と自由主義、完全自由主義

- 内 容 1.臨床現場（ミクロ）と政策レベル（マクロ）の医療資源配分があることを説明できる。
2.費用対効果などの医療経済面だけでなく、目の前の重篤患者への全力投球を説明できる。

7. 個人情報と守秘義務 変容する守秘の概念

- 内 容 : 1.伝統的理解である絶対的義務から現代的な理解の相対的義務（一応の義務）を説明できる。
2.患者の権利である個人情報を自身でコントロールするプライバシー権として説明できる。

8. 脳死と臓器移植 生体肝移植の倫理性

- 内 容 : 1.脳死の概念（定義）を的確に理解し、臓器移植向けの「法的脳死」を説明できる。
2.脳死移植が国際水準ほど普及せず、肝移植では生体間が圧倒的に多い実情を説明できる。

9. 末期医療—延命と尊厳死、安楽死——世界の潮流

- 内 容 1.延命治療の差し控え（withholding）と中止（withdrawing）について説明できる。
2.積極的安楽死、消極的安楽死、苦痛緩和のための鎮静、世界の安楽死の潮流を説明できる。

10. 人工妊娠中絶

- 内 容 : 1.中絶に必要とされる配偶者同意の問題点（争点）、現行の母体保護法と明治期制定の刑法随
随罪との関係性を倫理面から検討する。
2.「性と生殖に関する健康と権利」（SRHR）は、今や普遍的人権として知られる。

11. 体外受精医療の進展と影の部分

- 内 容 : 1.2022年に日本国内で誕生した体外受精児は9人に1人で、過去最高となった。
2.一方で、匿名の第三者精子提供で生まれた体外受精児の成長後、出自をめぐる社会的・倫
理的問題に。

12. LGBTQs に象徴されるセクシュアリティの新たな様相

- 内 容 : 1.セクシュアルマイノリティの概念が浸透しつつある世界的状況を説明できる。
2.性別二分法からノンバイナリーへ。多彩、多様な風景が描出される時代相へ。

13. ゲノム医療の進化と倫理の“相克”

- 内 容 : 1.ゲノムデータの個人識別性、新たな生殖医療への応用可能性などを説明できる。
2.ゲノム編集がもたらす難病治療への期待と倫理面での抜きがたい懸念を説明できる。

14. ジェンダーとアカデミックハラスメント

- 内 容 : 1.新たな局面を迎えたジェンダーの概念、ジェンダー差別の諸問題を説明できる。
2.大学・医療機関・研究機関におけるアカハラ、セクハラ、パワハラを説明できる。

15. 医療人・研究者の行動規範、倫理委員会の厳格な審査

- 内 容 : 1.論文データ捏造など研究者の不正行為（misconducts）の問題点を説明できる。
2.社会の規範に基づいた倫理観と、臨床研究法に基づく倫理審査の基準を説明できる。

第 14 条特例

科目名		形態	配当年次	単位	科目区分	担当教員
生命倫理学概論		講義	1年 後期	2	共通科目	大西 正夫
到達目標						
生命倫理学を理解し、医療、医科学研究に役立てることができる。						
授業計画						
回	月日	曜日	時限	講義室	担当者	テーマ
1	10/8	木	4限	かわクリ	大西	医療・医科学研究の生命倫理
2	10/15	木	4限	かわクリ	大西	研究倫理の歴史的な理解——法、判例、綱領（指針）
3	10/22	木	4限	かわクリ	大西	インフォームドコンセントの源流から今日まで
4	10/29	木	4限	かわクリ	大西	インフォームドコンセントの実践的理解
5	11/5	木	4限	かわクリ	大西	医科学研究と利益相反
6	11/12	木	4限	かわクリ	大西	医療資源の配分——功利主義と自由主義、Justis
7	11/19	木	4限	かわクリ	大西	個人情報と守秘義務、変容する守秘の概念
8	11/26	木	4限	かわクリ	大西	脳死と臓器移植、生体肝移植の倫理性
9	12/3	木	4限	かわクリ	大西	末期医療——延命と尊厳死、安楽死——世界の潮流
10	12/10	木	4限	かわクリ	大西	人工妊娠中絶禁止と容認。世界で未だに続く対立
11	12/17	木	4限	かわクリ	大西	体外受精医療の進展と影の側面
12	12/24	木	4限	かわクリ	大西	LGBTQs に象徴されるセクシュアリティの新たな様相
13	1/7	木	4限	かわクリ	大西	遺伝子の諸問題、ゲノム医療時代の生命倫理
14	1/14	木	4限	かわクリ	大西	ジェンダー差別、マイノリティへの眼差し、強姦罪から不同意性交罪に切り替った刑法改正
15	1/21	木	4限	かわクリ	大西	医療人・研究者に求められる新たな時代の倫理規範。
評価方法					連絡先／オフィスアワー	
課題レポート、自由研究レポートおよびその発表によって評価する。					教員一覧参照	
教科書・参考書					履修上の注意・履修要件	
教科書：特になし 参考書：特になし					かわごえクリニックにて対面のための講義	

講義名	遺伝カウンセリング学概論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	水曜日	代表時限	3限
校地	日高キャンパス		
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	共通科目		
配当年次	1年前期		
担当教員			
職種	氏名	所属	
指定なし	◎ 難波 聡	指定なし	
担当教員	難波 聡・大竹 明・鶴岡 恵・上村のぞみ		
科目の目標	遺伝カウンセリングの定義を理解し、医療が患者（クライアント）と医療者との双方向コミュニケーションプロセスであることを学ぶ。		
授業計画表			
1	講義室	ゼミ室	
	担当者	難波	
	テーマ	医の倫理と遺伝カウンセリングの基本理念	
	授業内容	1. 医の倫理の4原則を説明できる。 2. 医の倫理に基づき、遺伝カウンセリングの基本理念を説明できる。	
2	講義室	ゼミ室	
	担当者	鶴岡	
	テーマ	遺伝カウンセリングの対象と手順	
	授業内容	1. 出生前、小児期、成人期遺伝カウンセリングそれぞれの特殊性を説明できる。 2. チーム医療としての遺伝カウンセリング体制を理解できる。	
3	講義室	ゼミ室	
	担当者	鶴岡	
	テーマ	遺伝形式と家系図作成法	
	授業内容	1. メンデル遺伝病を理解し、各遺伝形式の特徴を説明できる。 2. 非メンデル遺伝病を理解し、各遺伝形式の特徴を説明できる。 3. 家系図を正確に作成し、そこから遺伝形式を推定できる。	
4	講義室	ゼミ室	
	担当者	鶴岡	
	テーマ	遺伝学的検査法	
	授業内容	1. 染色体検査法の概要が説明でき、結果の解釈ができる。 2. 遺伝子検査法の概要が説明でき、結果の解釈ができる。	
5	講義室	ゼミ室	
	担当者	上村	
	テーマ	出生前診断法	
	授業内容	1. 出生前診断の適応を説明できる。 2. 実際に行われている各種出生前診断法の利点・欠点を説明できる。	
6	講義室	ゼミ室	
	担当者	鶴岡	
	テーマ	神経・筋疾患における遺伝カウンセリング	
	授業内容	1. ハンチントン舞踏病における遺伝カウンセリングの特徴を説明できる。 2. デュシェンヌ筋ジストロフィー症における遺伝カウンセリングの特徴を説明できる。	

7	講義室	ゼミ室
	担当者	大竹
	テーマ 授業内容	消化器・呼吸器疾患における遺伝カウンセリング 1. カーターゲナー症候群における遺伝カウンセリングの特徴を説明できる。 2. 遺伝性高ビリルビン血症における遺伝カウンセリングの特徴を説明できる。
8	講義室	ゼミ室
	担当者	大竹
	テーマ 授業内容	循環器疾患における遺伝カウンセリング 1. ウィリアムズ症候群における遺伝カウンセリングの特徴を説明できる。 2. 22q11.2欠失症候群における遺伝カウンセリングの特徴を説明できる。
9	講義室	ゼミ室
	担当者	大竹
	テーマ 授業内容	骨・結合組織疾患における遺伝カウンセリング 1. マルファン症候群における遺伝カウンセリングの特徴を説明できる。 2. 軟骨無形成症における遺伝カウンセリングの特徴を説明できる。
10	講義室	ゼミ室
	担当者	大竹
	テーマ 授業内容	先天代謝異常症における遺伝カウンセリング 1. シトルリン血症II型（成人型シトルリン血症）における遺伝カウンセリングの特徴を説明できる。 2. ファブリー病における遺伝カウンセリングの特徴を説明できる。
11	講義室	ゼミ室
	担当者	難波
	テーマ 授業内容	染色体異常症における遺伝カウンセリング 1. ダウン症候群における遺伝カウンセリングの特徴を説明できる。 2. ターナー症候群における遺伝カウンセリングの特徴を説明できる。
12	講義室	ゼミ室
	担当者	大竹
	テーマ 授業内容	生活習慣病における遺伝カウンセリング 1. 糖尿病における遺伝カウンセリングの特徴を説明できる。 2. 肥満症における遺伝カウンセリングの特徴を説明できる。
13	講義室	ゼミ室
	担当者	上村
	テーマ 授業内容	妊娠に関連した遺伝カウンセリング 1. 習慣性流産における遺伝カウンセリングの特徴を説明できる。 2. 高齢妊娠における遺伝カウンセリングの特徴を説明できる。 3. NIPTについて説明できる。
14	講義室	ゼミ室
	担当者	鶴岡
	テーマ 授業内容	家族性腫瘍における遺伝カウンセリング 1. 遺伝性乳癌卵巣癌症候群における遺伝カウンセリングの特徴を説明できる。 2. 多発性内分泌腺腫症における遺伝カウンセリングの特徴を説明できる。 3. 家族性大腸ポリポーシスにおける遺伝カウンセリングの特徴を説明できる。
15	講義室	ゼミ室
	担当者	難波
	テーマ	まとめ
	授業内容	遺伝カウンセリングを行う際に留意すべき事柄を説明できる。
評価方法	課題レポート、自由研究レポートおよびロールプレイによる発表によって評価する。	
教科書	医科遺伝学 松田一郎 南江堂	
参考書	特になし	
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照	
履修上の注意、履修要件	特になし	

講義名	行動科学概論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	月曜日	代表時限	5限
校地	毛呂山キャンパス		
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	共通科目		
配当年次	1年後期		

担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	◎ 菅 理江	指定なし

担当教員	菅 理江・吉川 圭介・小柴満美子・林 禅之・椎橋実智男・稲川健太郎・五十嵐友里
科目の目標	ヒトの行動と心理を理解するための基礎的な知識と考え方を学ぶ。行動を対象とした研究の実際を紹介し、行動が様々な要因によって規定され、階層的な異なるレベルで説明されていることを理解する。
学習の具体的な目標	ヒトが個体としてどのような特性を持つのか、行動科学の様々な分野（心理学、行動薬理学、科学哲学、認知科学）を通じて、その考え方と技法を概説できる。 心理テストや統計に関する演習を通じて、測定法の使用や設計における注意点を説明できる。

授業計画表				
1	年月日(曜日)	令和 8年10月01日(木)	時限	1限
	講義室	毛呂山キャンパス		
	担当者	菅		
	テーマ	ここはどこにあるのか - 心理学史		
	授業内容	1. コースの説明 2. 心と行動がこれまでどのように捉えられてきたのか、そして心を科学するためにどのような研究がなされてきたのかを概観する。		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月08日(木)	時限	1限
	講義室	毛呂山キャンパス		
	担当者	菅		
	テーマ	感覚と知覚		
	授業内容	外界を把握するために、ヒトは能動的かつ選択的に情報を収集し選択し続けている。ヒトの知覚の特性を理解し、測定方法について知る。		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月15日(木)	時限	1限
	講義室	毛呂山キャンパス		
	担当者	吉川		
	テーマ	行動薬理学(1)		
	授業内容			

行動薬理学とは薬物と行動の相互作用について研究する研究分野である。行動薬理学の基本的な考え方と技法を学ぶ。

4	年月日(曜日)	令和 8年10月22日(木)	時限	1限
	講義室	毛呂山キャンパス		
	担当者	吉川		
	テーマ	行動薬理学(2)		
	授業内容	第3回講義に引き続き、実際の研究データをもとに、具体的な問題への取り組み方と応用について学ぶ。		
5	年月日(曜日)	令和 8年10月29日(木)	時限	1限
	講義室	毛呂山キャンパス		
	担当者	小柴		
	テーマ	愛着と社会性(1)		
	授業内容	ヒトを含む社会動物は、学習により、他個体に対して親密さを表現する基本的な心理機能、「愛着」を自らに育むようになる。親子間のみならず、子同士の社会的相互作用や、食住環境の影響など、愛着の育みに必要な要素を考察する。		
6	年月日(曜日)	令和 8年11月05日(木)	時限	1限
	講義室	毛呂山キャンパス		
	担当者	小柴		
	テーマ	愛着と社会性(2)		
	授業内容	第5回講義に引き続き、社会的相互作用・環境がもたらす行動への影響について、研究データを交えて検討する。		
7	年月日(曜日)	令和 8年11月12日(木)	時限	1限
	講義室	毛呂山キャンパス		
	担当者	菅		
	テーマ	学習と記憶		
	授業内容	ヒトは生まれた時から外界の情報を取り込んで学習し自らの行動を変容させている。様々な形の学習とその基礎となる仕組みについて学ぶ。		
8	年月日(曜日)	令和 8年11月19日(木)	時限	1限
	講義室	毛呂山キャンパス		
	担当者	稲川		
	テーマ	ヒトの発達について(1)		
	授業内容	ヒトの誕生から死に至るまでの心身の変化を発達という。特に、世界を理解し適応しようとする心の働き(認知)の変化に焦点をあて解説する。		
9	年月日(曜日)	令和 8年11月26日(木)	時限	1限
	講義室	毛呂山キャンパス		
	担当者	稲川		
	テーマ	ヒトの発達について(2)		
	授業内容	第八回を踏まえ、認知発達について、経年変化に伴い変化していくという説、他者との相互作用により変化していくという説、これら二つの異なる説を検討する。		
10	年月日(曜日)	令和 8年12月03日(木)	時限	1限
	講義室	毛呂山キャンパス		
	担当者	林		
	テーマ	意識の科学と哲学		
	授業内容	知覚経験や身体感覚にはある独特な主観的感じ、あるいは「クオリア」が伴うと考えられている。クオリアの本性に迫る現代の科学研究を概観しながら、意識の存在が提起するいくつかの哲学的な問題について考える。		
11	年月日(曜日)	令和 8年12月10日(木)	時限	1限
	講義室	毛呂山キャンパス		
	担当者	椎橋		
	テーマ	意思決定の話		

授業内容	意思決定に関する様々なアプローチを概観し、意思決定のプロセスについて考える。			
12	年月日(曜日)	令和 8年12月17日(木)	時限	1限
	講義室	毛呂山キャンパス		
	担当者	稲川		
	テーマ	こころを測るとのこと		
	授業内容	心理学ではさまざまな形でこころという見えない物を測っている。心理検査のなりたちと、仕組み、検討すべき点について説明していく。		
13	年月日(曜日)	令和 8年12月24日(木)	時限	1限
	講義室	毛呂山キャンパス		
	担当者	稲川		
	テーマ	心理検査で何を検査しているか		
	授業内容	第12回に引続き、こころを測ることについて、テストを実際に体験し、その仕組みについて考えていく。		
14	年月日(曜日)	令和 9年01月14日(木)	時限	1限
	講義室	川越キャンパス		
	担当者	五十嵐		
	テーマ	認知行動療法と医療心理学		
	授業内容	行動科学が実際の医療場面でどのように使われているか、また医療従事者の行動にどのように生かせるのかを概説する。		
15	年月日(曜日)	令和 9年01月21日(木)	時限	1限
	講義室	毛呂山キャンパス		
	担当者	菅		
	テーマ	まとめ		
	授業内容	本講義で学んだことをまとめ、行動研究上で重要な倫理的問題について考える。		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年10月05日(月)	時限	5限
	講義室	毛呂山キャンパス		
	担当者	菅		
	テーマ	こころはどこにあるのか - 心理学史		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月05日(月)	時限	6限
	講義室	毛呂山キャンパス		
	担当者	菅		
	テーマ	感覚と知覚		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月19日(月)	時限	6限
	講義室	毛呂山キャンパス		
	担当者	吉川		
	テーマ	行動薬理学(1)		
4	年月日(曜日)	令和 8年10月26日(月)	時限	6限
	講義室	毛呂山キャンパス		
	担当者	吉川		
	テーマ	行動薬理学(2)		
5	年月日(曜日)	令和 8年11月02日(月)	時限	6限
	講義室	毛呂山キャンパス		
	担当者	小柴		
	テーマ	愛着と社会性(1)		
6	年月日(曜日)	令和 8年11月09日(月)	時限	6限
	講義室	毛呂山キャンパス		

担当者	小柴			
テーマ	愛着と社会性(2)			
7	年月日(曜日)	令和 8年11月16日(月)	時限	6限
	講義室	毛呂山キャンパス		
	担当者	菅		
	テーマ	学習と記憶		
8	年月日(曜日)	令和 8年11月30日(月)	時限	6限
	講義室	毛呂山キャンパス		
	担当者	稲川		
	テーマ	ヒトの発達について(1)		
9	年月日(曜日)	令和 8年12月07日(月)	時限	6限
	講義室	毛呂山キャンパス		
	担当者	稲川		
	テーマ	ヒトの発達について(2)		
10	年月日(曜日)	令和 8年12月14日(月)	時限	6限
	講義室	毛呂山キャンパス		
	担当者	林		
	テーマ	意識の科学と哲学		
11	年月日(曜日)	令和 8年12月21日(月)	時限	6限
	講義室	毛呂山キャンパス		
	担当者	椎橋		
	テーマ	意思決定の話		
12	年月日(曜日)	令和 9年01月18日(月)	時限	6限
	講義室	毛呂山キャンパス		
	担当者	稲川		
	テーマ	こころを測るということ		
13	年月日(曜日)	令和 9年01月25日(月)	時限	6限
	講義室	毛呂山キャンパス		
	担当者	稲川		
	テーマ	心理検査で何を検査しているか		
14	年月日(曜日)	令和 9年02月01日(月)	時限	6限
	講義室	川越キャンパス		
	担当者	五十嵐		
	テーマ	認知行動療法と医療心理学		
15	年月日(曜日)	令和 9年02月08日(月)	時限	6限
	講義室	毛呂山キャンパス		
	担当者	菅		
	テーマ	まとめ		
評価方法	授業内で出される課題によって評価する。			
教科書	授業毎に内容に沿った資料を配布する			
参考書	岡市廣成・鈴木尚人監修「心理学概論第2版」ナカニシヤ出版(2014) ISBN 978-4-7795-0830-1			
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照			
履修上の注意、履修要件	基本的に毛呂山キャンパスでの開講。			

講義名	細胞生物学概論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	水曜日	代表時限	1限
校地			
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	共通科目		
配当年次	1年後期		

担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	◎ 西本 正純	指定なし

担当教員	西本 正純
科目の目標	<p>日常的に使われている“遺伝”という言葉について考えてみませんか？ そもそも親から子へ“遺伝”すると言ったとき、その実態はなんなのだろうか？ また個人個人で固有の性質があるというが、何によって規定されるのだろうか？ といった基本的な疑問から、そもそも“生命とは何か？”について考えてみたいと思います。 さらに、以上の基本的な理解に基づいて、「PCR検査とは何か？」「ウイルスとは何か？」「再生医療とは何か？」など、医療の現場で聞くことのある事柄について、詳しく説明したいと思っています。</p>
学習の具体的な目標	<p>以下のような疑問について理解してもらえたらと思います。 1人体の基本構造である“細胞”についてその構造について、まず理解してもらうことを目標とします。その上で人体は多種類の細胞から構成されているが、なぜそれぞれの細胞は固有の性質を持っているのだろうか？ 2それぞれのヒトは固有の性質を持っているが、その特有な性質は各個人が持つ遺伝子によって規定されている。それではそもそも遺伝子とは何なのだろうか？ 3その上で、遺伝子と個人の固有の性質が、どのような関係にあるかについて考えてみます。そのうえで、親から子へと遺伝子は伝えられていくが、そこにはどのようなメカニズムが存在しているのだろうか？ 4遺伝子の異常が疾患と深く関係していることは知られているが、それでは遺伝子の異常がいかに疾患発症につながるのだろうか？さらにその性質が遺伝するということは何を意味しているのだろうか？ 5以上のことを理解したうえで、現在医療現場で注目されているトピックについて触れます。現時点では、落ち着いたとはいえ、皆さんにとって重大な関心事である「新型コロナウイルス（SARS-CoV2）」についても、ここまでで学んだ「遺伝子」という言葉を使用しながら、新世代ワクチン開発なども交えながら話します。 6なお、前期に「実験医学特別講義」において西本が、「ES細胞の臨床応用研究」で「再生医療」について話す予定としています。こちらもぜひ受講してもらえればと思います。なお、この「細胞生物学概論」において「再生医療」というテーマで話す予定していますが、これは上記「ES細胞の臨床応用研究」の内容について、より基本的なところから話すとともに、復習的な意味を込めて内容を別の語り口で話すこととしていますので、合わせて受講してもらえると、「再生医療とは何か？」「現在の医療に於いてなぜ再生医療に期待が寄せられているのか？」について、より理解が深まると思います。 以上のような内容を理解することで、今後研究者となる場合にはその基盤として、医療従事者となる場合には視野を広げることを目的としています。 その他、講義の進行状況によりですが、受講される方の修士課程でのテーマについて、発表の機会を設けたいと思っています。自分の取り組んでいるテーマを今の時点で一度まとめることで、自分の考えを整理できると思います。また、その内容について、他の人と議論することで、より理解が深まるきっかけになると思います。</p>

授業計画表				
1	年月日(曜日)	令和 8年10月07日(水)	時限	1限

担当者	西本			
テーマ	細胞の構造			
授業内容	1. 細胞が生体の基本単位であることを説明できる。 2. 真核細胞と原核細胞の違いについて説明できる。 3. 主な細胞内小器官の役割について説明できる。			
2	年月日(曜日)	令和 8年10月14日(水)	時限	1限
	担当者	西本		
	テーマ	タンパク質の構造と機能		
	授業内容	1. アミノ酸の構造について説明できる。 2. タンパク質の構造について説明できる。 3. タンパク質が細胞の機能を果たすうえで中心にあることを説明できる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月21日(水)	時限	1限
	担当者	西本		
	テーマ	遺伝情報を担う核酸からタンパク質合成へ(1)		
	授業内容	1. 核酸が遺伝情報の基本となっていることを説明できる。 2. 核酸の構造について説明できる。 3. 遺伝情報からタンパク質が合成されるまでの段階を説明できる。 4. 遺伝子とは何か、説明できる。		
4	年月日(曜日)	令和 8年10月28日(水)	時限	1限
	担当者	西本		
	テーマ	遺伝情報を担う核酸からタンパク質合成へ(2)		
	授業内容	1. DNAとRNAの高次構造の違いとその機能の違いを説明できる。 2. 遺伝情報からタンパク質が合成されるまでの段階を説明できる。		
5	年月日(曜日)	令和 8年11月04日(水)	時限	1限
	担当者	西本		
	テーマ	遺伝子の構造		
	授業内容	1. なぜ細胞により合成されるタンパク質が異なるか説明できる。 2. プロモーター、エンハンサー、エクソン、イントロンといった遺伝子の構造について説明できる。		
6	年月日(曜日)	令和 8年11月11日(水)	時限	1限
	担当者	西本		
	テーマ	遺伝子の変異について考える		
	授業内容	1. 遺伝子の変異にはどのようなものがあるか説明できる。 2. 遺伝子の変異によりどのようなことが起こりうるか説明できる。		
7	年月日(曜日)	令和 8年11月18日(水)	時限	1限
	担当者	西本		
	テーマ	相同染色体について考える、単一遺伝子病—顕性(優性)遺伝と潜性(劣性)遺伝		
	授業内容	1. 相同染色体とは何か説明できる。 2. 親子、兄弟での形質の違いについて相同染色体の面から説明できる。 3. 顕性(優性)遺伝と潜性(劣性)遺伝について相同染色体の面から説明できる。 4. 常染色体と性染色体での遺伝形式の違いについて説明できる。		
8	年月日(曜日)	令和 8年11月25日(水)	時限	1限
	担当者	西本		
	テーマ	血液型の話		
	授業内容	1. ABO血液型とは何か説明できる。 2. 抗原・抗体反応(免疫反応)の基本的な原理について説明できる。 3. 血液型が親子でいかに遺伝されるか説明できる。		
9	年月日(曜日)	令和 8年12月02日(水)	時限	1限
	担当者	西本		
	テーマ	PCRの原理		
	授業内容	1. PCRの原理が説明できる。 2. PCRの利点と欠点を説明できる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年12月09日(水)	時限	1限
	担当者	西本		

テーマ	DNA鑑定			
授業内容	1. 個人個人でのゲノム構造の違いについて説明できる。 2. PCRを利用することでなぜ親子鑑定、犯罪捜査の証拠になりうるのか説明できる。			
11	年月日(曜日)	令和 8年12月16日(水)	時限	1限
	担当者	西本		
	テーマ	ウイルスについて：(その1：基本性質)		
	授業内容	1. ウイルスの構造について説明できる。 2. ウイルスの増殖について説明できる。 3. ウイルス感染症の治療薬について説明できる。		
12	年月日(曜日)	令和 8年12月23日(水)	時限	1限
	担当者	西本		
	テーマ	ウイルスについて(その2：ワクチン戦略)		
	授業内容	1. 抗体とはどのようなもので、その働きについて説明できる。 2. ワクチンを接種することでの感染防御の仕組みについて説明できる。 3. 新世代ワクチン(組換え技術を利用したワクチン)について説明できる。		
13	年月日(曜日)	令和 9年01月06日(水)	時限	1限
	担当者	西本		
	テーマ	再生医療(1)		
	授業内容	1. 再生医療がどのような疾患に対し有効であるか説明できる。 2. 胚性幹細胞と体性幹細胞の違いを説明できる。 3. 胚性幹細胞を再生医療で利用するうえでの利点と欠点について説明できる。 4. クローン動物について説明できる。 5. ヒトES細胞とマウスES細胞の違いが説明できる。		
14	年月日(曜日)	令和 9年01月13日(水)	時限	1限
	担当者	西本		
	テーマ	再生医療(2)		
	授業内容	1. iPS細胞とはどのようにして生み出されたか説明できる。 2. iPS細胞がなぜ再生医療に有効な材料と考えられているのか説明できる。 3. iPS細胞の再生医療以外での利用法について説明できる。		
15	年月日(曜日)	令和 9年01月20日(水)	時限	1限
	担当者	西本		
	テーマ	再生医療(3)		
	授業内容	1. なぜ当初考えられたiPS細胞の再生医療の利用には問題があるか説明できる。 2. その問題点を解消するために考えられたiPS細胞バンクについて説明できる。 3. なぜそもそも臓器移植では拒絶反応が起こるのか説明できる。		
評価方法	履修に必要な時間数以上の受講をもって単位を認定します。			
教科書	特にありません			
参考書	細胞の分子生物学、原書第6版、Alberts 他、中村桂子/松原謙一 監訳(ニュートンプレス)2017年 その他スライドにおいて引用文献として記載してあるものを、参考書として利用してもらえれば、と思います。			
連絡先/オフィスアワー	西本正純 質問などがあれば、メールにて連絡をください。また、直接対面で話したい場合は、メールにて日時・場所などを相談のうえ、その時間を作ります。(勤務場所が、毛呂山キャンパス第3研究棟内 中央研究施設RI部門 なのですが、第3研究棟が施設されており、登録者のみ入館可能なシステムになっています。したがって、急な訪問に対応できないという事情があり、このような対応とさせていただきます。) e-mail: masamasa@saitama-med.ac.jp			
履修上の注意、履修要件	講義の中で、理解できなかった部分があった場合は、その講義の中、あるいはその直後に教員に質問し、疑問点を残さないように努めてください。少人数講義ですので、気軽に質問できる環境かと思っておりますので、有効に活用してもらえると、担当教員としてもうれしく思います。 なお、毎週水曜日1限としていますが、講義日程時間について希望があれば、相談に応じます。また、日高キャンパス保健医療学部の講義室を予定していますが、毛呂山キャンパスでも別途講義場所の設定も可能です。事前にメールにて、連絡ください。			

講義名	医療安全管理学概論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	火曜日	代表時限	7限
校地	日高キャンパス		
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	共通科目		
配当年次	1年後期		
担当教員			
	職種	氏名	所属
	指定なし	◎ 滝沢 牧子	指定なし
担当教員	滝沢 牧子		
科目の目標	医療安全の確保に必要な考え方を自ら考え、医療にかかわるに際し、これを実践できる能力を養う。		
学習の具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全問題の基本を理解し、安全な医療実践のための方策を探ることができる。 2. わが国の医療の現状を理解し、医療安全にかかわる医療環境につき考察することができる。 3. 医療安全にかかわる医療システム、医療人の考え方を考察し、医療安全確保のため各自ができることは何かを考えることができる。 4. 医療事故におけるヒューマンエラーのかかわりを理解し、人間はエラーをするものであるとの考えに立った医療安全確保の方策をさぐることができる。 5. インシデント報告制度の意義を理解し、その分析、医療安全確保への応用を考えることができる。 6. 医療機器の安全確保については、操作ミスなどのヒューマンエラー対策が重要であることを、具体的な事例を挙げて考えてみることができる。 7. 過去に問題となった医療事故を分析して、その原因、対処法、防止策につき討論することができる。 8. 医療安全、院内感染防止、救急医療につき実際の医療現場において体験しその中で安全な医療のあり方を再確認することができる。 9. 医療安全対策を行った結果を評価することができる。 		
授業計画表			
1	担当者	滝沢	
	テーマ	医療安全の基本	
	授業内容	医療安全問題の基本を理解し、安全な医療実践のための方策を探る。	
2	担当者	滝沢	
	テーマ	医療環境を考察	
	授業内容	医療保険をはじめとするわが国の医療の現状を理解し、医療安全にかかわる医療環境につき考察する。	
3	担当者	滝沢	
	テーマ	医療をおびやかす諸問題	
	授業内容	医療安全にかかわる医療システム、医療人の考え方を考察し、医療安全確保のため各自ができることは何かを考える。	
4	担当者	滝沢	
	テーマ	医療におけるヒューマンエラー	
	授業内容	医療事故におけるヒューマンエラーのかかわりを理解し、人間はエラーをするものであるとの考えに立った医療安全確保の方策をさぐる。	
5	担当者	滝沢	
	テーマ	インシデント報告制度	
	授業内容	インシデント報告制度の意義を理解し、その分析、医療安全確保への応用を考える。	
6	担当者	滝沢	
	テーマ	医療機器の安全	
	授業内容	医療機器の安全確保については、操作ミスなどのヒューマンエラー対策が重要であることを、具体的な事例を挙げて考えてみる。	

7	担当者	滝沢
	テーマ	過去の医療事故から学ぶⅠ
	授業内容	過去に問題となった医療事故を分析して、その原因、対処法、防止策につき討論する。
8	担当者	滝沢
	テーマ	医療安全実践Ⅰ
	授業内容	医療安全、院内感染防止、救急医療につき実際の医療現場において体験しその中で安全な医療のあり方を再確認する。
9	担当者	滝沢
	テーマ	過去の医療事故から学ぶⅡ
	授業内容	医療安全対策を行った結果を評価する。
10	担当者	滝沢
	テーマ	医療安全実践Ⅱ
	授業内容	過去に問題となった医療事故を分析して、その原因、対処法、防止策につき討論する。
11	担当者	滝沢
	テーマ	過去の医療事故から学ぶⅢ
	授業内容	医療安全、院内感染防止、救急医療につき実際の医療現場において体験しその中で安全な医療のあり方を再確認する。
12	担当者	滝沢
	テーマ	医療安全実践Ⅲ
	授業内容	医療安全対策を行った結果を評価する。
13	担当者	滝沢
	テーマ	医療安全対策評価Ⅰ
	授業内容	過去に問題となった医療事故を分析して、その原因、対処法、防止策につき討論する
14	担当者	滝沢
	テーマ	医療安全対策評価Ⅱ
	授業内容	医療安全、院内感染防止、救急医療につき実際の医療現場において体験しその中で安全な医療のあり方を再確認する。
15	担当者	滝沢
	テーマ	医療安全対策評価Ⅲ
	授業内容	医療安全対策を行った結果を評価する。
評価方法	討論、発表、レポートによる評価	
教科書	特になし	
参考書	特になし	
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照	
履修上の注意、履修要件	履修を希望する場合は、履修届を提出する前に必ず、担当教員に連絡し、内容ならびに日程の確認をすること。 講義は基本的にWEB上で開講し、1-2回の川越キャンパスでの実施を予定している。	

講義名	病理学概論			
(副題)				
開講責任部署				
講義開講時期	前期	講義区分	講義	
基準単位数	2	時間	30.00	
代表曜日	月曜日	代表時限	6限	
校地	日高キャンパス			
単位数	2単位/30時間			
必修・選択	共通科目			
配当年次	1年前期			
担当教員				
職種	氏名	所属		
臨床検査技師	◎ 木下 勇一	臨床検査学科教員		
担当教員	茅野 秀一・松村 舞依・百瀬 修二・奥寺 康司・山口 浩・木下 勇一・東 守洋・長谷部孝裕・本間 琢・黒田 真代			
科目の目標	医療系大学修士課程の学生として研究活動を行うのに必要で最低限の病理学的知識を見に付け、かつ、個々に遭遇する具体的な疾患や症状について病理学的に解釈・理解できる基礎的能力を見に付ける。			
学習の具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学領域で日常使用する専門用語の定義を説明できる。 2. 疾患のある臓器の形態異常と、その初期像から終末像までの変遷を説明できる。 3. 形態異常の病変が如何なる原因理由で生じたか説明できる。 			
授業計画表				
1	年月日(曜日)	令和 8年04月13日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	本間 琢		
	テーマ 授業内容	緒言、細胞傷害（退行性病変、進行性病変） <ol style="list-style-type: none"> 1. 萎縮、変性、壊死の定義概念について説明できる。 2. 肥大、過形成、再生、化生の定義概念について説明できる。 3. 創傷の治癒機転とその経過中に現われる肉芽組織について説明できる。 		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月20日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	茅野 秀一		
	テーマ 授業内容	先天異常、奇形 <ol style="list-style-type: none"> 1. 病理解剖、外科病理等の病理学的検索方法の概略を説明できる。 2. 検体の肉眼所見や光学顕微鏡所見の観察からどんな異常か説明できる。 3. 代表的な先天異常、奇形の疾患について説明できる。 4. 遺伝性疾患の概略について説明できる。 5. 代表的な染色体異常について説明できる。 		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月27日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	木下 勇一		
	テーマ 授業内容	循環障害(1) 出血 <ol style="list-style-type: none"> 1. 出血の定義が説明できる。 2. 代表的出血疾患について説明でき、発病後の病態の変遷を説明できる。 		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月11日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	木下 勇一		
テーマ	循環障害(2) 梗塞			

	授業内容	1. 虚血、うっ血、充血、血栓、塞栓の定義概念について説明できる。 2. 梗塞の定義について説明でき、代表的な梗塞疾患の発症機序、および発病後の病態の変遷が説明できる。		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月18日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	松村 舞依		
	テーマ	循環障害(3) 全身性循環障害		
	授業内容	1. 高血圧、ショック、出血傾向、DIC等の循環障害について説明できる。 2. 高血圧、ショック等の際にどんな経過を辿るか説明できる。		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月25日(月)	時限	6限
	講義室	かわごえクリニック		
	担当者	百瀬 修二		
	テーマ	炎症(1) 概念		
	授業内容	1. 炎症の概念について説明できる。 2. 炎症の5徴候を説明できる。		
7	年月日(曜日)	令和 8年06月01日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	奥寺康司		
	テーマ	炎症(2) 炎症の型		
	授業内容	1. 炎症の原因、組織変化、修復機転について説明できる。 2. 炎症の型について説明できる。		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月08日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山口 浩		
	テーマ	炎症(3) 分類と疾患名		
	授業内容	1. 原因や炎症の型に基づく炎症疾患の命名法を説明できる。 2. 主な感染症とその病理病態像について説明できる。		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月15日(月)	時限	6限
	講義室	かわごえクリニック		
	担当者	百瀬 修二		
	テーマ	炎症(4) 免疫とその異常		
	授業内容	1. 免疫不全の原因、病態と、弱毒菌感染症について説明できる。 2. アレルギーの定義とアレルギー性疾患について説明できる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月22日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	黒田 真代		
	テーマ	腫瘍総論(1) 定義と形態、分類		
	授業内容	1. 腫瘍の定義が説明できる。 2. 良性腫瘍と悪性腫瘍、上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍の相違点が説明できる。		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月29日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	黒田 真代		
	テーマ	腫瘍総論(2) 腫瘍の組織型		
	授業内容	1. 腫瘍の形態、増殖様式について説明できる。 2. 腫瘍細胞の異型性について説明できる。 3. 正常組織と腫瘍の肉眼所見、組織所見の相違点について説明できる。		
12	年月日(曜日)	令和 8年07月06日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	黒田 真代		
	テーマ	腫瘍総論(3) 転移、早期癌、前癌病変		
	授業内容	1. 癌の拡がり方、転移の種類について説明できる。 2. 早期癌と前癌病変について具体例を説明できる。		

13	年月日(曜日)	令和 8年07月13日(月)	時限	6限
	講義室	かわごえクリニック		
	担当者	東 守洋		
	テーマ	腫瘍総論(4) 癌関連遺伝子		
	授業内容	遺伝子異常、環境因子、ウイルス因子等による発癌機序の概略を説明できる。		
14	年月日(曜日)	令和 8年07月27日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	長谷部 孝裕		
	テーマ	病理学研究		
	授業内容	1. 研究(目的、分野・種類、対象、方法等)について説明できる。 2. 病理学的研究の特徴について説明できる。		
15	年月日(曜日)	令和 8年08月03日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	茅野 秀一		
	テーマ	概論 全体のまとめ		
	授業内容	全体を通じての内容の討論, 質疑応答を行う。		
評価方法	講義出席とレポートにより評価する。			
参考書	標準病理学(医学書院)			
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照			
履修上の注意、履修要件	不明な点は講義中に質問するよう心がけて欲しい。 なお日程の15回目は変更される場合もある。			

講義名	生体機能形態学概論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	火曜日	代表時限	2限
校地	日高キャンパス		
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	共通科目		
配当年次	1年前期		

担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	◎ 山岸 敏之	臨床検査学科教員

担当教員	山岸 敏之・小野 公嗣・時田 幸之輔
科目の目標	人体の形態および構造を発生学、形態学、組織学的観点から理解し、研究の方法および研究への応用法を考える。
学習の具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞・組織・器官の基本的構造と機能を説明できる。 2. ヒトの発生過程の概略を説明できる。 3. 呼吸・循環・泌尿器の発生過程と構造を説明できる。 4. 消化器の発生過程と構造を説明できる。 5. 骨・筋・神経（感覚器を含む）の構造と機能を説明できる。 6. 正常な人体の構造を肉眼解剖レベル、顕微解剖レベル、発生学の視点から説明できる。

授業計画表		
1	担当者	山岸
	テーマ	体制、受精
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・脊椎動物の体制について説明できる。 ・生殖細胞の形成について説明できる。 ・受精の仕組みについて説明できる。
2	担当者	山岸
	テーマ	着床、胚葉分化
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトの受精から着床までの過程を説明できる。 ・ヒト発生での胚葉の分化について説明できる。 ・内胚葉、中胚葉、外胚葉から分化する器官について説明できる。
3	担当者	山岸
	テーマ	咽頭弓から形成される器官、運動器系の発生
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・咽頭弓の構成要素について説明できる。 ・咽頭弓に由来する構造物を説明できる。 ・骨格系の発生について説明できる。 ・筋系の発生について説明できる。
4	担当者	山岸
	テーマ	呼吸器系、消化器系の発生
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・喉頭、気管、気管支・肺の発生について説明できる。 ・前腸、中腸、後腸に由来する器官について説明できる。 ・中腸の回転について説明できる。
5	担当者	山岸
	テーマ	循環器系、泌尿生殖器系、神経系の発生
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・心臓の発生について説明できる。 ・血管系の発生について説明できる。 ・腎臓の発生について説明できる。 ・尿路の発生について説明できる。 ・中枢神経系の発生について説明できる。 ・末梢神経系の発生について説明できる。

6	担当者	小野
	テーマ	正常構造の階層性と組織学
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・正常構造の中で階層性が説明できる。 ・器官を構成する4種類の組織を説明できる。
7	担当者	小野
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・組織化学染色を説明できる。 ・免疫組織化学的手法を説明できる。
8	担当者	小野
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・脳の恒常性を保つ細胞について説明できる。 ・脳脊髄液循環を説明できる。
9	担当者	小野
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・L型アミノ酸とD型アミノ酸について説明できる。 ・D型アミノ酸の役割について説明できる。
10	担当者	小野
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・組織化学染色を研究に応用できる知識を身につける。 ・免疫組織化学的手法を研究に応用できる知識を身につける。
11	担当者	時田
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・肉眼解剖学的な研究方法について説明できる
12	担当者	時田
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・上肢の筋骨格系について説明できる ・上肢筋骨格系の比較解剖学的研究課題について説明できる ・上肢の末梢神経系・脈管系を含む局所解剖学について説明できる ・上肢の局所解剖学・肉眼解剖学的研究課題について説明できる
13	担当者	時田
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・下肢の筋骨格系について説明できる ・下肢筋骨格系の比較解剖学的研究課題について説明できる ・下肢の末梢神経系・脈管系を含む局所解剖学について説明できる ・下肢の局所解剖学・肉眼解剖学的研究課題について説明できる
14	担当者	時田
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・体幹・頭部の構造(特殊感覚を含む)について説明できる ・体幹・頭部の肉眼解剖学的研究課題について説明できる
15	担当者	時田
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・中枢神経系の構造について説明できる ・末梢神経系の構造について説明できる ・末梢神経系の肉眼解剖学的研究課題について説明できる
評価方法	講義への出席状況、講義中の質疑応答、講義終了後に与えられる課題のレポートによる理解度で評価する。	
教科書	適宜資料を配付する。	
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. ムーア人体発生学(Moor and Persaud原著、医歯薬出版) 2. 日本人体解剖学(金子著、南山堂) 	
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照	
履修上の注意、履修要件	特になし。	

講義名	リハビリテーション医療学概論			
(副題)				
開講責任部署				
講義開講時期	後期	講義区分	講義	
基準単位数	2	時間	30.00	
代表曜日	木曜日	代表時限	7限	
校地				
単位数	2単位/30時間			
必修・選択	共通科目			
配当年次	1年後期			
担当教員				
職種	氏名	所属		
理学療法士	◎ 國澤 洋介	理学療法学科教員		
担当教員	國澤 洋介・赤坂 清和・新井 智之・金井 欣秀・服部 寛・清水 夏生・飛田 和基・甘利 貴志・田上 未来			
科目の目標	リハビリテーション医療における最新の知見を幅広く紹介する。 また、討論を通じてリハビリテーション領域における現在の課題と今後の展望について理解を深める。			
学習の具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションとICFとの関係を理解し説明できる。 2. 障がい者スポーツの歴史と現状を理解し説明できる。 3. 腎臓・心臓・呼吸リハビリテーションの現状と課題を理解し説明できる。 4. 3次元超微形態解析、超音波画像解析の臨床応用やその他の医療機器開発について理解し説明できる。 5. 予防的リハビリテーションや身体活動量マネジメントについて理解し説明できる。 6. 本邦における理学療法業務の需要や展望、米国との比較なども踏まえて理解し説明できる。 			
授業計画表				
1	年月日(曜日)	令和 8年09月28日(月)	時限	4限
	講義室	川角キャンパス大学院生室		
	担当者	赤坂		
	テーマ	リハビリテーションとICF		
	授業内容	リハビリテーションとICFの関係について、これらの歴史的背景と最新の知見を紹介する。		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月05日(月)	時限	4限
	講義室	川角キャンパス大学院生室		
	担当者	服部		
	テーマ	障がい者スポーツの歴史と現状		
	授業内容	障がい者スポーツの歴史と現状について紹介する。		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月19日(月)	時限	4限
	講義室	川角キャンパス大学院生室		
	担当者	甘利		
	テーマ	腎臓リハビリテーションの基礎と臨床		
	授業内容	腎臓リハビリテーションにおける運動療法の効果について、基礎研究と臨床応用を紹介する。		
4	年月日(曜日)	令和 8年10月26日(月)	時限	4限
	講義室	川角キャンパス大学院生室		
	担当者	甘利		
	テーマ	理学療法における3次元超微形態解析を用いた組織解析		
	授業内容	臨床研究でのClinical Questionを3次元超微形態解析を用いた基礎研究に応用した研究例を紹介する。		

5	年月日(曜日)	令和 8年11月02日(月)	時限	4限
	講義室	川角キャンパス大学院生室		
	担当者	服部		
	テーマ	生体関節運動の超音波画像解析と臨床応用		
	授業内容	生体関節運動を解析する場合の注意点と臨床応用例を紹介する。		
6	年月日(曜日)	令和 8年11月09日(月)	時限	4限
	講義室	川角キャンパス大学院生室		
	担当者	飛田		
	テーマ	心臓リハビリテーションの現状と課題		
	授業内容	心臓リハビリテーションに関する近年のトピックスを紹介し、現状と課題について議論する。		
7	年月日(曜日)	令和 8年11月16日(月)	時限	4限
	講義室	川角キャンパス大学院生室		
	担当者	飛田		
	テーマ	呼吸リハビリテーションの現状と課題		
	授業内容	呼吸リハビリテーションに関する近年のトピックスを紹介し、現状と課題について議論する。		
8	年月日(曜日)	令和 8年11月30日(月)	時限	4限
	講義室	川角キャンパス大学院生室		
	担当者	清水		
	テーマ	入院患者の身体活動量マネジメント		
	授業内容	入院患者の身体活動量の測定方法と目標設定について学習する。		
9	年月日(曜日)	令和 8年12月07日(月)	時限	4限
	講義室	川角キャンパス大学院生室		
	担当者	清水		
	テーマ	在宅環境での要介護高齢者の身体活動促進方略		
	授業内容	Behavior Change Wheelに基づく要介護高齢者の行動変容手順と身体活動増加の方略を学習する。		
10	年月日(曜日)	令和 8年12月14日(月)	時限	4限
	講義室	川角キャンパス大学院生室		
	担当者	新井		
	テーマ	予防医学に基づくリハビリテーション		
	授業内容	予防医学に基づくリハビリテーションを概説し、最新の知見とリハビリテーション領域への応用について紹介する。		
11	年月日(曜日)	令和 8年12月21日(月)	時限	4限
	講義室	川角キャンパス大学院生室		
	担当者	金井		
	テーマ	理学療法業務の需要と展望(1)		
	授業内容	人口純減のフェーズを迎えた日本社会において、人口のみならず経済的指標等も交えながら、理学療法士という職域の範囲を見つめ、今後の展望や課題について討議していく。		
12	年月日(曜日)	令和 9年01月04日(月)	時限	4限
	講義室	川角キャンパス大学院生室		
	担当者	金井		
	テーマ	理学療法業務の需要と展望(2)		
	授業内容	人口純減のフェーズを迎えた日本社会において、人口のみならず経済的指標等も交えながら、理学療法士という職域の範囲を見つめ、今後の展望や課題について討議していく。		
13	年月日(曜日)	令和 9年01月18日(月)	時限	4限
	講義室	川角キャンパス大学院生室		
	担当者	國澤・田上		
	テーマ	医療機器の開発と活用(1)		
	授業内容	医療機器開発人材育成プログラムと活動内容を紹介します。		

14	年月日(曜日)	令和 9年01月25日(月)	時限	4限
	講義室	川角キャンパス大学院生室		
	担当者	國澤・田上		
	テーマ	医療機器の開発と活用(2)		
	授業内容	実際の医療機器開発の現場、具体的な事例について紹介する。		
15	年月日(曜日)	令和 9年01月26日(火)	時限	4限
	講義室	川角キャンパス大学院生室		
	担当者	赤坂		
	テーマ	米国と日本の理学療法の相違		
	授業内容	米国の理学療法事情を概説する。また、日本との比較から理学療法を含めた今後のリハビリテーションのあり方について討論する。		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年10月01日(木)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	赤坂		
	テーマ	リハビリテーションとICF		
	授業内容	リハビリテーションとICFの関係について、これらの歴史的背景と最新の知見を紹介する。		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月08日(木)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	服部		
	テーマ	障がい者スポーツの歴史と現状		
	授業内容	障がい者スポーツの歴史と現状について紹介する。		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月15日(木)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	甘利		
	テーマ	腎臓リハビリテーションの基礎と臨床		
	授業内容	腎臓リハビリテーションにおける運動療法の効果について、基礎研究と臨床応用を紹介する		
4	年月日(曜日)	令和 8年10月22日(木)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	甘利		
	テーマ	理学療法における3次元超微形態解析を用いた組織解析		
	授業内容	臨床研究でのClinical Questionを3次元超微形態解析を用いた基礎研究に応用した研究例を紹介する。		
5	年月日(曜日)	令和 8年10月29日(木)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	服部		
	テーマ	生体関節運動の超音波画像解析と臨床応用		
	授業内容	生体関節運動を解析する場合の注意点と臨床応用例を紹介する。		
6	年月日(曜日)	令和 8年11月05日(木)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	飛田		
	テーマ	心臓リハビリテーションの現状と課題		
	授業内容	心臓リハビリテーションに関する近年のトピックスを紹介し、現状と課題について議論する。		
7	年月日(曜日)	令和 8年11月12日(木)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	飛田		
	テーマ	呼吸リハビリテーションの現状と課題		
	授業内容	呼吸リハビリテーションに関する近年のトピックスを紹介し、現状と課題について議論する。		

8	年月日(曜日)	令和 8年11月19日(木)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	清水		
	テーマ	入院患者の身体活動量マネジメント		
	授業内容	入院患者の身体活動量の測定方法と目標設定について学習する。		
9	年月日(曜日)	令和 8年11月26日(木)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	清水		
	テーマ	在宅環境での要介護高齢者の身体活動促進方略		
	授業内容	Behavior Change Wheelに基づく要介護高齢者の行動変容手順と身体活動増加の方略を学習する。		
10	年月日(曜日)	令和 8年12月03日(木)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	予防医学に基づくリハビリテーション		
	授業内容	予防医学に基づくリハビリテーションを概説し、最新の知見とリハビリテーション領域への応用について紹介する。		
11	年月日(曜日)	令和 8年12月10日(木)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	金井		
	テーマ	理学療法業務の需要と展望(1)		
	授業内容	人口純減のフェーズを迎えた日本社会において、人口のみならず経済的指標等も交えながら、理学療法士という職域の範囲を見つめ、今後の展望や課題について討議していく。		
12	年月日(曜日)	令和 8年12月17日(木)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	金井		
	テーマ	理学療法業務の需要と展望(2)		
	授業内容	人口純減のフェーズを迎えた日本社会において、人口のみならず経済的指標等も交えながら、理学療法士という職域の範囲を見つめ、今後の展望や課題について討議していく。		
13	年月日(曜日)	令和 9年01月07日(木)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	國澤・田上		
	テーマ	医療機器の開発と活用(1)		
	授業内容	医療機器開発人材育成プログラムと活動内容を紹介する。		
14	年月日(曜日)	令和 9年01月14日(木)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	國澤・田上		
	テーマ	医療機器の開発と活用(2)		
	授業内容	実際の医療機器開発の現場、具体的な事例について紹介する。		
15	年月日(曜日)	令和 9年01月21日(木)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	赤坂		
	テーマ	米国と日本の理学療法の相違		
	授業内容	実際の医療機器開発の現場、具体的な事例について紹介する。		
評価方法	授業における質疑応答、レポート課題、出席状況により総合的に評価する。			
教科書	適宜資料を配布する。			
参考書	特になし			
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照			
履修上の注意、履修要件	授業テーマについて積極的な発言を求める。			

講義名	実験動物学概論			
(副題)				
開講責任部署				
講義開講時期	前期	講義区分	講義	
基準単位数	2	時間	30.00	
代表曜日	木曜日	代表時限	1限	
校地	毛呂山キャンパス			
単位数	2単位/30時間			
必修・選択	共通科目			
配当年次	1年前期			
担当教員				
職種	氏名	所属		
指定なし	◎ 水野 由美	指定なし		
担当教員	水野 由美・川村 勇樹・水野洋介・山口 哲・石原 由夏・堀切 一美			
科目の目標	動物実験に関わる法規及び倫理を理解し、動物愛護の精神を持ちつつ医学・薬学・生物学等における実験動物の役割を理解し説明できることを目標とする。また、研究目的に応じた適切な実験動物の選択について、実験動物の種類や特性、飼育法、解析方法を理解し説明できることを目標とする。基本的な動物実験の手法を演習を通じて理解する。			
学習の具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実験動物についての基礎知識を説明できる。 2. 実験動物と感染症について理解し、予防法や治療法について説明できる。 3. 実験動物の苦痛軽減に配慮した研究方法について説明できる。 4. 実験器具・装置を用いて演習を行うことができる。 			
授業計画表				
1	年月日(曜日)	令和 8年04月23日(木)	時限	1限
	講義室	毛呂山キャンパス第三研究棟		
	担当者	水野由美		
	テーマ	動物実験及び実験動物の役割		
	授業内容	実験動物及び動物実験の役割について理解し説明出来る。		
2	年月日(曜日)	令和 8年05月07日(木)	時限	1限
	講義室	毛呂山キャンパス第三研究棟		
	担当者	水野由美		
	テーマ	動物実験の倫理・法律・指針		
	授業内容	動物福祉を理解し、動物愛護管理法にもとづく動物実験に対する3Rs(Refinement, Replacement, Reduction)を理解、説明出来る。		
3	年月日(曜日)	令和 8年05月14日(木)	時限	1限
	講義室	毛呂山キャンパス第三研究棟		
	担当者	石原由夏		
	テーマ	動物と人との共生		
	授業内容	動物実験と科学研究について理解し、動物と人との共生について自分の意見を説明できる。		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月21日(木)	時限	1限
	講義室	毛呂山キャンパス第三研究棟		
	担当者	山口 哲		
	テーマ	麻酔薬の作用機序		
	授業内容	動物実験になくってはならない麻酔薬について、その作用機序を説明できる。		

5	年月日(曜日)	令和 8年05月28日(木)	時限	1限
	講義室	毛呂山キャンパス第三研究棟		
	担当者	水野由美		
	テーマ	実験動物への苦痛軽減について		
	授業内容	動物実験を行う際に生じる実験動物への苦痛を軽減する方法を理解し説明することができる。		
6	年月日(曜日)	令和 8年06月04日(木)	時限	1限
	講義室	毛呂山キャンパス第三研究棟		
	担当者	石原由夏		
	テーマ	実験動物の感染症と制御		
	授業内容	1. 動物実験器具等の滅菌、消毒法等を説明出来る。 2. 実験動物の種々の疾病の病態生理を理解し、予防や治療法を説明出来る。 3. 人獣共通感染症の病態生理を理解し、予防法を説明出来る。		
7	年月日(曜日)	令和 8年06月11日(木)	時限	1限
	講義室	毛呂山キャンパス第三研究棟		
	担当者	石原由夏		
	テーマ	実験動物の寄生虫病		
	授業内容	実験動物に寄生する寄生虫について説明出来る。		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月18日(木)	時限	1限
	講義室	毛呂山キャンパス第三研究棟		
	担当者	川村勇樹		
	テーマ	モデル動物学		
	授業内容	疾患モデル動物および生物学的モデル動物を説明出来る。		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月25日(木)	時限	1限
	講義室	毛呂山キャンパス第三研究棟		
	担当者	川村勇樹		
	テーマ	比較遺伝学と遺伝子改変動物		
	授業内容	1. 遺伝子改変動物とは何かを理解し、例を用いて説明出来る。 2. 遺伝子改変動物の作出方法を説明出来る。		
10	年月日(曜日)	令和 8年07月02日(木)	時限	1限
	講義室	毛呂山キャンパス第三研究棟		
	担当者	水野洋介		
	テーマ	遺伝子改変方法 (CRISPR-Cas9システム)		
	授業内容	遺伝子改変方法の一つであるCRISPR-Cas9システムについて理解し説明出来る。		
11	年月日(曜日)	令和 8年07月09日(木)	時限	1限
	講義室	毛呂山キャンパス第三研究棟		
	担当者	水野由美		
	テーマ	実験動物の表現型解析		
	授業内容	1. 実験動物を観察するために必要な着眼点を説明出来る。 2. 生殖工学技術の歴史と発展及び研究への応用について説明出来る。 3. 実験動物の表現型解析の種類とポイントを説明出来る。		
12	年月日(曜日)	令和 8年07月16日(木)	時限	1限
	講義室	毛呂山キャンパス第三研究棟		
	担当者	堀切一美		
	テーマ	実験動物飼育管理学①		
	授業内容	1. 実験動物飼育における、飼育環境を理解し説明出来る。 2. 動物種に合わせた飼育設備等を説明出来る。 3. 実験動物種に合わせた飼育環境における温度、湿度、照明等の環境設定を説明出来る。		

13	年月日(曜日)	令和 8年07月23日(木)	時限	1限
	講義室	毛呂山キャンパス第三研究棟		
	担当者	堀切一美		
	テーマ	実験動物飼育管理学②		
	授業内容	1. 実験動物飼育における、飼育環境を理解し説明出来る。 2. 動物種に合わせた飼育設備等を説明出来る。 3. 実験動物種に合わせた飼育環境における温度、湿度、照明等の環境設定を説明出来る。		
14	年月日(曜日)	令和 8年07月30日(木)	時限	1限
	講義室	毛呂山キャンパス第三研究棟		
	担当者	石原由夏・堀切一美・水野由美		
	テーマ	動物実験技術(演習)①		
	授業内容	1. 実験動物種に合わせた保定法、個体識別法を具体的に説明出来る。 2. 動物実験に使う基本的な実験装置等を理解し、具体手的に使用目的を説明出来る。		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月30日(木)	時限	2限
	講義室	毛呂山キャンパス第三研究棟		
	担当者	石原由夏・堀切一美・水野由美		
	テーマ	動物実験技術(演習)②		
	授業内容	1. 実験動物種に合わせた保定法、個体識別法を具体的に説明出来る。 2. 動物実験に使う基本的な実験装置等を理解し、具体手的に使用目的を説明出来る。		
評価方法	履修に必要な時間数の受講並びに演習の参加をもって単位を認定する。 なお、必要に応じてレポートの提出を求めることがある。			
教科書	必要に応じてプリント等を配布する。			
参考書	特になし。			
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照			
履修上の注意、履修要件	講義は毛呂山キャンパス第三研究棟の研究室でおこなう。ただし、受講人数によっては毛呂山キャンパスの別の講義室になる可能性があるので履修希望者は事前に場所を確認すること。			

区分：共通科目			
科目名	実用実験医学特別講義 Introduction to Experimental Medicine		
授業責任者	氏名	ながしま まさぶみ 永島 雅文 M. Nagashima	
	連絡先:メールアドレス オフィスアワー	mnagashi@saitama-med.ac.jp 火曜日 17:00-18:00 基礎医学棟 6階 608	
授業分担者	下記記載のとおり		
配当年次	1年次 前期		
開講時間	火曜日 18時~19時30分		
開講場所	Zoom		
到達目標			
医学研究の原理を理解しつつ、実用的な実験手技を効率よく習得し、自らの研究に応用していく能力を身につける。			
教育内容			
回	月日	講義名	担当者
1	4/21	肉眼解剖学と臨床医学 Clinical anatomy: concept and research	解剖学 永島雅文 M. Nagashima
2	4/28	共同研究施設の利用と研究紹介 Biomedical Research Center: Division of Analytical Science	中央研究施設 水野洋介 Y. Mizuno
3	5/19	細胞分離と細胞培養 Fundamental techniques of cell isolation and cell culture	微生物学 市川朝永 T. Ichikawa
4	5/26	パッチクランプ法 Patch-clamp technique	生理学 平沢統 H. Hirasawa
5	6/2	組換え DNA 実験安全委員会教育訓練：遺伝子組換え生物の取扱い Training lecture by the SMU Institutional Biosafety Committee: Handling of Genetically Modified Organisms	ゲノム基礎医学 米田竜馬 R. Yoneda
6	6/16	PCR と RT-PCR Introduction of PCR and RT-PCR	微生物学 中村彰宏 A. Nakamura
7	6/23	薬剤スクリーニングの手法 Drug screening techniques	解剖学 栗崎知浩 T. Kurisaki
8	6/30	ラジオアイソトープ利用研究の利点と実践 A practical guide to employ radioisotopes in your research	生化学 中野貴成 T. Nakano
9	7/7	遺伝子改変動物を用いた疾患モデル研究 Studies of disease models using genetically modified animals	解剖学 佐藤智美 T. Sato
10	7/14	病原微生物等取扱教育訓練：バイオセーフティとバイオセキュリティ Training lecture by the SMU Institutional Biosafety Committee: Bio-safety and bio-security	微生物学 堀内大 Y. Horiuchi
11	7/21	系統的変異体作製による構造機能相関の解析 Mutational analysis of molecular structure and function	生化学 魚住尚紀 N. Uozumi
12	7/28	薬理学実験法 Pharmacological experiments	薬理学 小谷典弘 K. kotanii
13	9/1	ES 細胞の臨床応用研究 ES cells: tools for the regenerative medicine	中央研究施設 西本正純 M. Nishimoto
14	9/15	核医学における画像解析と統計処理 Data processing and statistical analysis in nuclear medicine images	核医学 松成一朗 I. Matsunari
15	9/29	次世代シーケンサーやマイクロアレイを用いた遺伝子発現解析 Gene expression analysis using next generation sequencer or microarray	中央研究施設 水野洋介 Y. Mizuno

準備学習
評価方法 履修に必要な時間数以上の受講並びに参加をもって単位を認定する。 なお、必要に応じレポートの提出を求めることがある。
成績評価基準 受講状況により、A.B.C.Dをもって表し、A.B及びCを合格、Dを不合格とする。
注意事項・メッセージ オフィスアワーについては臨時の会議や出張などにより不在の可能性がありますので電話やメールにて事前の連絡をとることをお勧めいたします。

【オフィスアワー】

担当者	曜日・時間・場所
永島雅文	火曜日 17:00-18:00 基礎医学棟 6階 608
水野洋介	水曜日 14:00-17:00 基礎医学棟地下2階 中央研究施設形態部門
市川朝永	水曜日 17:00-18:00 基礎医学棟 6階 微生物学
平沢 統	木曜日 12:00-14:00 基礎医学棟 5階 517
米田竜馬	
中村彰宏	水曜日 16:30-17:30 基礎医学棟 6階
中野貴成	水曜日 16:00-17:00 基礎医学棟 4階 生化学教員室
佐藤智美	水曜日 13:00-15:00 基礎医学棟 6階 613
栗崎知浩	月曜日 16:00-17:00 基礎医学棟 6階 617
堀内 大	水曜日 17:00-18:00 基礎医学棟 6階 微生物学
魚住尚紀	木曜日 16:30-18:00 基礎医学棟 4階 生化学教員室
小谷典弘	木曜日 13:00-16:00 基礎医学棟 4階薬理学1研
西本正純	月曜日～金曜日 9:00-16:00 第3研究棟 1階 RI 管理室 (なお第3研究棟は常時施錠されていますので、あらかじめメールで日時を決めていただくようお願いいたします。)

講義名	統計情報解析特論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	木曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	共通科目		
配当年次	1年前期		

担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	◎ 椎橋 実智男	指定なし

担当教員	椎橋 実智男
科目の目標	医学研究のために必要な統計処理の基本概念を理解し、実験データなどを適切に統計処理して、そこから見出された事柄を客観的に示すことができる。

授業計画表				
1	年月日(曜日)	令和 8年04月23日(木)	時限	2限
	講義室	Zoom		
	担当者	椎橋		
	授業内容	1. 客観的な事実を示すために統計解析が必要とされる理由を説明できる。 2. 統計学における確率モデルの必要性を説明できる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月30日(木)	時限	2限
	講義室	Zoom		
	担当者	椎橋		
	授業内容	データの記述 記述統計と推測統計の概要を説明できる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年05月07日(木)	時限	2限
	講義室	Zoom		
	担当者	椎橋		
	授業内容	データの記述 1. 統計解析に用いるデータの種類とその性質を説明できる。 2. 代表値と散布度の種類と性質を説明でき、それらを用いてデータを記述できる。 3. 2変数の相関関係を、散布図・相関係数・回帰直線を用いて説明できる。		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月14日(木)	時限	2限
	講義室	Zoom		
	担当者	椎橋		
	授業内容	確率モデル1 1. 母集団と標本を説明できる。 2. 標本抽出の必要性と留意点を説明できる。 3. 確率分布を確率モデルとして用い、その起こる確率を推測できる。 4. 母集団、標本抽出、標本、確率モデル、母集団の推測、の関係を説明できる。		

5	年月日(曜日)	令和 8年05月21日(木)	時限	2限
	講義室	Zoom		
	担当者	椎橋		
	テーマ	確率モデル2		
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 母平均の信頼区間の概念を説明できる。 母平均の信頼区間を求めることができる。 母比率の信頼区間を求めることができる。 		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月28日(木)	時限	2限
	講義室	Zoom		
	担当者	椎橋		
	テーマ	推測統計の本理念		
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 統計的仮説検定の概念を説明できる。 確率モデルと帰無仮説の関係を説明できる。 帰無仮説が棄却できた場合、帰無仮説が採択されてしまった場合の結論の方法を説明できる。 		
7	年月日(曜日)	令和 8年06月11日(木)	時限	2限
	講義室	Zoom		
	担当者	椎橋		
	テーマ	母集団の推定		
	授業内容	t分布を用いた母平均の検定(1群)を行い、結論を述べることができる。		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月18日(木)	時限	2限
	講義室	Zoom		
	担当者	椎橋		
	テーマ	母集団の検定(平均値)		
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> t分布を用いた対応のない平均値の検定(2群)を実施できる。 F検定を実施できる。 ウェルチの検定を実施できる。 t分布を用いた対応のある平均値の検定(2群)を実施できる。 		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月25日(木)	時限	2限
	講義室	Zoom		
	担当者	椎橋		
	テーマ	母集団の検定(割合)		
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> カイ二乗検定の原理を説明できる。 カイ二乗検定を実施できる。 Fisherの精密検定を実施できる。 		
10	年月日(曜日)	令和 8年07月02日(木)	時限	2限
	講義室	Zoom		
	担当者	椎橋		
	テーマ	分散分析		
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 分散分析の概念を説明できる。 一元配置の分散分析を実施できる。 二元配置の分散分析を実施できる。 交互作用を説明できる。 		
11	年月日(曜日)	令和 8年07月09日(木)	時限	2限
	講義室	Zoom		
	担当者	椎橋		
	テーマ	ノンパラメトリック検定・多重比較		
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> パラメトリックとノンパラメトリックの概念を説明できる。 パラメトリックな検定方法に対応するノンパラメトリックな検定方法を列挙できる。 ノンパラメトリックな検定を実施できる。 多重比較の概念を説明できる。 多重比較の問題を考慮した検定手法を列挙し、その特性を説明できる。 多重比較の問題を考慮した検定を実施できる。 		

12	年月日(曜日)	令和 8年07月16日(木)	時限	1限
	講義室	Zoom		
	担当者	椎橋		
	テーマ	生存時間分析・ハザード比		
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生存時間分析の概念を説明できる。 2. エンドポイント、観察期間、打ち切りの意味を説明できる。 3. 生存曲線を描くことができる。 4. 生存時間の検定が実施できる。 5. ハザードおよびハザード率の概念が説明できる。 6. ハザード比のを用いた比較ができる 		
13	年月日(曜日)	令和 8年09月03日(木)	時限	2限
	講義室	Zoom		
	担当者	椎橋		
	テーマ	検出力分析		
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 検出力の概念を説明できる。 2. サンプルサイズ、有意水準、効果量、検出力の関係を説明できる。 3. 平均値に関する検出力分析ができる。 4. 比率に関する検出力分析ができる。 		
14	年月日(曜日)	令和 8年09月10日(木)	時限	2限
	講義室	Zoom		
	担当者	椎橋		
	テーマ	ROC・多重量解析		
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ROC曲線の概念を説明できる。 2. AUCを説明できる。 3. ROC曲線からカットオフの値を示すことができる。 4. 単変量解析と多変量解析の違いを説明できる 5. 重回帰分析の概要を説明できる。 		
15	年月日(曜日)	令和 8年09月17日(木)	時限	2限
	講義室	Zoom		
	担当者	椎橋		
	テーマ	ロジスティック回帰分析		
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ロジスティック回帰分析の概念を説明できる。 2. 交絡因子の影響の概念を説明できる。 3. ロジスティック回帰分析を実施できる。 4. ロジスティック回帰分析の結果を解釈できる。 		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年04月23日(木)	時限	6限
	講義室	Zoom		
	担当者	椎橋		
	テーマ	統計解析の基本概念		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月30日(木)	時限	6限
	講義室	Zoom		
	担当者	椎橋		
	テーマ	データの記述		
3	年月日(曜日)	令和 8年05月07日(木)	時限	6限
	講義室	Zoom		
	担当者	椎橋		
	テーマ	データの記述		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月14日(木)	時限	6限
	講義室	Zoom		
	担当者	椎橋		
	テーマ	確率モデル1		

5	年月日(曜日)	令和 8年05月21日(木)	時限	6限
	講義室	Zoom		
	担当者	椎橋		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月28日(木)	時限	6限
	講義室	Zoom		
	担当者	椎橋		
7	年月日(曜日)	令和 8年06月11日(木)	時限	6限
	講義室	Zoom		
	担当者	椎橋		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月18日(木)	時限	6限
	講義室	Zoom		
	担当者	椎橋		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月25日(木)	時限	6限
	講義室	Zoom		
	担当者	椎橋		
10	年月日(曜日)	令和 8年07月02日(木)	時限	6限
	講義室	Zoom		
	担当者	椎橋		
11	年月日(曜日)	令和 8年07月09日(木)	時限	6限
	講義室	Zoom		
	担当者	椎橋		
12	年月日(曜日)	令和 8年07月16日(木)	時限	6限
	講義室	Zoom		
	担当者	椎橋		
13	年月日(曜日)	令和 8年09月03日(木)	時限	6限
	講義室	Zoom		
	担当者	椎橋		
14	年月日(曜日)	令和 8年09月10日(木)	時限	6限
	講義室	Zoom		
	担当者	椎橋		
15	年月日(曜日)	令和 8年09月17日(木)	時限	6限
	講義室	Zoom		
	担当者	椎橋		
評価方法	履修に必要な時間数以上の受講・受講テーマに関するレポートなどで総合的に評価する。			

教科書	初回の講義時に指定する。
参考書	「ハーバード大学標準テキスト生物統計学入門」（丸善）
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照
履修上の注意、履修要件	十分な予習をもって講義に臨み、講義ごとに疑問点の解消を図ることが望ましい。 博士課程との合同科目である。

講義名	疫学方法特論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	木曜日	代表時限	1限
校地	日高キャンパス		
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	共通科目		
配当年次	1年後期		

担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	◎ 太田 晶子	指定なし

担当教員	太田 晶子
科目の目標	疫学の基本概念を理解し、基本的方法を使うことができる。これを利用した研究計画をたてることができる。
学習の具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 集団における健康、疾病の頻度を測定、記述する技術を修得する。 2. 疾病の発生に関与する要因を明らかにするための基礎的知識、技術を修得する。 3. 集団を対象とした疾病対策の立案、実施、評価に必要な知識、技術を修得する。 4. 疫学を理解するための専門的術語について説明できる。 5. 疫学を理解するための専門的術語を適切に用いることができる。 6. 研究の計画、実施、結果の解析・解釈、発表などの具体的な過程や手法を理解できる。

授業計画表		
1	年月日(曜日)	令和 8年10月01日(木)
	担当者	太田
	テーマ	What is epidemiology
	授業内容	疫学の目的、方法の特徴、基本的概念について説明できる。
2	年月日(曜日)	令和 8年10月08日(木)
	担当者	太田
	テーマ	Quantifying disease in populations
	授業内容	疾病の定義、疾病の頻度、頻度の尺度、について説明できる。
3	年月日(曜日)	令和 8年10月15日(木)
	担当者	太田
	テーマ	Comparing disease rates
	授業内容	疾病頻度の比較の方法、曝露効果の測定方法が応用できる。
4	年月日(曜日)	令和 8年10月22日(木)
	担当者	太田
	テーマ	Measurement error and bias
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 曝露効果の測定における、誤差、バイアスのメカニズムについて説明できる。 2. バイアス制御の方法が応用できる。
5	年月日(曜日)	令和 8年10月29日(木)
	担当者	太田
	テーマ	Planning and conducting a survey
	授業内容	疫学研究計画策定の手順が説明できる。

6	年月日(曜日)	令和 8年11月05日(木)
	担当者	太田
	テーマ	Ecological studies
	授業内容	Ecological study の具体例をあげ、その有用性を説明できる。
7	年月日(曜日)	令和 8年11月12日(木)
	担当者	太田
	テーマ	Longitudinal studies
	授業内容	Longitudinal study の具体例をあげ、その有用性を説明できる。
8	年月日(曜日)	令和 8年11月19日(木)
	担当者	太田
	テーマ	Case-control and cross sectional studies
	授業内容	Case-control study の方法、原理が説明できる。
9	年月日(曜日)	令和 8年11月26日(木)
	担当者	太田
	テーマ	Experimental studies
	授業内容	Experimental study の方法、原理が説明できる。
10	年月日(曜日)	令和 8年12月03日(木)
	担当者	太田
	テーマ	Screening
	授業内容	スクリーニングの概念、スクリーニング方法の評価の原則が説明できる。
11	年月日(曜日)	令和 8年12月10日(木)
	担当者	太田
	テーマ	Outbreaks of diseases
	授業内容	疾病のOutbreak の観察、評価について説明できる。
12	年月日(曜日)	令和 8年12月17日(木)
	担当者	太田
	テーマ	Reading epidemiological reports
	授業内容	疫学研究報告を批判的に読むことができる。
13	年月日(曜日)	令和 8年12月24日(木)
	担当者	太田
	テーマ	Further reading
	授業内容	疫学研究報告を批判的に読み、改善方法を考えることができる。
14	年月日(曜日)	令和 9年01月07日(木)
	担当者	太田
	テーマ	Further reading
	授業内容	疫学研究報告を批判的に読み、改善方法を考えることができる。
15	年月日(曜日)	令和 9年01月14日(木)
	担当者	太田
	テーマ	Further reading
	授業内容	疫学研究報告を批判的に読み、改善方法を考えることができる。
評価方法	出席確認、講義中の到達度評価	
教科書	中村好一. 基礎から学ぶ楽しい疫学 第5版 医学書院. 2026.	
参考書	Coggon D.:Epidemiology for the Uninitiated. BMJ Books. ISBN-13:978-0727916044	
連絡先/オフィスマワー	教員一覧参照	
履修上の注意、履修要件	学習方法：疫学を基礎から学ぶために書かれた教科書および参考書を用いて講義する。教科書は予め購入することが望ましい。	

区分：共通科目			
科目名	最新医学特別講義 Recent Advances in Biomedical Research		
授業責任者	氏名	たかはし たけお 高橋 健夫 T. Takahashi	
	連絡先：メールアドレス オフィスアワー	taketaka@saitame-med.ac.jp 木曜日 17:00-18:00 総合医療センター 管理棟 5階	
授業分担者	下記記載のとおり		
配当年次	1年次 通年		
開講時間	金曜日 18時～19時30分		
開講場所	Zoom		
到達目標			
<p>進歩の著しい基礎医学、臨床医学の各領域を対象として、最新知識を各領域のエキスパートから講演いただき、大学院生としての素養である、未知なるものを探求する好奇心を育み、その方法論を学ぶとともに関連領域への見識の拡大を図る。また、最新医学の知識の吸収を通じて、国内外の学会への積極的な参加・発表などへの意欲を高め、国際性の醸成、高度専門性の獲得、キャリアパス形成のための意識的基盤を確立する。</p>			
教育内容【前期】			
回	月日	講義名	担当者
1	5/8	ホルモン依存性がんの分子病態と患者由来モデル Molecular mechanisms of hormone-dependent cancers and their patient-derived models	ゲノム応用医学 堀江 公仁子 K. Horie
2	5/15	がん微小環境における抗腫瘍免疫応答 Anti-tumor immune responses in the tumor microenvironment	微生物学 村上 孝 T. Murakami
3	6/5	知的財産と社会実装について（全2回） 知的財産権の確保と活用 Intellectual property and social implementation Securing and Utilizing Intellectual Property Rights	廣田弁理士事務所 所長弁理士 廣田 浩一 K. Hirota
4	6/12	知的財産と社会実装について（全2回） 大学発ベンチャーの起業と運営 Intellectual property and social implementation Entrepreneurship and management of university-originated ventures	埼玉大学 理工学研究科 物質科学部門 根本 直人 N. Nemoto
5	6/26	先天性心疾患：出生前から始まる生涯心臓病学 Congenital heart disease: life-long cardiology	小児科学 増谷 聡 S. Masutani
6	7/3	腫瘍生物学及びがん放射線治療の最前線 Tumor biology and current state and future perspectives of radiotherapy for cancers	放射線医学 高橋 健夫 T. Takahashi
7	7/10	筋肉が骨になる難病 進行性骨化性線維異形成症 (FOP) Fibrodysplasia Ossificans Progressiva (FOP)	ゲノム基礎医学 片桐 岳信 T. Katagiri
8	7/17	腎線維化メカニズムと治療へのアプローチ Mechanisms of renal fibrogenesis and an approach to generation of anti-fibrotic therapy	腎臓内科学 岡田 浩一 H. Okada

【後期】			
回	月日	講義名	担当者
	11/6	オール埼玉医大研究の日 医学研究センターシンポジウム (予)	
9 10	11/7	オール埼玉医大 研究の日	
11	11/13	肺癌薬物療法の目覚ましい進歩 Remarkable progress of Drug therapy in lung cancer	呼吸器内科学 解良 恭一 K. Kaira
12	12/11	ウエルニッケ脳症－忘れられてきたせん妄の原因 Wernicke encephalopathy: underdiagnosed cause of delirium	精神医学 大西 秀樹 H. Onishi
13	1/8	関節リウマチに対する薬物治療と手術治療の進歩 Advances in drug and surgical treatment for rheumatoid arthritis	整形外科 門野 夕峰 Y. kadono
14	1/15	臨床研究における交絡と傾向スコア Confounding and Propensity Scores in Clinical Research	生物統計学 川崎 洋平 Y. kawasaki

準備学習

評価方法 履修に必要な時間数以上の受講並びに参加をもって単位を認定する。

なお、必要に応じレポートの提出を求めることがある。

成績評価基準 A.B.C.D をもって表し、A.B 及び C を合格、D を不合格とする。

注意事項・メッセージ

オフィスアワーについては臨時の会議や出張などにより不在の可能性がありますので電話やメールにて事前の連絡をとることをお勧めいたします。残り 2 コマの講義日が未定です。決まり次第ご連絡いたします。

【オフィスアワー】

担当者	曜日・時間・場所
堀江 公仁子	月曜日 16:30-17:30 ゲノム棟 2階 209
村上 孝	木曜日 16:30-17:30 基礎医学棟 6階 微生物学
廣田 浩一	金曜日 10:00-11:00 本部棟 1階 大学事務部 (大学院)
根本 直人	金曜日 10:00-11:00 本部棟 1階 大学事務部 (大学院)
増谷 聡	木曜日 12:30-13:30 総合医療センター 教員棟 110号室
高橋 健夫	木曜日 17:00-18:00 総合医療センター 管理棟 5階
片桐 岳信	火曜日 11:00-16:00 ゲノム棟 2階 203
岡田 浩一	月曜日 16:00-17:00 埼玉医科大学 8号館 1階 面談スペース
解良 恭一	金曜日 18:00-19:00 国際医療センター 教員研究棟 216 研究室
大西 秀樹	月曜日 17:00-18:00 国際医療センター 教員棟 4階 教授室
門野夕峰	
川崎洋平	火曜日 12:00-13:00 臨床研究支援室 (毛呂山キャンパス)

講義名	老年学概論			
(副題)				
開講責任部署				
講義開講時期	前期	講義区分	講義	
基準単位数	2	時間	30.00	
代表曜日	木曜日	代表時限	7限	
校地				
単位数	2単位/15時間			
必修・選択	共通科目			
配当年次	1年前期			
担当教員				
	職種	氏名	所属	
	理学療法士	◎ 新井 智之	理学療法学科教員	
担当教員	新井 智之・森田 泰裕			
科目の目標	老年学は、加齢 (aging) と高齢者 (aged) の問題を扱う学際的な学問であり、その領域は、①加齢の科学的研究、②高齢社会の問題の発見と解決のための、③人文学的研究、④ ①～③の研究成果を応用するための研究、⑤世帯間の問題を扱う研究と広範囲に及ぶ。本講義では、老年学の基礎から応用までの知見を紹介し、現状の課題について整理し、討論する。その中で、老年学を医療・介護領域で応用するための実践的な能力を身につけることを目標とする。			
学習の具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康や老化の説明できる 2. 加齢に伴う変化について説明できる。 3. 老年症候群について説明できる 4. 高齢化社会の現状と社会福祉、地域包括ケアについて説明できる 5. ケアとリハビリテーション、介護予防の考え方について説明できる 			
授業計画表				
1	年月日(曜日)	令和 8年04月14日(火)	時限	1限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	新井		
	授業内容	テーマ 老年学の定義と概念 <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年学の歴史的背景と意義について紹介する 2. 老年学における研究法について解説する 3. サクセスフル・エイジングの概念を概説し、今後の展望や課題について討論する 		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月21日(火)	時限	1限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	新井		
	授業内容	テーマ 高齢者の健康と寿命 <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の健康の概念が説明できる 2. 高齢者の健康評価、健康尺度について紹介する 3. 限界寿命、寿命の性差、健康寿命、長寿の要因について説明できる 		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月28日(火)	時限	1限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	新井		
	授業内容	テーマ 老化 <ol style="list-style-type: none"> 1. 老化の生物学的学説および社会的学説について概説できる 2. OQL, 生きがいの概念を概説し、現状の課題について討論する 3. 死生学について紹介する 		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月12日(火)	時限	1限
	担当者	新井		

	テーマ	高齢化、長寿化と社会福祉		
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢社会の現状を概説し、今後の課題について討論する 2. 高齢者の医療、介護、福祉、保健の制度やサービスの現状について紹介する 3. 老化の社会的側面について概説し、現状の課題について討論する 		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月19日(火)	時限	1限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	新井		
	テーマ	高齢者の社会関係		
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢期のライフスタイル変化やライフイベントについて説明できる 2. ソーシャルサポート、ソーシャルネットワーク、ソーシャル・キャピタルについて概説し、現状の課題や今後の展望について討論する 3. 高齢者の社会貢献、社会参加について概説し、現状の課題と今後の展望について討論する 		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月26日(火)	時限	1限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	新井		
	テーマ	加齢に伴う変化(1) 運動機能		
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筋骨格系の加齢変化とその評価法について説明できる 2. 神経系の加齢変化とその評価法について説明できる 3. 運動機能の加齢変化とその評価法について説明できる 		
7	年月日(曜日)	令和 8年06月02日(火)	時限	1限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	新井		
	テーマ	加齢に伴う変化(2) 生理機能		
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感覚機能の加齢変化について説明できる 2. 自律機能の加齢変化について説明できる 3. 高次脳機能の加齢変化について説明できる 		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月09日(火)	時限	1限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	新井		
	テーマ	加齢に伴う変化(3) 精神心理面		
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知機能の加齢変化とその評価法について説明できる 2. 知能の加齢変化について説明できる 3. パーソナリティ・感情の加齢変化について説明できる 		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月16日(火)	時限	1限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	新井		
	テーマ	高齢期に問題となりやすい疾病、障害		
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 骨折、骨粗鬆症を概説し、予防法や運動療法の最新の知見を紹介する 2. 変形性関節症や腰部脊柱管狭窄症を概説し、予防法や運動療法の最新の知見を紹介する 3. 高齢者における脳血管疾患を概説し、予防法や運動療法の最新の知見を紹介する 4. 糖尿病、高血圧、脂質異常症を概説し、予防法や運動療法の最新の知見を紹介する 5. その他の高齢期に問題となりやすい疾患を概説し、予防法や運動療法の最新の知見を紹介する。 		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月23日(火)	時限	1限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	森田		
	テーマ	老年症候群(1) : 高齢者の虚弱(フレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニア、痛み)		
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. フレイル・サルコペニアを概説し、その対策に関する最新の知見を紹介する 2. オーラルフレイルの概念を概説し、その対策に関する最新の知見を紹介する 3. ロコモティブシンドロームを概説し、その対策に関する最新の知見を紹介する 4. 高齢者の痛みについて概説し、その対策に関する最新の知見を紹介する 		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月30日(火)	時限	1限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	新井		

	テーマ	老年症候群（２）：認知症、軽度認知障害（MCI）		
	授業内容	1. 認知症、軽度認知障害を概説できる 2. 軽度認知障害の対策に関する最新の知見を紹介する 3. 認知症に対する対策や認知症高齢者に対する対応について最新の知見を紹介する		
12	年月日（曜日）	令和 8年07月07日（火）	時限	1限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	新井		
	テーマ	身体活動と栄養		
	授業内容	1. 高齢者に対する運動、身体活動、栄養の考え方を概説し、実際の方法について討論する 2. 重複障害に対する身体活動と栄養の指導の考え方を概説し、実際の介入方法を討論する		
13	年月日（曜日）	令和 8年07月14日（火）	時限	1限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	森田		
	テーマ	生活機能と介護予防		
	授業内容	1. 生活機能について概説できる。 2. ヘルスプロモーションの考え方を概説でき、現状の課題について討論する 3. 予防の枠組み（一次予防、二次予防、三次予防）と考え方が説明できる 4. 介護予防の考え方と介護予防事業を概説でき、現状の課題と今後の展望を討論する		
14	年月日（曜日）	令和 8年07月21日（火）	時限	1限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	森田		
	テーマ	ケアとリハビリテーション		
	授業内容	1. ケアとソーシャルワークの考え方を概説でき、現状の課題について討論する 2. リハビリテーションの考え方を概説できる 3. 高齢者リハビリテーションの考え方を概説でき、現状の課題について討論する		
15	年月日（曜日）	令和 8年07月28日（火）	時限	1限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	新井		
	テーマ	老年学の課題とまとめ		
	授業内容	1. 老年学の課題を整理し、討論する。 2. 全体を通じての内容を討論し、質疑応答を行う		

(14条特例)

1	年月日（曜日）	令和 8年04月16日（木）	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	老年学の定義と概念		
2	年月日（曜日）	令和 8年04月23日（木）	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	高齢者の健康と寿命		
3	年月日（曜日）	令和 8年04月30日（木）	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	老化		
4	年月日（曜日）	令和 8年05月07日（木）	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	高齢化、長寿化と社会福祉		
5	年月日（曜日）	令和 8年05月14日（木）	時限	7限
	講義室	川越ビル		

	担当者	新井		
	テーマ	高齢者の社会関係		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月21日(木)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	加齢に伴う変化(1)運動機能		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月28日(木)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	加齢に伴う変化(2)生理機能		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月04日(木)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	加齢に伴う変化(3)精神心理面		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月11日(木)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	高齢期に問題となりやすい疾病、障害		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月18日(木)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	森田		
	テーマ	老年症候群(1):高齢者の虚弱(フレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニア)		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月25日(木)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	老年症候群(2):認知症、軽度認知障害(MCI)		
12	年月日(曜日)	令和 8年07月02日(木)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	身体活動と栄養		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月09日(木)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	森田		
	テーマ	生活機能と介護予防		
14	年月日(曜日)	令和 8年07月16日(木)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	森田		
	テーマ	ケアとリハビリテーション		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月23日(木)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	老年学の課題とまとめ		
評価方法	授業における質疑応答、個別課題の発表とグループワーク、レポート課題により評価する。 また個別の課題発表やレポート提出に対しコメントを返します			
教科書	資料を配布する。			
参考書	老年学要論、柴田博・他、建帛社			
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照			
履修上の注意、履修要件	授業テーマについて積極的な発言を求める。			

講義名	ゲノム医学特論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	月曜日	代表時限	6限
校地	日高キャンパス		
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/生体機能科学分野		
配当年次	1年前期		

担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	◎ 奥田 晶彦	指定なし

担当教員	奥田 晶彦・浦西 洸介
科目の目標	ヒトを含むあらゆる生物が、ゲノムにコードされている暗号の基に造られており、かつ、その暗号の変異が疾患につながることを理解し、また、その変異の同定が、疾患の治療法の開発につながることを理解させる。

授業計画表				
1	年月日(曜日)	令和 8年04月20日(月)	時限	3限
	講義室	C201大学院講義室		
	担当者	奥田		
	テーマ	DNAと遺伝子の構造		
	授業内容	DNA、RNA、ポリペプチドの構成単位、遺伝子の構造、転写、RNAのプロセッシング、翻訳、翻訳後のプロセッシングに関して理解する。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月27日(月)	時限	3限
	講義室	C201大学院講義室		
	担当者	奥田		
	テーマ	染色体の構造と機能		
	授業内容	染色体の構造、細胞周期、細胞分裂、染色体バンド法、染色体異常について理解する。		
3	年月日(曜日)	令和 8年05月11日(月)	時限	3限
	講義室	C201大学院講義室		
	担当者	奥田		
	テーマ	ゲノムプロジェクト		
	授業内容	ゲノムプロジェクトの背景と組織、及びそれがもたらした成果について理解する。		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月18日(月)	時限	3限
	講義室	C201大学院講義室		

担当者	奥田			
テーマ	ヒトゲノムの構成			
授業内容	ヒトゲノムの中の、タンパク質をコードする遺伝子、RNAを最終産物とするRNA遺伝子、反復配列等の分布について理解する。			
5	年月日(曜日)	令和 8年05月25日(月)	時限	3限
	講義室	C201大学院講義室		
	担当者	浦西		
	テーマ	遺伝子の発現とその調節		
	授業内容	転写因子、及びエピジェネティックな機構による遺伝子発現調節について理解する。		
6	年月日(曜日)	令和 8年06月01日(月)	時限	3限
	講義室	C201大学院講義室		
	担当者	浦西		
	テーマ	ゲノムの不安定性		
	授業内容	変異、多型、及びDNA修復を概説するとともに、疾患を引き起こす変異について理解する。		
7	年月日(曜日)	令和 8年06月08日(月)	時限	3限
	講義室	C201大学院講義室		
	担当者	浦西		
	テーマ	進化系統樹		
	授業内容	各種生物のゲノムの比較から、ヒトの遺伝子がどのような経過を辿って進化してきたかを理解する。		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月15日(月)	時限	3限
	講義室	C201大学院講義室		
	担当者	奥田		
	テーマ	遺伝的マッピング		
	授業内容	組換え率と遺伝的距離の関係等、遺伝的マッピングの基礎を理解する。		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月22日(月)	時限	3限
	講義室	C201大学院講義室		
	担当者	奥田		
	テーマ	ヒト疾患遺伝子の同定		
	授業内容	ポジショナルクローニング等、ヒト疾患遺伝子の同定法に関して理解する。		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月29日(月)	時限	3限
	講義室	C201大学院講義室		
	担当者	奥田		
	テーマ	複雑な疾患の遺伝的解析		
	授業内容	多因子疾患であるヒルシュブルグ病等の複雑な疾患を規定する遺伝子の同定法について理解する。		
11	年月日(曜日)	令和 8年07月06日(月)	時限	3限
	講義室	C201大学院講義室		
	担当者	奥田		
	テーマ	分子病理学		
	授業内容	遺伝子の中の変異が、最終遺伝子産物の機能、あるいは量に影響を与え、そのことが、細胞・組織に対してどのような悪影響を与えるかを理解する。		
12	年月日(曜日)	令和 8年07月13日(月)	時限	3限
	講義室	C201大学院講義室		
	担当者	浦西		
	テーマ	癌の遺伝学		
	授業内容	癌組織は、癌原遺伝子の活性化、癌抑制遺伝子の不活化、あるいはその両方が合わさって形成されるが、網膜芽細胞腫等を理解する。		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月27日(月)	時限	3限

講義室	C201大学院講義室			
担当者	浦西			
テーマ	DNA検査・診断			
授業内容	本人の同定、及び別人との血縁関係の検査等を目的としたDNA診断について理解する。			
14	年月日(曜日)	令和 8年09月07日(月)	時限	3限
	講義室	C201大学院講義室		
	担当者	浦西		
	テーマ	機能ゲノム学		
	授業内容	個々の遺伝子、あるいは遺伝子産物を対象とした研究とは対照的に、個々の生物が持つ全ての遺伝子を網羅的に解析する機能ゲノム学について理解する。		
15	年月日(曜日)	令和 8年09月14日(月)	時限	3限
	講義室	C201大学院講義室		
	担当者	浦西		
	テーマ	遺伝子操作、及び遺伝子治療		
	授業内容	トランスジェニック、ノックアウトマウス作成による特定の遺伝子の機能解析、及び治療を目的とした遺伝子治療に関して理解する。		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年04月20日(月)	時限	6限
	講義室	C201大学院講義室		
	担当者	奥田		
	テーマ	DNAと遺伝子の構造		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月27日(月)	時限	6限
	講義室	C201大学院講義室		
	担当者	奥田		
	テーマ	染色体の構造と機能		
3	年月日(曜日)	令和 8年05月11日(月)	時限	6限
	講義室	C201大学院講義室		
	担当者	奥田		
	テーマ	ゲノムプロジェクト		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月18日(月)	時限	6限
	講義室	C201大学院講義室		
	担当者	奥田		
	テーマ	ヒトゲノムの構成		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月25日(月)	時限	6限
	講義室	C201大学院講義室		
	担当者	浦西		
	テーマ	遺伝子の発現とその調節		
6	年月日(曜日)	令和 8年06月01日(月)	時限	6限
	講義室	C201大学院講義室		
	担当者	浦西		
	テーマ	ゲノムの不安定性		
7	年月日(曜日)	令和 8年06月08日(月)	時限	6限
	講義室	C201大学院講義室		
	担当者	浦西		
	テーマ	進化系統樹		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月15日(月)	時限	6限

講義室	C201大学院講義室			
担当者	奥田			
テーマ	遺伝的マッピング			
9	年月日(曜日)	令和 8年06月22日(月)	時限	6限
	講義室	C201大学院講義室		
	担当者	奥田		
	テーマ	ヒト疾患遺伝子の同定		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月29日(月)	時限	6限
	講義室	C201大学院講義室		
	担当者	奥田		
	テーマ	複雑な疾患の遺伝的解析		
11	年月日(曜日)	令和 8年07月06日(月)	時限	6限
	講義室	C201大学院講義室		
	担当者	奥田		
	テーマ	分子病理学		
12	年月日(曜日)	令和 8年07月13日(月)	時限	6限
	講義室	C201大学院講義室		
	担当者	浦西		
	テーマ	癌の遺伝学		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月27日(月)	時限	6限
	講義室	C201大学院講義室		
	担当者	浦西		
	テーマ	DNA検査・診断		
14	年月日(曜日)	令和 8年09月07日(月)	時限	6限
	講義室	C201大学院講義室		
	担当者	浦西		
	テーマ	機能ゲノム学		
15	年月日(曜日)	令和 8年09月14日(月)	時限	6限
	講義室	C201大学院講義室		
	担当者	浦西		
	テーマ	遺伝子操作、及び遺伝子治療		
評価方法	履修に必要な時間数以上の受講をもって単位を認定する。評価は15回の講義の終了後、速やかに行う。再試験は原則行わない。			
教科書	特になし			
参考書	特になし			
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照			
履修上の注意、履修要件	講義の中で、理解できなかった部分があった場合は、その講義の中、あるいはその直後に教員に質問し、疑問点を残さないように努めること。			

講義名	生体・病態医科学特論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	金曜日	代表時限	7限
校地	日高キャンパス		
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/生体機能科学分野		
配当年次	1年後期		

担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	◎ 前田 卓哉	指定なし

担当教員	前田 卓哉・藤原 智徳・永島 雅文
科目の目標	ヒトの生命活動について特に神経系と感染防御に焦点を当て、解剖学、生理学、細胞生物学、免疫学の視点から概要を学び、病態を理解する基礎知識を養う。
学習の具体的な目標	神経系の構成、神経回路による情報処理、免疫系の機能と人為的操作法について学ぶ。

授業計画表		
1	担当者	永島
	テーマ	神経系の構成1：基本構造と発生
	授業内容	生体情報の入力・処理・出力の観点から神経系の基本構造を総覧し中枢神経系の発生過程を解説する。
2	担当者	永島
	テーマ	神経系の構成2：ニューロンとグリア
	授業内容	中枢神経系を構成するニューロンとグリアの基本構造と機能を解説する。
3	担当者	永島
	テーマ	中枢神経系の構成1：脊髄と脳幹
	授業内容	脊髄と脳幹における灰白質と白質の構造から、感覚入力と運動出力の機能局在について解説する。
4	担当者	永島
	テーマ	中枢神経系の構成2：大脳皮質
	授業内容	大脳皮質における細胞構築と機能局在から、高次の情報処理と疾患による脱落症状について解説する。
5	担当者	永島
	テーマ	中枢神経系の構成3：下行性伝導路と小脳
	授業内容	錐体路による運動制御および小脳における情報処理について解説する。
6	担当者	藤原
	テーマ	ニューロンによる情報伝達の機構1：静止膜電位と活動電位

授業内容	静止電位と活動電位の発生メカニズムに関わるイオンチャネルの種類と機能について解説する。	
7	担当者	藤原
	テーマ 授業内容	ニューロンによる情報伝達の機構2：シナプス シナプスの構造と機能およびシナプス前細胞における神経伝達物質の放出の機序について解説する。
8	担当者	藤原
	テーマ 授業内容	ニューロンによる情報伝達の機構3：シナプス伝達 シナプス伝達について、神経伝達物質の受容体を介した情報伝達の機序について解説する。
9	担当者	藤原
	テーマ 授業内容	神経回路による情報処理1：神経可塑性 神経可塑性の機序について解説する。
10	担当者	藤原
	テーマ 授業内容	神経回路による情報処理2：高次脳機能 神経の可塑的变化と高次脳機能の関連について解説する。
11	担当者	前田
	テーマ 授業内容	ゲノム解析と種の同定 ゲノム解析による種同定の基本原則とデータベースの活用方法について解説する。
12	担当者	前田
	テーマ 授業内容	国際感染症と危機管理 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえ、さらなる感染症パンデミックに備えるための医療機関における危機管理について解説する。
13	担当者	前田
	テーマ 授業内容	感染症診断の基礎と実際 質量分析法や遺伝子検査を用いた感染症診断が主流となる現状と、それらの基礎技術について解説する。
14	担当者	前田
	テーマ 授業内容	感染症に対する免疫療法戦略 さまざまなワクチン療法のほか、抗体療法による感染症治療の最前線について解説する。
15	担当者	前田
	テーマ 授業内容	医療機関における感染管理 前田 卓哉 医療機関における院内感染対策のほか、地域包括ケアにおける感染管理の重要性について解説する。
評価方法	履修に必要な時間数以上の受講をもって単位を認定する。	
教科書	特になし	
参考書	特になし	
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照	
履修上の注意、履修要件	特になし	

講義名	生体機能科学特論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	木曜日	代表時限	6限
校地	日高キャンパス		
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/生体機能科学分野		
配当年次	1年前期		

担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	◎ 藤原 智徳	臨床検査学科教員

担当教員	藤原 智徳・金子 優子・山本 梓司
科目の目標	生体の機能を維持するための機構である神経系と内分泌系に関する生理活性物質、受容体、細胞内情報伝達系、イオンチャネルおよびトランスポーターの役割と自律神経系、呼吸および循環の調節機構を理解する能力を養う。

授業計画表				
1	年月日(曜日)	令和 8年04月17日(金)	時限	2限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	藤原		
	テーマ	細胞膜における物質の移動		
	授業内容	細胞膜の特徴と細胞膜を介する物質の移動について考える。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月24日(金)	時限	2限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	金子		
	テーマ	静止膜電位と膜興奮の機序		
	授業内容	静止膜電位と活動電位の発生について考える。		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月24日(金)	時限	3限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	金子		
	テーマ	ニューロンと活動電位		
	授業内容	ニューロンにおける活動電位について考える。		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月08日(金)	時限	2限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	金子		

テーマ	イオンチャネルの構造と機能の多様性			
授業内容	電位依存性イオンチャネルを中心に、イオンチャネルの構造と機能の多様性について考える。			
5	年月日(曜日)	令和 8年05月15日(金)	時限	2限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	金子		
	テーマ	筋肉の興奮と収縮		
	授業内容	筋肉の興奮と収縮について考える。		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月15日(金)	時限	3限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	金子		
	テーマ	イオンチャネルの研究方法		
	授業内容	イオンチャネルの様々な研究方法について考える。		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月22日(金)	時限	2限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	金子		
	テーマ	網膜神経回路網における情報処理		
	授業内容	網膜神経回路網を例として神経組織における情報処理について考える。		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月29日(金)	時限	2限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	藤原		
	テーマ	細胞内情報伝達系の特徴		
	授業内容	情報伝達に關与する細胞内因子とその特徴について考える。		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月05日(金)	時限	2限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	藤原		
	テーマ	細胞内情報伝達系の特徴		
	授業内容	神経細胞間のシナプス情報伝達について考える。		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月12日(金)	時限	2限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	藤原		
	テーマ	受容体の種類と役割		
	授業内容	細胞膜並びに細胞内の受容体の種類と役割について考える。		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月19日(金)	時限	2限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	藤原		
	テーマ	トランスポーターの種類と機能		
	授業内容	トランスポーターの種類と機能について考える。		
12	年月日(曜日)	令和 8年06月26日(金)	時限	2限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	藤原		
	テーマ	生理活性物質の作用		
	授業内容	アミノ酸系、アミン系およびペプチド系生理活性物質の作用について考える。		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月03日(金)	時限	2限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	藤原		
	テーマ	内分泌機能による生体の調節機構		

授業内容	内分泌系による生体の調節機構について考える。			
14	年月日(曜日)	令和 8年07月10日(金)	時限	2限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山本		
	テーマ	自律神経系による生体の調節機構		
	授業内容	自律神経系による生体の調節機構について考える。		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月17日(金)	時限	2限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山本		
	テーマ	呼吸および循環調節機構		
	授業内容	呼吸および循環の調節機構について考える。		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年04月16日(木)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	藤原		
	テーマ	細胞膜における物質の移動		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月23日(木)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	金子		
	テーマ	静止膜電位と膜興奮の機序		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月23日(木)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	金子		
	テーマ	ニューロンと活動電位		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月07日(木)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	金子		
	テーマ	イオンチャネルの構造と機能の多様性		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月14日(木)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	金子		
	テーマ	筋肉の興奮と収縮		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月14日(木)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	金子		
	テーマ	イオンチャネルの研究方法		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月21日(木)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	金子		
	テーマ	網膜神経回路網における情報処理		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月28日(木)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	藤原		
	テーマ	細胞内情報伝達系の特徴		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月04日(木)	時限	6限

講義室	大学院講義室			
担当者	藤原			
テーマ	細胞内情報伝達系の特徴			
10	年月日(曜日)	令和 8年06月11日(木)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	藤原		
	テーマ	受容体の種類と役割		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月18日(木)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	藤原		
	テーマ	トランスポーターの種類と機能		
12	年月日(曜日)	令和 8年06月25日(木)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	藤原		
	テーマ	生理活性物質の作用		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月02日(木)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	藤原		
	テーマ	内分泌機能による生体の調節機構		
14	年月日(曜日)	令和 8年07月09日(木)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山本		
	テーマ	自律神経系による生体の調節機構		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月16日(木)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	藤原		
	テーマ	呼吸および循環調節機構		
評価方法	授業への参加状況、課題レポートにより評価する。			
教科書	特になし			
参考書	特になし			
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照			
履修上の注意、履修要件	特になし			

講義名	栄養学特論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	木曜日	代表時限	1限
校地	日高キャンパス		
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/生体機能科学分野		
配当年次	1年後期		

担当教員		
職種	氏名	所属
管理栄養士	◎ 伴場 裕巳	臨床検査学科教員

担当教員	伴場 裕巳
科目の目標	栄養素やその他の食品成分が生体に及ぼす機能と病態発症機構を理解し、個々の遺伝素因に応じて、食事による予防医学に役立てる能力を養う。
学習の具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) テーラーメイド栄養学について説明できる。 2) 各栄養素による遺伝子発現調節について説明できる。 3) 食物繊維による生体機能調節について説明できる。 4) 非栄養成分（植物に由来する生体活性物質）による生体機能調節について説明できる。 5) 生活習慣病の発症に関わる遺伝子について栄養学な観点から説明できる。 6) 生活習慣病の発症予防に関わる食品成分について説明できる。 7) がんの発症に関わる遺伝子について栄養学な観点から説明できる。 8) がんの発症予防に関わる食品成分について説明できる。

授業計画表				
1	年月日(曜日)	令和 8年10月01日(木)	時限	1限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	伴場		
	テーマ	テーラーメイド医療と栄養学		
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒトの遺伝子の多様性について説明できる。 2. テーラーメイド医療について説明できる。 3. エピゲノムと栄養について概略を説明できる。 4. テーラーメイド栄養学の必要性について説明できる。 (予習時間60分、復習時間60分)		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月08日(木)	時限	1限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	伴場		
	テーマ	糖質による遺伝子発現		
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 血糖の調節機構について説明できる。 2. 肝臓におけるグルコースによる遺伝子発現の調節について説明できる。 (予習時間60分、復習時間60分)		

3	年月日(曜日)	令和 8年10月15日(木)	時限	1限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	伴場		
	テーマ	脂質による遺伝子発現(1)		
	授業内容	1. 脂質摂取により発現が調節される遺伝子について説明できる。 2. 脂肪酸による遺伝子発現の調節について説明できる。 (予習時間60分、復習時間60分)		
4	年月日(曜日)	令和 8年10月22日(木)	時限	1限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	伴場		
	テーマ	脂質による遺伝子発現(2)		
	授業内容	コレステロールによる遺伝子発現の調節について説明できる。 (予習時間60分、復習時間60分)		
5	年月日(曜日)	令和 8年10月29日(木)	時限	1限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	伴場		
	テーマ	タンパク質(アミノ酸)と遺伝子発現		
	授業内容	各種アミノ酸による遺伝子発現の調節について説明できる。 (予習時間60分、復習時間60分)		
6	年月日(曜日)	令和 8年11月05日(木)	時限	1限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	伴場		
	テーマ	ビタミンと生体機能調節(1)		
	授業内容	脂溶性ビタミンの遺伝子発現の調節について説明できる。 (予習時間60分、復習時間60分)		
7	年月日(曜日)	令和 8年11月12日(木)	時限	1限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	伴場		
	テーマ	ビタミンと生体機能調節(2)		
	授業内容	水溶性ビタミンの生体機能調節について説明できる。 (予習時間60分、復習時間60分)		
8	年月日(曜日)	令和 8年11月19日(木)	時限	1限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	伴場		
	テーマ	ミネラルと生体機能調節(1)		
	授業内容	多量元素の生体機能調節について説明できる。 (予習時間60分、復習時間60分)		
9	年月日(曜日)	令和 8年11月26日(木)	時限	1限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	伴場		
	テーマ	ミネラルと生体機能調節(2)		
	授業内容	微量元素の生体機能調節について説明できる。 (予習時間60分、復習時間60分)		
10	年月日(曜日)	令和 8年12月03日(木)	時限	1限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	伴場		
	テーマ	食物繊維と生体機能調節		
	授業内容	1. 食物繊維について説明できる。 2. プロバイオティクスについて説明できる。 (予習時間60分、復習時間60分)		

11	年月日(曜日)	令和 8年12月10日(木)	時限	1限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	伴場		
	テーマ	非栄養成分と生体機能調節		
	授業内容	1. ポリフェノール類について説明できる。 2. ポリフェノール類の生体機能調節について説明できる。 (予習時間60分、復習時間60分)		
12	年月日(曜日)	令和 8年12月17日(木)	時限	1限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	伴場		
	テーマ	糖尿病および肥満と食品成分		
	授業内容	1. 糖尿病および肥満の発症に関わる遺伝子について栄養学な観点から説明できる。 2. 糖尿病および肥満の発症予防に関わる食品成分について説明できる。 (予習時間60分、復習時間60分)		
13	年月日(曜日)	令和 8年12月24日(木)	時限	1限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	伴場		
	テーマ	脂質異常症と食品成分		
	授業内容	1. 脂質異常症の発症に関わる遺伝子について栄養学な観点から説明できる。 2. 脂質異常症の発症予防に関わる食品成分について説明できる。 (予習時間60分、復習時間60分)		
14	年月日(曜日)	令和 9年01月07日(木)	時限	1限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	伴場		
	テーマ	がんと食品成分		
	授業内容	1. がんの発症に関わる遺伝子について栄養学な観点から説明できる。 2. がんの発症予防に関わる食品成分について説明できる。 (予習時間60分、復習時間60分)		
15	年月日(曜日)	令和 9年01月14日(木)	時限	1限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	伴場		
	テーマ	まとめ		
	授業内容	講義内容を総括し、質疑応答等により理解度に関する自己評価ができる。		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年09月28日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	伴場		
	テーマ	テーラーメイド医療と栄養学		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月05日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	伴場		
	テーマ	糖質による遺伝子発現		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月19日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	伴場		
	テーマ	脂質による遺伝子発現(1)		
4	年月日(曜日)	令和 8年10月26日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	伴場		

テーマ	脂質による遺伝子発現（２）			
5	年月日(曜日)	令和 8年11月02日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	伴場		
	テーマ	タンパク質（アミノ酸）と遺伝子発現		
6	年月日(曜日)	令和 8年11月09日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	伴場		
	テーマ	ビタミンと生体機能調節（１）		
7	年月日(曜日)	令和 8年11月16日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	伴場		
	テーマ	ビタミンと生体機能調節（２）		
8	年月日(曜日)	令和 8年11月30日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	伴場		
	テーマ	ミネラルと生体機能調節（１）		
9	年月日(曜日)	令和 8年12月07日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	伴場		
	テーマ	ミネラルと生体機能調節（２）		
10	年月日(曜日)	令和 8年12月14日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	伴場		
	テーマ	食物繊維および生体機能調節		
11	年月日(曜日)	令和 8年12月21日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	伴場		
	テーマ	非栄養成分と生体機能調節		
12	年月日(曜日)	令和 9年01月18日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	伴場		
	テーマ	糖尿病および肥満と分子栄養学		
13	年月日(曜日)	令和 9年01月25日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	伴場		
	テーマ	脂質異常症と分子栄養学		
14	年月日(曜日)	令和 9年02月01日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	伴場		
	テーマ	がんと分子栄養学		
15	年月日(曜日)	令和 9年02月08日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	伴場		
	テーマ	まとめ		

評価方法	受講に必要な時間数以上の受講をもって単位取得の必要条件として、レポート、口頭試問等で総合的に評価を行う。
教科書	授業毎に、内容に沿った資料を配布する。
参考書	1. 栄養科学シリーズNEXT 分子栄養学、宮本賢一 他編 講談社サイエンティフィック 2. 栄養科学イラストレイテッド 分子栄養学 改訂第2版、加藤久典、藤原葉子編 羊土社 3. 栄養と遺伝子のはなし：分子栄養学入門、佐久間慶子、福島亜紀子著 技報堂出版
連絡先/オフィスアワー	授業および課題などに関する質問・フィードバックなどはオフィスアワーを利用すること。 金曜日 13:30~18:00 日高キャンパス 保健医療学部棟 5階 C525 上記の時間帯に訪問することが難しい場合は、事前にアポイントメントをとること。 E-mail:bam@saitama-med.ac.jp
履修上の注意、履修要件	受講前には、学部 生化学の「エネルギー代謝」、「細胞間の情報伝達と代謝の調節」、「遺伝情報とその発現」の項を復習すること。 授業時に提示する論文の講読を行うこと。 受講後には、キーワードについてまとめ、参考書の該当箇所を勉強すること。 1回の授業の予習時間として60分以上、復習時間として60分以上行うことが望ましい。 提出レポート等に対して、コメントのフィードバックを行う。

講義名	環境衛生科学特論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	水曜日	代表時限	7限
校地	日高キャンパス		
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/生体機能科学分野		
配当年次	1年前期		

担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	◎ 与五沢 真吾	臨床検査学科教員

担当教員	与五沢真吾・宮崎 孝
科目の目標	環境医学および産業医学を理解し、予防医学活動を実践することが出来る。

授業計画表				
1	年月日(曜日)	令和 8年04月15日(水)	時限	5限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	与五沢		
	テーマ	予防医学と予防医学活動の実際		
	授業内容	1. 予防医学の概念を説明できる。 2. 医療施設外での予防医学活動の実際を説明できる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月22日(水)	時限	5限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	与五沢		
	テーマ	環境と生体の関わり		
	授業内容	環境とヒトの相互作用を説明できる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年05月13日(水)	時限	5限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	与五沢		
	テーマ	環境・産業医学総論①		
	授業内容	1. 環境医学の歴史と範囲を説明できる。 2. 環境医学分野の重要な用語を説明できる。		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月20日(水)	時限	5限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	与五沢		

テーマ	環境・産業医学総論②			
授業内容	1. 産業医学の歴史を説明できる。 2. 職業病を説明できる。 3. 作業関連疾患を説明できる。			
5	年月日(曜日)	令和 8年05月27日(水)	時限	5限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	与五沢		
	テーマ	異常環境医学①		
	授業内容	1. 低気圧環境の生体影響を説明できる。 2. 高山病の病態、治療法、予防法を説明できる。		
6	年月日(曜日)	令和 8年06月03日(水)	時限	5限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	与五沢		
	テーマ	異常環境医学②		
	授業内容	1. 高気圧環境の生体影響を説明できる。 2. 高気圧環境下での作業の種類を説明できる。		
7	年月日(曜日)	令和 8年06月10日(水)	時限	5限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	与五沢		
	テーマ	高気圧環境医学各論		
	授業内容	1. 減圧症の病態を説明できる。 2. 減圧症の治療法を説明できる。		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月17日(水)	時限	5限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	与五沢		
	テーマ	分子環境医学の基礎①		
	授業内容	分子環境医学について説明できる。		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月24日(水)	時限	5限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	宮崎		
	テーマ	分子環境医学の基礎②		
	授業内容	分子環境医学分野で行われている研究の概要を説明できる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年07月01日(水)	時限	5限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	宮崎		
	テーマ	分子環境医学の基礎③		
	授業内容	分子環境医学分野で行われている研究の概要を説明できる。		
11	年月日(曜日)	令和 8年07月08日(水)	時限	5限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	宮崎		
	テーマ	分子環境医学の基礎④		
	授業内容	微量元素と生体の関係を説明できる。		
12	年月日(曜日)	令和 8年07月15日(水)	時限	5限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	宮崎		
	テーマ	分子環境医学の基礎⑤		
	授業内容	微量元素と生体の関係を説明できる。		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月22日(水)	時限	5限

講義室	大学院講義室			
担当者	宮崎			
テーマ	化学物質による中毒①			
授業内容	一般環境および作業環境中の化学物質の生体への影響を説明できる。			
14	年月日(曜日)	令和 8年07月29日(水)	時限	5限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	宮崎		
	テーマ	化学物質による中毒②		
	授業内容	一般環境および作業環境中の化学物質の生体への影響を説明できる。		
15	年月日(曜日)	令和 8年08月05日(水)	時限	5限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	宮崎		
	テーマ	環境・産業医学の問題点		
	授業内容	作業環境における快適環境とその形成について説明できる。		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年04月15日(水)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	与五沢		
	テーマ	予防医学と予防医学活動の実際		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月22日(水)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	与五沢		
	テーマ	環境と生体の関わり		
3	年月日(曜日)	令和 8年05月13日(水)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	与五沢		
	テーマ	環境・産業医学総論①		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月20日(水)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	与五沢		
	テーマ	環境・産業医学総論②		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月27日(水)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	与五沢		
	テーマ	異常環境医学①		
6	年月日(曜日)	令和 8年06月03日(水)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	与五沢		
	テーマ	異常環境医学②		
7	年月日(曜日)	令和 8年06月10日(水)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	与五沢		
	テーマ	高気圧環境医学各論		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月17日(水)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		

担当者	与五沢			
テーマ	分子環境医学の基礎①			
9	年月日(曜日)	令和 8年06月24日(水)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	宮崎		
	テーマ	分子環境医学の基礎②		
10	年月日(曜日)	令和 8年07月01日(水)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	宮崎		
	テーマ	分子環境医学の基礎③		
11	年月日(曜日)	令和 8年07月08日(水)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	宮崎		
	テーマ	分子環境医学の基礎④		
12	年月日(曜日)	令和 8年07月15日(水)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	宮崎		
	テーマ	分子環境医学の基礎⑤		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月22日(水)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	宮崎		
	テーマ	化学物質による中毒①		
14	年月日(曜日)	令和 8年07月29日(水)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	宮崎		
	テーマ	化学物質による中毒②		
15	年月日(曜日)	令和 8年08月05日(水)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	宮崎		
	テーマ	環境・産業医学の問題点		
評価方法	課題レポート、自由研究レポートおよびその発表によって評価する。			
教科書	特になし			
参考書	特になし			
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照			
履修上の注意、履修要件	特になし			

講義名	環境微生物学特論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	金曜日	代表時限	6限
校地	日高キャンパス		
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/生体機能科学分野		
配当年次	1年前期		

担当教員		
職種	氏名	所属
医師	◎ 酒井 純	臨床検査学科教員

担当教員	酒井 純
科目の目標	微生物と宿主の関係を理解し、病原性発現のメカニズムを説明できる。
学習の具体的な目標	微生物の基礎知識を理解し、細菌検査に応用することができる。

授業計画表		
1	講義室	C201ゼミ室
	担当者	酒井
	テーマ	感染症と宿主反応①
	授業内容	病原微生物と感染症の概念を説明できる。
2	講義室	C201ゼミ室
	担当者	酒井
	テーマ	感染症と宿主反応②
	授業内容	感染症と宿主反応を説明できる。
3	講義室	C201ゼミ室
	担当者	酒井
	テーマ	感染症と宿主反応③
	授業内容	感染症と宿主の免疫応答について説明できる。
4	講義室	C201ゼミ室
	担当者	酒井
	テーマ	感染症と宿主反応④
	授業内容	感染症に対するワクチン開発について説明できる。
5	講義室	C201ゼミ室
	担当者	酒井

テーマ	新興・再興感染症	
授業内容	新興・再興感染症について説明できる。	
6	講義室	C201ゼミ室
	担当者	酒井
	テーマ	人畜共通感染症
	授業内容	人畜共通感染症について説明できる。
7	講義室	C201ゼミ室
	担当者	酒井
	テーマ	日和見感染症
	授業内容	日和見感染症について説明できる。
8	講義室	C201ゼミ室
	担当者	酒井
	テーマ	細菌感染症①
	授業内容	細菌感染症の病原性について説明できる。(各論1)
9	講義室	C201ゼミ室
	担当者	酒井
	テーマ	細菌感染症②
	授業内容	細菌感染症の病原性について説明できる。(各論2)
10	講義室	C201ゼミ室
	担当者	酒井
	テーマ	細菌感染症③
	授業内容	細菌感染症の病原性について説明できる。(各論3)
11	講義室	C201ゼミ室
	担当者	酒井
	テーマ	ウイルス感染症①
	授業内容	ウイルス感染症の病原性について説明できる。(各論1)
12	講義室	C201ゼミ室
	担当者	酒井
	テーマ	ウイルス感染症②
	授業内容	ウイルス感染症の病原性について説明できる。(各論2)
13	講義室	C201ゼミ室
	担当者	酒井
	テーマ	ウイルス感染症③
	授業内容	ウイルス感染症の病原性について説明できる。(各論3)
14	講義室	C201ゼミ室
	担当者	酒井
	テーマ	真菌感染症と原虫感染症
	授業内容	1. 真菌感染症の病原性について説明できる。 2. 原虫感染症の病原性について説明できる。
15	講義室	C201ゼミ室
	担当者	酒井
	テーマ	重複感染症
	授業内容	異なる感染症が重複感染した場合の病原性について説明できる。
(14条特例)		
1	講義室	C201ゼミ室
	担当者	酒井

テーマ	感染症と宿主反応①	
2	講義室	C201ゼミ室
	担当者	酒井
	テーマ	感染症と宿主反応②
3	講義室	C201ゼミ室
	担当者	酒井
	テーマ	感染症と宿主反応③
4	講義室	C201ゼミ室
	担当者	酒井
	テーマ	感染症と宿主反応④
5	講義室	C201ゼミ室
	担当者	酒井
	テーマ	新興・再興感染症
6	講義室	C201ゼミ室
	担当者	酒井
	テーマ	人畜共通感染症
7	講義室	C201ゼミ室
	担当者	酒井
	テーマ	日和見感染症
8	講義室	C201ゼミ室
	担当者	酒井
	テーマ	細菌感染症①
9	講義室	C201ゼミ室
	担当者	酒井
	テーマ	細菌感染症②
10	講義室	C201ゼミ室
	担当者	酒井
	テーマ	細菌感染症③
11	講義室	C201ゼミ室
	担当者	酒井
	テーマ	ウイルス感染症①
12	講義室	C201ゼミ室
	担当者	酒井
	テーマ	ウイルス感染症②
13	講義室	C201ゼミ室
	担当者	酒井
	テーマ	ウイルス感染症③
14	講義室	C201ゼミ室
	担当者	酒井
	テーマ	真菌感染症と原虫感染症
15	講義室	C201ゼミ室
	担当者	酒井
	テーマ	重複感染症
評価方法	レポートをもって評価する。	
教科書	随時、参考資料を配付する	

参考書	戸田新細菌学、南山堂。
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照
履修上の注意、履修要件	英語の論文を読み、その要約ができる者の参加が望ましい。

講義名	脳科学特論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	月曜日	代表時限	5限
校地	毛呂山キャンパス		
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/生体機能科学分野		
配当年次	1年後期		

担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	◎ 淡路 健雄	指定なし

担当教員	淡路 健雄・伊丹 千晶・魚住 尚紀・小谷 典弘・周防 諭・吉川 圭介・中野 貴成・柳下 楠・北條 泰嗣・橋爪 幹・平沢 統
科目の目標	脳の機能、病態、疾患の原因を、脳を構成する分子や細胞、神経回路および脳の構造のそれぞれのレベルで説明できる。
学習の具体的な目標	<p>脳・神経・神経疾患を研究するための基本的な技能と知識の習得</p> <p>今後、脳・神経・神経疾患に関する研究を進めていくために、以下の到達目標を設定する。これらの内容が自分の力で説明できるようになることを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感覚器からの情報処理について概説できる。 2. 脳の基本的構成要素である神経細胞の基本構造と機能について概説できる。 3. 外部情報が脳内で統合されるプロセスと、それが運動制御にどのように関連するかについて概説できる。 4. 神経に特徴的な生体分子について概説できる。 5. 神経研究で用いられるモデル生物および代表的なモデル疾患について概説できる。 6. 神経研究における主な研究手法について概説できる。

授業計画表		
1	講義室	毛呂山キャンパス・生理学教室
	担当者	平沢
	テーマ	網膜での光受容機構
	授業内容	網膜での光受容機構について解説する。
2	講義室	毛呂山キャンパス・生理学教室
	担当者	平沢
	テーマ	網膜内の光情報伝達
	授業内容	網膜内の光情報伝達について解説する。
3	講義室	毛呂山キャンパス・生理学教室
	担当者	伊丹
	テーマ	神経細胞と神経回路の基礎
	授業内容	

神経細胞の基本的構造と機能、ニューロン同士のシナプス結合、情報伝達の仕組みを解説。興奮性・抑制性ニューロンの役割、脳内ネットワークの形成メカニズムに触れる

4	講義室	毛呂山キャンパス・生理学教室
	担当者	伊丹
	テーマ	神経伝達とシナプス可塑性
	授業内容	神経伝達物質の種類と役割、シナプス伝達、学習や記憶に関わるシナプス可塑性（LTPやLTD）について説明する。
5	講義室	毛呂山キャンパス・生理学教室
	担当者	伊丹
	テーマ	感覚と運動の神経メカニズム
	授業内容	感覚系（視覚、聴覚、触覚）が外部情報を処理し、脳内で統合されるプロセスを解説。これが運動制御とどのように関連するかを説明する。
6	講義室	毛呂山キャンパス・薬理学教室
	担当者	周防
	テーマ	線虫の基礎生物学（講義）、線虫実験法（実習）
	授業内容	モデル動物として有用な線虫による研究法の基礎を解説する。線虫の生態を概説した後、受講者数が少数の場合には、簡単な実習を行う（白衣持参が望ましい）。
7	講義室	毛呂山キャンパス・薬理学教室
	担当者	淡路
	テーマ	細胞内可視化研究概論（講義）
	授業内容	細胞内情報伝達・細胞内環境・細胞内生体分子の可視化研究法について議論する。
8	講義室	毛呂山キャンパス・薬理学教室
	担当者	小谷
	テーマ	神経機能に関与する生体分子「糖鎖」
	授業内容	神経細胞では、様々な生体分子が協調して複雑かつ断続的な電気信号伝達システムを構築することで高次機能を維持している。本講義ではその生体分子の一つである「糖鎖」に焦点をあて、糖鎖がどのように神経機能に関与しているかを最近の研究成果をまじえて紹介する。
9	講義室	毛呂山キャンパス・薬理学教室
	担当者	柳下
	テーマ	神経変性疾患・発達障害の分子薬理学（講義）
	授業内容	神経変性疾患（アルツハイマー病、レヴィ小体認知症、ピック病、パーキンソン病など）や自閉症をはじめとした発達障害の分子生物学を解説する。
10	講義室	毛呂山キャンパス・薬理学教室
	担当者	吉川
	テーマ	神経炎症の生命科学（講義）
	授業内容	グリア細胞の過剰活性化、炎症性メディエーター産生などの神経炎症反応は神経変性疾患の発症、病態進行に大きく関わる。アルツハイマー病、多発性硬化症を中心とした神経炎症を解説する。
11	講義室	毛呂山キャンパス・生化学教室
	担当者	北條
	テーマ	神経細胞集団のふるまい、同期現象入門
	授業内容	神経細胞集団のふるまい、同期現象入門神経細胞の作る集団は同期して（同じタイミングで）活動し、特定のリズム（オシレーション）を生み出す。このオシレーションと脳機能には密接な関係がある。シナプス結合やニューロンの活動からオシレーションが生じる基盤を説明する。
12	講義室	毛呂山キャンパス・生化学教室
	担当者	橋爪
	テーマ	辺縁系に対するストレスの影響

授業内容	認知・情動機能等、高次脳機能を司る辺縁系のシナプス可塑性とオシレーション過程に対するストレスの影響につき、適応とその破綻の視点から、最新の研究結果を解説する。	
13	講義室	毛呂山キャンパス・生化学 教室
	担当者	北條
	テーマ	神経回路オシレーションと行動
	授業内容	我々の動物実験系での研究を題材として、神経回路オシレーションと行動がどのように関係しているのかを紹介する。特に、オシレーションを調節する生理活性アミン（ドーパミン、ノルアドレナリン、ヒスタミン）に着目して解説する。
14	講義室	毛呂山キャンパス・生化学 教室
	担当者	中野
	テーマ	中枢と末梢の連携による摂食制御とその破綻
	授業内容	脳内報酬系と摂食行動、またそれらに関連する神経伝達物質、ホルモンなどについて概説する。その制御システムを理解するとともに、それらの破綻による肥満や摂食障害について最近のトピックを紹介する。
15	講義室	毛呂山キャンパス・生化学 教室
	担当者	魚住
	テーマ	生理活性脂質と神経機能
	授業内容	プロスタグランジン・ロイコトリエンといった生理活性脂質は、炎症・アレルギーなど、生体防御システムの主要な調節物質である。同時に、記憶や疼痛など中枢・末梢神経機能においても重要な役割を果たしている。生理活性脂質の神経系における役割について、最近の知見を交えて紹介する。
評価方法	出席、レポート	
教科書	Principles of Neural Science, Eric R. Kandel McGraw-Hill Companies	
参考書	特になし	
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照	
履修上の注意、履修要件	評価は出席と授業における積極性を主に行われる。 課題を課すことがある。 ※授業日程は受講者と相談の上変更することがある。 ※社会人学生の場合、講義日程は年度始めに受講生と相談の上決定する。原則として、夏期休暇中の1日もしくは2日間で集中講義の形式で行う。	

講義名	分析医科学特論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	火曜日	代表時限	7限
校地	日高キャンパス		
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/生体機能科学分野		
配当年次	1年後期		

担当教員		
職種	氏名	所属
臨床検査技師	◎ 飯野 望	臨床検査学科教員

担当教員	飯野 望、森 幸太郎
科目の目標	分子生物学的技術の進歩により疾患に特有な病因遺伝子を検出する遺伝子検査が、臨床の現場で可能となったことを理解し、その検査結果が個人をターゲットにした予防医学や先進医療に貢献している現状を深く把握することで研究に展開できる能力を養う。

授業計画表		
1	講義室	大学院講義室
	担当者	飯野
	テーマ	遺伝子・染色体の構造
	授業内容	1. ヒトの染色体の構造について説明できる。 2. DNAおよびRNAの構造について説明できる。 3. 転写・翻訳・翻訳後プロセッシングについて説明できる。
2	講義室	大学院講義室
	担当者	飯野
	テーマ	遺伝子の機能
	授業内容	1. 転写調節について説明できる。 2. エピジェネティクスについて説明できる。
3	講義室	大学院講義室
	担当者	飯野
	テーマ	核酸の抽出
	授業内容	1. 代表的なDNAの抽出法(フェノール・クロロホルム法、カラム法)、RNAの抽出法(AGPC法、カラム法)について説明できる。 2. 近年の自動核酸抽出技術について説明できる。
4	講義室	大学院講義室
	担当者	飯野
	テーマ	遺伝子検査技術

授業内容	1. PCR法およびRT-PCR法の概要について説明できる。 2. 代表的なリアルタイムPCR法（TaqMan Probe法・SYBER Green法）の概要について説明できる	
5	講義室	大学院講義室
	担当者	飯野
	テーマ	バリエントとマイクロサテライト
	授業内容	1. 病的バリエント、マイクロサテライト不安定性について説明できる。 2. 上記1に関わる疾患、それらを検出するための遺伝子解析法についても説明できる。
6	講義室	大学院講義室
	担当者	飯野
	テーマ	白血病や固形腫瘍の遺伝子解析
	授業内容	近年の白血病や固形腫瘍における遺伝子技術、遺伝子検査の標準化の動向や問題点について説明できる。
7	講義室	大学院講義室
	担当者	森
	テーマ	ゲノム医療
	授業内容	1. Precision Medicineについて説明できる。 2. がんゲノム医療における臨床検査について説明できる。
8	講義室	大学院講義室
	担当者	森
	テーマ	遺伝学的検査
	授業内容	1. ゲノム情報と病気の関係について説明できる。 2. 遺伝学的検査の有用性について説明できる。
9	講義室	大学院講義室
	担当者	森
	テーマ	遺伝学的検査手法
	授業内容	1. 次世代シーケンス解析について説明できる。 2. 疾患パネル検査を設計できる。 3. コピー数多型解析とその技術について説明できる。
10	講義室	大学院講義室
	担当者	森
	テーマ	精度管理とバリエント抽出
	授業内容	1. 遺伝学的検査の内部精度管理について説明できる。 2. 遺伝学的検査の国内外で利用できる外部精度調査について説明できる。 3. 次世代シーケンス解析によるバリエント抽出パイプラインについて説明できる。
11	講義室	大学院講義室
	担当者	森
	テーマ	バリエントの解釈-1
	授業内容	1. ACMGガイドラインによるバリエントの表記方法について説明できる。 2. ACMGガイドラインによるバリエントの分類方法について説明できる。
12	講義室	大学院講義室
	担当者	森
	テーマ	バリエントの解釈-2
	授業内容	1. 各疾患におけるバリエントのデータベースについて説明できる。 2. バリエントの機能予測、およびアレル頻度情報に関するデータベースについて説明できる。
13	講義室	大学院講義室
	担当者	森
	テーマ	病的バリエントのアノテーションの実践
	授業内容	1. 適切なデータベースを利用してバリエントの臨床的注釈付けができる。 2. ACMGガイドラインに沿ってバリエントを評価できる。
14	講義室	大学院講義室
	担当者	森

テーマ	バリエントの二次的所見とエキスパートパネル	
授業内容	1. バリエントの二次的所見について説明できる。 2. エキスパートパネルについて説明できる。	
15	講義室	大学院講義室
	担当者	飯野、森
	テーマ	まとめ
	授業内容	講義内容を振り返り、自身の研究との関連性についても説明できる。
評価方法	履修に必要な時間数以上の受講をもって単位取得の必要条件とし、課題レポートにより評価する。	
教科書	特になし 随時、資料を配布する	
参考書	特になし	
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照	
履修上の注意、履修要件	特になし	

講義名	臨床検査医学特論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	火曜日	代表時限	6限
校地	日高キャンパス		
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/生体機能科学分野		
配当年次	1年後期		

担当教員		
職種	氏名	所属
臨床検査技師	◎ 小野川 傑	臨床検査学科教員

担当教員	小野川 傑
科目の目標	免疫学の基礎知識をもって疾患の病態生理を捉え、かつ必要な臨床検査について理解することができるようになる。
学習の具体的な目標	1. 免疫細胞の種類、機能を説明できる。 2. 感染症における免疫系の関わりを説明できる。 3. 消化管における免疫系の関わりを説明できる。 4. 輸血移植における免疫系の関わりを説明できる。

授業計画表				
1	年月日(曜日)	令和 8年09月29日(火)	時限	1限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	小野川		
	テーマ	免疫応答の特徴と概要		
	授業内容	生体機能の一つである免疫系の基本構成因子について説明できる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月06日(火)	時限	1限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	小野川		
	テーマ	白血球循環と組織への遊走		
	授業内容	自然免疫の特徴、かかわる細胞の機能や接着分子について説明できる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月13日(火)	時限	1限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	小野川		
	テーマ	自然免疫系による微生物や組織損傷の認識		
	授業内容	自然免疫に関与する受容体やシグナル調節分子について説明できる。		
4	年月日(曜日)	令和 8年10月20日(火)	時限	1限

講義室	大学院講義室			
担当者	小野川			
テーマ	生体侵襲時における補体の機能			
授業内容	自然免疫の液性エフェクター分子である補体について説明できる。			
5	年月日(曜日)	令和 8年10月27日(火)	時限	1限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	小野川		
	テーマ	免疫グロブリン		
	授業内容	免疫グロブリンの構造、合成、抗原との結合について説明できる。		
6	年月日(曜日)	令和 8年11月10日(火)	時限	1限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	小野川		
	テーマ	T細胞の誕生		
	授業内容	胸腺における正の選択、負の選択が説明できる。		
7	年月日(曜日)	令和 8年11月17日(火)	時限	1限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	小野川		
	テーマ	T細胞のエフェクター機能		
	授業内容	T細胞の活性化に必要なシグナル伝達、エフェクター細胞の機能が説明できる。		
8	年月日(曜日)	令和 8年11月24日(火)	時限	1限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	小野川		
	テーマ	B細胞の活性化と抗体産生		
	授業内容	B細胞の活性化と抗体産生について説明できる。		
9	年月日(曜日)	令和 8年12月01日(火)	時限	1限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	小野川		
	テーマ	上皮組織における免疫応答		
	授業内容	消化管における免疫応答の特徴を説明できる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年12月08日(火)	時限	1限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	小野川		
	テーマ	過敏症		
	授業内容	代表的な過敏症の機序について説明できる。		
11	年月日(曜日)	令和 8年12月15日(火)	時限	1限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	小野川		
	テーマ	免疫学から見た感染症		
	授業内容	感染症における免疫応答について説明できる。		
12	年月日(曜日)	令和 8年12月22日(火)	時限	1限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	小野川		
	テーマ	免疫学からみた生体侵襲(敗血症)		
	授業内容	敗血症の概念、定義および病態を説明できる。		
13	年月日(曜日)	令和 9年01月05日(火)	時限	1限
	講義室	大学院講義室		

担当者	小野川			
テーマ	免疫学からみた輸血副反応			
授業内容	免疫応答がかかわる輸血副作用について、種類や原因を説明できる。			
14	年月日(曜日)	令和 9年01月12日(火)	時限	1限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	小野川		
	テーマ	免疫学からみた移植		
	授業内容	移植医療における免疫の関与、特に拒絶反応や移植片対宿主反応について説明できる。		
15	年月日(曜日)	令和 9年01月19日(火)	時限	1限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	小野川		
	テーマ	まとめ(学生によるプレゼンテーション)		
	授業内容	関心をもった内容について、最新の研究成果などを踏まえて、学生自身によるプレゼンテーションができる。		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年09月29日(火)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	小野川		
	テーマ	免疫応答の特徴と概要		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月06日(火)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	小野川		
	テーマ	白血球循環と組織への遊走		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月13日(火)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	小野川		
	テーマ	自然免疫系による微生物や組織損傷の認識		
4	年月日(曜日)	令和 8年10月20日(火)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	小野川		
	テーマ	生体侵襲時における補体の機能		
5	年月日(曜日)	令和 8年10月27日(火)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	小野川		
	テーマ	免疫グロブリン		
6	年月日(曜日)	令和 8年11月10日(火)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	小野川		
	テーマ	T細胞の誕生		
7	年月日(曜日)	令和 8年11月17日(火)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	小野川		
	テーマ	T細胞のエフェクター機能		
8	年月日(曜日)	令和 8年11月24日(火)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	小野川		

テーマ	B細胞の活性化と抗体産生			
9	年月日(曜日)	令和 8年12月01日(火)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	小野川		
	テーマ	上皮組織における免疫応答		
10	年月日(曜日)	令和 8年12月08日(火)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	小野川		
	テーマ	過敏症		
11	年月日(曜日)	令和 8年12月15日(火)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	小野川		
	テーマ	免疫学から見た感染症		
12	年月日(曜日)	令和 8年12月22日(火)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	小野川		
	テーマ	免疫学からみた生体侵襲(敗血症)		
13	年月日(曜日)	令和 9年01月05日(火)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	小野川		
	テーマ	免疫学からみた輸血副反応		
14	年月日(曜日)	令和 9年01月12日(火)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	小野川		
	テーマ	免疫学からみた移植		
15	年月日(曜日)	令和 9年01月19日(火)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	小野川		
	テーマ	まとめ(学生によるプレゼンテーション)		
評価方法	履修に必要な時間数以上の受講およびプレゼンテーションをもって単位を認定する。			
教科書	講義時に資料を配布			
参考書	医系免疫学 改訂16版 矢田純一著 中外医学社			
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照			
履修上の注意、履修要件	学部における免疫学講義の知識があるとよい。講義の中で示せる内容には限りがあるので、積極的に関連書籍や最新知見に目を通すように努めること。			

講義名	生体分子機能医科学演習		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	4	時間	120.00
代表曜日		代表時限	
校地			
単位数	4単位/120時間		
必修・選択	専門科目/生体機能科学分野		
配当年次	2年通年		

担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	◎ 藤原 智徳	臨床検査学科教員

担当教員	藤原 智徳・前田 卓哉・奥田 晶彦
科目の目標	生体機能科学分野を選択した学生は、特別研究を効率よく進める上で、様々な生命現象に関する研究の最新の情報を得、それを理解する能力を身に付けることが重要である。また、特別研究を遂行する上で、様々な機器の原理を理解し、それを使いこなす能力が必要となる。本演習では、輪読会、論文抄読会、及び、各種機器の操作方法を習得させることで、特別研究を実施する為に必要な能力を身に付けさせることを目標とする。
学習の具体的な目標	本演習の到達目標を達成するため、以下の演習を行う。 1. 輪読形式による専門性の高い教科書を読破する。また、定期的な報告及び議論の場を設ける。 2. 実施する特別研究と関連の深い学術論文をメインとした抄読会を行い、活発な議論を行うことで理解力を高める。 3. 各種実験機器の原理を理解し、かつ、操作方法を習得させるといった研究を実施する上で必要な技術の修得を目指す。

授業計画表		
1	テーマ	1. 藤原智徳 神経細胞や内分泌細胞で行われる開口放出の制御機構に関して演習する。 2. 前田卓哉 次世代シーケンサーをはじめとする様々な遺伝子診断技術の新規開発と、その臨床応用に関して演習する。 3. 奥田晶彦 幹細胞学、とくにES・IPS細胞に関する研究に重きを置いた研究に関して演習する。
	授業内容	1. 輪講および学術論文の抄読 第1週：オリエンテーション（本演習の概要説明、及び輪読・抄読の分担の指示など） 第2～30週：毎週、輪読あるいは学術論文の抄読を行う。担当者によるプレゼンテーション、及びそのプレゼンテーションを基に、学術的な討論を行う。 2. 専門技術の修得のための演習 第1週：オリエンテーション 本演習の項目・内容に関する説明 第2～4週：各種汎用機器に関する原理、及び操作法の説明 第5～10週：各種汎用機器の操作の実施演習 第11週：第1回演習報告会 第12～16週：専門性の高い機器の原理、及び操作法の説明 第17～21週：各種専門機器の操作の実施演習 第22週：第2回演習報告会 第23～29週：学会発表のスライドの作成、及び発表論文作成のための演習 第30週：第3回演習報告
評価方法	プレゼンテーション、及び討論への参加等から、事前の学習の度合い、理解のレベルを把握し、総合的に評価する。	
教科書	特になし	
参考書	特になし	
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照	
履修上の注意、履修要件	事前の学習、及び活発な討論により、研究を行うための基盤的な能力を積極的に身に付けるように心がけること。	

講義名	生体分子機能医科学特別研究		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	通年	講義区分	実験
基準単位数	8	時間	360.00
代表曜日		代表時限	
校地			
単位数	8単位/360時間		
必修・選択	専門科目/生体機能科学分野		
配当年次	2年通年		

担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	◎ 藤原 智徳	臨床検査学科教員

担当教員	藤原 智徳
科目の目標	基礎医学を中心とした医学研究の達成を目標とする。医科学全般の最新の研究動向を踏まえ、分子レベルにおいて未だ解明されていない様々な生命現象、及び疾患を題材に、1つの研究テーマを設定し、詳細な実験計画を立て、研究を遂行する。そして、その研究から得られた研究成果を国内外に発信する。これらの過程で、当該分野における専門知識・実験手技を身に付けさせる。かつ、独自に、研究計画を立て、実行できる能力を身に付けさせる。
学習の具体的な目標	本特別研究では、以下の3つの段階を経て、到達目標の達成を目指す。 第一段階：医科学全般における研究の動向の調査を行い、各研究テーマの重要度、及び達成の可能性等を考慮して、1つの研究テーマを設定する。 第二段階：第一段階で設定した研究テーマを下に、研究を実行する。なお、定期的な研究報告会において、研究の進展状況を報告し、問題点の抽出、研究計画の軌道修正等を行う。 第三段階：研究の過程で得られた実験結果をまとめ、学会発表、及び修士論文を作成する。 また、国際誌に発表すべきであると考えられる成果が得られた場合は、英文で論文を作成し、原著論文として発表する。

授業計画表		
1	テーマ	1. 藤原智徳 シナプス情報伝達の分子機構について分子生物学的、細胞生物学的な解析を行い、脳の高次機能の基盤である神経ネットワークについて研究を行うことを通して、修士論文の指導を行う。 2. 前田卓哉 次世代シーケンサーをはじめとする様々な遺伝子診断技術の新規開発と、その臨床応用に関する研究を行うことを通して、修士論文の指導を行う。 3. 奥田晶彦 ES細胞、及び、IPS細胞を用いた再生医療の実現のための基盤的な研究、特に、これら多能性幹細胞が持つ腫瘍原性の除去等による安全性の向上を念頭に置いた研究を通して、修士論文の指導を行う。
	授業内容	第1～3週：研究テーマの設定の為の医学全般の研究の動向の調査 第4週：研究テーマの設定 第5～8週：研究の遂行の前段階としての予備実験、及び研究計画の作成 第9～24週：研究計画に基づいた研究の実行 第25～30週：実験データの取りまとめと、学会発表、及び修士論文作成
評価方法	研究に対する熱意、実験の確実性、実行力、並びに、学会発表、及び修士論文の充実度などにより、総合的に評価する。	
教科書	特になし	
参考書	特になし	
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照	
履修上の注意、履修要件	評価に関しては、研究の達成度よりも、実験計画の立案、及びその計画の実行力に重きを置いて評価する。	

講義名	医療安全工学特論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	月曜日	代表時限	2限
校地			
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/生体医工学分野		
配当年次	1年前期		

担当教員		
職種	氏名	所属
臨床工学技士	◎ 川邊 学	臨床工学科教員

担当教員	川邊 学・加納 隆
科目の目標	医療機器・設備・電磁環境に関する国内外の規格ならびに指針について、ただ単に学ぶのではなく、どうしてそのような規格・指針が作られたか？という背景ならびに意図されていることまで十分に説明できる。
学習の具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電撃のメカニズムと事故事例について説明できる。 2. 医用電気機器の国内外の規格を説明できる。 3. 医用電気機器の安全基準(JIS T 0601-1)は2012年に大改訂があり、2014年、2017年、2023年と改定されてきているが、どのような目的で、どのように改定されたかを説明できる。 4. 医療機器関連のその他の基準(リスクマネジメント、アラーム、ユーザビリティ)を説明できる。 5. 医療機器の耐用期間や地震対策について説明できる。 6. 病院電気設備の安全基準(JIS T 1022)の改定内容を説明できる。 7. 病院電気設備のトラブル事例とその対策について説明できる。 8. 医療電磁環境・EMCに関する国内規格(JIS T 0601-1-2)ならびに国際規格(IEC 60601-1-2)がどのように変遷を遂げたかを説明できる。 9. 総務省・電波環境協議会から出された「各種電波利用機器の電波が植込み型医療機器へ及ぼす影響を防止するための指針」ならびに「医療機関における携帯電話等の使用に関する指針」について説明できる。 10. 総務省・電波環境協議会から2021年7月に出された「医療機関において安心・安全に電波を利用するための手引き(改定版)」について説明できる。

授業計画表				
医療安全工学特論				
1	年月日(曜日)	令和 8年04月13日(月)	時限	2限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	川邊・加納		
	テーマ	電撃のメカニズムと事故事例		
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の電気刺激反応について説明できる。 2. 電撃のメカニズムとアースの必要性について説明できる。 3. マクロショックとマイクロショックの違いを説明できる。 4. マクロショックの事故事例を説明できる。 5. マイクロショックの事故事例を説明できる。 		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月20日(月)	時限	2限
	講義室	大学院講義室		

担当者	川邊・加納			
テーマ	医用電気機器の安全基準			
授業内容	1. 医用電気機器の規格の体系について説明できる。 2. 国内外での規格の推移を説明できる。 3. 医用電気機器の安全基準(JIS T 0601-1)は2012年に大改定があり、2014年、2017年、2023年と改定されてきているが、どのような目的で、どのように改定されたかを説明できる。			
3	年月日(曜日)	令和 8年04月27日(月)	時限	2限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	川邊・加納		
	テーマ	医用電気機器の安全基準		
	授業内容	1. 漏れ電流の種類と許容値について説明できる。 2. 漏れ電流測定用器具の構成と特性について説明できる。 3. 主電源スイッチの廃止やタッチブルーフの導入について説明できる。		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月11日(月)	時限	2限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	川邊・加納		
	テーマ	医用電気機器の安全基準		
	授業内容	1. 医用電気システムの安全基準(JIS T 0601-1-1)を説明できる。 2. リスクマネジメントの医療機器への適用(JIS T 14971)を説明できる。 3. 医用電気機器及び医用電気システムのアラームの基準(IEC 60601-1-8)を説明できる。 4. 医療機器のユーザビリティエンジニアリングに関する基準(IEC 62366)を説明できる。		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月18日(月)	時限	2限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	川邊・加納		
	テーマ	医療機器の耐用期間・地震対策		
	授業内容	1. 医療機器の耐用期間について説明できる。 2. 医療機器の地震対策について説明できる。		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月25日(月)	時限	2限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	川邊・加納		
	テーマ	病院電気設備の安全基準		
	授業内容	1. 病院電気設備の安全基準(JIS T 1022)が1982年に初めて発行された経緯とその後の改定の推移を説明できる。 2. 非常電源設備に関する改定点について説明できる。		
7	年月日(曜日)	令和 8年06月01日(月)	時限	2限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	川邊・加納		
	テーマ	病院電気設備の安全基準		
	授業内容	1. 非接地配線方式のメカニズムについて説明できる。 2. 電流監視装置と過電流警報装置について説明できる。		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月08日(月)	時限	2限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	川邊・加納		
	テーマ	病院電気設備のトラブル事例とその対策		
	授業内容	1. 地絡事故事例の原因と対策について説明できる。 2. ホスピタルグレードの配線用器具の必要性について説明できる。		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月15日(月)	時限	2限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	川邊・加納		
	テーマ	医療電磁環境(EMC)に関する規格		
	授業内容			

1. EMCに関する国際的な基準（IEC 60601-1-2）の変遷について説明できる。
 2. EMCに関する国内基準（JIS T 0601-1-2）は2012年、2018年、2023年に改定されたが、その内容を説明できる。

10	年月日(曜日)	令和 8年06月22日(月)	時限	2限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	川邊・加納		
	テーマ	各種電波による医療機器への影響に関する指針		
	授業内容	1. 携帯電話等の各種電波利用機器の電波が植込み型医療機器へ及ぼす影響に関する調査結果ならびにそれを根拠に出された指針について説明できる。		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月29日(月)	時限	2限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	川邊・加納		
	テーマ	各種電波による医療機器への影響に関する指針		
	授業内容	1. 「医療機関における携帯電話等の使用に関する指針」の根拠となる調査結果ならびに指針の内容について説明できる。 2. 携帯電話による装着型医療機器や在宅医療機器に対する影響調査結果について説明できる。		
12	年月日(曜日)	令和 8年07月06日(月)	時限	2限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	川邊・加納		
	テーマ	病院内電波管理		
	授業内容	1. 総務省/電波環境協議会（EMCC）から2016年4月に発行された「医療機関において安心・安全に電波を利用するための手引き」作成の経緯について説明できる。 2. EMCCの活動内容について説明できる。		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月13日(月)	時限	2限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	川邊・加納		
	テーマ	病院内電波管理		
	授業内容	1. 総務省/電波環境協議会から2021年7月に出された「医療機関において安心・安全に電波を利用するための手引き（改定版）」の医用テレメータに関する内容について説明できる。		
14	年月日(曜日)	令和 8年07月27日(月)	時限	1限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	川邊・加納		
	テーマ	病院内電波管理		
	授業内容	1. 総務省/電波環境協議会から2021年7月に出された「医療機関において安心・安全に電波を利用するための手引き（改定版）」の無線LANに関する内容について説明できる。		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月27日(月)	時限	2限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	川邊・加納		
	テーマ	病院内電波管理		
	授業内容	1. 総務省/電波環境協議会から2021年7月に出された「医療機関において安心・安全に電波を利用するための手引き（改定版）」の携帯電話ならびにその他無線通信機器に関する内容について説明できる。		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年04月10日(金)	時限	6限
	講義室	Zoom		
	担当者	川邊・加納		
	テーマ	電撃のメカニズムと事事故例		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月17日(金)	時限	6限
	講義室	Zoom		
	担当者	川邊・加納		
	テーマ	医用電気機器の安全基準		

3	年月日(曜日)	令和 8年04月24日(金)	時限	6限
	講義室	Zoom		
	担当者	川邊・加納		
	テーマ	医用電気機器の安全基準		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月01日(金)	時限	6限
	講義室	Zoom		
	担当者	川邊・加納		
	テーマ	医用電気機器の安全基準		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月08日(金)	時限	6限
	講義室	Zoom		
	担当者	川邊・加納		
	テーマ	医療機器の耐用期間・地震対策		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月15日(金)	時限	6限
	講義室	Zoom		
	担当者	川邊・加納		
	テーマ	病院電気設備の安全基準		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月22日(金)	時限	6限
	講義室	Zoom		
	担当者	川邊・加納		
	テーマ	病院電気設備の安全基準		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月29日(金)	時限	6限
	講義室	Zoom		
	担当者	川邊・加納		
	テーマ	病院電気設備のトラブル事例とその対策		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月05日(金)	時限	6限
	講義室	Zoom		
	担当者	川邊・加納		
	テーマ	医療電磁環境(EMC)に関する規格		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月12日(金)	時限	6限
	講義室	Zoom		
	担当者	川邊・加納		
	テーマ	各種電波による医療機器への影響に関する指針		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月19日(金)	時限	6限
	講義室	Zoom		
	担当者	川邊・加納		
	テーマ	各種電波による医療機器への影響に関する指針		
12	年月日(曜日)	令和 8年06月26日(金)	時限	6限
	講義室	Zoom		
	担当者	川邊・加納		
	テーマ	病院内電波管理		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月03日(金)	時限	6限
	講義室	Zoom		
	担当者	川邊・加納		
	テーマ	病院内電波管理		
14	年月日(曜日)	令和 8年07月10日(金)	時限	6限
	講義室	Zoom		

担当者	川邊・加納			
テーマ	病院内電波管理			
15	年月日(曜日)	令和 8年07月17日(金)	時限	6限
	講義室	Zoom		
	担当者	川邊・加納		
	テーマ	病院内電波管理		
評価方法	レポート提出に、授業中の態度ならびに出席状況を考慮して評価する。			
教科書	特になし			
参考書	JIS T 0601-1、JIS T 1022、JIS T 0601-1-2 (日本規格協会から発行されている)			
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照			
履修上の注意、履修要件	医用機器安全管理学に関する基本的な知識を有すること			

講義名	生体機能代行工学特論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	月曜日	代表時限	7限
校地	日高キャンパス		
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/生体医工学分野		
配当年次	1年後期		

担当教員		
職種	氏名	所属
臨床工学技士	◎ 奥村 高広	臨床工学科教員

担当教員	奥村 高広、白石 直子
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 循環機能代行機器、とくに機械的循環補助領域の現状と発展について説明できる。 2. 循環機能代行機器領域の英文を読解できる。 3. 再生医療の現状（とくに心臓、腎臓の領域）について説明できる。 4. 体外循環の従来法にとらわれず新たな手法について理解し議論できる。

授業計画表				
1	年月日(曜日)	令和 8年09月28日(月)	時限	4限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	奥村・白石		
	テーマ	ガイダンス		
	授業内容	1. 生体機能代行工学について説明できる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月05日(月)	時限	4限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	奥村		
	テーマ	Counterpulsation 1		
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. Counterpulsationの原理と効果を説明できる。 2. 大動脈内バルーンパンピングIABPの原理と構造を説明できる。 3. IABPの現状を説明できる。 		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月19日(月)	時限	4限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	奥村		
	テーマ	Counterpulsation 2		
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. Counterpulsationの原理と効果を説明できる。 2. 大動脈内バルーンパンピングIABPの原理と構造を説明できる。 3. IABPの現状を説明できる。 		

4	年月日(曜日)	令和 8年10月26日(月)	時限	4限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	奥村		
	テーマ	Counterpulsation 3		
	授業内容	1. External Counterpulsationの原理と構造を説明できる。		
5	年月日(曜日)	令和 8年11月02日(月)	時限	4限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	奥村		
	テーマ	機械工学と人工臓器 1		
	授業内容	1. スターリングエンジンと人工心臓について説明できる。		
6	年月日(曜日)	令和 8年11月09日(月)	時限	4限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	奥村		
	テーマ	機械工学と人工臓器 2		
	授業内容	1. 磁性流体と人工筋肉について説明できる。		
7	年月日(曜日)	令和 8年11月16日(月)	時限	4限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	奥村		
	テーマ	Short-Term Uses of Mechanical Circulatory Support Devices		
	授業内容	1. Short-Term Uses of Mechanical Circulatory Support Devices ※英文抄読		
8	年月日(曜日)	令和 8年11月30日(月)	時限	4限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	白石		
	テーマ	再生医療の基礎 1		
	授業内容	1. 幹細胞とは何か説明できる。 2. 幹細胞の種類(組織幹細胞、ES細胞、iPS細胞)とその特徴について説明できる。		
9	年月日(曜日)	令和 8年12月07日(月)	時限	4限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	白石		
	テーマ	再生医療の基礎 2		
	授業内容	1. 再生医療の現状について具体的に述べる事ができる。 2. 再生医療と臨床工学技士の今後の関わりについて討議することができる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年12月14日(月)	時限	4限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	白石		
	テーマ	幹細胞研究と循環器 1		
	授業内容	1. iPS細胞を用いた心臓再生について最近のトピックスを説明できる。		
11	年月日(曜日)	令和 8年12月21日(月)	時限	4限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	白石		
	テーマ	幹細胞研究と循環器 2		
	授業内容	1. iPS細胞を用いた腎臓再生について最近のトピックスを説明できる。		
12	年月日(曜日)	令和 9年01月04日(月)	時限	4限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	奥村		
	テーマ	バルブ式半閉鎖型体外循環VACC 1		
	授業内容	1. バルブ式半閉鎖型体外循環法を説明できる。		

13	年月日(曜日)	令和 9年01月18日(月)	時限	1
	講義室	大学院講義室		
	担当者	奥村		
	テーマ	バルブ式半閉鎖型体外循環VACC 2		
	授業内容	1.バルブ式半閉鎖型体外循環法を説明できる。		
14	年月日(曜日)	令和 9年01月25日(月)	時限	4限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	奥村・白石		
	テーマ	生体機能代行機器と関連領域の発展 1		
	授業内容	1.生体機能代行機器および関連領域の最近のトピックスを説明できる。		
15	年月日(曜日)	令和 9年02月08日(月)	時限	4限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	奥村・白石		
	テーマ	生体機能代行機器と関連領域の発展 2		
	授業内容	1.生体機能代行機器および関連領域の最近のトピックスを説明できる。		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年09月28日(月)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	奥村・白石		
	テーマ	ガイダンス		
	授業内容	1.生体機能代人工学について説明できる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月05日(月)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	奥村		
	テーマ	Counterpulsation 1		
	授業内容	1.Counterpulsationの原理と効果を説明できる。 2.大動脈内バルーンパンピングIABPの原理と構造を説明できる。 3.IABPの現状を説明できる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月19日(月)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	奥村		
	テーマ	Counterpulsation 2		
	授業内容	1.Counterpulsationの原理と効果を説明できる。 2.大動脈内バルーンパンピングIABPの原理と構造を説明できる。 3.IABPの現状を説明できる。		
4	年月日(曜日)	令和 8年10月26日(月)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	奥村		
	テーマ	Counterpulsation 3		
	授業内容	1.External Counterpulsationの原理と構造を説明できる。		
5	年月日(曜日)	令和 8年11月02日(月)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	奥村		
	テーマ	機械工学と人工臓器 1		
	授業内容	1.スターリングエンジンと人工心臓について説明できる。		
6	年月日(曜日)	令和 8年11月09日(月)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		

担当者	奥村			
テーマ	機械工学と人工臓器 2			
授業内容	1. 磁性流体と人工筋肉について説明できる。			
7	年月日(曜日)	令和 8年11月16日(月)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	奥村		
	テーマ	Short-Term Uses of Mechanical Circulatory Support Devices		
	授業内容	1. Short-Term Uses of Mechanical Circulatory Support Devices ※英文抄読		
8	年月日(曜日)	令和 8年11月30日(月)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	白石		
	テーマ	再生医療の基礎 1		
	授業内容	1. 幹細胞とは何か説明できる。 2. 幹細胞の種類(組織幹細胞、ES細胞、iPS細胞)とその特徴について説明できる。		
9	年月日(曜日)	令和 8年12月07日(月)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	白石		
	テーマ	再生医療の基礎 2		
	授業内容	1. 再生医療の現状について具体的に述べるができる。 2. 再生医療と臨床工学技士の今後の関わりについて討議することができる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年12月14日(月)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	白石		
	テーマ	幹細胞研究と循環器 1		
	授業内容	1. iPS細胞を用いた心臓再生について最近のトピックスを説明できる。		
11	年月日(曜日)	令和 8年12月21日(月)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	白石		
	テーマ	幹細胞研究と循環器 2		
	授業内容	1. iPS細胞を用いた腎臓再生について最近のトピックスを説明できる。		
12	年月日(曜日)	令和 9年01月04日(月)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	奥村		
	テーマ	バルブ式半閉鎖型体外循環VACC 1		
	授業内容	1. バルブ式半閉鎖型体外循環法を説明できる。		
13	年月日(曜日)	令和 9年01月18日(月)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	奥村		
	テーマ	バルブ式半閉鎖型体外循環VACC 2		
	授業内容	1. バルブ式半閉鎖型体外循環法を説明できる。		
14	年月日(曜日)	令和 9年01月25日(月)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	奥村・白石		
	テーマ	生体機能代行機器と関連領域の発展 1		
	授業内容	1. 生体機能代行機器および関連領域の最近のトピックスを説明できる。		
15	年月日(曜日)	令和 9年02月08日(月)	時限	7限
	講義室	大学院講義室		

担当者	奥村・白石
テーマ	生体機能代行機器と関連領域の発展 2
授業内容	1. 生体機能代行機器および関連領域の最近のトピックスを説明できる。
評価方法	レポート、発表、出席状況等を総合的に判断して評価する。
教科書	講義資料を配布する。
参考書	Cardiopulmonary Bypass and Mechanical Support (Wolters Kluwer)
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照
履修上の注意、履修要件	本科目は学問の教授ではなく、受講者と教員とが共に学ぶことを目的とする。

講義名	生体システム工学特論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	月曜日	代表時限	6限
校地	日高キャンパス		
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/生体医工学分野		
配当年次	1年前期		

担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	◎ 下岡 聡行	臨床工学科教員

担当教員	下岡 聡行
------	-------

授業計画表				
1	年月日(曜日)	令和 8年04月13日(月)	時限	3限
	担当者	下岡		
	テーマ	イントロダクション		
	授業内容	生体医工学におけるシステムモデルの例を挙げて概要を説明できる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月20日(月)	時限	3限
	担当者	下岡		
	テーマ	システムの数理モデルの基礎①		
	授業内容	1. 簡単な物理現象を微分方程式で記述できる。 2. 基礎的な微分方程式が解ける。		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月27日(月)	時限	3限
	担当者	下岡		
	テーマ	システムの数理モデルの基礎②		
	授業内容	1. 簡単なラプラス変換ができる。 2. 伝達関数の概念を説明できる。		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月11日(月)	時限	3限
	担当者	下岡		
	テーマ	システムの数理モデルの基礎③		
	授業内容	フィードバックの概念を説明できる。生体機能に果たすフィードバックの役割を例を挙げて説明できる。		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月18日(月)	時限	3限
	担当者	下岡		

テーマ	システムの数理モデルの基礎④			
授業内容	相平面、トラジェクトリ、ヌルクラインなどの概念を説明できる。			
6	年月日(曜日)	令和 8年05月25日(月)	時限	3限
	担当者	下岡		
	テーマ	非線形システムの基礎①		
	授業内容	1. 線形システムと非線形システムの違いを説明できる。 2. 生体システムの非線形性を例を挙げて説明できる。		
7	年月日(曜日)	令和 8年06月01日(月)	時限	3限
	担当者	下岡		
	テーマ	非線形システムの基礎②		
	授業内容	1. 非線形システムの基礎的な応答を、相平面・トラジェクトリなどを使って説明できる。 2. 非線形システムの安定性について説明できる。		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月08日(月)	時限	3限
	担当者	下岡		
	テーマ	臓器や人工臓器のモデルとシミュレーション		
	授業内容	1. 腎臓等の生理学的な機能をモデル化して分析できる。 2. 人工透析や補助循環における数学モデルの例を挙げて概要を説明できる。		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月15日(月)	時限	3限
	担当者	下岡		
	テーマ	化学反応と数学モデル		
	授業内容	生体の生理学的応答の基礎となる化学反応を非線形応答の観点から分析できる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月22日(月)	時限	3限
	担当者	下岡		
	テーマ	細胞のモデルとシミュレーション①		
	授業内容	拡散と反応の観点から細胞の機能をモデル化できる。		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月29日(月)	時限	3限
	担当者	下岡		
	テーマ	細胞のモデルとシミュレーション②		
	授業内容	1. ホジキン・ハクスレーモデル(H-Hモデル)の概要を説明できる。 2. E-Cellモデルの概要を説明できる。		
12	年月日(曜日)	令和 8年07月06日(月)	時限	3限
	担当者	下岡		
	テーマ	生体のパターン形成の数理①		
	授業内容	生体の形状・模様などの多様性と類似性については、簡単な非線形モデルで説明が試みられている。それらの例を挙げて概要を説明できる。		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月13日(月)	時限	3限
	担当者	下岡		
	テーマ	生体のパターン形成の数理②		
	授業内容	化学や物理の支配方程式とパターン形成のモデルの関連を説明できる。		
14	年月日(曜日)	令和 8年07月27日(月)	時限	3限
	担当者	下岡		
	テーマ	生体のパターン形成の数理③		
	授業内容	パターン形成の非線形モデルの応答を導くことができる。		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月27日(月)	時限	3限
	担当者	下岡		
	テーマ	まとめ		
	授業内容	講義の内容を説明できる。		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年04月13日(月)	時限	6限
	担当者	下岡		
	テーマ	イントロダクション		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月20日(月)	時限	6限
	担当者	下岡		
	テーマ	システムの数理モデルの基礎①		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月27日(月)	時限	6限
	担当者	下岡		
	テーマ	システムの数理モデルの基礎②		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月11日(月)	時限	6限
	担当者	下岡		
	テーマ	システムの数理モデルの基礎③		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月18日(月)	時限	6限
	担当者	下岡		
	テーマ	システムの数理モデルの基礎④		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月25日(月)	時限	6限
	担当者	下岡		
	テーマ	非線形システムの基礎①		
7	年月日(曜日)	令和 8年06月01日(月)	時限	6限
	担当者	下岡		
	テーマ	非線形システムの基礎②		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月08日(月)	時限	6限
	担当者	下岡		
	テーマ	臓器や人工臓器のモデルとシミュレーション		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月15日(月)	時限	6限
	担当者	下岡		
	テーマ	化学反応と数学モデル		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月22日(月)	時限	6限
	担当者	下岡		
	テーマ	細胞のモデルとシミュレーション①		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月29日(月)	時限	6限
	担当者	下岡		
	テーマ	細胞のモデルとシミュレーション②		
12	年月日(曜日)	令和 8年07月06日(月)	時限	6限
	担当者	下岡		
	テーマ	生体のパターン形成の数理①		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月13日(月)	時限	6限
	担当者	下岡		
	テーマ	生体のパターン形成の数理②		
14	年月日(曜日)	令和 8年07月27日(月)	時限	6限
	担当者	下岡		
	テーマ	生体のパターン形成の数理③		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月27日(月)	時限	7限
	担当者	下岡		
	テーマ	まとめ		

講義名	生体信号処理特論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	月曜日	代表時限	6限
校地	日高キャンパス		
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/生体医工学分野		
配当年次	1年後期		

担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	◎ 山下 高生	臨床工学科教員

担当教員	山下 高生
------	-------

授業計画表				
1	年月日(曜日)	令和 8年09月28日(月)	時限	3限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山下		
	テーマ	生体信号と信号処理		
	授業内容	心拍、筋電などの生体信号の特性を理解し、生体信号によって有益な情報を得るためには、どのような信号処理が必要であるかを理解する。		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月05日(月)	時限	3限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山下		
	テーマ	標本化と量子化		
	授業内容	生体信号処理の基本であるデジタル信号処理について、アナログ信号からデジタル信号に変換するためのサンプリング定理について理解し、説明できるようにする。		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月19日(月)	時限	3限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山下		
	テーマ	離散フーリエ変換		
	授業内容	時系列信号の信号処理でよく使われる離散フーリエ変換の意味を理解するとともに、その特性、利用における注意点などを理解して使いこなせるようにする。		
4	年月日(曜日)	令和 8年10月26日(月)	時限	3限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山下		

テーマ	離散フーリエ変換			
授業内容	時系列信号の信号処理でよく使われる離散フーリエ変換の意味を理解するとともに、その特性、利用における注意点などを理解して使いこなせるようにする。			
5	年月日(曜日)	令和 8年11月02日(月)	時限	3限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山下		
	テーマ	高速フーリエ変換		
	授業内容	離散フーリエ変換の高速処理アルゴリズムである高速フーリエ変換の仕組みを理解し、使いこなせるようにする。		
6	年月日(曜日)	令和 8年11月09日(月)	時限	3限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山下		
	テーマ	ウェーブレット変換などその他の直行変換		
	授業内容	その他の直交変換として、時系列データに有効なウェーブレット変換、画像処理で用いられている離散コサイン変換などについて学び、使えるようにする		
7	年月日(曜日)	令和 8年11月16日(月)	時限	3限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山下		
	テーマ	確率と統計		
	授業内容	時系列生体信号に代表される、不規則信号を扱う手法である確率過程信号処理に必要な基礎として、確率および統計についての理論を理解し、応用できるようにする。		
8	年月日(曜日)	令和 8年11月30日(月)	時限	3限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山下		
	テーマ	確率と統計		
	授業内容	時系列生体信号に代表される、不規則信号を扱う手法である確率過程信号処理に必要な基礎として、確率および統計についての理論を理解し、応用できるようにする。		
9	年月日(曜日)	令和 8年12月07日(月)	時限	3限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山下		
	テーマ	確率過程		
	授業内容	不規則信号処理の元となる確率過程の信号処理について学習するとともに、その特性を知って利用できるようにする。		
10	年月日(曜日)	令和 8年12月14日(月)	時限	3限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山下		
	テーマ	確率過程		
	授業内容	不規則信号処理の元となる確率過程の信号処理について学習するとともに、その特性を知って利用できるようにする。		
11	年月日(曜日)	令和 8年12月21日(月)	時限	3限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山下		
	テーマ	情報の符号化		
	授業内容	得られた生体信号などの情報を通信、蓄積、圧縮したりする場合に必要な情報の符号化技術について、そのアルゴリズムおよび特性について知り、利用可能とする。		
12	年月日(曜日)	令和 9年01月04日(月)	時限	3限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山下		
	テーマ	情報の符号化		

授業内容	得られた生体信号などの情報を通信、蓄積、圧縮したりする場合に必要な情報の符号化技術について、そのアルゴリズムおよび特性について知り、利用可能とする。			
13	年月日(曜日)	令和 9年01月18日(月)	時限	3限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山下		
	テーマ	通信処理		
授業内容	生体信号を取得する際における情報伝達系の仕組みを理解し、そのために必要な通信処理技術および特性について学ぶ。			
14	年月日(曜日)	令和 9年01月25日(月)	時限	3限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山下		
	テーマ	生体信号への適用		
授業内容	今までの信号処理を総合的学習として、時系列生体信号の信号処理に適用した例、および視覚生体信号に適用した場合の実例および、その適用方法について学ぶ。			
15	年月日(曜日)	令和 9年02月01日(月)	時限	3限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山下		
	テーマ	生体信号への適用		
授業内容	今までの信号処理を総合的学習として、時系列生体信号の信号処理に適用した例、および視覚生体信号に適用した場合の実例および、その適用方法について学ぶ。			

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年09月28日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山下		
	テーマ	生体信号と信号処理		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月05日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山下		
テーマ	標本化と量子化			
3	年月日(曜日)	令和 8年10月19日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山下		
テーマ	離散フーリエ変換			
4	年月日(曜日)	令和 8年10月26日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山下		
テーマ	離散フーリエ変換			
5	年月日(曜日)	令和 8年11月02日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山下		
テーマ	高速フーリエ変換			
6	年月日(曜日)	令和 8年11月09日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山下		
テーマ	ウェーブレット変換などその他の直行変換			
7	年月日(曜日)	令和 8年11月16日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		

担当者	山下			
テーマ	確率と統計			
8	年月日(曜日)	令和 8年11月30日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山下		
	テーマ	確率と統計		
9	年月日(曜日)	令和 8年12月07日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山下		
	テーマ	確率過程		
10	年月日(曜日)	令和 8年12月14日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山下		
	テーマ	確率過程		
11	年月日(曜日)	令和 8年12月21日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山下		
	テーマ	情報の符号化		
12	年月日(曜日)	令和 9年01月04日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山下		
	テーマ	情報の符号化		
13	年月日(曜日)	令和 9年01月18日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山下		
	テーマ	通信処理		
14	年月日(曜日)	令和 9年01月25日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山下		
	テーマ	生体信号への適用		
15	年月日(曜日)	令和 9年02月01日(月)	時限	6限
	講義室	大学院講義室		
	担当者	山下		
	テーマ	生体信号への適用		

講義名	生体情報計測特論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	月曜日	代表時限	4限
校地	日高キャンパス		
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	共通科目		
配当年次	1年前期		

担当教員	未定
科目の目標	生体情報計測の中でも特に医用画像計測の解析に必要な画像処理アルゴリズムやパターン認識、機械学習に関する知識と理解を深め、研究に利用できる力を養うことを目標とする。
学習の具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生体計測の種類と概要を説明することができる。 2. 画像の撮像原理や色空間など画像データについて説明することができる。 3. 基礎的な画像処理アルゴリズム（エッジ検出、平滑化、二値化、ラベリング、形状解析、テキストチャ解析、パターン認識）の原理を説明し、これらの画像処理を行うプログラムを作成することができる。 4. 機械学習の目的と種類や特徴について説明することができる。 5. 簡単なGUIプログラムを作成することができる。

授業計画表

1	担当者	未定
	テーマ	生体情報計測と画像データ
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生体計測の種類と概要を説明することができる。 2. 画像ファイルや圧縮形式の種類と特徴を説明することができる。 3. 画像の撮像原理や撮影パラメータについて説明することができる。 4. 生体信号や画像のAD変換について説明することができる。 5. 色空間やヒストグラムについて説明することができる。
2	担当者	未定
	テーマ	プログラムの構造
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. プログラムの種類を挙げるすることができる。 2. プログラムのファイル構成（ソースファイル、ヘッダファイル、実行ファイル、静的リンクライブラリ、動的リンクライブラリ）を説明することができる。 3. プログラムの要素（変数、型、配列、分岐、繰返し、関数、構造体、クラス、オブジェクト指向、例外処理、マルチスレッド、イベント等）の概要を説明することができる。
3	担当者	未定
	テーマ	画像処理実習1
	授業内容	1. ペイントやPowerPoint、Photoshopなど市販のソフトウェアを用いた画像処理を行うことができる。
4	担当者	未定
	テーマ	画像処理実習2
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. Visual C++を用いたC++言語のプログラム開発を行うことができる。 2. Visual C++とOpenCVを用いた図形の描画を行うことができる。
5	担当者	未定
	テーマ	色空間と幾何変換

授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒストグラムと統計量（平均値や標準偏差、中央値、最頻値、コントラストなど）について説明することができる。 2. 色空間の種類や特徴について説明することができる。 3. 拡大や縮小、回転など、画像の幾何変換の計算を行うことができる。 	
6	担当者	未定
	テーマ	画像の濃淡変換とフィルタ演算
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. トーンカーブについて説明することができる。 2. 疑似カラーについて説明することができる。 3. 平滑化やエッジ抽出など、フィルタ演算の仕組みについて説明することができる。 4. ラプラシアンフィルタやメディアンフィルタの仕組みと効果について説明することができる。
7	担当者	未定
	テーマ	画像処理実習3
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. Visual C++とOpenCVを用いて、画像の読み込みと保存を行うプログラムを作成することができる。 2. Visual C++とOpenCVを用いて、画像の伸縮、回転、クリッピングを行うプログラムを作成することができる。
8	担当者	未定
	テーマ	画像処理実習4
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. Visual C++とOpenCVを用いて、画像の平滑化やエッジ検出を行うプログラムを作成することができる。 2. Visual C++とOpenCVを用いて、画像の合成や疑似カラー変換を行うプログラムを作成することができる。
9	担当者	未定
	テーマ	二値化と形状解析
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 閾値や判別分析を用いた二値化法について説明することができる。 2. 二値画像の収縮・膨張処理の仕組みと効果について説明することができる。 3. 二値画像のラベリングの仕組みについて説明することができる。 4. ラベリングされた二値画像から形状特徴量（面積や円形度、重心など）を計算する方法について説明することができる。 5. ベクトル化と細線化について説明することができる。
10	担当者	未定
	テーマ	テクスチャ解析とパターン認識
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 同時生起行列やランレングス行列を用いたテクスチャ特徴量の計算式について説明することができる。 2. テンプレートマッチングの仕組みについて説明することができる。 3. 様々な特徴点検出手法と特徴点を用いたパターン認識手法について説明することができる。
11	担当者	未定
	テーマ	画像処理実習5
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. Visual C++とOpenCVを用いて、閾値を用いた二値化法、および、判別分析を用いた二値化法のプログラムを作成することができる。 2. Visual C++とOpenCVを用いて、任意の画像の形状特徴量を計算するプログラムを作成することができる。
12	担当者	未定
	テーマ	画像処理実習6
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. Visual C++とOpenCVを用いて、テンプレートマッチングを行うプログラムを作成することができる。 2. Visual C++を用いて、計算時間を測定するプログラムを作成することができる。
13	担当者	未定
	テーマ	機械学習1
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 機械学習の目的と用途について説明することができる。 2. 逆行列を用いた線形予測、および、一般化逆行列を用いた線形回帰分析（最小二乗法）について仕組みと計算式を説明することができる。 3. 重回帰分析や正準相関分析、多重ロジスティック解析について説明することができる。 4. パーセプトロンや重畳、線形分離について説明することができる。
14	担当者	未定
	テーマ	機械学習2
	授業内容	

1. 評価関数と最適化について説明することができる。
2. ニューラルネットワークについて説明することができる。
3. サポートベクターマシンについて説明することができる。
4. 生体信号（1次元のデータ）や画像（2次元のデータ）から微分値や積分値などの特徴を抽出する方法について説明することができる。
5. 深層学習（ディープラーニング）について説明することができる。
6. 画像に対する深層学習の種類と特徴について説明することができる。
7. 主成分分析（PCA）やクラスタリングなどの教師無し学習の種類や目的について説明することができる。

15	担当者	未定
	テーマ	機械学習3とGUIプログラミング
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 二値分類から多値分類への拡張法について説明することができる。 2. ダウンサンプリングやアップサンプリングについて説明することができる。 3. 特徴選択について説明することができる。 4. 混合行列や様々な精度・誤差について説明することができる。 5. 交差検証（クロスバリデーション）について説明することができる。 6. 深層学習のプーリングについて説明することができる。 7. アンサンブル学習や敵対的生成ネットワーク（GAN）について説明することができる。 8. C#を用いた簡単なGUIプログラミングを行うことができる。

(14条特例)

1	担当者	未定
	テーマ	生体情報計測と画像データ
2	担当者	未定
	テーマ	プログラムの構造
3	担当者	未定
	テーマ	画像処理実習1
4	担当者	未定
	テーマ	画像処理実習2
5	担当者	未定
	テーマ	色空間と幾何変換
6	担当者	未定
	テーマ	画像の濃淡変換とフィルタ演算
7	担当者	未定
	テーマ	画像処理実習3
8	担当者	未定
	テーマ	画像処理実習4
9	担当者	未定
	テーマ	二値化と形状解析
10	担当者	未定
	テーマ	テクスチャ解析とパターン認識
11	担当者	未定
	テーマ	画像処理実習5
12	担当者	未定
	テーマ	画像処理実習6
13	担当者	未定
	テーマ	機械学習1
14	担当者	未定
	テーマ	機械学習2
15	担当者	未定
	テーマ	機械学習3とGUIプログラミング

評価方法

講義期間中のレポートや出席状況・授業態度によって評価する。

教科書	デジタル画像処理編集委員会（著），“デジタル画像処理[改訂第二版]”，画像情報教育振興協会（CG-ARTS協会），2022.
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照
履修上の注意、履修要件	履修条件はありません。プログラム未経験者でも構いません。 ※2026年（令和8年）度は未開講とする。

講義名	人間工学特論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	水曜日	代表時限	6限
校地	日高キャンパス		
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/生体医工学分野		
配当年次	1年後期		

担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	◎ 宮本 裕一	臨床工学科教員

担当教員	宮本 裕一
科目の目標	幅広い概念を有する人間工学において、特に医療機器の規制に関する理解を深めることで、医療にかかわる人材に必要な人間工学的観点からの資質を認識する。
学習の具体的な目標	人間工学は、エルゴノミクスやヒューマンファクターとも呼ばれており、安全で使いやすい医療機器をつくることにも役立つ実践的な科学技術である。 人間工学が対象とする人間以外の他の要素には、(a)作業・仕事、(b)道具・機器、(c)モノ・作業場などの設計、(d)物理環境、(e)組織・マネジメント、(f)法規（規制）なども含まれる。我が国における医療機器の製造および品質管理に関する規制には、このような人間工学を意識した数多くの要求事項が存在する。すなわち、現在我が国に流通している医療機器の有効性、安全性およびその品質は、人間工学に基づく科学的なエビデンスによって担保されているとも言える。 当該科目では、近年提唱されている医療機器におけるレギュラトリーサイエンス（科学技術の成果を人と社会との調和のうえで最も望ましい姿に調整するための科学）、特に医療機器の製造及び品質管理に係る規制の理解を通し、人間工学が人々の安全・安心・快適・健康の保持・向上に貢献する実践科学であることを認識することを目標とする。

授業計画表				
1	年月日(曜日)	令和 8年10月01日(木)	時限	3限
	担当者	宮本		
	テーマ	人間工学とは、その定義と範囲		
	授業内容	1. 人間工学の定義について説明できる。 2. 人間工学の範囲について説明できる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月08日(木)	時限	3限
	担当者	宮本		
	テーマ	我が国における医療機器規制の概要		
	授業内容	1. 医療機器に係る規制全般について概説できる。 2. 医療機器のクラス分類について説明できる。 3. 医療機器規制国際整合化会議について説明できる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月15日(木)	時限	3限
	担当者	宮本		

テーマ	医療機器製造業と製造販売業			
授業内容	1. 医療機器製造業の定義とその許可権者について説明できる。 2. 医療機器製造販売業の定義とその許可権者について説明できる。 3. 製造業および製造販売業の許可要件を列挙できる。			
4	年月日(曜日)	令和 8年10月22日(木)	時限	3限
	担当者	宮本		
	テーマ	医療機器の承認審査制度		
	授業内容	1. 我が国における医療機器の承認プロセスについて概説できる。 2. 承認審査、信頼性調査およびQMS調査のそれぞれの役割について説明できる。 3. 医薬品医療機器総合機構について説明できる。		
5	年月日(曜日)	令和 8年10月29日(木)	時限	3限
	担当者	宮本		
	テーマ	医療機器製造業者の品質システム(QMS)		
	授業内容	1. 医療機器製造業者が備えるべき品質管理監督システムの概要を説明できる。 2. ISO13485とQMS省令について説明できる。 3. QMS調査の役割を説明できる。		
6	年月日(曜日)	令和 8年11月05日(木)	時限	3限
	担当者	宮本		
	テーマ	QMSにおける8つのサブシステムとその役割		
	授業内容	1. QMSにおける8つのサブシステムを列挙できる。 2. 各サブシステムの内容を説明できる。 3. 各サブシステム間の関係を説明できる。		
7	年月日(曜日)	令和 8年11月12日(木)	時限	3限
	担当者	宮本		
	テーマ	QMSにおける管理監督サブシステム		
	授業内容	1. 管理監督サブシステムに含まれる製造業者の活動を説明できる。 2. 品質方針の重要性を説明できる。 3. 関連するQMS省令の要求事項との紐付けができる。		
8	年月日(曜日)	令和 8年11月19日(木)	時限	3限
	担当者	宮本		
	テーマ	QMSにおける設計管理サブシステム		
	授業内容	1. 設計管理サブシステムに含まれる製造業者の活動を説明できる。 2. 医療機器のリスクマネジメントの概要を説明できる。 3. 関連するQMS省令の要求事項との紐付けができる。		
9	年月日(曜日)	令和 8年11月26日(木)	時限	3限
	担当者	宮本		
	テーマ	QMSにおける製造・製品サブシステム		
	授業内容	1. 製造・製品サブシステムに含まれる製造業者の活動を説明できる。 2. 製品標準書について説明できる。 3. 関連するQMS省令の要求事項および通知との紐付けができる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年12月03日(木)	時限	3限
	担当者	宮本		
	テーマ	QMSにおける購買管理サブシステム		
	授業内容	1. 購買管理サブシステムに含まれる製造業者の活動を説明できる。 2. サプライヤの定義を説明できる。 3. 関連するQMS省令の要求事項との紐付けができる。		
11	年月日(曜日)	令和 8年12月10日(木)	時限	3限
	担当者	宮本		
	テーマ	QMSにおける文書管理・製品受領者サブシステム		
	授業内容	1. 文書管理・製品受領者サブシステムに含まれる製造業者の活動を説明できる。 2. 文書体系図について説明できる。 3. 承認書の品目仕様について説明できる。 4. 関連するQMS省令の要求事項との紐付けができる。		
12	年月日(曜日)	令和 8年12月17日(木)	時限	3限

担当者	宮本			
テーマ	QMSにおける是正措置・予防措置サブシステム (CAPA)			
授業内容	1. CAPAの定義について説明できる。 2. 是正措置・予防措置サブシステムに含まれる製造業者の活動を説明できる。 3. 関連するQMS省令の要求事項との紐付けができる。			
13	年月日(曜日)	令和 8年12月24日(木)	時限	3限
	担当者	宮本		
	テーマ	QMS調査における不適合事例の紹介		
	授業内容	1. QMS省令への適合性について説明できる。 2. 8つのサブシステムのうち、いずれかに対するQMS省令への不適合事例を挙げることができる。		
14	年月日(曜日)	令和 9年01月07日(木)	時限	3限
	担当者	宮本		
	テーマ	QMS調査における不適合事例の紹介		
	授業内容	1. QMS省令への適合性について説明できる。 2. 8つのサブシステムのうち、いずれかに対するQMS省令への不適合事例を挙げることができる。		
15	年月日(曜日)	令和 9年01月14日(木)	時限	3限
	担当者	宮本		
	テーマ	まとめ		
	授業内容	医療機器規制の概要全般について説明できる。		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年10月01日(木)	時限	6限
	担当者	宮本		
	テーマ	人間工学とは、その定義と範囲		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月08日(木)	時限	6限
	担当者	宮本		
	テーマ	我が国における医療機器規制の概要		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月15日(木)	時限	6限
	担当者	宮本		
	テーマ	医療機器製造業と製造販売業		
4	年月日(曜日)	令和 8年10月22日(木)	時限	6限
	担当者	宮本		
	テーマ	医療機器の承認審査制度		
5	年月日(曜日)	令和 8年10月29日(木)	時限	6限
	担当者	宮本		
	テーマ	医療機器製造業者の品質システム (QMS)		
6	年月日(曜日)	令和 8年11月05日(木)	時限	6限
	担当者	宮本		
	テーマ	QMSにおける8つのサブシステムとその役割		
7	年月日(曜日)	令和 8年11月12日(木)	時限	6限
	担当者	宮本		
	テーマ	QMSにおける管理監督サブシステム		
8	年月日(曜日)	令和 8年11月19日(木)	時限	6限
	担当者	宮本		
	テーマ	QMSにおける設計管理サブシステム		
9	年月日(曜日)	令和 8年11月26日(木)	時限	6限
	担当者	宮本		
	テーマ	QMSにおける製造・製品サブシステム		

10	年月日(曜日)	令和 8年12月03日(木)	時限	6限
	担当者	宮本		
	テーマ	QMSにおける購買管理サブシステム		
11	年月日(曜日)	令和 8年12月10日(木)	時限	6限
	担当者	宮本		
	テーマ	QMSにおける文書管理・製品受領者サブシステム		
12	年月日(曜日)	令和 8年12月17日(木)	時限	6限
	担当者	宮本		
	テーマ	QMSにおける是正措置・予防措置サブシステム(GAPA)		
13	年月日(曜日)	令和 8年12月24日(木)	時限	6限
	担当者	宮本		
	テーマ	QMS調査における不適合事例の紹介		
14	年月日(曜日)	令和 9年01月07日(木)	時限	6限
	担当者	宮本		
	テーマ	QMS調査における不適合事例の紹介		
15	年月日(曜日)	令和 9年01月14日(木)	時限	6限
	担当者	宮本		
	テーマ	まとめ		
評価方法	課題およびレポートによって評価する。			
教科書	特になし			
参考書	よくわかる改正薬事法(医療機器編) 薬事日報社 対訳ISO13485医療機器における品質マネジメントシステムの国際規格、日本規格協会			
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照			
履修上の注意、履修要件	特になし			

講義名	レーザー医工学特論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	木曜日	代表時限	6限
校地	日高キャンパス		
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/生体医工学分野		
配当年次	1年前期		

担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	◎ 笠松 直史	臨床工学科教員

担当教員	笠松 直史・田邊 一郎・宮本 裕一
科目の目標	臨床医学および基礎医学・生物学でなくてはならないレーザー光源および生体医工学応用分野に関し、光学・レーザー（量子エレクトロニクス）の基礎、そして光エレクトロニクスを学んだあと、レーザー装置の安全な操作の概要を修得する。適宜、動画、グループ討論などのワークショップやモノに触るハンズオン形式を取り入れ、手触り感のある実践的な内容とする。後半では生体の光学的特性、生体光学応用、レーザーの医用応用の実際について理解する。
学習の具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. レーザーの基礎（原理と特徴）と各種レーザーの種類、構成、特徴を理解する。 2. レーザーの応用分野について理解し、レーザーの操作実際と安全管理を修得する。 3. 医用レーザーの生体への作用因子を理解する。 4. 生体組織の光特性について理解する。 5. 生体分光法について理解する。 6. 医用レーザーの計測・診断法の実際について修得する。 7. 医用レーザー治療法の実際について修得する。 8. 先端医用レーザー研究の現状と今後について理解を深める。

授業計画表				
1	年月日(曜日)	令和 8年04月16日(木)	時限	2限
	担当者	笠松		
	テーマ	光学の基礎（幾何光学・波動光学）		
	授業内容	古典光学（幾何光学・波動光学）を概観し、光学の原理を説明できる。 ※適宜、簡単な光学デバイス（ピンホールカメラ、ヤングの干渉計など）の現物を見ることで理解を深める。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月23日(木)	時限	2限
	担当者	笠松		
	テーマ	レーザー・量子エレクトロニクスの基礎		
	授業内容	・レーザーの動作原理、特徴を理解し、説明できる。量子エレクトロニクスの基礎を学び、固体レーザー、気体レーザー、色素レーザー、半導体レーザーなどの特徴を説明できる。 ※適宜、実験室で実際のレーザー装置を見学する。		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月30日(木)	時限	2限
	担当者	笠松		

テーマ	光エレクトロニクスの応用分野			
授業内容	1. 光エレクトロニクスを利用した各種光学機器の種類や構造を理解できる。 2. 医療面におけるレーザーの利用法（診断、治療など）を説明できる。 ※適宜、動画視聴なども行う。			
4	年月日(曜日)	令和 8年05月07日(木)	時限	2限
	担当者	笠松		
	テーマ	光の実践的知識とレーザー安全		
	授業内容	1. 各種レーザー装置の正しい使用法を理解できる。 2. レーザー光の危険性を理解し、その防御法と安全な操作法を説明できる。 ※適宜、実際に実験室に行き、具体的にモノを見る。		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月14日(木)	時限	2限
	担当者	宮本		
	テーマ	医用レーザーの生体への作用因子（波長、強度）		
	授業内容	1. 生体に作用するレーザー光の作用機序について理解できる。 2. 各種レーザーの波長に対する生体の反応について説明できる。		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月21日(木)	時限	2限
	担当者	宮本		
	テーマ	生体組織の光特性Ⅰ（光感受性の特徴）		
	授業内容	1. 生体組織の光感受性について、臓器別に説明できる。 2. レーザー光に対する光感受性の機序について説明できる。		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月28日(木)	時限	2限
	担当者	田邊		
	テーマ	生体組織の光特性Ⅱ（熱伝導性と熱緩和）		
	授業内容	1. 生体組織の、レーザーに対する熱伝導性について理解できる。 2. 各種レーザーの生体に対する発熱特性について説明できる。		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月04日(木)	時限	2限
	担当者	宮本		
	テーマ	生体組織の光特性Ⅲ（光感受性色素について）		
	授業内容	1. 光感受性物質の作用機序を理解できる。 2. 光感受性物質の種類や応用について説明できる。		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月11日(木)	時限	2限
	担当者	田邊		
	テーマ	生体分光法Ⅰ（励起と生体蛍光の理論）		
	授業内容	1. レーザー光に対する生体蛍光の発現機序を理解できる。 2. 生体蛍光の種類や、組織別の特徴について説明できる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月18日(木)	時限	2限
	担当者	宮本		
	テーマ	生体分光法Ⅱ（短時間・高強度レーザーの使用）		
	授業内容	1. パルスレーザーの種類と特性について理解できる。 2. パルスレーザーの生体作用の特徴について説明できる。		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月25日(木)	時限	2限
	担当者	田邊		
	テーマ	生体分光法Ⅲ（生体の蛍光診断法）		
	授業内容	1. 診断に使用される生体蛍光の特徴について理解できる。 2. 蛍光診断法の装置とその利用について説明できる。		
12	年月日(曜日)	令和 8年07月02日(木)	時限	2限
	担当者	笠松		
	テーマ	医用レーザー計測・診断法の実際		
	授業内容	ワークショップ形式で医用レーザー計測の原理と実際を学ぶ。 1. Optical Coherence Tomographyの原理と利用法について理解できる。 2. 医用レーザーを用いた各種診断法について理解できる。		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月09日(木)	時限	2限

担当者	笠松			
テーマ	医用レーザー治療法の実際			
授業内容	1. 医用レーザーを用いた各種治療法について理解できる。 2. 医用レーザー治療装置の構造や治療法の効果、安全性について説明できる。			
14	年月日(曜日)	令和 8年07月16日(木)	時限	2限
	担当者	笠松		
	テーマ	先端医用レーザー研究の最前線		
	授業内容	1. 先端医用レーザーの研究動向について理解できる。 2. 今後の進展方向を踏まえた研究の企画立案ができる。		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月23日(木)	時限	2限
	担当者	笠松		
	テーマ	まとめ および レポート課題の提示		
	授業内容	レーザーの医用応用のまとめ・総合討議 ・自身の研究内容を簡単にプレゼンし、質疑討論を行い、視野を広げる。 ・今後の研究の方向性を自身で納得のいくものにしていく。		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年04月16日(木)	時限	6限
	担当者	笠松		
	テーマ	レーザーの基礎 (原理と特徴)		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月23日(木)	時限	6限
	担当者	笠松		
	テーマ	レーザー・量子エレクトロニクスの基礎		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月30日(木)	時限	6限
	担当者	笠松		
	テーマ	光エレクトロニクスの応用分野		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月07日(木)	時限	6限
	担当者	笠松		
	テーマ	光の実践的知識とレーザー安全		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月14日(木)	時限	6限
	担当者	宮本		
	テーマ	医用レーザーの生体への作用因子 (波長、強度)		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月21日(木)	時限	6限
	担当者	宮本		
	テーマ	生体組織の光特性 I (光感受性の特徴)		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月28日(木)	時限	6限
	担当者	田邊		
	テーマ	生体組織の光特性 II (熱伝導性と熱緩和)		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月04日(木)	時限	6限
	担当者	宮本		
	テーマ	生体組織の光特性 III (光感受性色素について)		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月11日(木)	時限	6限
	担当者	田邊		
	テーマ	生体分光法 I (励起と生体蛍光の理論)		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月18日(木)	時限	6限
	担当者	宮本		
	テーマ	生体分光法 II (短時間・高強度レーザーの使用)		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月25日(木)	時限	6限

担当者	田邊			
テーマ	生体分光法Ⅲ（生体の蛍光診断法）			
12	年月日(曜日)	令和 8年07月02日(木)	時限	6限
	担当者	笠松		
	テーマ	医用レーザー計測・診断法の実際		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月09日(木)	時限	6限
	担当者	笠松		
	テーマ	医用レーザー治療法の実際		
14	年月日(曜日)	令和 8年07月16日(木)	時限	6限
	担当者	笠松		
	テーマ	先端医用レーザー研究の最前線		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月23日(木)	時限	6限
	担当者	笠松		
	テーマ	まとめ および レポート課題の提示		
評価方法	・講義の際に関連した試験やレポートを課し、その内容によって評価する。			
教科書	・授業毎に、内容に沿った資料を配布する。 ・特になし			
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照			
履修上の注意、履修要件	特になし			

講義名	光応用計測特論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	火曜日	代表時限	7限
校地	日高キャンパス		
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/生体医工学分野		
配当年次	1年後期		

担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	◎ 若山 俊隆	臨床工学科教員

担当教員	若山 俊隆
科目の目標	現在、医学および生命工学において、光を用いた機器は診療診断と共に新しい生命科学現象を発見するために必要不可欠なツールと考えることができる。光そのものの持つポテンシャルを基礎から学び、それらを医学および生命工学に応用する知識を得ることは今後の自然科学を学ぶ上で極めて重要になると考えられる。このような点から、光の本質から顕微鏡、治療診断そして最先端の光学とフォトンクスを学ぶ。
学習の具体的な目標	光は生命現象を非侵襲のうちにイメージングすることを達成し、その物質の物性さえも分析できることから創薬や医学の臨床研究にも多大な貢献が期待されている。光の歴史は古いのにもかかわらず、現在も新しい光物理現象が見出され、その現象を利用した光学機械や顕微鏡、光診断装置等が開発されている。このような点から光がもつ基本的な性質を波動性と粒子性に大別し、光学とフォトンクスの両面から基礎と応用をそれぞれ概説する。

授業計画表		
1	担当者	若山
	テーマ	光およびレーザーの基本性質 (1)
	授業内容	1. 光の二重性について説明できる。 2. 光のコヒーレンスについて説明できる。
2	担当者	若山
	テーマ	光およびレーザーの基本性質 (2)
	授業内容	1. 光の伝搬について説明できる。 2. エバネッセント場について説明できる。
3	担当者	若山
	テーマ	生体の光物性 (1)
	授業内容	1. 生体のモデル化について説明できる。
4	担当者	若山
	テーマ	生体の光物性 (2)
	授業内容	1. 生体と光の非線形相互作用を説明できる。 2. 生体と光学特性を説明できる。

5	担当者	若山
	テーマ	光の生体組織への作用
	授業内容	1. 光熱的作用と光音響的作用を説明することができる。
6	担当者	若山
	テーマ	光の生体組織への作用
	授業内容	1. 光機械的作用と光解離的作用を説明することができる。
7	担当者	若山
	テーマ	光線力学的療法
	授業内容	1. 光線力学的治療の概念と作用機序を説明することができる。 2. 光増感剤について説明することができる。
8	担当者	若山
	テーマ	分光診断（1）
	授業内容	1. 吸収・散乱分光診断について説明できる。
9	担当者	若山
	テーマ	分光診断（2）
	授業内容	1. 蛍光分光診断について説明できる。
10	担当者	若山
	テーマ	分光診断（3）
	授業内容	1. ラマン分光診断について説明できる。
11	担当者	若山
	テーマ	プロテオミクスへの応用
	授業内容	1. マトリックス支援レーザー脱離イオン化法について説明できる。 2. MALDI法におけるレーザー波長の重要性について説明できる。 3. プロテオミクスにおけるMALDI法の今後の展開について説明できる。
12	担当者	若山
	テーマ	光トポグラフィ
	授業内容	1. 光トポグラフィとその原理について説明できる。 2. 光トポグラフィの応用と今後の展望、そして、課題について説明できる。
13	担当者	若山
	テーマ	光拡散トモグラフィ
	授業内容	1. 連続光による光CTについて説明できる。 2. 超短波パルス光による光CTについて説明できる。 3. 強度変調光による光CTについて説明できる。
14	担当者	若山
	テーマ	光音響トモグラフィ
	授業内容	1. 光音響トモグラフィの原理について説明できる。 2. 皮膚のイメージングについて説明できる。 3. 脳機能イメージングについて説明できる。
15	担当者	若山
	テーマ	マルチスペクトルイメージング
	授業内容	1. カメラ方式とフィルタの機能について説明できる。 2. 肌解析や内視鏡画像への応用について説明できる。

(14条特例)

1	担当者	若山
	テーマ	光およびレーザーの基本性質（1）
	授業内容	1. 光の二重性について説明できる。 2. 光のコヒーレンスについて説明できる。
2	担当者	若山
	テーマ	光およびレーザーの基本性質（2）
	授業内容	

1. 光の伝搬について説明できる。		
2. エバネッセント場について説明できる。		
3	担当者	若山
	テーマ	生体の光物性 (1)
	授業内容	1. 生体のモデル化について説明できる。
4	担当者	若山
	テーマ	生体の光物性 (2)
	授業内容	1. 生体と光の非線形相互作用を説明できる。 2. 生体と光学特性を説明できる。
5	担当者	若山
	テーマ	光の生体組織への作用
	授業内容	1. 光熱的作用と光音響的作用を説明することができる。
6	担当者	若山
	テーマ	光の生体組織への作用
	授業内容	1. 光機械的作用と光解離的作用を説明することができる。
7	担当者	若山
	テーマ	光線力学的療法
	授業内容	1. 光線力学的治療の概念と作用機序を説明することができる。 2. 光増感剤について説明することができる。
8	担当者	若山
	テーマ	分光診断 (1)
	授業内容	1. 吸収・散乱分光診断について説明できる。
9	担当者	若山
	テーマ	分光診断 (2)
	授業内容	1. 蛍光分光診断について説明できる。
10	担当者	若山
	テーマ	分光診断 (3)
	授業内容	1. ラマン分光診断について説明できる。
11	担当者	若山
	テーマ	プロテオミクスへの応用
	授業内容	1. マトリックス支援レーザー脱離イオン化法について説明できる。 2. MALDI法におけるレーザー波長の重要性について説明できる。 3. プロテオミクスにおけるMALDI法の今後の展開について説明できる。
12	担当者	若山
	テーマ	光トポグラフィ
	授業内容	1. 光トポグラフィとその原理について説明できる。 2. 光トポグラフィの応用と今後の展望、そして、課題について説明できる。
13	担当者	若山
	テーマ	光拡散トモグラフィ
	授業内容	1. 連続光による光CTについて説明できる。 2. 超短波パルス光による光CTについて説明できる。 3. 強度変調光による光CTについて説明できる。
14	担当者	若山
	テーマ	光音響トモグラフィ
	授業内容	1. 光音響トモグラフィの原理について説明できる。 2. 皮膚のイメージングについて説明できる。 3. 脳機能イメージングについて説明できる。
15	担当者	若山
	テーマ	マルチスペクトルイメージング
	授業内容	1. カメラ方式とフィルタの機能について説明できる。 2. 肌解析や内視鏡画像への応用について説明できる。

評価方法	レポート課題とプレゼンテーション
教科書	バイオメディカルフォトニクス
参考書	適宜、配布する
連絡先/オフィスアワー	Email : wakayama@saitama-med.ac.jp / 火曜日5限
履修上の注意、履修要件	特になし

講義名	生体医工学演習		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	4	時間	120.00
代表曜日		代表時限	
校地	日高キャンパス		
単位数	4単位/120時間		
必修・選択	専門科目/生体医工学分野		
配当年次	2年通年		

担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	◎ 若山 俊隆	臨床工学科教員

担当教員	若山 俊隆・下岡 聡行・宮本 裕一・笠松 直史・山下 高生・奥村 高広・川邊 学・脇田 政嘉・白石 直子・小林 直樹・スコ バグース トリスナント
科目の目標	生体安全工学、生体システム工学、生体信号処理および生体計測制御といった融合領域において、特別研究を進めるために、高い専門性と最新の研究に基づく知識、理解力および議論するためのコミュニケーション能力および専門的技術力が必要となる。このため、少人数グループで専門的教科書、教材等を用いた輪講および専門分野の学術論文、国際会議資料などを用いた論文抄読会および特別研究に必要な装置の操作習熟、プログラム作成などを進めることにより、専門知識を高めるとともに、理解力およびコミュニケーション能力および専門技術力を身に付けることを目標とする。
学習の具体的な目標	生体安全工学、生体システム工学、生体信号処理および生体計測制御における課題解決に必要な専門性の高い知識と理解力および課題解決に必要なコミュニケーション能力を養うため以下の演習を行う。 1. 専門性の高い教科書、教材等を用いた知識学習、理解とともに、輪講形式による報告、議論を行う。 2. 専門分野の学術論文、国際会議資料などを題材とした専門分野に関する知識の習得、理解を深めるとともに、と定期的報告会および議論を行う。 3. 研究に関連した専門的な技術修得のための実験機材操作や計算機プログラム作成を行う。

授業計画表		
1	テーマ	<p>1. 若山 俊隆：光工学とそれらの医学応用に関する輪講。レーザ光源、光検出器の操作や信号解析・画像解析のプログラミング。および工作機械の修得。</p> <p>2. 下岡 聡行：生体システム制御技術に関する輪講および電気機能制御装置の操作およびプログラミングの修得。</p> <p>3. 宮本 裕一：低出力レーザ医療全般に関する輪講、および細胞培養技術と各種レーザ装置の操作方法の修得。</p> <p>4. 笠松 直史：レーザ医工学全般に関する輪講、およびレーザ・光学技術、非線形光学技術の習得。</p> <p>5. 山下 高生：統計解析、機械学習に関する輪講、および、データ解析・機械学習、ライブラリや大規模データ処理技術を用いたプログラミング技術の習得</p> <p>6. 奥村 高広：連続循環型および不連続循環型人工心臓に関する輪講。流体力学関連の計測技術の修得</p> <p>7. 川邊 学：医用機器安全および電磁環境管理に関する輪講。電磁環境関連の計測技術の修得。</p> <p>8. 脇田 政嘉：細胞生物学、生物物理学に関する輪講、および生体試料の取扱い法と生化学・生物物理学の実験手法の修得。</p> <p>9. 白石 直子：体外循環の病態生理に関する輪講。血液や細胞を使用した実験手法の習得。</p> <p>10. 小林 直樹：生体信号処理、画像処理に関する輪講、および信号処理・画像処理のプログラミング修得。</p> <p>11. スコ バグース トリスナント：磁性体および生体磁気工学に関する輪講。高感度磁気計測技術、信号処理・画像再構成のプログラミング技術の修得。</p>
	授業内容	

1. 輪講および学術論文討論

1回目：オリエンテーション（本演習の薦め方および教材および輪講分担の指示など）

2～30回目：毎週、輪講を2時限、学術論文 2時限 の計4時限を定期的に定め、事前学習の報告および報告に対する議論をグループで行う。事前学習は、教材分担および学術論文などを担当に割当て、輪講および討論の前に行わせる。

2. 専門技術の修得演習 毎週4時限以上を使い下記の演習を行う。報告会は指導者ごとに行う。

1週目：オリエンテーション 専門技術の修得に必要な項目および演習予定の説明

2週目～4週目：専門的装置に関する原理および操作法の理解

5週目～7週目：専門的装置を用いた実験検証

8週目：第一回演習報告

9週目～11週目：実験用プログラム等作成

12週目～14週目：実験用プログラミング等の動作確認検証

15週目：第二回演習報告

16週目：研究テーマに即した演習項目および予定の説明

17週目～19週目：研究テーマに即した専門的装置に関する原理および操作法の理解

20週目～22週目：研究テーマに即した専門的装置を用いた実験検証

23週目：第三回演習報告

24週目～26週目：テーマ実験用プログラミング等作成

27週目～29週目：テーマ実験用プログラミング等の動作確認検証

30週目：第四回演習報告

【準備学習】事前に研究テーマに関する文献を検索し、関連文献のリストおよび取得をしておくこと

評価方法	事前の学習度合いおよび報告、討論、報告会などにおいての知識、理解の修得状況、コミュニケーション力、専門技術修得力などを総合的に評価する。
教科書	特になし
参考書	特になし
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照
履修上の注意、履修要件	事前学習、学術論文の理解、技術修得など主体的に行うように心がけ、専門的能力を養うこと。

講義名	生体医工学特別研究		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	通年	講義区分	実験
基準単位数	8	時間	240.00
代表曜日		代表時限	
校地	日高キャンパス		
単位数	8単位/240時間		
必修・選択	専門科目/生体医工学分野		
配当年次	2年通年		

担当教員		
職種	氏名	所属
指定なし	◎ 若山 俊隆	臨床工学科教員

担当教員	若山 俊隆・下岡 聡行・宮本 裕一・笠松 直史・山下 高生・奥村 高広・川邊 学・脇田 政嘉・白石 直子・小林 直樹・スコ バグース トリスナント
科目の目標	臨床工学と生体工学、光医学、情報工学の融合領域における最新の研究動向を踏まえ、生体安全工学、生体システム工学、生体信号処理、人間工学および生体情報計測における未解決の問題に関する研究の指導と実践を行う。 指導教員および副指導教員の指導によって、生体医工学に関する研究計画を策定し、その研究計画の下で実験や理論を展開して研究論文を仕上げていく。この過程を通して、当該分野の高度な専門知識と実験技術、自主的、計画的に研究を推進し直面する問題を解決する能力、創造力などを身につけることを目標とする。
学習の具体的な目標	臨床工学と生体工学、光医学、情報工学の融合領域の融合領域の課題に以下の手順で研究の指導と実践を行う。 第1段階では、研究テーマの設定に必要な文献調査、指導を受ける研究領域の動向、将来性などについて文献調査を行い、研究計画を策定する。 第2段階では、研究計画に基づき、計画的に研究を遂行する。その過程で、機材や実験装置の設計と組立て、ソフトウェア開発、データや文献収集などを行い研究を進め、定期的に進捗状況を検討会で報告し、課題の把握、解決方法を議論する。これらを通じて専門的知識と共に合理的な研究方法を修得する。 第3段階では、得られたデータを整理して吟味し、論理的な解釈を加える。さらに、成果をとりまとめて学会等に発表すると共に、その際に得られた意見等を考慮して修士論文をとりまとめる。これらの過程を通して、研究のまとめ方、発表の仕方、論文記述の方法、的確な質疑応答の方法などを学び修得する。

授業計画表

1	<p>テーマ</p> <p>1. 若山 俊隆：手術用の次世代三次元誘導システムおよび病理検査用の先端光学顕微鏡の開発：光応用計測技術および特殊光波の物理を通して修士論文の指導を行う。</p> <p>2. 下岡 聡行：免疫細胞に対する電気刺激による機能制御の検討：生体システムのモデリングと人為的な機能制御手法の検討に関する研究を通して修士論文の指導を行う。</p> <p>3. 宮本 裕一：光線力学的細胞傷害作用に関する基礎研究：表在性早期がんの根治的療法として確立されている光線力学的治療における細胞傷害機構の解明と新たな応用先についての研究を通して修士論文の指導を行う。</p> <p>4. 笠松 直史：光線力学療法の深達度向上に関する基礎研究：レーザおよび量子光学技術を用いた2光子励起光線力学療法の研究を通し、修士論文の指導を行う。</p> <p>5. 山下 高生：統計解析手法・機械学習を用いた臨床データの分析・診断技術に関する研究：時系列視覚・聴覚情報の生体への影響の定量化、および、通信・分散システムの医療応用技術の研究を通して修士論文の指導を行う。</p> <p>6. 奥村 高広：経路に依存しない体外循環技術の開発：バルブ式半閉鎖型体外循環法VACCの開発およびローポンプの圧閉度の数値化の研究を通して修士論文の指導を行う。</p> <p>7. 川邊 学：医用機器安全と電磁環境管理の研究：医用機器安全およびテレメータ利用環境などの電磁環境管理に関する研究および開発を通して修士論文の指導を行う。</p>
---	---

8. 脇田 政嘉：物理的刺激が生体におよぼす影響に関する研究：物理的刺激が生体（主に幹細胞）におよぼす影響を生化学および生物物理学的手法を用いて調べる研究を通して修士論文の指導を行う。
9. 白石 直子：体外循環が生体に与える影響に関する研究：異物接触や物理的刺激が血液に及ぼす影響を調べ、生体にやさしい体外循環法を確立する研究を通して修士論文の指導を行う。
10. 小林 直樹：映像の生体影響の定量化および医用画像の定量化に関する研究：映像の視覚刺激による生体影響の定量的測定法および医用画像処理による定量的診断の研究を通して修士論文の指導を行う。
11. スコ バグース トリスナント：脳診断用磁気粒子イメージング装置の開発：ナノ構造体の非線形磁化応答を用いた断層画像化の研究を通して修士論文の指導を行う。

授業内容

【授業計画（日高キャンパス）】

- 1週：オリエンテーション（修士論文の最終目標を理解する）
- 2-4週：文献調査、資料収集（研究課題関連領域の研究動向の理解と解決すべき問題点を理解する）
- 5週：研究計画の策定（研究課題の進め方を理解する）
- 6-7週：研究機材の準備（具体的研究方法、研究機材の性能、取扱いなどを理解する）
- 8-15週：研究の推進（計画に従い研究を進め、各時点における問題点や課題を把握して解決方法を考え、専門的な知識と共に合理的な研究の進め方を学ぶ）および中間発表準備
- 16週：中間発表（中間発表を通じ、第3者に理解させる方法、質疑応答の方法を学ぶ）
- 17週：中間発表の結果を考慮した研究計画の修正（効果的な研究推進方法を学ぶ）
- 18-26週：修正した研究計画に基づく研究の推進（期待した成果を得るための研究推進方法を学ぶ。学会等で発表等を通じて学会で学んだこと成果に反映させる）
- 17-29週：研究のとりまとめと論文作成（研究のまとめ方、論文の書き方を学ぶ）
- 30週：論文発表準備（研究のまとめ方、発表技術、質疑応答技術などを学ぶ）

【準備学習】研究テーマに関連する他の研究をサーベイし、研究計画を立てておくこと

評価方法	研究の意義、有用性、研究方法の妥当性、研究結果の正確性、新規性の程度、修士論文の品質、学会発表などの成果物の品質、修士論文発表会の質疑応答などにより総合的に評価する。
教科書	特になし
参考書	特になし
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照
履修上の注意、履修要件	問題や課題の発見と解決を常に主体的に行うように心がけ、研究遂行能力を養うこと。

講義名	理学療法研究方法論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	水曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/理学療法学分野		
配当年次	1年前期		

担当教員		
職種	氏名	所属
理学療法士	◎ 高倉 保幸	理学療法学科教員

担当教員	高倉 保幸・赤坂 清和
科目の目標	理学療法分野における質の高い研究に必要な知識を修得する。
学習の具体的な目標	1. システマティックレビューを理解し、読み取ることができる。 2. メタアナリシスを理解し、読み取ることができる。 3. 理学療法研究における統計の活用の仕方を説明できる。

授業計画表				
1	年月日(曜日)	令和 8年04月13日(月)	時限	4限
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	高倉		
	テーマ	理学療法研究におけるデータの取り方		
	授業内容	データの特性に応じて適切にデータを収集できる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月20日(月)	時限	1
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	高倉		
	テーマ	理学療法研究におけるカイニ乗検定の活用		
	授業内容	1. 理学療法分野におけるカイニ乗検定の活用の仕方を説明できる。 2. カイニ乗検定の結果を適切に解釈できる。 3. カイニ乗検定の結果を適切に記述できる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月27日(月)	時限	1
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	高倉		
	テーマ	理学療法研究におけるt検定の活用		
	授業内容	1. 理学療法分野におけるt検定の活用の仕方を説明できる。 2. t検定の結果を適切に解釈できる。 3. t検定の結果を適切に記述できる。		

4	年月日(曜日)	令和 8年05月11日(月)	時限	4限
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	高倉		
	テーマ	理学療法研究における一元配置分散分析の活用		
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法分野における一元配置分散分析の活用の仕方を説明できる。 2. 一元配置分散分析の結果を適切に解釈できる。 3. 一元配置分散分析の結果を適切に記述できる。 		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月18日(月)	時限	4限
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	高倉		
	テーマ	理学療法研究における信頼性の検定の活用		
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法分野における信頼性の検定の活用の仕方を説明できる。 2. 信頼性の検定の結果を適切に解釈できる。 3. 信頼性の検定の結果を適切に記述できる。 		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月25日(月)	時限	4限
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	高倉		
	テーマ	理学療法研究における因子分析の活用		
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法分野における因子分析の活用の仕方を説明できる。 2. 因子分析の結果を適切に解釈できる。 3. 因子分析の結果を適切に記述できる。 		
7	年月日(曜日)	令和 8年06月01日(月)	時限	4限
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	高倉		
	テーマ	理学療法研究における回帰分析の活用		
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法分野における回帰分析の活用の仕方を説明できる。 2. 回帰分析の結果を適切に解釈できる。 3. 回帰分析の結果を適切に記述できる。 		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月08日(月)	時限	4限
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	高倉		
	テーマ	理学療法研究におけるその他の統計手法の活用		
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法分野におけるその他の統計手法の活用の仕方を説明できる。 2. その他の統計手法の結果を適切に解釈できる。 3. その他の統計手法の結果を適切に記述できる。 		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月15日(月)	時限	4限
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	赤坂		
	テーマ	PEDroからみたエビデンス		
	授業内容	PEDroによるエビデンスについて説明できる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月22日(月)	時限	4限
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	赤坂		
	テーマ	PEDroからみたエビデンス		
	授業内容	PEDroによるエビデンスについて説明できる。		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月29日(月)	時限	4限
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	赤坂		
	テーマ	エビデンスの高い論文の実際(1)		
	授業内容	エビデンスの高い論文について説明できる。		

12	年月日(曜日)	令和 8年07月06日(月)	時限	4限
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	赤坂		
	テーマ	エビデンスの高い論文の実際(2)		
	授業内容	エビデンスの高い論文について説明できる。		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月13日(月)	時限	4限
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	赤坂		
	テーマ	エビデンスの高い論文の実際(3)		
	授業内容	エビデンスの高い論文について説明できる。		
14	年月日(曜日)	令和 8年07月27日(月)	時限	4限
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	赤坂		
	テーマ	エビデンスの高い論文の実際(4)		
	授業内容	エビデンスの高い論文について説明できる。		
15	年月日(曜日)	令和 8年08月03日(月)	時限	4限
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	赤坂		
	テーマ	エビデンスの高い論文の構成		
	授業内容	エビデンスの高い論文構成について説明できる。		
16	年月日(曜日)	令和 8年08月10日(月)	時限	4限
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	赤坂		
	テーマ	エビデンスの高い論文の構成		
	授業内容	エビデンスの高い論文構成について説明できる。		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年05月13日(水)	時限	6限
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	赤坂		
	テーマ	PEDroからみたエビデンス		
2	年月日(曜日)	令和 8年05月13日(水)	時限	7限
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	赤坂		
3	年月日(曜日)	令和 8年05月20日(水)	時限	6限
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	高倉		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月20日(水)	時限	7限
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	高倉		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月27日(水)	時限	6限
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	赤坂		

テーマ	エビデンスの高い論文の実際(1)			
6	年月日(曜日)	令和 8年05月27日(水)	時限	7限
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	赤坂		
	テーマ	エビデンスの高い論文の実際(2)		
7	年月日(曜日)	令和 8年06月03日(水)	時限	6限
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	高倉		
	テーマ	理学療法研究における t 検定の活用		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月03日(水)	時限	7限
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	高倉		
	テーマ	理学療法研究における一元配置分散分析の活用		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月10日(水)	時限	6限
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	赤坂		
	テーマ	エビデンスの高い論文の実際(3)		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月10日(水)	時限	7限
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	赤坂		
	テーマ	エビデンスの高い論文の実際(4)		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月17日(水)	時限	6限
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	赤坂		
	テーマ	エビデンスの高い論文の構成(1)		
12	年月日(曜日)	令和 8年06月17日(水)	時限	7限
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	赤坂		
	テーマ	エビデンスの高い論文の構成(2)		
13	年月日(曜日)	令和 8年06月24日(水)	時限	6限
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	高倉		
	テーマ	理学療法研究における信頼性の検定の活用		
14	年月日(曜日)	令和 8年06月24日(水)	時限	7限
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	高倉		
	テーマ	理学療法研究における因子分析の活用		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月01日(水)	時限	6限
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	高倉		
	テーマ	理学療法研究における回帰分析の活用		
16	年月日(曜日)	令和 8年07月01日(水)	時限	7限
	講義室	かわごえクリニック講義室		
	担当者	高倉		
	テーマ	理学療法研究におけるその他の統計手法の活用		

評価方法	課題レポートおよび発表により評価する。
教科書	特になし
参考書	木原雅子・木原正博（訳）医学研究のデザイン、メディカル・サイエンス・インターナショナル
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照
履修上の注意、履修要件	理学療法研究を行うための実践的なスキルの向上を目的とする。前半の授業では、実例を通して理学療法研究における統計の活用の仕方を学習する。統計の基礎知識を学習する授業ではないので注意すること。

講義名	人体機能形態学特論 I		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	水曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/理学療法学分野		
配当年次	1年前期		

担当教員		
職種	氏名	所属
理学療法士	◎ 時田 幸之輔	理学療法学科教員

担当教員	時田幸之輔・姉帯沙織
科目の目標	骨格筋はロコモーションの背景をなす解剖学的構造として機能的要請を反映する。同時に、様々の制約のもとに存在する。理学療法学分野と関連の深い機能的観点からのみでなく、比較形態学や進化的観点からも興味深い。ここでは、特に筋線維タイプ構成や筋構築の面から、骨格筋の比較機能形態学の基本的な概念や手法と、いくつかの話題をとりあげる。
学習の具体的な目標	1. 骨格筋の形態学的特性と機能的特性との関連について説明できる。 2. 筋構築および筋線維タイプ構成の概念と研究手法を説明できる。 3. 当該分野における最近の研究例について紹介し、理学療法分野とのかかわりについて考察できる。

授業計画表				
1	年月日(曜日)	令和 8年04月13日(月)	時限	2限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	時田		
	テーマ	人体機能形態学序論		
	授業内容	人体の構造についての形態学的視点と機能的視点について人体解剖学の研究史と関連させて説明できる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月20日(月)	時限	2限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	時田		
	テーマ	人体機能形態学序論		
	授業内容	人体の構造についての形態学的視点と機能的視点について議論できる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月27日(月)	時限	2限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	時田		
	テーマ	骨格筋の構成と構造		
	授業内容	骨格筋の基本的な構成, 構造, 機能について説明できる。		

4	年月日(曜日)	令和 8年05月11日(月)	時限	2限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	時田		
	テーマ	骨格筋の構成と構造		
	授業内容	全身を構成する骨格筋の構成と姿勢・動作における働きを説明できる。		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月18日(月)	時限	2限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	時田		
	テーマ	筋構築の概念と研究方法		
	授業内容	筋構築の概念について研究史と関連させて説明できる。		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月25日(月)	時限	2限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	時田		
	テーマ	筋構築の概念と研究方法		
	授業内容	筋構築の研究手法について説明できる。		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月25日(月)	時限	2限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	時田		
	テーマ	筋線維タイプ構成の概念と研究方法		
	授業内容	筋線維タイプ構成の概念について研究史と関連させて説明できる。		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月01日(月)	時限	2限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	時田		
	テーマ	筋線維タイプ構成の概念と研究方法		
	授業内容	筋線維タイプ構成の研究手法について説明できる。		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月08日(月)	時限	2限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	時田		
	テーマ	骨格筋の構成と配置と機能形態学的特性		
	授業内容	骨格筋の構成、配置と筋構築、筋線維タイプ構成の関連について研究史および最近の研究成果を説明できる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月15日(月)	時限	2限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	時田		
	テーマ	骨格筋の構成と配置と機能形態学的特性		
	授業内容	骨格筋の構成、配置と筋構築、筋線維タイプ構成に関連した研究課題について議論できる。		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月22日(月)	時限	2限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	時田・姉帯		
	テーマ	動物の運動様式の変異と筋の機能形態学的特性		
	授業内容	動物の運動様式の変異と筋構築、筋線維タイプ構成との関連について研究史および最近の研究成果を説明できる。		
12	年月日(曜日)	令和 8年06月29日(月)	時限	2限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	時田		
	テーマ	動物の運動様式の変異と筋の機能形態学的特性		
	授業内容	動物の運動様式の進化と骨格筋の機能形態学についての研究課題を議論できる。		

13	年月日(曜日)	令和 8年07月06日(月)	時限	2限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	時田		
	テーマ	運動負荷, 不使用にともなう筋の機能形態学的特性の変化		
	授業内容	運動負荷, 不使用と骨格筋の形態的, 組織化学的, 分子的变化の関連について最近の研究成果を説明できる。		
14	年月日(曜日)	令和 8年07月13日(月)	時限	2限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	時田		
	テーマ	運動負荷, 不使用にともなう筋の機能形態学的特性の変化		
	授業内容	運動負荷, 不使用と骨格筋の機能形態学について研究課題を議論できる。		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月27日(月)	時限	2限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	時田		
	テーマ	骨格筋の機能形態学における研究課題		
	授業内容	骨格筋の機能形態学における研究課題について議論できる。		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年04月15日(水)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	時田・姉帯		
	テーマ	人体機能形態学序論		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月15日(水)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	時田・姉帯		
	テーマ	人体機能形態学序論		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月22日(水)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	時田・姉帯		
	テーマ	骨格筋の構成と構造		
4	年月日(曜日)	令和 8年04月22日(水)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	時田		
	テーマ	骨格筋の構成と構造		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月13日(水)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	時田		
	テーマ	筋構築の概念と研究方法		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月13日(水)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	時田		
	テーマ	筋構築の概念と研究方法		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月20日(水)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	時田		
	テーマ	筋線維タイプ構成の概念と研究方法		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月20日(水)	時限	7限

講義室	川越ビル			
担当者	時田			
テーマ	筋線維タイプ構成の概念と研究方法			
9	年月日(曜日)	令和 8年07月15日(水)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	時田		
	テーマ	骨格筋の構成と配置と機能形態学的特性		
10	年月日(曜日)	令和 8年07月15日(水)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	時田		
	テーマ	骨格筋の構成と配置と機能形態学的特性		
11	年月日(曜日)	令和 8年07月22日(水)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	時田		
	テーマ	動物の運動様式の変異と筋の機能形態学的特性		
12	年月日(曜日)	令和 8年07月22日(水)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	時田		
	テーマ	動物の運動様式の変異と筋の機能形態学的特性		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月29日(水)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	時田		
	テーマ	運動負荷, 不使用にともなう筋の機能形態学的特性の変化		
14	年月日(曜日)	令和 8年07月29日(水)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	時田		
	テーマ	運動負荷, 不使用にともなう筋の機能形態学的特性の変化		
15	年月日(曜日)	令和 8年08月05日(水)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	時田		
	テーマ	骨格筋の機能形態学における研究課題		
評価方法	出席, 授業時の質疑応答, 課題提出とその内容等にもとづいて総合的に評価する。			
教科書	特に定めない			
参考書	授業時に紹介する			
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照			
履修上の注意、履修要件	<p>人体はきわめて多数の構成要素が互いに様々に関係し合って構成される複雑な構造である。その解析の視点はマクロからミクロまで種々の大きさの次元にかかわる。また、種々の変異を示す。人体構造の理解には多大の努力を要するが、発生、発達、適応、進化などの文脈と関連させながら理解を深めていくことは、きわめて興味深い。また、臨床的な応用も含め未知の分野が常に大きく広がっている。大いなる知的好奇心をもって授業に参加することを望む。</p>			

講義名	人体機能形態学特論Ⅱ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	水曜日	代表時限	6限
校地	川角キャンパス		
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/理学療法学分野		
配当年次	1年後期		

担当教員		
職種	氏名	所属
理学療法士	◎ 時田 幸之輔	理学療法学科教員

担当教員	時田幸之輔・姉帯沙織
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・末梢神経系の構成と局所解剖学的関係の概略について説明できる。 ・末梢神経系およびその局所解剖学的関係の変異についての肉眼解剖学的研究手法の概略を説明できる。 ・末梢神経系の変異についての研究例を紹介し、その形態形成的背景について考察を試みることができる。

授業計画表				
1	年月日(曜日)	令和 8年09月30日(水)	時限	4限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	時田		
	テーマ	肉眼解剖学序論		
	授業内容	人体解剖の歴史の概略を説明できる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月07日(水)	時限	4限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	時田		
	テーマ	肉眼解剖学序論		
	授業内容	人体解剖の歴史の概略を説明できる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月14日(水)	時限	4限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	時田		
	テーマ	末梢神経の構成		
	授業内容	肉眼解剖学のあり方を議論できる。		
4	年月日(曜日)	令和 8年10月21日(水)	時限	4限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	時田		

テーマ	末梢神経の構成			
授業内容	肉眼解剖学のあり方を議論できる。			
5	年月日(曜日)	令和 8年10月28日(水)	時限	4限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	時田		
	テーマ	胸神経前枝の構成と変異		
	授業内容	末梢神経系の構成ついて説明できる。		
6	年月日(曜日)	令和 8年11月04日(水)	時限	4限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	時田		
	テーマ	胸神経前枝の構成と変異		
	授業内容	末梢神経系の構成ついて説明できる。		
7	年月日(曜日)	令和 8年11月11日(水)	時限	4限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	時田		
	テーマ	胸神経前枝の構成と変異		
	授業内容	末梢神経系とその周辺構造物との位置関係について、その解剖学的意味を議論できる。		
8	年月日(曜日)	令和 8年11月18日(水)	時限	4限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	時田		
	テーマ	胸神経前枝の構成と変異		
	授業内容	末梢神経系とその周辺構造物との位置関係について、その解剖学的意味を議論できる。		
9	年月日(曜日)	令和 8年11月25日(水)	時限	4限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	時田・姉帯		
	テーマ	腕神経叢の構成と変異		
	授業内容	腕神経叢の構成と局所解剖学的関係について説明できる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年12月02日(水)	時限	4限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	時田・姉帯		
	テーマ	腕神経叢の構成と変異		
	授業内容	腕神経叢の構成と局所解剖学的変異の所見について議論できる。		
11	年月日(曜日)	令和 8年12月09日(水)	時限	4限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	時田		
	テーマ	腰神経叢の構成と変異		
	授業内容	腰神経叢の構成と局所解剖学的関係について説明できる。		
12	年月日(曜日)	令和 8年12月16日(水)	時限	4限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	時田		
	テーマ	腰神経叢の構成と変異		
	授業内容	腰神経叢の構成と局所解剖学的変異の所見について議論できる。		
13	年月日(曜日)	令和 8年12月23日(水)	時限	4限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	時田		
	テーマ	仙骨神経叢の構成と変異		

授業内容	仙骨神経叢の構成と局所解剖学的関係について説明できる。			
14	年月日(曜日)	令和 9年01月06日(水)	時限	4限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	時田		
	テーマ	仙骨神経叢の構成と変異		
	授業内容	仙骨神経叢の構成と局所解剖学的変異の所見について議論できる。		
15	年月日(曜日)	令和 9年01月13日(水)	時限	4限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	時田		
	テーマ	肉眼解剖学における研究課題		
	授業内容	仙骨神経叢の構成と局所解剖学的関係について説明できる。		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年09月30日(水)	時限	6限
	講義室	川角101		
	担当者	時田		
	テーマ	肉眼解剖学序論		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月07日(水)	時限	6限
	講義室	川角101		
	担当者	時田		
	テーマ	肉眼解剖学序論		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月14日(水)	時限	6限
	講義室	川角101		
	担当者	時田		
	テーマ	末梢神経の構成		
4	年月日(曜日)	令和 8年10月21日(水)	時限	6限
	講義室	川角101		
	担当者	時田		
	テーマ	末梢神経の構成		
5	年月日(曜日)	令和 8年10月28日(水)	時限	6限
	講義室	川角101		
	担当者	時田		
	テーマ	胸神経前枝の構成と変異		
6	年月日(曜日)	令和 8年11月04日(水)	時限	6限
	講義室	川角101		
	担当者	時田		
	テーマ	胸神経前枝の構成と変異		
7	年月日(曜日)	令和 8年11月11日(水)	時限	6限
	講義室	川角101		
	担当者	時田		
	テーマ	胸神経前枝の構成と変異		
8	年月日(曜日)	令和 8年11月18日(水)	時限	6限
	講義室	川角101		
	担当者	時田		
	テーマ	胸神経前枝の構成と変異		
9	年月日(曜日)	令和 8年11月25日(水)	時限	6限

講義室	川角101			
担当者	時田・姉帯			
テーマ	腕神経叢の構成と変異			
10	年月日(曜日)	令和 8年12月02日(水)	時限	6限
	講義室	川角101		
	担当者	時田・姉帯		
	テーマ	腕神経叢の構成と変異		
11	年月日(曜日)	令和 8年12月09日(水)	時限	6限
	講義室	川角101		
	担当者	時田		
	テーマ	腰神経叢の構成と変異		
12	年月日(曜日)	令和 8年12月16日(水)	時限	6限
	講義室	川角101		
	担当者	時田		
	テーマ	腰神経叢の構成と変異		
13	年月日(曜日)	令和 8年12月23日(水)	時限	6限
	講義室	川角101		
	担当者	時田		
	テーマ	仙骨神経叢の構成と変異		
14	年月日(曜日)	令和 9年01月06日(水)	時限	6限
	講義室	川角101		
	担当者	時田		
	テーマ	仙骨神経叢の構成と変異		
15	年月日(曜日)	令和 9年01月13日(水)	時限	6限
	講義室	川角101		
	担当者	時田		
	テーマ	肉眼解剖学における研究課題		
評価方法	出席、授業時の質疑応答、課題の提出と内容にもとづいて評価する。			
教科書	教科書は特に定めない			
参考書	授業時に紹介する			
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照			
履修上の注意、履修要件	<p>人体はきわめて多数の構成要素が互いに様々に関係し合っ構成される複雑な構造である。その解析の視点はマクロからミクロまで種々の大きさの次元にかかわる。また、種々の変異を示す。人体構造の理解には多大の努力を要するが、発生、発達、適応、進化などの文脈と関連させながら理解を深めていくことは、きわめて興味深い。また、臨床的な応用も含め未知の分野が常に大きく広がっている。大いなる知的好奇心をもって授業に参加することを望む。</p>			

講義名	徒手理学療法学特論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	0.00
代表曜日	火曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/理学療法学分野		
配当年次	1年前期		

担当教員		
職種	氏名	所属
理学療法士	◎ 赤坂 清和	理学療法学科教員

担当教員	赤坂 清和・大久保 雄・服部 寛・乙戸 崇寛
科目の目標	筋骨格理学療法における徒手技術を全般的に学び、実践できるようになること。
学習の具体的な目標	頸椎、胸椎、腰椎、骨盤帯を含む脊椎および肩関節、肘関節、手関節を含む上肢と股関節、膝関節、足関節を含む下肢を合わせた四肢に対する関節モビライゼーションに関する原則を理解すると共に、Maitland ConceptおよびMulligan Conceptにおける治療手技の理解と神経ダイナミクス検査および神経モビライゼーションに対する理解を深め、それぞれについて説明し実施できるようになること。

授業計画表				
1	年月日(曜日)	令和 8年10月01日(木)	時限	3限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・大久保		
	授業内容	徒手理学療法における関節モビライゼーションおよびその周辺学問領域の理解を深め、説明できるようになる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月08日(木)	時限	3限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・大久保		
	授業内容	徒手理学療法における関節モビライゼーションおよびその周辺学問領域の理解を深め、説明できるようになる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月15日(木)	時限	3限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		
	授業内容	Maitland Conceptによる頸胸椎に対する治療手技の特徴を理解し、説明できるようになる。		

4	年月日(曜日)	令和 8年10月22日(木)	時限	3限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		
	テーマ	Maitland Concept(2) 腰椎骨盤		
	授業内容	Maitland Conceptによる腰椎骨盤に対する治療手技の特徴を理解し、説明できるようになる。		
5	年月日(曜日)	令和 8年10月29日(木)	時限	3限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		
	テーマ	Maitland Concept(3) 上肢		
	授業内容	Maitland Conceptによる上肢に対する治療手技の特徴を理解し、説明できるようになる。		
6	年月日(曜日)	令和 8年11月05日(木)	時限	3限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		
	テーマ	Maitland Concept(4) 下肢		
	授業内容	Maitland Conceptによる下肢に対する治療手技の特徴を理解し、説明できるようになる。		
7	年月日(曜日)	令和 8年11月12日(木)	時限	3限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		
	テーマ	Mulligan Concept(1) 頸胸椎		
	授業内容	Mulligan Conceptによる頸胸椎に対する治療手技の特徴を理解し、説明できるようになる。		
8	年月日(曜日)	令和 8年12月19日(土)	時限	3限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		
	テーマ	Mulligan Concept(2) 腰椎骨盤		
	授業内容	Mulligan Conceptによる腰椎骨盤に対する治療手技の特徴を理解し、説明できるようになる。		
9	年月日(曜日)	令和 8年11月26日(木)	時限	3限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		
	テーマ	Mulligan Concept(3) 上肢		
	授業内容	Mulligan Conceptによる上肢に対する治療手技の特徴を理解し、説明できるようになる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年12月03日(木)	時限	3限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		
	テーマ	Mulligan Concept(4) 下肢		
	授業内容	Mulligan Conceptによる下肢に対する治療手技の特徴を理解し、説明できるようになる。		
11	年月日(曜日)	令和 8年12月10日(木)	時限	3限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・服部		
	テーマ	Mulligan Concept(5) 神経症状		
	授業内容	Mulligan Conceptによる神経症状に対する治療手技の特徴を理解し、説明できるようになる。		
12	年月日(曜日)	令和 8年12月17日(木)	時限	3限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・服部		
	テーマ	神経ダイナミクス検査(1)		
	授業内容	上肢における神経ダイナミクス検査の特徴を理解し、説明できるようになる。		
13	年月日(曜日)	令和 8年12月24日(木)	時限	3限

講義室	川越ビル4階 大学院教室			
担当者	赤坂・服部			
テーマ	神経ダイナミクス検査(2)			
授業内容	下肢における神経ダイナミクス検査の特徴を理解し、説明できるようになる。			
14	年月日(曜日)	令和 9年01月07日(木)	時限	3限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・服部		
	テーマ	神経モビライゼーション(1)		
	授業内容	上肢における神経モビライゼーションの治療手技の特徴を理解し、説明できるようになる。		
15	年月日(曜日)	令和 9年01月14日(木)	時限	3限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・服部		
	テーマ	神経モビライゼーション(2)		
	授業内容	下肢における神経モビライゼーションの治療手技の特徴を理解し、説明できるようになる。		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年09月29日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・大久保		
	テーマ	関節モビライゼーション総論(1)		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月06日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・大久保		
	テーマ	関節モビライゼーション総論(2)		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月13日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		
	テーマ	Maitland Concept(1)頸胸椎		
4	年月日(曜日)	令和 8年10月20日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂・乙戸		
	テーマ	Maitland Concept(2)腰椎骨盤		
5	年月日(曜日)	令和 8年10月27日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		
	テーマ	Maitland Concept(3)上肢		
6	年月日(曜日)	令和 8年11月10日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		
	テーマ	Maitland Concept(4)下肢		
7	年月日(曜日)	令和 8年11月17日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		
	テーマ	Mulligan Concept(1)頸胸椎		
8	年月日(曜日)	令和 8年11月24日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		

担当者	服部・赤坂・乙戸			
テーマ	Mulligan Concept(2) 腰椎骨盤			
9	年月日(曜日)	令和 8年12月01日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		
	テーマ	Mulligan Concept(3) 上肢		
10	年月日(曜日)	令和 8年12月08日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		
	テーマ	Mulligan Concept(4) 下肢		
11	年月日(曜日)	令和 8年12月15日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・服部		
	テーマ	Mulligan Concept(5) 神経症状		
12	年月日(曜日)	令和 8年12月22日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・服部・乙戸		
	テーマ	神経ダイナミクス検査(1)		
13	年月日(曜日)	令和 9年01月05日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・服部		
	テーマ	神経ダイナミクス検査(2)		
14	年月日(曜日)	令和 9年01月12日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・服部		
	テーマ	神経モビライゼーション(1)		
15	年月日(曜日)	令和 9年01月19日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・服部		
	テーマ	神経モビライゼーション(2)		
評価方法	出席及び学期末試験により評価する。			
教科書	メイトランド脊椎モビライゼーション(赤坂清和、斉藤昭彦監修、エルゼビアジャパン) メイトランド四肢関節モビライゼーション(赤坂清和、斉藤昭彦監修、医学映像教育出版) オステオパシーアトラス(赤坂清和監修、医道の日本社)			
参考書	エビデンスに基づく整形外科徒手検査法(柳澤健、赤坂清和監修、エルゼビアジャパン)			
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照			
履修上の注意、履修要件	筋骨格理学療法を専門として理学療法業務を行う方が望ましい。 該当しない場合には、事前に科目責任者に連絡を取り、相談すること。			

講義名	がん理学療法学特論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	月曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/理学療法学分野		
配当年次	1年後期		

担当教員		
職種	氏名	所属
理学療法士	◎ 高倉 保幸	理学療法学科教員

担当教員	高倉 保幸
科目の目標	がん患者に対する理学療法に関する基礎的な知識および技能を修得し、模擬症例に対して実践できる。
学習の具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. がんの疾患と治療についての基礎知識を説明できる。 2. インフォームドコンセントと目標設定について説明できる。 3. がん患者との基本的なコミュニケーションスキルについて説明できる。 4. 胸・腹部術後の理学療法について説明できる。 5. 骨転移に対する理学療法について説明できる。 6. がん患者の低体力の評価ができる。 7. 終末期の理学療法について説明できる。

授業計画表				
1	年月日(曜日)	令和 8年10月02日(金)	時限	3限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	高倉		
	テーマ	がん理学療法の背景		
	授業内容	がん理学療法の背景について説明できる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月09日(金)	時限	3限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	高倉		
	テーマ	がんのステージングと治療		
	授業内容	がんのステージングと治療について説明できる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月16日(金)	時限	3限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	高倉		
	テーマ	有害事象		
	授業内容	有害事象について説明できる。		

4	年月日(曜日)	令和 8年10月23日(金)	時限	3限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	高倉		
	テーマ	インフォームドコンセントと目標設定		
	授業内容	インフォームドコンセントと目標設定について説明できる。		
5	年月日(曜日)	令和 8年10月30日(金)	時限	3限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	高倉		
	テーマ	コミュニケーションスキル①		
	授業内容	基本的なコミュニケーションスキルについて説明できる。		
6	年月日(曜日)	令和 8年11月06日(金)	時限	3限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	高倉		
	テーマ	コミュニケーションスキル②		
	授業内容	模擬症例に対してコミュニケーションスキルを使った対応ができる。		
7	年月日(曜日)	令和 8年11月13日(金)	時限	3限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	高倉		
	テーマ	コミュニケーションスキル③		
	授業内容	トラブルを抱えた模擬症例に対してコミュニケーションスキルを使った対応ができる。		
8	年月日(曜日)	令和 8年11月20日(金)	時限	3限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	高倉		
	テーマ	胸部術後の理学療法		
	授業内容	胸部術後の理学療法について説明できる。		
9	年月日(曜日)	令和 8年11月27日(金)	時限	3限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	高倉		
	テーマ	腹部術後の理学療法		
	授業内容	腹部術後の理学療法について説明できる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年12月04日(金)	時限	3限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	高倉		
	テーマ	骨転移の基礎知識		
	授業内容	骨転移の基礎知識について説明できる。		
11	年月日(曜日)	令和 8年12月11日(金)	時限	3限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	高倉		
	テーマ	骨転移に対する理学療法		
	授業内容	骨転移に対する理学療法について説明できる。		
12	年月日(曜日)	令和 8年12月18日(金)	時限	3限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	高倉		
	テーマ	低体力の評価		
	授業内容	低体力の評価ができる。		
13	年月日(曜日)	令和 9年01月08日(金)	時限	3限

講義室	川角キャンパス院生室			
担当者	高倉			
テーマ	低体力に対する理学療法			
授業内容	低体力に対する理学療法について説明できる。			
14	年月日(曜日)	令和 9年01月15日(金)	時限	3限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	高倉		
	テーマ	全人的苦痛と疼痛治療		
	授業内容	全人的苦痛と疼痛治療について説明できる。		
15	年月日(曜日)	令和 9年01月22日(金)	時限	3限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	高倉		
	テーマ	全人的苦痛と理学療法		
	授業内容	全人的苦痛と理学療法について説明できる。		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年10月05日(月)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉		
	テーマ	がん理学療法の背景		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月05日(月)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉		
	テーマ	がんのステージングと治療		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月26日(月)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉		
	テーマ	有害事象		
4	年月日(曜日)	令和 8年10月26日(月)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉		
	テーマ	インフォームドコンセントと目標設定		
5	年月日(曜日)	令和 8年11月09日(月)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉		
	テーマ	コミュニケーションスキル①		
6	年月日(曜日)	令和 8年11月09日(月)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉		
	テーマ	コミュニケーションスキル②		
7	年月日(曜日)	令和 8年11月30日(月)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉		
	テーマ	コミュニケーションスキル③		
8	年月日(曜日)	令和 8年11月30日(月)	時限	7限
	講義室	川越ビル		

担当者	高倉			
テーマ	胸部術後の理学療法			
9	年月日(曜日)	令和 8年12月14日(月)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉		
	テーマ	腹部術後の理学療法		
10	年月日(曜日)	令和 8年12月14日(月)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉		
	テーマ	骨転移の基礎知識		
11	年月日(曜日)	令和 9年01月04日(月)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉		
	テーマ	骨転移に対する理学療法		
12	年月日(曜日)	令和 9年01月04日(月)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉		
	テーマ	低体力の評価		
13	年月日(曜日)	令和 9年01月25日(月)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉		
	テーマ	低体力に対する理学療法		
14	年月日(曜日)	令和 9年01月25日(月)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉		
	テーマ	全人的苦痛と疼痛治療		
15	年月日(曜日)	令和 9年02月08日(月)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉		
	テーマ	全人的苦痛と理学療法		
評価方法	課題レポートと質疑応答により評価する。			
教科書	適宜資料を配付する			
参考書	特になし			
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照			
履修上の注意、履修要件	特になし			

講義名	予防理学療法学特論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	月曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/理学療法学分野		
配当年次	1年前期		

担当教員		
職種	氏名	所属
理学療法士	◎ 新井 智之	理学療法学科教員

担当教員	新井 智之
科目の目標	理学療法士の対象は、疾患や障害を有した後のリハビリテーションとして行われてきた。超高齢社会を迎える我が国において、健康寿命の延伸を図ることは重要であり、予防医学に関わることは重要な位置づけとなる。健康寿命を延伸するには、病気を治療することに加えて、病衣にかからないための方略が重要となる。このような社会的なニーズに答えるため、理学療法学を予防という観点から学ぶ。
学習の具体的な目標	<p>予防理学療法学の定義やその領域を学ぶとともに、予防理学療法学に関わる制度や研究法についても学ぶこととする。予防理学療法学を理解するために、栄養、スポーツ、コミュニケーションを中心とした取り組みなど、すべてのライフステージにわたるアプローチ方法についても理解を深めることとし、具体的には下記の項目を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. すべてのライフコースにおける予防理学療法学の領域について説明できる。 2. 廃用症候群、虚弱、サルコペニアの予防理学療法学について説明できる 3. 骨粗鬆症、ロコモティブシンドロームの予防理学療法学について説明できる 4. メタボリックシンドロームの予防理学療法学について説明できる 5. 呼吸・循環器疾患の予防理学療法学について説明できる 6. 認知症、うつなど精神機能の予防理学療法学について説明できる 7. 学童期の予防理学療法学について説明できる 8. 産業分野における就労世代の予防理学療法学について説明できる 9. 栄養も踏まえた予防理学療法学について説明できる

授業計画表				
1	年月日(曜日)	令和 8年04月14日(火)	時限	4限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	予防理学療法学概説		
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・予防理学療法学の定義を議論し、考え方を説明できる ・ライフコースに応じた予防理学療法学の領域について説明できる 		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月21日(火)	時限	4限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	我が国の社会状況と予防理学療法学に関わる制度		

授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の医療・福祉に関わる社会状況を概説できる ・保健・福祉制度及び健康増進施策の制作の概要を説明できる ・社会的背景をもとに、我が国の保健福祉政策、健康増進施策における予防理学療法学の役割について議論できる 			
3	年月日(曜日)	令和 8年04月28日(火)	時限	4限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	予防理学療法学領域の研究法①		
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・疫学調査、疫学研究の基本的考え方について説明できる ・予防理学療法学の統計学的手法について概説できる 		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月12日(火)	時限	4限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	予防理学療法学領域の研究法②		
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・予防理学療法領域の研究手法について具体例を用いて説明できる。 ・予防理学療法領域の介入方法について具体例を用いて説明できる。 ・予防理学療法領域の研究において、クリニカルクエッションを設定できる 		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月19日(火)	時限	4限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	学童期の予防理学療法学		
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学童期における問題点を整理し、予防理学療法の役割について説明できる ・学童期における予防理学療法に関して、具体例を示しながら説明できる。 ・運動器健診について概説できる 		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月26日(火)	時限	4限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	栄養学から見た予防理学療法学		
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人の食事摂取基準と肥満、低栄養について問題点を整理できる。 ・栄養アセスメントと食事バランスガイドについて説明できる。 ・ライフコースや障害に応じた栄養アプローチについて具体的を用いて説明できる 		
7	年月日(曜日)	令和 8年06月02日(火)	時限	4限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	ロコモティブシンドロームにおける予防理学療法		
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ロコモティブシンドロームについて概説できる ・ロコモティブシンドロームに対する基本的な対策と予防理学療法の役割について概説できる 		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月09日(火)	時限	4限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	骨粗鬆症・骨折に対する予防理学療法学		
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・骨粗鬆症の定義、診断基準、検査方法について概説できる ・骨粗鬆症予防、転倒・骨折予防に対する基本的な対策と予防理学療法の役割について概説できる 		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月16日(火)	時限	4限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	メタボリックシンドロームに対する予防理学療法		
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・メタボリックシンドロームの定義、評価方法、検査方法について説明できる ・メタボリックシンドロームに対する基本的な対策と予防理学療法の役割について概説できる 		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月23日(火)	時限	4限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		

テーマ	サルコペニア、フレイル、廃用症候群に対する予防理学療法			
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・サルコペニアの定義、判定方法、基本的な対策、予防理学療法の役割について概説できる。 ・フレイルの定義、判定方法、基本的な対策、予防理学療法の役割について概説できる。 ・廃用症候群の定義、判定方法、基本的な対策、予防理学療法の役割について概説できる。 			
11	年月日(曜日)	令和 8年06月30日(火)	時限	4限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	呼吸・心血管機能の低下に対する予防理学療法		
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・臥床が身体へ与える影響について説明できる ・呼吸機能低下と心血管機能低下の評価と予防方法について説明できる 		
12	年月日(曜日)	令和 8年07月07日(火)	時限	4限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	認知症・抑うつに対する予防理学療法		
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・うつ病と抑うつの評価と予防方法について説明できる ・認知症と軽度認知機能障害の定義、判定方法、基本的な対策、予防理学療法の役割について概説できる。 ・身体活動が認知機能に与える効果について説明できる 		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月14日(火)	時限	4限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	産業分野の就労世代に対する予防理学療法		
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・就労者の労働災害について整理し、予防理学療法の役割について説明できる。 ・健康経営について、具体的な取り組み事例を示しながら、予防理学療法の役割について説明できる 		
14	年月日(曜日)	令和 8年07月21日(火)	時限	4限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	再発予防における予防理学療法		
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・病院や地域における障害に応じた再発予防の取り組み事例について説明できる。 		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月28日(火)	時限	4限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	コミュニティ・プロモーションにおける予防理学療法		
	授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・住民主体の予防について概説できる。 ・地域づくりによる介護予防について概説できる 		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年04月20日(月)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	予防理学療法学概説		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月20日(月)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	我が国の社会状況と予防理学療法学に関わる制度		
3	年月日(曜日)	令和 8年05月11日(月)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	予防理学療法学領域の研究法①		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月11日(月)	時限	7限

講義室	川越ビル			
担当者	新井			
テーマ	予防理学療法学領域の研究法②			
5	年月日(曜日)	令和 8年05月25日(月)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	学童期の予防理学療法学		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月25日(月)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	栄養学から見た予防理学療法学		
7	年月日(曜日)	令和 8年06月08日(月)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	ロコモティブシンドロームにおける予防理学療法		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月08日(月)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	骨粗鬆症・骨折に対する予防理学療法学		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月22日(月)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	メタボリックシンドロームに対する予防理学療法		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月22日(月)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	サルコペニア、フレイル、廃用症候群に対する予防理学療法		
11	年月日(曜日)	令和 8年07月06日(月)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	呼吸・心血管機能の低下に対する予防理学療法		
12	年月日(曜日)	令和 8年07月06日(月)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	認知症・抑うつに対する予防理学療法		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月27日(月)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	産業分野の就労世代に対する予防理学療法		
14	年月日(曜日)	令和 8年07月27日(月)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		
	テーマ	再発予防における予防理学療法		
15	年月日(曜日)	令和 8年08月03日(月)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	新井		

テーマ	コミュニティ・プロモーションにおける予防理学療法
評価方法	個別課題の発表、グループディスカッションや質疑応答の内容、レポートなどにより総合的に評価する。 個別課題の発表やレポートの内容に対しコメントを返します。
教科書	特になし
参考書	特になし
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照
履修上の注意、履修要件	特になし

講義名	筋骨格理学療法学特論 I (上肢・脊椎)		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	火曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/理学療法学分野		
配当年次	1年前期		

担当教員		
職種	氏名	所属
理学療法士	◎ 赤坂 清和	理学療法学科教員

担当教員	赤坂 清和・大久保 雄・服部 寛・乙戸 崇寛
科目の目標	筋骨格徒手理学療法からみた、肩甲帯、肩関節、肘関節、手関節とこれらを構成する上腕骨、前腕骨、手根骨、手指を含む上肢と頸椎、胸椎、腰椎、骨盤帯を含む脊椎に生じる疾患と外傷の特徴を理解する。
学習の具体的な目標	上肢及び脊椎を対象として行われる整形外科の治療後の整形外科学療法及び筋骨格系の症状に対する筋骨格理学療法におけるエビデンスについて、実際に運用されているガイドライン等を参考に確認するとともに、臨床場面で有効な徒手理学療法を実施することができる能力を養う。

授業計画表				
1	年月日(曜日)	令和 8年04月16日(木)	時限	4限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・大久保		
	テーマ	頸椎に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
	授業内容	1. 後頭椎関節に対する徒手理学療法 2. 環軸椎関節に対する徒手理学療法		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月21日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂		
	テーマ	頸椎に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
	授業内容	頸椎に対する徒手理学療法を実施することができる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月28日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		
	テーマ	脊柱・骨盤帯に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
	授業内容	胸椎に対する徒手理学療法を実施することができる。		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月12日(火)	時限	6限

講義室	川越ビル4階 大学院教室			
担当者	服部・赤坂			
テーマ	脊柱・骨盤帯に対する筋骨格徒手理学療法の手技			
授業内容	腰椎に対する徒手理学療法を実施することができる。			
5	年月日(曜日)	令和 8年05月19日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		
	テーマ	脊柱・骨盤帯に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
	授業内容	腰椎・骨盤帯に対する徒手理学療法を実施することができる。		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月26日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		
	テーマ	脊柱・骨盤帯に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
	授業内容	骨盤帯に対する徒手理学療法を実施することができる。		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月28日(木)	時限	4限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・服部		
	テーマ	上肢に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
	授業内容	胸骨・鎖骨に対する徒手理学療法を実施することができる。		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月04日(木)	時限	4限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・服部		
	テーマ	上肢に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
	授業内容	肩甲骨を含む肩関節に対する徒手理学療法を実施することができる。		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月11日(木)	時限	4限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・服部		
	テーマ	上肢に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
	授業内容	肘関節に対する徒手理学療法を実施することができる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月18日(木)	時限	4限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・服部		
	テーマ	上肢に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
	授業内容	手関節・手指に対する徒手理学療法を実施することができる。		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月25日(木)	時限	4限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・服部		
	テーマ	上半身に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
	授業内容	上半身に対する徒手理学療法の各論を実施することができる。		
12	年月日(曜日)	令和 8年07月02日(木)	時限	4限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・服部		
	テーマ	上半身に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
	授業内容	上半身に対する徒手理学療法の各論を実施することができる。		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月09日(木)	時限	4限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		

担当者	赤坂・服部			
テーマ	上半身に対する筋骨格徒手理学療法の手技			
授業内容	上半身に対する徒手理学療法の各論を実施することができる。			
14	年月日(曜日)	令和 8年07月16日(木)	時限	4限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・服部		
	テーマ	上半身に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
	授業内容	上半身に対する徒手理学療法の各論を実施することができる。		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月23日(木)	時限	4限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・服部		
	テーマ	上半身に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
	授業内容	上半身に対する徒手理学療法の各論を実施することができる。		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年04月14日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・大久保		
	テーマ	頸椎に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月21日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・大久保		
	テーマ	頸椎に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月28日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	大久保・赤坂		
	テーマ	脊柱・骨盤帯に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月12日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	大久保・赤坂		
	テーマ	脊柱・骨盤帯に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月19日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	大久保・赤坂		
	テーマ	脊柱・骨盤帯に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月26日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	大久保・赤坂		
	テーマ	脊柱・骨盤帯に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
7	年月日(曜日)	令和 8年06月02日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・大久保		
	テーマ	上肢に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月09日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・大久保		

テーマ	上肢に対する筋骨格徒手理学療法の手技			
9	年月日(曜日)	令和 8年06月16日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・服部		
	テーマ	上肢に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月23日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・服部		
	テーマ	上肢に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月30日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・服部		
	テーマ	上半身に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
12	年月日(曜日)	令和 8年07月07日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・服部		
	テーマ	上半身に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月14日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		
	テーマ	上半身に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
14	年月日(曜日)	令和 8年07月21日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		
	テーマ	上半身に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月28日(火)	時限	6限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		
	テーマ	上半身に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
評価方法	出席及び学期末試験により評価する。			
教科書	メイトランド脊椎モビライゼーション(赤坂清和、斉藤昭彦監修、エルゼビアジャパン) メイトランド四肢関節モビライゼーション(赤坂清和、斉藤昭彦監修、医学映像教育出版) オステオパシーアトラス(赤坂清和監修、医道の日本社)			
参考書	エビデンスに基づく整形外科徒手検査法(柳澤健、赤坂清和監修、エルゼビアジャパン)			
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照			
履修上の注意、履修要件	筋骨格理学療法を専門として理学療法業務を行う方が望ましい。 該当しない場合には、事前に科目責任者に連絡を取り、相談すること。			

講義名	筋骨格理学療法学特論Ⅱ（下肢）		
（副題）			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	火曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/理学療法学分野		
配当年次	1年後期		

担当教員		
職種	氏名	所属
理学療法士	◎ 赤坂 清和	理学療法学科教員

担当教員	赤坂 清和・大久保 雄・服部 寛・乙戸 崇寛
科目の目標	筋骨格徒手理学療法からみた、股関節、膝関節、足関節とこれらを構成する大腿骨、脛骨、腓骨、足根骨、足指に生じる疾患と外傷の特徴を理解する。
学習の具体的な目標	下肢を対象として行われる整形外科の治療後の整形外科理学療法及び筋骨格系の症状に対する筋骨格理学療法におけるエビデンスについて、実際に運用されているガイドライン等を参考に確認するとともに、臨床場面で有効な徒手理学療法を実施することができる能力を養う。

授業計画表				
1	年月日(曜日)	令和 8年10月01日(木)	時限	5限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・大久保		
	テーマ	股関節に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
	授業内容	股関節疾患に対する整形外科徒手検査を実施することができる。		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月08日(木)	時限	5限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・大久保		
	テーマ	股関節に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
	授業内容	股関節に対する関節モビライゼーション(1)を実施することができる。		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月15日(木)	時限	5限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	乙戸・服部・赤坂		
	テーマ	股関節に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
	授業内容	股関節に対する関節モビライゼーション(2)を実施することができる。		
4	年月日(曜日)	令和 8年10月22日(木)	時限	5限

講義室	川越ビル4階 大学院教室			
担当者	服部・赤坂			
テーマ	股関節に対する筋骨格徒手理学療法の手技			
授業内容	股関節に対するその他の徒手理学療法を実施することができる。			
5	年月日(曜日)	令和 8年10月29日(木)	時限	5限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		
	テーマ	膝関節に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
	授業内容	膝関節疾患に対する整形外科徒手検査を実施することができる。		
6	年月日(曜日)	令和 8年11月05日(木)	時限	5限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		
	テーマ	膝関節に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
	授業内容	膝関節に対する関節モビライゼーション(1)を実施することができる。		
7	年月日(曜日)	令和 8年11月12日(木)	時限	5限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	乙戸・服部・赤坂		
	テーマ	膝関節に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
	授業内容	膝関節に対する関節モビライゼーション(2)を実施することができる。		
8	年月日(曜日)	令和 8年11月19日(木)	時限	5限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		
	テーマ	膝関節に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
	授業内容	膝関節に対する関節モビライゼーション(3)を実施することができる。		
9	年月日(曜日)	令和 8年11月26日(木)	時限	5限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		
	テーマ	膝関節に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
	授業内容	膝関節に対する関節モビライゼーション(4)を実施することができる。		
10	年月日(曜日)	令和 8年12月03日(木)	時限	5限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		
	テーマ	膝関節に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
	授業内容	膝関節に対するその他の徒手理学療法を実施することができる。		
11	年月日(曜日)	令和 8年12月10日(木)	時限	5限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・服部		
	テーマ	足関節・足部に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
	授業内容	足関節・足部疾患に対する整形外科徒手検査を実施することができる。		
12	年月日(曜日)	令和 8年12月17日(木)	時限	5限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・服部		
	テーマ	足関節・足部に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
	授業内容	足関節・足部に対する関節モビライゼーション(1)を実施することができる。		
13	年月日(曜日)	令和 8年12月24日(木)	時限	5限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		

担当者	赤坂・服部			
テーマ	足関節・足部に対する筋骨格徒手理学療法の手技			
授業内容	足関節・足部に対する関節モビライゼーション(2)を実施することができる。			
14	年月日(曜日)	令和 9年01月07日(木)	時限	5限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・服部		
	テーマ	足関節・足部に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
	授業内容	足関節・足部に対する関節モビライゼーション(3)を実施することができる。		
15	年月日(曜日)	令和 9年01月14日(木)	時限	5限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・服部		
	テーマ	足関節・足部に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
	授業内容	足関節・足部に対するその他の徒手理学療法を実施することができる。		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年09月29日(火)	時限	7限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・大久保		
	テーマ	股関節に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月06日(火)	時限	7限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・大久保		
	テーマ	股関節に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月13日(火)	時限	7限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	乙戸・服部・赤坂		
	テーマ	股関節に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
4	年月日(曜日)	令和 8年10月20日(火)	時限	7限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		
	テーマ	股関節に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
5	年月日(曜日)	令和 8年10月27日(火)	時限	7限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		
	テーマ	膝関節に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
6	年月日(曜日)	令和 8年11月10日(火)	時限	7限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		
	テーマ	膝関節に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
7	年月日(曜日)	令和 8年11月17日(火)	時限	7限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	乙戸・服部・赤坂		
	テーマ	膝関節に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
8	年月日(曜日)	令和 8年11月24日(火)	時限	7限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		

テーマ	膝関節に対する筋骨格徒手理学療法の手技			
9	年月日(曜日)	令和 8年12月01日(火)	時限	7限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		
	テーマ	膝関節に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
10	年月日(曜日)	令和 8年12月08日(火)	時限	7限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部・赤坂		
	テーマ	膝関節に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
11	年月日(曜日)	令和 8年12月15日(火)	時限	7限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・服部		
	テーマ	足関節・足部に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
12	年月日(曜日)	令和 8年12月22日(火)	時限	7限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・服部		
	テーマ	足関節・足部に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
13	年月日(曜日)	令和 9年01月05日(火)	時限	7限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・服部		
	テーマ	足関節・足部に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
14	年月日(曜日)	令和 9年01月12日(火)	時限	7限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・服部		
	テーマ	足関節・足部に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
15	年月日(曜日)	令和 9年01月19日(火)	時限	7限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂・服部		
	テーマ	足関節・足部に対する筋骨格徒手理学療法の手技		
評価方法	出席及び学期末試験により評価する。			
教科書	メイトランド四肢関節モビライゼーション (赤坂清和、斉藤昭彦監修、医学映像教育出版) オステオパシーアトラス (赤坂清和監修、医道の日本社)			
参考書	エビデンスに基づく整形外科徒手検査法 (柳澤健、赤坂清和監修、エルゼビアジャパン)			
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照			
履修上の注意、履修要件	筋骨格理学療法を専門として理学療法業務を行う方が望ましい。 該当しない場合には、事前に科目責任者に連絡を取り、相談すること。			

講義名	神経理学療法学特論 I		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	月曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/理学療法学分野		
配当年次	1年前期		

担当教員		
職種	氏名	所属
理学療法士	◎ 高倉 保幸	理学療法学科教員

担当教員	高倉 保幸・國澤 洋介・清水 夏生
科目の目標	神経（脳卒中）に対して高度な理学療法を実施するために必要な知識を修得する。
学習の具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳卒中の理学療法に必要な病態生理を理解し、診断や治療、予後予測について説明することができる。 2. 理学療法ガイドラインなどを理解し、評価や治療介入を実践することができる。 3. 病期、障害に即した理学療法を説明し、実施することができる。 4. 脳卒中の発症予防や重症化予防、再発予防の考え方やその方法を理解し、説明することができる。 5. 患者、家族に対し、適切な理学療法指導、教育を実施することができる。 6. 活用できる社会資源を理解するとともに、自立支援および疾病管理について説明することができる。

授業計画表				
1	年月日(曜日)	令和 8年04月16日(木)	時限	5限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	正常な構造・機能と疾病の基礎		
	授業内容	臓器や器官の正常な構造および機能を確認するとともに、その破綻によって生じる症状を理解する。また、その疾患の疫学、病態、病型、予後などの情報を整理し、それらを習得する。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月23日(木)	時限	5限
	講義室	川越ビル		
	担当者	清水・高倉・國澤・師岡		
	テーマ	医学的診断と治療介入		
	授業内容	医学的な診断や治療介入の方法や時期などについて、各種ガイドラインあるいは指針などに基づいて理解する。また、他職種との関わりを整理し、各職種が関わる意義を理解する。		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月30日(木)	時限	5限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	理学療法介入の意義と理学療法士の役割		

授業内容	理学療法による介入の意義や目的を確認し、また、他職種と比較した理学療法士の役割を理解する。			
4	年月日(曜日)	令和 8年05月07日(木)	時限	5限
	講義室	川越ビル		
	担当者	清水・高倉・國澤・師岡		
	テーマ	疾患によって生じる障害とその評価および予後予測		
	授業内容	疾患によって生じる障害を整理するとともに、その障害の評価方法を習得する。また、評価に基づいた予後予測の考え方や方法を理解し、予後予測に基づく理学療法介入の意義を確認する。		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月14日(木)	時限	5限
	講義室	川越ビル		
	担当者	清水・高倉・國澤・師岡		
	テーマ	脳卒中後の運動機能障害に対する理学療法		
	授業内容	神経筋障害の運動機能障害に対する理学療法の基本的な考え方を整理する。また、それらの介入による効果やその検証方法について理解する。		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月21日(木)	時限	5限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	脳卒中後の高次脳機能障害に対する理学療法		
	授業内容	神経筋障害の非運動機能障害(精神機能、自律神経機能、疲労、疼痛など)に対する理学療法の基本的な考え方を整理・理解する。また、それらの介入による効果やその検証方法について理解する。		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月28日(木)	時限	5限
	講義室	川越ビル		
	担当者	清水・高倉・國澤・師岡		
	テーマ	脳卒中後の活動・参加制限に対する理学療法		
	授業内容	神経筋障害の活動・参加制限の特徴を整理・理解する。また、その要因を検証するとともに、理学療法による介入の考え方や方法について理解する。		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月04日(木)	時限	5限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	早期離床と合併症予防のための急性期理学療法		
	授業内容	発症早期において、疾患に直接起因する一次機能障害に対する理学療法の具体的な方法を整理・理解する。また、この時期のリスク管理における注意点やその方法を習得するとともに、介入の方法やその根拠を理解する。		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月11日(木)	時限	5限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	機能回復とADL自立に向けた回復期理学療法		
	授業内容	改善期における二次的機能障害や動作障害の改善、日常生活活動自立、薬物治療に向けた考え方やその具体的な方法を整理する。また、この時期のリスク管理における注意点やその方法を理解・習得するとともに、介入の方法やその根拠を理解する。		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月18日(木)	時限	5限
	講義室	川越ビル		
	担当者	清水・高倉・國澤・師岡		
	テーマ	在宅生活の充実と社会参加促進のための生活期理学療法		
	授業内容	在宅生活期での日常生活活動の自立支援や社会生活を促進させる考え方やその具体的な方法を整理する。また、この時期のリスク管理における注意点やその方法を習得するとともに、介入の方法やその根拠を理解する。		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月25日(木)	時限	5限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	終末期における理学療法		

授業内容	終末期における理学療法の考え方やその具体的な方法を整理する。また、この時期のリスク管理における注意点やその方法を習得するとともに、介入の方法やその根拠を理解する。			
12	年月日(曜日)	令和 8年07月02日(木)	時限	5限
	講義室	川越ビル		
	担当者	清水・高倉・國澤・師岡		
	テーマ	自立支援や疾病管理の補助具・機器とその活用		
	授業内容	自立支援や介助量軽減のための補助具や機器、疾病を管理するための機器を整理し、その適応や注意点などについて理解する。		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月09日(木)	時限	5限
	講義室	川越ビル		
	担当者	清水・高倉・國澤・師岡		
	テーマ	発症予防、重症化予防、再発予防		
	授業内容	神経筋障害の発症予防や重症化予防、合併症予防の考え方やその具体的な方法を理解する。また、その効果検証の方法を確認する。		
14	年月日(曜日)	令和 8年07月16日(木)	時限	5限
	講義室	川越ビル		
	担当者	清水・高倉・國澤・師岡		
	テーマ	患者・家族教育の意義とその方法		
	授業内容	患者・家族に対し、状態・病期に即した理学療法を説明し理解を得ることの必要性を理解するとともに、どのように教育・指導するのかを整理・理解する。		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月23日(木)	時限	5限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	社会資源の活用		
	授業内容	障害などを持って生活する上で利用できる社会資源やそれらの活用方法を理解する。		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年04月13日(月)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	正常な構造・機能と疾病の基礎		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月13日(月)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	清水・高倉・國澤・師岡		
	テーマ	医学的診断と治療介入		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月27日(月)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	理学療法介入の意義と理学療法士の役割		
4	年月日(曜日)	令和 8年04月27日(月)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	清水・高倉・國澤・師岡		
	テーマ	疾患によって生じる障害とその評価および予後予測		
5	年月日(曜日)	令和 8年05月18日(月)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	清水・高倉・國澤・師岡		
	テーマ	脳卒中後の運動機能障害に対する理学療法		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月18日(月)	時限	7限

講義室	川越ビル			
担当者	高倉・國澤・清水・師岡			
テーマ	脳卒中後の高次脳機能障害に対する理学療法			
7	年月日(曜日)	令和 8年06月01日(月)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	清水・高倉・國澤・師岡		
	テーマ	脳卒中後の活動・参加制限に対する理学療法		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月01日(月)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	早期離床と合併症予防のための急性期理学療法		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月15日(月)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	機能回復とADL自立に向けた回復期理学療法		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月15日(月)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	清水・高倉・國澤・師岡		
	テーマ	在宅生活の充実と社会参加促進のための生活期理学療法		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月29日(月)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	終末期における理学療法		
12	年月日(曜日)	令和 8年06月29日(月)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	清水・高倉・國澤・師岡		
	テーマ	自立支援や疾病管理の補助具・機器とその活用		
13	年月日(曜日)	令和 8年07月13日(月)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	清水・高倉・國澤・師岡		
	テーマ	発症予防、重症化予防、再発予防		
14	年月日(曜日)	令和 8年07月13日(月)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	患者・家族教育の意義とその方法		
15	年月日(曜日)	令和 8年08月03日(月)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	社会資源の活用		
評価方法	授業での質疑・応答、レポート課題により評価する。			
教科書	特になし			
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照			
履修上の注意、履修要件	特になし			

講義名	神経心理学療法学特論Ⅱ		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	月曜日	代表時限	6限
校地			
単位数	2単位/30時間		
必修・選択	専門科目/理学療法学分野		
配当年次	1年後期		

担当教員		
職種	氏名	所属
理学療法士	◎ 高倉 保幸	理学療法学科教員

担当教員	高倉 保幸・國澤 洋介・清水 夏生
科目の目標	神経心理学療法における応用的&学際的な知識を修得する
学習の具体的な目標	1. 神経心理学療法に特異的な応用的知識と技術を説明できる。 2. 神経心理学療法に特異的な学際的知識と技術を説明できる。

授業計画表				
1	年月日(曜日)	令和 8年10月02日(金)	時限	5限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際(技術編1)(脳画像評価の実際)		
	授業内容	脳画像評価に必要な知識を整理し、脳画像評価を用いた理学療法の実際を展開を理解する。		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月09日(金)	時限	5限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際(技術編1)(脳画像評価の実際)		
	授業内容	脳画像評価に必要な知識を整理し、脳画像評価を用いた理学療法の実際を展開を理解する。		
3	年月日(曜日)	令和 8年10月16日(金)	時限	5限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際(技術編2)(リスク管理の実際)		
	授業内容	リスク管理に必要な知識を整理し、理学療法実施に際しリスク管理をどのように行うのかを理解する。		
4	年月日(曜日)	令和 8年10月23日(金)	時限	5限
	講義室	川角キャンパス院生室		

担当者	高倉・國澤・清水・師岡			
テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編2）（リスク管理の実際）			
授業内容	リスク管理に必要な知識を整理し、理学療法実施に際しリスク管理をどのように行うのかを理解する。			
5	年月日(曜日)	令和 8年10月30日(金)	時限	5限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	清水・國澤・高倉・師岡		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編3）（歩行再建の実際）		
	授業内容	歩行再建に必要な知識を整理し、歩行再建に必要な評価・トレーニングについて理解する。		
6	年月日(曜日)	令和 8年11月06日(金)	時限	5限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	清水・國澤・高倉・師岡		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編3）（歩行再建の実際）		
	授業内容	歩行再建に必要な知識を整理し、歩行再建に必要な評価・トレーニングについて理解する。		
7	年月日(曜日)	令和 8年11月13日(金)	時限	5限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編4） （ニューロモデュレーションの実際）		
	授業内容	ニューロモデュレーションに関する知識を整理し、ニューロモデュレーションを用いた理学療法の展開について理解する。		
8	年月日(曜日)	令和 8年11月20日(金)	時限	5限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編4） （ニューロモデュレーションの実際）		
	授業内容	ニューロモデュレーションに関する知識を整理し、ニューロモデュレーションを用いた理学療法の展開について理解する。		
9	年月日(曜日)	令和 8年11月27日(金)	時限	5限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	清水・國澤・高倉・師岡		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編5）（装具療法の実際）		
	授業内容	装具療法に必要な知識を整理し、装具療法を用いた理学療法の展開を理解する。		
10	年月日(曜日)	令和 8年12月04日(金)	時限	5限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	清水・國澤・高倉・師岡		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編5）（装具療法の実際）		
	授業内容	装具療法に必要な知識を整理し、装具療法を用いた理学療法の展開を理解する。		
11	年月日(曜日)	令和 8年12月11日(金)	時限	5限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	清水・國澤・高倉・師岡		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編6）（上肢トレーニングの実際）		
	授業内容	上肢トレーニングに必要な知識を整理し、上肢機能の評価ならびに上肢トレーニングの展開を理解する		
12	年月日(曜日)	令和 8年12月18日(金)	時限	5限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	清水・國澤・高倉・師岡		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編6）（上肢トレーニングの実際）		
	授業内容	上肢トレーニングに必要な知識を整理し、上肢機能の評価ならびに上肢トレーニングの展開を理解する		
13	年月日(曜日)	令和 9年01月08日(金)	時限	5限

講義室	川角キャンパス院生室			
担当者	清水・國澤・高倉・師岡			
テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編7）（ロボット療法の実際）			
授業内容	ロボット療法に必要な知識を整理し、ロボット療法を用いた理学療法の展開を理解する。			
14	年月日(曜日)	令和 9年01月15日(金)	時限	5限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	清水・國澤・高倉・師岡		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編7）（ロボット療法の実際）		
	授業内容	ロボット療法に必要な知識を整理し、ロボット療法を用いた理学療法の展開を理解する。		
15	年月日(曜日)	令和 9年01月22日(金)	時限	5限
	講義室	川角キャンパス院生室		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編8）（予後予測の実際）		
	授業内容	予後予測に必要な知識を整理し、予後予測に必要な評価ならびに予後予測の展開を理解する。		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年10月19日(月)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編1）（脳画像評価の実際）		
2	年月日(曜日)	令和 8年10月19日(月)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編1）（脳画像評価の実際）		
3	年月日(曜日)	令和 8年11月02日(月)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編2）（リスク管理の実際）		
4	年月日(曜日)	令和 8年11月02日(月)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編2）（リスク管理の実際）		
5	年月日(曜日)	令和 8年11月16日(月)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編3）（歩行再建の実際）		
6	年月日(曜日)	令和 8年11月16日(月)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編3）（歩行再建の実際）		
7	年月日(曜日)	令和 8年12月07日(月)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編4） （ニューロモデュレーションの実際）		
8	年月日(曜日)	令和 8年12月07日(月)	時限	7限
	講義室	川越ビル		

担当者	高倉・國澤・清水・師岡			
テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編4） （ニューロモデュレーションの実際）			
9	年月日(曜日)	令和 8年12月21日(月)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編5）（装具療法の実際）		
10	年月日(曜日)	令和 8年12月21日(月)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編5）（装具療法の実際）		
11	年月日(曜日)	令和 9年01月18日(月)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編6）（上肢トレーニングの実際）		
12	年月日(曜日)	令和 9年01月18日(月)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編6）（上肢トレーニングの実際）		
13	年月日(曜日)	令和 9年02月01日(月)	時限	6限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編7）（ロボット療法の実際）		
14	年月日(曜日)	令和 9年02月01日(月)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編7）（ロボット療法の実際）		
15	年月日(曜日)	令和 9年02月08日(月)	時限	7限
	講義室	川越ビル		
	担当者	高倉・國澤・清水・師岡		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編8）（予後予測の実際）		
評価方法	授業での質疑応答、レポート課題により評価する。			
教科書	特になし			
参考書	特になし			
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照			
履修上の注意、履修要件	特になし			

講義名	スポーツ理学療法学特論		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1	時間	15.00
代表曜日	火曜日	代表時限	7限
校地			
単位数	1単位/15時間		
必修・選択	専門科目/理学療法学分野		
配当年次	1年前期		

担当教員		
職種	氏名	所属
理学療法士	◎ 赤坂 清和	理学療法学科教員

担当教員	赤坂 清和・大久保 雄・服部 寛・乙戸 崇寛
科目の目標	スポーツ理学療法における上肢と下肢、骨盤帯を含む脊椎に生じる症状と外傷の特徴を理解し、アンチ・ドーピングや障害発生予防やパフォーマンス向上などスポーツ理学療法に関連する知識や技能を習得する
学習の具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ外傷・障害に対する理学療法に必要な病態生理を理解し、診断や治療、予後予測について説明することができる。 ・スポーツ理学療法に関するガイドライン等を理解し、評価や治療介入を実践することができる。 ・病期、障害に即した理学療法を説明し、実施することができる。 ・スポーツ外傷・障害の発生予防や重症化予防、再発予防の考え方やその方法を理解し、説明することができる。

授業計画表				
1	年月日(曜日)	令和 8年04月14日(火)	時限	1限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部		
	授業内容	スポーツを取り巻く現状やスポーツの意義を理解し、理学療法との関りを理解する。また、理学療法による介入の意義や目的を理解する。		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月14日(火)	時限	2限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部		
	授業内容	医学的な診断や治療介入の方法や時期等について、各種ガイドラインあるいは指針等に基づいて理解する。また多職種の間わりを整理し、各職種が関わる意義を理解する。		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月22日(水)	時限	1限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	大久保		
	テーマ	スポーツ外傷・傷害の機能評価		

授業内容	疾患によって生じる機能障害を整理するとともに、その障害の評価方法を習得する。 また、評価に基づいたクリニカルリーズニングの考え方や方法を理解する。			
4	年月日(曜日)	令和 8年04月21日(火)	時限	2限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	大久保		
	テーマ	アンチ・ドーピング		
	授業内容	スポーツ現場におけるアンチドーピングについての知識を理解する。		
5	年月日(曜日)	令和 8年04月28日(火)	時限	1限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	大久保		
	テーマ	スポーツ外傷の急性期対応		
	授業内容	スポーツ現場における救急対応や急性期理学療法について評価の方法と具体的な介入方法を整理し、その根拠を理解する。また、この時期のリスク管理について習得する。		
6	年月日(曜日)	令和 8年04月28日(火)	時限	2限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	大久保		
	テーマ	スポーツ外傷・傷害のアスレティックリハビリテーション		
	授業内容	スポーツ外傷・障害の機能回復や競技復帰に向けた考え方や具体的な介入方法を整理し、その根拠を理解する。		
7	年月日(曜日)	令和 8年05月12日(火)	時限	1限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	大久保		
	テーマ	スポーツ外傷・障害の発生・再発予防のための理学療法		
	授業内容	スポーツ外傷・障害のリスク因子を理解し、発生予防や重症化予防、再発予防の考え方やその具体的な方法を理解する。またその効果検証の方法を確認する。		
8	年月日(曜日)	令和 8年05月12日(火)	時限	2限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部		
	テーマ	パフォーマンス向上のための介入とその方法		
	授業内容	スポーツ参加者のパフォーマンス向上に対する考え方やその具体的な方法を整理する。また年代における注意点やコンディショニングの方法やその根拠を理解する。		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年04月14日(火)	時限	7限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部		
	テーマ	スポーツ理学療法 総論		
2	年月日(曜日)	令和 8年04月21日(火)	時限	7限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部		
	テーマ	医学的診断と治療介入		
3	年月日(曜日)	令和 8年04月28日(火)	時限	7限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	大久保		
	テーマ	スポーツ外傷・傷害の機能評価		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月12日(火)	時限	7限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	大久保		
	テーマ	アンチ・ドーピング		

5	年月日(曜日)	令和 8年05月19日(火)	時限	7限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	大久保		
	テーマ	スポーツ外傷の急性期対応		
6	年月日(曜日)	令和 8年05月26日(火)	時限	7限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	大久保		
	テーマ	スポーツ外傷・傷害のアスレティックリハビリテーション		
7	年月日(曜日)	令和 8年06月02日(火)	時限	7限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	大久保		
	テーマ	スポーツ外傷・障害の発生・再発予防のための理学療法		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月09日(火)	時限	7限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部		
	テーマ	パフォーマンス向上のための介入とその方法		
評価方法	出席及び学期末試験により評価する。			
教科書	スポーツ理学療法学(陶山哲夫, 赤坂清和, メジカルビュー社)			
参考書	ジュニアアスリートをサポートするスポーツ医科学ガイドブック(金岡恒治, 赤坂清和, メジカルビュー社)			
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照			
履修上の注意、履修要件	スポーツ理学療法または筋骨格理学療法を専門として理学療法業務を行う方が望ましい。 該当しない場合には、事前に科目責任者に連絡を取り、相談すること。			

講義名	スポーツ理学療法学演習		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1	時間	30.00
代表曜日	火曜日	代表時限	7限
校地			
単位数	1単位/30時間		
必修・選択	専門科目/理学療法学分野		
配当年次	1年前期		

担当教員		
職種	氏名	所属
理学療法士	◎ 赤坂 清和	理学療法学科教員

担当教員	赤坂 清和・大久保 雄・服部 寛
------	------------------

授業計画表				
1	年月日(曜日)	令和 8年05月19日(火)	時限	1限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部		
	テーマ	スポーツ外傷・傷害への理学療法 上肢		
	授業内容	上肢のスポーツ外傷・障害に対する理学療法の基本的な考え方を整理する。また介入による効果やその検証方法について理解する。		
2	年月日(曜日)	令和 8年05月19日(火)	時限	2限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部		
	テーマ	スポーツ外傷・傷害への理学療法 下肢		
	授業内容	下肢のスポーツ外傷・障害に対する理学療法の基本的な考え方を整理する。また介入による効果やその検証方法について理解する。		
3	年月日(曜日)	令和 8年05月26日(火)	時限	1限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部		
	テーマ	スポーツ外傷・傷害への理学療法 頭頸部・体幹		
	授業内容	頭頸部・体幹のスポーツ外傷・障害に対する理学療法の基本的な考え方を整理する。また介入による効果やその検証方法について理解する。		
4	年月日(曜日)	令和 8年05月26日(火)	時限	2限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂		

テーマ	患者・家族教育の意義とその方法			
授業内容	患者・家族・チームスタッフに対し、状態・病期に即した理学療法を説明し理解を得ることの必要性を理解するとともに、どのように教育・指導するのかを整理し、習得する。			
5	年月日(曜日)	令和 8年06月02日(火)	時限	1限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂		
	テーマ	スポーツ用装具・テーピング・物理療法とその活用		
	授業内容	スポーツ外傷・障害に対する装具やテーピングや物理療法について整理し、その適応や禁忌について理解する。		
6	年月日(曜日)	令和 8年06月02日(火)	時限	2限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂		
	テーマ	障害者スポーツ 総論		
	授業内容	障がい者スポーツを取り巻く現状や障がい者スポーツの意義を理解し、理学療法との関りを理解する。また、障がい者スポーツの歴史やクラシフィケーションについて理解する。		
7	年月日(曜日)	令和 8年06月09日(火)	時限	1限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂		
	テーマ	障害者スポーツ 障害別各論		
	授業内容	障がい者の特性を理解し、参加可能なスポーツについて理解する。また、障害特性に合わせたリスク管理の方法を習得する。		
8	年月日(曜日)	令和 8年06月09日(火)	時限	2限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際(技術編1) (画像評価の実際)		
	授業内容	レントゲン、CT、MRI、超音波エコー画像などから得られる情報を整理し、要点を理解する		
9	年月日(曜日)	令和 8年06月16日(火)	時限	1限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際(技術編2) (救急対応の実際)		
	授業内容	スポーツ現場における救急対応の実際を理解する。		
10	年月日(曜日)	令和 8年06月16日(火)	時限	2限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	大久保		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際(技術編3) (スポーツ用装具・テーピング 上肢・体幹)		
	授業内容	上肢・体幹のスポーツ外傷・障害に対しての装具療法、テーピングを理解する。		
11	年月日(曜日)	令和 8年06月23日(火)	時限	1限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	大久保		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際(技術編4) (スポーツ用装具・テーピング 下肢)		
	授業内容	下肢のスポーツ外傷・障害に対しての装具療法、テーピングを理解する。		
12	年月日(曜日)	令和 8年06月23日(火)	時限	2限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	大久保		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際(技術編5) (物理療法)		
	授業内容	スポーツ領域における物理療法介入について理解する。		
13	年月日(曜日)	令和 8年06月30日(火)	時限	1限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		

担当者	大久保			
テーマ	疾患・障害特異的理学療法の実践（技術編6）（スポーツ選手に対する徒手療法）			
授業内容	スポーツ領域における理学療法士の準備と役割について理解する。			
14	年月日(曜日)	令和 8年06月30日(火)	時限	2限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部		
	テーマ	疾患・障害特異的理学療法の実践（技術編7）（パフォーマンス向上・予防トレーニングの実践）		
	授業内容	スポーツ領域における理学療法士の役割について理解する。		
15	年月日(曜日)	令和 8年07月07日(火)	時限	1限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部		
	テーマ	疾患・障害特異的理学療法の実践（技術編8）（障害者スポーツの競技・障害別対応の実践）		
	授業内容	スポーツ領域における理学療法士の役割についての報告と改善方法について理解する。		

(14条特例)

1	年月日(曜日)	令和 8年06月16日(火)	時限	7限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部		
	テーマ	スポーツ外傷・傷害への理学療法 上肢		
2	年月日(曜日)	令和 8年06月23日(火)	時限	7限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部		
	テーマ	スポーツ外傷・傷害への理学療法 下肢		
3	年月日(曜日)	令和 8年06月30日(火)	時限	7限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部		
	テーマ	スポーツ外傷・傷害への理学療法 頭頸部・体幹		
4	年月日(曜日)	令和 8年07月07日(火)	時限	7限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂		
	テーマ	患者・家族教育の意義とその方法		
5	年月日(曜日)	令和 8年07月14日(火)	時限	7限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂		
	テーマ	スポーツ用装具・テーピング・物理療法とその活用		
6	年月日(曜日)	令和 8年07月21日(火)	時限	7限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂		
	テーマ	障害者スポーツ 総論		
7	年月日(曜日)	令和 8年07月28日(火)	時限	7限
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂		
	テーマ	障害者スポーツ 障害別各論		
8	年月日(曜日)		時限	集中講義
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂		

テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編1）（画像評価の実際）			
9	年月日(曜日)		時限	集中講義
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	赤坂		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編2）（救急対応の実際）		
10	年月日(曜日)		時限	集中講義
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	大久保		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編3）（スポーツ用装具・テーピング 上肢・体幹）		
11	年月日(曜日)		時限	集中講義
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	大久保		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編4）（スポーツ用装具・テーピング 下肢）		
12	年月日(曜日)		時限	集中講義
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	大久保		
	テーマ	疾病・障害特異的理学療法の実際（技術編5）（物理療法）		
13	年月日(曜日)		時限	集中講義
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部		
	テーマ	疾患・障害特異的理学療法の実際（技術編6）（スポーツ選手に対する徒手療法）		
14	年月日(曜日)		時限	集中講義
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部		
	テーマ	疾患・障害特異的理学療法の実際（技術編7）（パフォーマンス向上・予防トレーニングの実際）		
15	年月日(曜日)		時限	集中講義
	講義室	川越ビル4階 大学院教室		
	担当者	服部		
	テーマ	疾患・障害特異的理学療法の実際（技術編8）（障害者スポーツの競技・障害別対応の実際）		

講義名	理学療法学演習		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	4	時間	120.00
代表曜日	月曜日	代表時限	6限
校地	川角キャンパス		
単位数	4単位/120時間		
必修・選択	専門科目/理学療法学分野		
配当年次	2年通年		

担当教員		
職種	氏名	所属
理学療法士	◎ 赤坂 清和	理学療法学科教員

担当教員	赤坂 清和・高倉 保幸・國澤 洋介・新井 智之・大久保 雄・時田幸之輔・師岡 祐輔
科目の目標	理学療法学分野を行うために必要なスキルを理解し向上させることで科学的な論文を書くことができるようになることを到達目標とする。当科目では模擬テーマや模擬データ等を利用した演習により、研究計画の立て方、倫理申請書の書き方、論文の書き方、発表の仕方などを学習する。
学習の具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 赤坂 清和 筋電図や筋トルクマシン、動作解析装置などを用いた筋骨格の機能に関する研究や徒手療法を含めた筋骨格理学療法における臨床研究に関する演習を行う。 2. 高倉 保幸 運動学習に関する評価と対応、脳機能を意識した理学療法、がんリハビリテーションに関する臨床研究に関する演習を行う。 3. 國澤 洋介 脊髄損傷（不全麻痺）患者やがん患者に対する理学療法（予防的、回復的、維持的、緩和的）に関する演習を行う。 4. 新井 智之 高齢者のロコモティブシンドローム、フレイル、サルコペニア、骨粗鬆症における予防理学療法、地域における介護予防事業や健康増進事業の効果検証に関する演習を行う。 5. 大久保 雄 理学療法に関連するバイオメカニクス（筋電図や動作解析）や骨格筋の形状変化（超音波画像）をテーマとした研究を取り上げ、演習を行う。 6. 時田 幸之輔 比較解剖学または局所説明解剖学からみた体幹と四肢の境界領域の末梢神経系・筋骨格系及び脈管系についての研究に関する演習を行う。 7. 師岡 祐輔 脊椎や脊髄に生じる疾患及び外傷に対する患者の運動機能を中心とした研究テーマについて、演習を行う。

授業計画表

1	講義室	川角キャンパス院生室他
	担当者	赤坂他
	テーマ	
	1-2. (第1週) 研究テーマの立て方	27-28. (第14週) システマティックレビュー
	3-4. (第2週) 研究計画の立案①(対象の設定)	29-30. (第15週) メタアナリシス
	5-6. (第3週) 研究計画の立案②(評価)	
	7-8. (第4週) 研究計画の立案③(介入)	
	9-10. (第5週) 倫理申請書の書き方	
	11-12. (第6週) 対象に対する説明書・同意書の書き方	
	13-14. (第7週) サンプルデータの探索的解析	
	15-16. (第8週) データベースの作成	
	17-18. (第9週) 情報収集用調査票の作成	
	19-20. (第10週) データのチェック	
	21-22. (第11週) データ解析	
	23-24. (第12週) 母集団の推測	
	25-26. (第13週) 仮説と統計的検証	

授業内容	<p>第1週：関連するテーマの過去の研究論文を参考に、研究論文の明確なテーマを設定できる。</p> <p>第2週：予想される結果から適切な対象者の条件と対象者数を設定することができる。</p> <p>第3週：テーマに合わせた適切な評価法を立案することができる。</p> <p>第4週：テーマに合わせた適切な介入法を立案することができる。</p> <p>第5週：倫理委員会に審査を依頼するための倫理申請書を書くことができる。</p> <p>第6週：対象者に対するわかりやすく適切な説明書・同意書を書くことができる。</p> <p>第7週：サンプルデータを採取し、統計学的手法を用いて探索的解析ができる。</p> <p>第8週：収集する情報に合わせた適切なデータベースを構築できる。</p> <p>第9週：大規模データの情報収集にも耐えることができる適切な調査票を作成できる。</p> <p>第10週：統計学的手法を用いて得られたデータをチェックすることができる。</p> <p>第11週：得られたデータに合わせて解析方法を選択し、記述統計的手法を用いてデータを整理する。</p> <p>第12週：収集されたデータから母集団の特性を推測することができる。</p> <p>第13週：推測した母集団の特性から仮説を立て、統計学的手法を用いて仮説を検証することができる。</p> <p>第14週：検証された仮説に関するテーマでシステマティックレビューを実践できる。</p> <p>第15週：仮説に関するテーマでメタアナリシスを実践できる。</p>	
2	講義室	川角キャンパス院生室他
	担当者	赤坂他
	テーマ	<p>31-32. (第16週) 要旨の書き方</p> <p>33-34. (第17週) 結果の書き方</p> <p>35-36. (第18週) 考察の書き方</p> <p>37-38. (第19週) 研究背景の書き方</p> <p>39-40. (第20週) 目的の書き方</p> <p>41-42. (第21週) 対象の書き方</p> <p>43-44. (第22週) 評価方法の書き方</p> <p>45-46. (第23週) 介入法の書き方</p> <p>47-48. (第24週) 統計的検討法の書き方</p> <p>49-50. (第25週) 図表の書き方</p> <p>51-52. (第26週) 英文表記の仕方</p> <p>53-54. (第27週) 科学性の検証</p> <p>55-56. (第28週) 将来性の検証</p> <p>57-58. (第29週) 独自性の検証</p> <p>59-60. (第30週) 査読と校正</p>
	授業内容	<p>第16週：簡潔で論理的に要旨を記述できる。</p> <p>第17週：解析方法に合う適切な記述方法で結果を記載できる。</p> <p>第18週：過去の論文と対比させながら、客観的に得られた結果を検討し記述できる。</p> <p>第19週：研究目的を明瞭にするために、研究背景を科学的に記述できる。</p> <p>第20週：目的を明確に記述できる。</p> <p>第21週：サンプリングの方法、サンプル数の特性について、明確に記述できる。</p> <p>第22週：情報収集の方法、特に理学療法分野に特異的な評価方法を適切に記述できる。</p> <p>第23週：理学療法としての介入を行った場合に、その記述が適切にできる。</p> <p>第24週：選択した統計手法とその選択理由、統計手法の解析条件について適切に記載できる。</p> <p>第25週：代表的な図表について、種類に応じて適切に記載できる。</p> <p>第26週：要旨を中心に、適切な英文での記載ができる。</p> <p>第27週：論文を読み、科学性の検証ができる。</p> <p>第28週：論文を読み、将来性の検証ができる。</p> <p>第29週：論文を読み、独自性の検証ができる。</p> <p>第30週：1. 論文を査読することができる。</p> <p>第〃週：2. 査読結果をもとに、論文を修正できる。</p>
評価方法	出欠、レポート課題、発表により評価する。	
教科書	指導教員の指示に従うこと。	
参考書	指導教員の指示に従うこと。	
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照	
履修上の注意、履修要件	指導教員の指示に従うこと。	

講義名	理学療法学特別研究		
(副題)			
開講責任部署			
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	8	時間	360.00
代表曜日		代表時限	
校地			
単位数	8単位/360時間		
必修・選択	専門科目/理学療法学分野		
配当年次	2年通年		

担当教員		
職種	氏名	所属
理学療法士	◎ 赤坂 清和	理学療法学科教員

担当教員	赤坂 清和・高倉 保幸・國澤 洋介・新井 智之・大久保 雄・時田幸之輔・師岡 祐輔
科目の目標	倫理的な配慮、科学的な思考に基づき実験計画を立て実行し、得られた結果を正確かつ論理的に報告できる。
学習の具体的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 赤坂 清和 筋骨格の機能に関する基礎理学療法研究および筋骨格理学療法に関する臨床理学療法研究（筋電図やトルクマシーンなどを用いた基礎研究や徒手療法を含めた筋骨格理学療法における臨床研究の指導を行う） 2. 高倉 保幸 運動学習や脳機能、がんリハビリテーションなどに関する臨床研究（運動学習に関する評価と対応、脳機能を意識した理学療法、がんリハビリテーションに関する理学療法研究などの指導を行う） 3. 國澤 洋介 脊髄損傷（不全麻痺）患者の歩行能力や基本動作、がん患者に対する研究分野（予防的、回復的、維持的、緩和的理学療法の安全性や有効性の検証、コミュニケーション・スキルの学習法なども研究指導を行う） 4. 新井 智之 高齢者のロコモティブシンドローム、フレイル、サルコペニア、骨粗鬆症における予防理学療法、地域における介護予防事業や健康増進事業の効果検証、中高年の加齢変化に関する基礎的研究を行う。 5. 大久保 雄 筋骨格系理学療法やスポーツ医学に関する領域の研究法および論文作成指導を行う 6. 時田 幸之輔 末梢神経系・筋骨格系及び脈管系についての局所説明解剖学または比較解剖学に関する研究（体幹と四肢の境界領域における末梢神経系、筋骨格系、脈管系の肉眼解剖学的手法を用いた研究の指導を行う） 7. 師岡 祐輔 脊椎や脊髄に生じる疾患及び外傷に対する患者の運動機能を中心とした領域における研究法および論文作成指導を行う

授業計画表		
1	担当者	赤坂 他
	テーマ	1-12. (第1-2週 3日間 4・5限) 研究準備
	授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文献検索 2. テーマの設定（過去の論文を参考にテーマを考えることで、理学療法分野における研究の意義と効果に対する理解を深める）。 3. 研究計画の立案（大まかな研究計画を具体的に立案することで理学療法研究の課題と展望についての理解を深める）。 4. 倫理申請書の作成（被験者に対する倫理的な課題に対する理解とその具体的な対応についての理解を深める）。

2	担当者	赤坂 他
	テーマ	13-24. (第3-4週 3日間 4・5限) 予備実験と研究計画発表会の準備
	授業内容	実際に機器を操作したり、対象者の評価を行ったりすることで、実験計画の課題を明らかにした上で研究計画発表会の準備を進める。
3	担当者	赤坂 他
	テーマ	25-30. (第5週 3日間 4・5限) 研究計画発表討論会
	授業内容	研究計画について他の学生や教員と質疑応答を行うことで実験計画の問題点やその対応の理解を深める。
4	担当者	赤坂 他
	テーマ	31-60. (第6-12週 3日間 4・5限) 研究計画の修正とデータ収集・解析
	授業内容	研究計画発表討論会を通じて明らかとなった課題や対応をもとに実験計画を修正、データ収集と解析を開始する。
5	担当者	赤坂 他
	テーマ	71-90. (第13-15週 3日間 4・5限) 中間発表討論会
	授業内容	改めて研究計画について質疑応答を行うことで実験計画の問題点やその対応の理解を深める。
6	担当者	赤坂 他
	テーマ	91-120. (第16-20週 3日間 4・5限) データ収集と解析
	授業内容	内容：中間発表会の結果をもとに研究計画を修正し、修正された研究を推進する。
7	担当者	赤坂 他
	テーマ	121-132. (第21-22週 3日間 4・5限) 研究発表討論会用資料の作成
	授業内容	内容：学会発表と同等の形式で発表用資料を作成する。
8	担当者	赤坂 他
	テーマ	133-150. (第23-25週 3日間 4・5限) 研究発表討論会
	授業内容	十分な質疑応答を行い、研究で検証された事実と課題を明らかにし、研究の成果を確認する。
9	担当者	赤坂 他
	テーマ	151-180. (第26-30週 3日間 4・5限) 論文の作成
	授業内容	科学的な検証に耐える論理的な記述法を身につけるとともに、研究内容を文章にすることで一層の理解を深める。

(14条特例)

1	担当者	赤坂 他
	テーマ	1-12. (第1-2週 3日間 6・7限) 研究準備
2	担当者	赤坂 他
	テーマ	13-24. (第3-4週 3日間 6・7限) 予備実験と研究計画発表会の準備
3	担当者	赤坂 他
	テーマ	25-30. (第5週 3日間 6・7限) 研究計画発表討論会
4	担当者	赤坂 他
	テーマ	31-60. (第6-12週 3日間 6・7限) 研究計画の修正とデータ収集・解析
5	担当者	赤坂 他
	テーマ	71-90. (第13-15週 3日間 6・7限) 中間発表討論会
6	担当者	赤坂 他
	テーマ	91-120. (第16-20週 3日間 6・7限) データ収集と解析
7	担当者	赤坂 他
	テーマ	121-132. (第21-22週 3日間 6・7限) 研究発表討論会用資料の作成
8	担当者	赤坂 他
	テーマ	133-150. (第23-25週 3日間 6・7限) 研究発表討論会
9	担当者	赤坂 他
	テーマ	151-180. (第26-30週 3日間 6・7限) 論文の作成

評価方法	出欠、レポート課題、発表により評価する
教科書	指導教員の指示に従うこと。
参考書	指導教員の指示に従うこと。
連絡先/オフィスアワー	教員一覧参照
履修上の注意、履修要件	注意：本科目は、前・後期月・水・金曜日の内3日間、4・5限目（14条は6・7限目）にサテライトキャンパス（川越ビル）あるいは川角キャンパスにて行う。

学生生活に関する規定

学生生活に関する規定

1. 学籍番号

学籍番号は入学時に定められ、学位取得までの間、一貫して大学院生固有の番号となります。

学籍番号は研究科を示すアルファベット記号と5桁の数字で構成されています。数字については、1-2桁目は入学年度(西暦)、3桁目は入学区分、4-5桁目は個別番号を示しています。

2. 学生証

学生証は、「学生証(IC内蔵のプラスチックカード)」と裏面に貼付する「在籍確認シール」を合わせて有効な状態となります。学生証には本学の大学院生であることが確認できるよう、顔写真・研究科・専攻・課程・学籍番号・氏名・生年月日・発行日・有効期限が印字されています。なお、裏面の住所欄は自身で記入してください。

学生証は本学の大学院生としての身分を証明する大切なものです。キャンパス内では常時携帯し、教職員に提示を求められた場合は速やかに提示しなければなりません。また、ロッカー室への入室、テレサホールやラウンジヤマネを利用する際の電子決済機能、図書館を利用する際の身分証明、通学定期券の購入などを円滑に行うために必要となります。紛失、盗難、破損のないように十分に注意してください。

(1) 記載事項の変更

住所・氏名等が変わった場合には、直ちに事務室に届け出てください。届け出を怠ると、通学定期券の購入や学割の使用ができなくなります。

(2) 通学区間の記入方法（通学定期券を購入する場合）

学生通学区間欄に現住所から大学までの通学区間を記入してください。記入上の注意事項は次のとおりです。

- ・ 現住所から大学までの最短通学区間を記入する
- ・ バスの利用も含め、交通機関ごとにそれぞれ記入する
- ・ 通学区間欄内に記入しきれない場合は事務室へ申し出る
- ・ 現住所の変更などにより通学区間を変更する場合や、通学定期券購入欄に記入する余地がなくなった場合は、「在籍確認シール」の再発行を事務室に申し出る

(3) 携帯と提示

学生証は常に携帯し、次のような場合には必ず提示してください。

- ・ 証明書の交付を受ける時
- ・ 本学施設を利用する時（ロッカー室・テレサホール・ラウンジヤマネ・図書館等）
- ・ 図書の貸し出しを受ける時
- ・ 通学定期券・学生割引乗車券を購入する時、又は、それを使用して乗車し係員から提示を求められた時
- ・ その他、本学教職員から提示を求められた時

(4) 取扱上の注意

学生証には、学籍番号を識別するバーコード表示や、テレサホールやラウンジヤマネで利用する電子決済機能や施設への入館権限などが記憶されているICチップが内蔵されています。そのため、汚したり折り曲げたりするとそれらが機能しなくなる場合がありますので大切に取り扱いってください。

(5) 紛失と再交付

学生証の紛失や、破損・汚損・ICチップが損傷した場合には事務室に再交付を申し出てください。原則として申請の1週間後に交付され、紛失や破損等の場合には再交付料が必要となります。

なお、紛失や盗難の場合は、必ず、最寄りの交番か警察に届け出てください。また、学生証を拾得した場合には直ちに事務室に届けてください。

(6) 返却

修了・退学・除籍などにより本学の学籍を離れる場合は、速やかに学生証を事務室に返却してください。

3. ネームカード

- ・ 本学の大学院生であることが確認できるよう、顔写真・研究科・専攻・課程・学籍番号・氏名を掲載したネームカードを支給します。
- ・ キャンパス内におけるネームカードの着用は、大学院生であることの確認および部外者との識別を容易にすることを目的としています。防犯対策の意味合いも含んでいますので、キャンパス内では、ネームカードは常時着用してください。
- ・ ネームカードのストラップは研究科ごとに色分けされています。
 - ブルー 医学研究科
 - ピンク 看護学研究科
- ・ 修了・退学・除籍などにより本学の学籍を離れる場合は、速やかに、ネームカードを事務室に返却してください。

4. 通学

(1) スクールバス

下記より、日高キャンパスおよび川角キャンパス行きのスクールバスを運行しています。

なお、スクールバスの運行遅延により遅刻・欠席することとなっても、その事態を考慮することは一切ありません。

東武東上線「坂戸駅(南口)」

JR 川越線「武蔵高萩駅(あさひ口)」

毛呂山キャンパス(鍊成館)

東武越生線「東毛呂駅」付近の『東毛呂駅南バス停』

(2) 通学定期券

通学定期券は、居住地(学生証に記載した住所)の最寄駅から大学の最寄駅までの区間を最も経済的なコースで通学する場合に限り購入することができます。アルバイトなど通学

以外の目的では購入できません。

通学定期券の購入にあたっては、定期券販売所で「定期券購入申込書」に必要事項を記載し、裏面の「通学区間欄」に乗降駅を記入した学生証を提示してください。

(3) 実習用定期券

学外実習などのために通学区間外の定期券が必要な場合には、「通学証明書(臨床実習用)申込書(様式 54 号)」を事務室に提出し、鉄道会社に申請することにより、「実習用定期券」を購入することができます。

なお、鉄道会社から定期券購入のための承認通知書が届くまでに期間を要しますので、遅くとも実習開始の1か月前までに申請してください。申請が遅いと実習時期に間に合わないことがあります。

(4) 自家用車・バイク(原付を含む)・自転車での通学

自家用車・バイクでの通学にあたっては事務室で手続きを行ってください。駐車場の利用方法についてはキャンパスにより異なりますので注意してください。また、学内外を問わず路上駐車や違法な駐車場占拠、指定場所以外の駐車・駐輪は厳禁です。判明した場合は、処分の対象となります。

なお、バイクおよび自転車で通学する場合は、所定の駐輪場を利用し、必ず施錠するようにしてください。また、放置バイクおよび自転車は強制的に撤去することがあります。

通学用の車両を変更する際は、事務室で登録変更の手続きを行ってください。

(5) 駐車場の使用について

日高キャンパス

日高キャンパスに自動車に通学する場合には、事務室前駐車場の利用を許可しております。利用を希望する場合は事務室にて所定の手続きをすることで「駐車許可証」を発行いたします。駐車場利用時には必ず「駐車許可証」をダッシュボード上などの確認ができる場所に置いてください。

川角キャンパス

川角キャンパスの学生用駐車場は、「通学用自動車等登録申請書(様式 71 号)」を川角キャンパス事務室に提出することにより利用することができます。学生用駐車場の周辺には民家もありますので、駐車場利用にあたっては空ふかしや無駄なアイドリングはしないでください。

5. キャンパスマナー

- ・ 本学大学院生としての品位を保つよう、自覚をもって行動してください。これはキャンパス外においても同様です。
- ・ 公共の交通機関を利用して通学する際は、停留所での割り込み行為・車内における大声での会話は慎み、お年寄りや体の不自由な人がいたら席を譲るなど、医療人を志す者としての自覚を持ちましょう。
- ・ 大学から呼出しを受けた際は、速やかに事務室を訪れるか、電話等の連絡をしてください。

6. 大学院生に対する通知・連絡

大学院生に対する通知や連絡等はメールまたは所定の掲示板に掲示します。掲示した事項

については、全ての大学院生に周知されたものとみなしますので、掲示板および配信されるメールの確認を怠らないでください。また、自身が属する研究科のみならず、全体掲示板や保健室前の掲示板も確認するようにしてください。

また、掲示物にみだりに触れることは禁止です。掲示物を撤去・破損・汚損した者は処分の対象となります。

7. 学内の ICT 環境

(1) SMSNET 埼玉医科大学教育学術情報ネットワーク

学内向けに公開している情報を閲覧することができます。図書館の文献検索システムの利用や教員の電子メールアドレスの検索などが出来ます。

[URL] <https://smswww.saitama-med.ac.jp/>

(2) シラバス検索

本学ホームページの「医学研究科修士課程」、「看護学研究科修士課程」のページで電子シラバスの検索が可能です。

[URL] https://www.saitama-med.ac.jp/education/grad_med/master.html (医科学)

https://www.saitama-med.ac.jp/education/grad_nurse/master.html (看護学)

(3) Web Class

講義動画の視聴、資料の閲覧やダウンロード、小テストやレポート提出などが出来ます。また、教員と大学院生間で連絡をとるなど講義に関わる様々な場面、用途で活用できます。

[URL] <https://fm-lms.saitama-med.ac.jp/webclass/login.php>



(4) 学内コンピュータの利用方法

大学院生が使用できるコンピュータ（SMSNET 閲覧）は以下の場所に設置しています。利用の際はユーザーID・パスワードを入力してログインしてください。使用後はログアウトし、シャットダウンをしてください。

日高キャンパス	B棟6F	マルチメディア教室
	B棟6F	看護学研究科院生室
	A棟2・3F 図書館	情報検索コーナー
川角キャンパス	校舎2F	コンピュータ室
	図書館	情報機器コーナー
毛呂山キャンパス	図書館1・3F	情報機器コーナー

IT 環境の不調、その他の報告・相談

IT 環境(設置する PC 含む)の調子が悪い時は、「学籍番号・名前・該当の場所(PC)・症状」を事務室まで連絡してください。

キャンパス	連絡先	メールアドレス	結果報告
日高キャンパス	事務室	hmaster@saitama-med.ac.jp	C棟1F掲示板
川角キャンパス	事務室	kawakado@saitama-med.ac.jp	事務室前掲示板

(5) メールアドレスの付与

大学院生には「学籍番号@fhmc.saitama-med.ac.jp」で表す個別メールアドレスを付与します。本学ではGoogle社のGmailを利用しており、パソコン・スマートフォン・タブレットなどのインターネット接続が可能な機器でメール受信することができます。大学からの連絡は主にメールで行いますので、常にメールの受信を確認してください。

メーリングリストの利用

次のメーリングリストアドレスを利用すれば、学年及び研究科全員にメールを配信することができます。なお、このメーリングリストは、修学上必要な連絡を目的としたものであり、私用や勧誘などでの利用は禁止します。

グループ	メールアドレス
医学研究科医科学専攻1年生	m-s-1nensei@saitama-med.ac.jp
看護学研究科看護学専攻1年生	m-n-1nensei@saitama-med.ac.jp
医学研究科医科学専攻2年生(含、長期履修生)	m-s-2nensei@saitama-med.ac.jp
看護学研究科看護学専攻2年生(含、長期履修生)	m-n-2nensei@saitama-med.ac.jp

(6) 個人所有コンピュータでの学内ネットワーク利用

申請により個人所有コンピュータを学内ネットワークに接続し使用することができます。申請の際はSMSNETの「保健医療学部におけるコンピュータの利用について」を必ず確認し、次の注意を守ってください。また、個人所有コンピュータが原因で大学業務に支障が生じた時は処分の対象となります。

[URL] <https://smswww.saitama-med.ac.jp/hoken/gakusei/pc/index.html>

<使用上の注意>

- ① コンピュータウイルス対策の確実な履行
 - a. ウィルス対策ソフトの実行（記憶媒体、メール、ホームページに対して、即時及び定時実行）
 - b. ウィルスパターンの定期的な更新(最低週1回)
- ② セキュリティホール対策の確実な履行
 - a. ウィンドウズアップデートの実行（自動実行で更新時に確認設定）
 - b. アプリケーションのアップデート（適宜）
- ③ 情報漏洩防止の確実な履行
 - a. 利用者認証の設定
 - b. 情報の紛失防止、漏れては困る情報の保存の禁止、学外持ち出し禁止（学内ネットワークに関する情報、個人情報など）
 - c. ファイル共有ソフト（P2Pソフト、Winny、share、Cabos、WinMX、Lime Wire、Bit Cometなど）の使用禁止

学内ネットワークの利用には研究科長（または修士課程運営委員長）の許可が必要です。利用を希望する大学院生は、事務で所定の手続きを行ってください。

- 申込期間は、原則として5月と11月のそれぞれ1ヶ月間です。
- 申込には、使用するパソコンのメーカー名、型式、OS、MACアドレスの情報が必要となりますので、あらかじめ調べておいてください。

- ・使用開始にはネットワーク設定が必要です。「埼玉医科大学教育学術情報ネットワーク (<https://smswww.saitama-med.ac.jp/>)」を参照し、設定をしてください。
- ・学籍がなくなった場合は、登録が抹消されます。
- ・登録内容が変わった場合は、再申請が必要となります。
- ・必要と認められる場合、パソコンの使用状態を調べることがあります。

8. 学内の環境保全

- ・大学院生は、本学の建物・設備・備品などを破損・汚損することのないよう努めてください。場合によっては処分の対象になります。また、キャンパス内の清掃・整理整頓・火気取り締まりには常に留意してください。
- ・本学は、喫煙により罹患する可能性が高くなる疾病等の予防医療を実施する医療機関を擁する大学として、学内および指定された地域で全面禁煙を実施しています。
- ・キャンパス内での飲酒は禁止します。ただし、相応の理由が認められる場合には、修士課程運営委員長の許可により場所・時間を限って認められることがあります。なお、アルコールの過剰摂取により死亡事故に至るケースもあるので、「イッキ飲み」等の危険な飲酒行為及び飲酒運転は絶対にしないでください。
- ・キャンパス内での麻雀等の賭博性のある遊戯を行うことは禁止です。

9. 校舎への出入り

校舎への出入り口

日高キャンパス

出入口	開錠時間 (月～土)	入館方法	退館方法	備考
正面玄関(事務室前)	7:00～20:00	自動開閉		時間外は施錠
A棟 西側出入口	7:00～19:00	学生証を カードリーダー にかざす	内側の サムターン錠 を回し開錠	時間外は入館 不可
C棟 北側出入口 (EV側)				
C棟 北側出入口 (ロッカー室側)				

※休日・入学試験および大学が指定する年末年始の休暇期間は入館できません。

※14条特例講義等、修学上必要な場合は施設使用を認めることがあります。

オスラーホール (学生ホール)

出入口	開錠時間 (月～土)	入館方法	退館方法	備考
正面出入口	7:00～21:00	学生証を カードリーダー にかざす	自動開閉	終日施錠
東側裏出入口				時間外は入館 不可

※自己学習や飲食など多目的で 사용할 ことができます。

※休日・入学試験日および大学が指定する年末年始の休暇期間は入館できません。

※夜間の非常時は、国際医療センター警備室(042-984-4110)に連絡してください。

川角キャンパス

校舎は月曜日～土曜日の9:00～18:00は入退館ができます。なお、休日および大学が指定する年末年始の休暇期間は出入りできません。

特別な事由により「教室使用願(様式76号)」が事務室に提出された場合に、事務室長の許可の下、休日の教室等の使用および使用時間の延長を認めることがあります。

10. 食堂・売店

日高キャンパス

食堂(テレサホール・ラウンジヤマネ)では、学生証に現金をチャージし、カードリーダーにかざして代金を支払います。

施設名	場所	営業日	営業時間
テレサホール(食堂)	テレサホール	年中無休	11:00～14:30 17:00～18:30(平日のみ)
ラウンジヤマネ(食堂)	管理棟1階	月～金	11:00～14:30
コンビニ(ローソン)	テレサホール2階	月～金	11:00～13:30
ATM(埼玉りそな銀行)	テレサホール2階	月～金	9:00～17:00
文光堂書店	管理棟1階	月～金	12:00～16:30*

*教科書販売期間は異なります

川角キャンパス

学生食堂では券売機で食券を購入します。

施設名	場所	営業日	営業時間
学生食堂	食堂棟	食堂棟内に掲示	11:00～13:00

11. 掲示物

- ・ 掲示する場合は、事務室に「印刷物掲示・配布願(様式75号)」を提出し、修士課程運営委員長の許可を得る必要があります(掲示許可までに約1週間要します)。
- ・ 掲示期間は原則2週間以内です。
- ・ 掲示物は最大でA3用紙サイズまでです。
- ・ 所定の場所以外の掲示は禁止です。
- ・ 掲示期間が過ぎたら、掲示を願い入れた者が掲示物を撤去してください。
- ・ 違反した掲示物は撤去します。
- ・ 掲示物を無断で除去・破損・汚染する行為は処分の対象となります。

12. 印刷物の配布

大学院生が新聞・ビラ・その他の印刷物またはこれらに準ずるものをキャンパス内で配布しようとする場合は、代表者が現物を添えて「印刷物掲示・配布願(様式75号)」を事務室に提出し、修士課程運営委員長の許可を得る必要があります。

13. 集会・催しなど

- ・ 学内外を問わず、本学大学院生として集会や催しなどを行う場合は、実施の1週間前までに「集会許可願(様式74号)」を事務室に提出し、修士課程運営委員長許可を得る必要があります。

- 集会や催しなどに際し大学施設を使用する場合は、「集会許可願」と併せて「施設使用願(様式 77 号)」を事務室に提出し、事務室長の許可を得る必要があります。
- 参加費や入場料などを徴収する場合は、その額および用途を明記した書類を「集会許可願」に添付してください。
- 集会が終了したら、責任者は速やかに修士課程運営委員長に経過を報告してください。また、収入があった場合は修士課程運営委員長に会計報告書を提出してください。
- 集会で使用した施設や備品は、清掃・点検し、元の状態に戻してください。また、火災に十分注意してください。
- 集会における行為が、大学院生としてふさわしくなかったり、大学や社会の秩序を乱したり、危険な事態が発生する恐れがあると認められた場合は、その集会の禁止・解散を命ずることがあります。
- 署名運動・デモなどおよび対外的な活動をする場合も上記各項が適用されます。
- 学内において布教活動と認められる行為の一切を禁止します。また、教育等に使用する住所録・メールアドレス等の個人情報を布教活動に使用することも禁止します。

14. 備品などの使用

- 大学の備品などを課外活動やその他の目的で使用する場合は、「備品使用願(様式 78 号)」を事務室に提出し、事務室長の許可を得る。
- 使用した備品などは清掃・点検し、元の場所に確実に戻し、事務室長の確認を受けて下さい。

15. 健康管理

「学生健康推進室(以下 保健室)」は事務室とともに、健康相談、健康診断、予防接種などを行い、皆さんが快適で健康的な大学院生活を送れるように支援します。

保健室は、日高キャンパス・川角キャンパスそれぞれの校舎 1 階にあり、皆さんの健康管理に関する情報提供や指導を行っています。日頃から掲示を確認し、呼び出しがあった場合には速やかに対応してください。

〈連絡先〉

Tel : 042-984-4412 (内線 : 3123)

e-mail : h_kensui@saitama-med. ac. jp

(1) 体調不良時の初期対応及び受診指導

保健室では、簡単な傷の手当てやベッドでの休養ができます。場合によっては、埼玉医科大学国際医療センターや埼玉医科大学病院、その他の医療機関への受診指導等を行います。病院で診療を受ける際には保険証の提示が必要です。本学の病院を受診する際には、学生証とマイナ保険証または資格確認書を必ず持参してください。

(2) 定期健康診断の実施と健診後の保健指導

毎年 1 回の健康診断が義務付けられているので、必ず受診してください。

定期健康診断は、現在の皆さんの健康状態を把握するだけでなく、将来の生活習慣病を予防するための重要な資料となります。

保健室では、健康診断の結果に基づき、生活指導や医療機関の受診を勧奨しています。健康診断の結果で異常が認められた場合には、適切な医療機関を受診してください。

実施内容

身長、体重、視力、聴力、血圧測定、内科診察、尿検査（糖、蛋白、潜血）、胸部エックス線検査

事後指導

健康診断の結果は「健康診断成績表」を配付しお知らせします。「健康診断成績表」は、在学中、大切に保管してください。

健康診断の結果によって、生活習慣改善のための指導や専門医療機関への受診勧奨を行います。通知された大学院生は速やかに指導に従って受診し、「受診報告書」を保健室に提出してください。

(3) 予防接種の実施

インフルエンザの予防接種を希望者に実施しますので、お知らせを確認して申し込みしてください。

(4) 診断書・証明書の発行

実習、留学、就職活動などに必要な診断書や証明書は、健康診断のデータを用いて作成します。詳細は次項目「19. 健康診断書」を参照ください。

(5) 身体的な健康の相談

体調不良や健康上心配なことがある場合には遠慮なく相談してください。必要があれば、埼玉医科大学国際医療センターや埼玉医科大学病院の専門診療科などを紹介します。

(6) こころの相談

こころの相談は、充実した学生生活を送るためのサポートの1つです。学業、対人関係、将来の不安など大学生活で直面する様々な悩みや問題について、気軽に相談できます。相談は予約制です。初回は「保健室」か「学生サポート相談室」に来室、又は電話（保健室 042-984-4412）で予約してください。

(7) 体調不良の対応

学校感染症に罹患した場合（別表1）は、疾病ごとに定める出席停止期間を遵守すること。医師により「治癒」または「感染の恐れがない」ことが認められる必要がある疾病〔第1種および第3種ならびに第2種の一部の感染症（インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症を除く）〕に関しては、必ず医療機関を受診し、「治癒（見込み）証明書」あるいは「欠席期間（見込み）が明記された診断書」発行を依頼し、提出すること。

学校保健安全法に定められた学校感染症等

別表 1

種別	疾患名	出席停止期間
第2種	インフルエンザ	発症後(発熱の翌日を1日目として)5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで
	新型コロナウイルス感染症	発症後(発熱の翌日を1日目として)5日を経過し、かつ、解熱した後1日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで、または、5日間の適正な抗菌薬療法が終了するまで
	麻疹	解熱後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	風疹	発疹が消失するまで
	水痘	すべての発疹が痂皮化するまで
	咽頭結膜熱	主要症状消退後2日を経過するまで
	結核	医師により感染の恐れがないと認められるまで
	髄膜炎菌性髄膜炎	
第1種	エボラ出血熱、ペスト、クリミア・コンゴ出血熱、マールブルグ熱、痘そう、ラッサ熱、南米出血熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、鳥インフルエンザ、新型インフルエンザ等感染症	治癒するまで
第3種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性結膜炎、急性出血性結膜炎	医師により感染の恐れがないと認められるまで
その他	溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療なされ、全身状態が良ければ登校可
	マイコプラズマ感染症	症状が改善すれば登校可

18. 健康診断書

就職活動その他の申請など、本学での修学上必要と認められ、かつ、採血などの特殊検査を要しない場合、健康診断のデータを用いて健康診断書を発行します。健康診断書の発行を希望する場合は、2週間前までに事務室に「証明書交付願(様式 51 号)」を提出してください。

ただし、本学実施の健康診断を受診していない場合や、異常値があるのに受診や精査を受けていない場合は、診断書の作成はできません。発行は大学書式のものに限りませんが、記載は大学で実施した健康診断結果のみとなります。検査を必要とする健康診断書は各自で病院を受診依頼してください。

19. 傷害保険

本学においては、大学院生が不慮の事故等にあった場合の支援措置として保険制度が設けられています。

(1) 学生教育研究災害傷害保険制度（略称「学研災」）

この保険は、公益財団法人日本国際教育支援協会と国内損害保険会社 4 社との間で締結された共同保険契約であり、東京海上日動が他の保険会社の代理・代行を行います。

各大学は、公益財団法人日本国際教育支援協会の賛助会員として被保険者となる大学院生の保険加入をとりまとめ、保険金請求時の証明などの事務を行います。

本学では、全員が A コースに加入していますので、該当する傷害を被った場合は、保険金請求を専用アプリ「SkettBook(<https://skettbook.jp/store>)」で行います。



保険金が支払われる対象範囲

被保険者が教育研究活動中(下記)に被った突然の事故による身体の傷害(病気は対象になりません)

- ① 正課中・学校行事中
- ② 上記①以外で学校施設内にいる間・通学中・学校施設等相互間の移動中
- ③ 学校施設内外を問わず、届け出た課外活動(クラブ活動)を行っている間

補償内容

死亡保険金：①2,000万円 ②③1,000万円

後遺障害保険金：①120万円～3,000万円 ②③60万円～1,500万円

医療保険金：①治療日数1日以上対象3,000円～30万円

②治療日数4日以上対象6,000円～30万円

③治療日数14日以上対象3万円～30万円

入院加算金：①②③1日につき4,000円

保険料

2年間分の保険料については入学時の学納金に含まれています。

なお、修学期間の2年を超えて在籍することとなった長期履修生・留年者については、後述の「21. 賠償責任保険 (1) 学研災付帯賠償責任保険(全員加入)」の保険料と合わせて、年額1,520円を当該年度の学費に含めて徴収します。

保険期間

入学年次の4月1日～卒業年次の3月31日

(2) 埼玉医科大学学生グループ保険および普通傷害保険

この保険は、加入者が保険期間中に死亡した場合に死亡保険金が、傷害または疾病によって高度障害状態になった場合に高度障害保険金が、それぞれ支払われます。また、傷害による入院・通院についても保険金が支払われます。

本学では全員が加入していますので、該当する傷害を被った場合は、事務室に報告してください。

保険金の請求は事務室を通じて行います。

保険金が支払われる対象範囲

24時間補償

補償内容

病気死亡：100万円

傷害死亡・後遺障害：最高約357万円まで

傷害入院日額(疾病によるものは対象外)：1,000円(1日から補償)

傷害通院日額(疾病によるものは対象外)：500円(1日から補償)

保険料

保険料は毎年の学納金に含まれています。

(3) 学研災付帯学生生活総合保険(略称「付帯学総」)

この保険は任意加入(入学手続き時にご案内)の保険です。

入学年度により補償内容が異なるので、詳細につきましては、取扱代理店の「日本防災保障株式会社(049-294-6385)」で確認してください。

保険金の請求はインターネットの受付フォーム

(https://www.web-tac.co.jp/form/uni_claim01.html)で行います。



20. 賠償責任保険

(1) 学研災付帯賠償責任保険(略称「付帯賠償」)

この保険は、「19. 傷害保険(1) 学生教育研究災害傷害保険」に付帯するものであり、講義中、実験・実習中、学校行事、ボランティア、クラブ活動等の課外活動およびその活動を行うための交通の途上で、他者に怪我を負わせてしまった、他者の財物を損壊してしまったなどの賠償責任事故に対する被害者救済のための賠償責任保険です。

本学では、全員がCコース(医学生教育研究賠償責任保険(医療関連学部を含む))に加入していますので、賠償を負うような場合は、事務室に報告してください。

保険金の請求は事務室を通じて行います。

補償の対象となる主な事故例(国内のみ対象)

- ① 実習中に患者さんの移動を手伝い、誤って転倒などにより、怪我を負わせてしまった場合。
- ② 患者さんの検査に付き添い、患者さんの眼鏡や持ち物を預かり、破損あるいは紛失してしまった場合など。

保険期間

入学次の4月1日より卒業年次の3月末までの2年間

保険料

2年間分の保険料については入学時の学納金に含まれています。

なお、修学期間の2年を超えて在籍することとなった長期履修生・留年者については、先述の「19. 障害保険 (1) 学生教育研究災害保険制度(全員加入)」の保険料と合わせて、年額1,520円を当該年度の学費に含めて徴収します。

21. 奨学金

奨学金には以下のものがあります。

なお、募集対象・募集人数・募集内容は年度によって異なります。

- ・ 日本学生支援機構奨学金(貸与奨学金 第1種[無利子]/第2種[有利子])

奨学金の募集要項を掲示板に掲示するので、希望する学生は確認してください。奨学金に関することは事務室に問い合わせてください。

22. アルバイト

アルバイトをする場合には、以下のことを遵守してください。

- ・ 研究に支障がない程度とすること。
- ・ 大学院生としての品位にかかわるような職種を選定しないこと。

23. 各種相談窓口

(1) 指導教員

- ・ 指導教員を指定し、2年間（長期履修生は3年間）学修が円滑に行われるようサポートします。
- ・ 修士課程運営委員会(教員)もサポートしています。各分野に修士課程運営委員がいますので気軽に相談してください。

(2) 障害学生支援について

本学は、人権を尊重し、障害の有無によって差別されることなく、個人を大切に教育する大学を目指します。必要に応じて合理的配慮を提供し、障害学生が他の学生と同等の教育を受けられるように支援します。支援、合理的配慮の提供に関する相談窓口は「学生サポート相談室(042-984-4914)」です。

(3) キャリア支援と学生サービスについて

キャリア支援と学生サービスに関する窓口を設置し、大学院生（修士課程）に情報提供等の支援を行います。

連絡先：保健医療学部 事務室 庶務課 大学院担当

Tel：042-984-4801、E-mail：hmaster@saitama-med.ac.jp

24. ハラスメント

『埼玉医科大学 保健医療学部ハラスメント防止規則』に基づき、ハラスメントを含め人権を侵害する行為を禁止しています。大学院生が安心して学修、研究ができるように、ハラスメントの防止にも努めています。ハラスメントとは、不当な言動を行うことにより個人の尊厳を傷つけ人格を侵害する行為です。セクシャルハラスメント、アカデミックハラスメント、パワーハラスメント、モラルハラスメント等の典型的なハラスメントのほか、性暴力など人権侵害行為も含まれます。『ハラスメントに関するガイドライン』も参照してください。

(1) ハラスメント等が疑われたら

ハラスメントと思われることがあった、又は場面を目撃した場合、話しやすい教員またはハラスメント窓口(保健医療学部事務室 大学院担当または保健室)に直面かメール(hmc_hara@saitama-med.ac.jp)で相談してください。その段階で相談内容を詳しく説明する必要はありません。修士課程運営委員会内に置かれた相談員が連絡を受け、あなたの意見を最大限尊重しながら、問題を整理し、問題解決に向けて一緒に考えます。友人が被害にあったというような時でもお話を聞きます。相談員には守秘義務がありますので、相談した内容が部外者に漏れることはありません。また、相談したことで、不利益な取り扱いをされることもありません。被害にあったのは、決してあなたのせいではありません。

(2) ハラスメント等解決の流れ

相談員

教員または相談窓口から連絡を受けた相談員は、被害の相談・申し立てについて丁寧にお話を聴きます。相談員は、研究科長が指名した教員複数名です。被害者本人に限らず、第三者(友人等)の被害についての相談・申し立てについても同様です。

事実関係の調査と対応策の検討

被害の相談・申し立てを受けて、相談員はヒアリングを行い、被害者の同意を得たうえで、対応を協議するため、規定に基づき速やかにハラスメント防止委員会に報告します。相談員は、2名1組で対応します。被害者が研究科内での調査・対応を希望し、研究科長が必要と認めた場合は「調査・対策委員会」が設置されます。「調査・対策委員会」は、被害者、加害者と想定される者、および関係者にヒアリングを行い、事実を確認するとともに、被害者の意思を尊重しつつ対応策を検討します。

対応策の実施

「調査・対策委員会」より修士課程運営委員長を通じた報告を受け、研究科長は事例の軽重により下記の通り対応する。

- ・ 特に悪質と考えられる事例では、研究科長から学長に報告した上で法人のハラスメント防止委員会に裁定をゆだね、必要に応じて賞罰委員会での審議を経て対処する。その結果は研究科委員会に報告する。
- ・ それ以外の事例では、修士課程運営委員長および研究科長が加害者に忠告と指導等を行うとともに、相談員を通じて被害者および家族に説明を行う。また、修士課程運営委員会を通じて研究科委員会に簡単な経緯を報告する。

ハラスメント等の被害者への対応

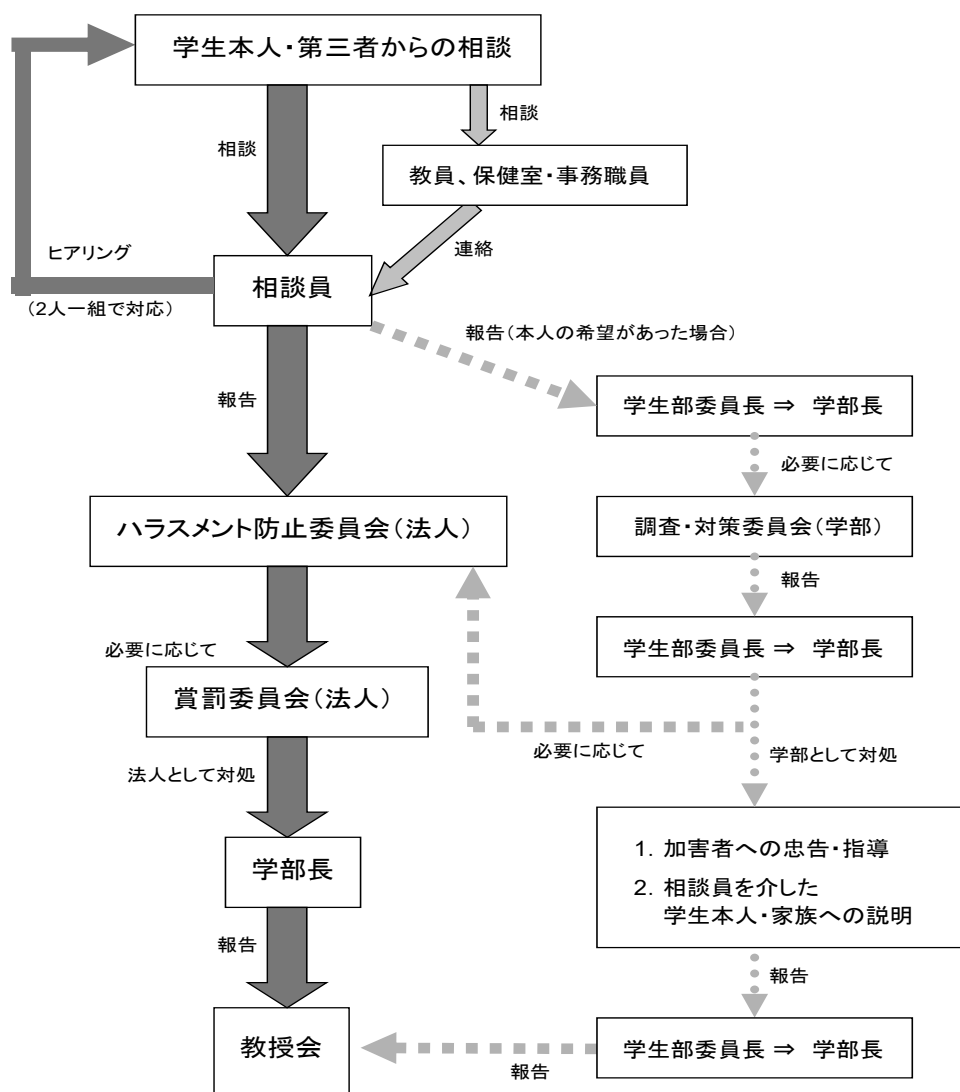
被害者には可能な限り最善の対応、救済措置をとるように努めます。

相談・申し立ての時点、またはハラスメント解決に向けた検討中であっても、ハラスメントの疑いのある行為が継続し、被害者を救済する措置が必要と判断された場合は、相談員は緊急避難の措置を、修士課程運営委員長を通じて研究科長に要請します。

相談・申し立てから解決に向けてのすべての過程において被害者のプライバシーと名誉の保護を最優先とし、個人情報が入部外に漏れないように最善を尽くします。また、相談者(被害者)が相談・申し立て等により修学上の不利益(報復)を被ることがないように配慮します。

ハラスメント等による行為や申し立て等により精神的な苦痛を感じている時は、いつでもカウンセリングによる支援を受けることができます。

ハラスメント問題発生から解決までの流れ



25. 災害に対する予防と事故遭遇時の対応

(1) 災害に対する予防と対応

- ・ 地震及び火災発生時の対応については、「埼玉医科大学保健医療学部危機管理マニュアル」に詳しく書いてあります。マニュアルの文章及びそれに続く対応図や避難場所地図、消火器具の配置図などに目を通し、日頃から危機管理の意識を持ってください。
- ・ 火災予防に努めてください。構内は禁煙です。また、構内において火気を使用する場合には許可が必要です。
- ・ 自然災害により、警報または特別警報が発令された場合、発令後の授業等(講義・実習・演習・試験を含む)を中止とすることがあります。警報発令時の授業や実習等の中止に関する判断は、警報が発令された時間により異なります。詳しい内容は「VII 諸規定」にありますので確認しておいてください。

(2) 安全運転及び事故遭遇時の対処

- ・ 自転車、自動二輪車、自動車を運転する場合には、交通ルールを守り安全運転を心掛けてください。また、飲酒運転は厳禁です。
- ・ 事故に遇った場合には先ず人命救助に努め、その後、大学(事務室)に速やかに報告してください。

〈連絡先〉

Tel : 042-984-4801

e-mail: hokeniryous@saitama-med.ac.jp

〈報告事項〉

氏名・分野・学年・事故遭遇時間・場所・状況・負傷者の有無

- ・ 安全運転及び事故遭遇時の対処についての詳しい内容は、「VII 諸規定」にありますので確認しておいてください。

(3) 災害・事故・事件等発生の際の連絡先

月～土 8:30～17:00

日高キャンパス事務室 (保健医療学部棟 A 棟 1 階)

外線 : 042-984-4801 (内線 : 3101)

川角キャンパス事務室

外線 : 049-295-1001 (内線 : (41-7)521)

月～土(8:30～17:00)以外の時間帯 (日・祝祭日及び夜間等)

警備センター (国際医療センターB 棟 1 階)

外線 : 042-984-4110 (内線 : 7110)

飯能警察署

緊急 : 110

その他 : 042-972-0110

埼玉西部広域消防本部

緊急 : 119

その他 : 042-973-9119

(4) 各キャンパスの避難場所

各キャンパスの非難マニュアル(避難指示)に従い、下記避難場所へ慌てずに避難すること。

日高キャンパス	「創立 30 周年記念講堂前広場」
川角キャンパス	図書館西隣の芝生
毛呂山キャンパス	「いこいの広場」 丸木記念福祉メディカルセンターと埼玉医療福祉会看護専門学校の間
川越キャンパス	「川越運動公園」 総合医療センターの南東、直線 500m

26. 海外への旅行等

観光、語学研修などで海外旅行をする場合などは、事前に「海外旅行届(様式 73 号)」を事務室に提出してください。

27. 安全管理は自らの手で

近年、日本全国で常識を超えた凶悪な事件が頻発していることは、新聞やテレビを通じて誰でも知っています。路上で、駅で、さらには自分の家でさえも、事件が起こっています。

本学の周辺は民家が少なく、県道等の人通りもまばらです。とくに夜間では大学構内といえども必ずしも安全とはいえないことに留意して、登下校時の安全を図ってください。

また、一人暮らしの場合には、複数の鍵を付ける、防犯チェーンを掛ける、見知らぬ人物の来訪時には安易にドアを開けない、2 階の部屋でも窓を開け放して寝ないなど、自らの安全に関する十分な注意を払うことが必要です。

安全管理は人任せでなく自らの責任で行うことを肝に銘じてください。

埼玉医科大学 保健医療学部 危機管理マニュアル（抄）

- 1 保健医療学部危機管理マニュアル
- 2 火災発生時の行動マニュアル図(学生・教職員)
- 3 地震発生時の行動マニュアル図(学生・教職員)
- 4 地震発生後の行動マニュアル図(学生)
- 5 同(一般教員)【省略】
- 6 同(一般職員)【省略】
- 7 同(管理者)【省略】
- 8 日高キャンパス見取り図(避難場所)
- 9 川角キャンパス見取り図(避難場所)
- 10 消火器・消火栓・火災報知器の配置図(日高キャンパス)
- 11 消火器・消火栓・火災報知器の配置図(川角キャンパス)
- 12 緊急連絡網【省略】
- 13 防災のための日頃の取り組み

緊急連絡先

日高キャンパス

事務室 : TEL 042-984-4801

夜間及び祝祭日

防災センター : TEL 042-984-4119 / 国際医療センター内

警備センター : TEL 042-984-4110 / 国際医療センター内

川角キャンパス

事務室 : TEL 049-295-1001

1 埼玉医科大学保健医療学部 危機管理マニュアル

埼玉医科大学危機管理委員会 2012.8

I 趣 旨

本マニュアルは、学校法人埼玉医科大学危機管理規程第14条に基づき、日高キャンパスおよび川角キャンパスに係る大規模災害などにおける危機管理への対応について定めたものである。

II 定 義

- 1 このマニュアルで「危機」とは次のものをいう。
 - 1) 火災の発生 2) 震災の発生 3) 風水害による被害の発生 4) 不審者の侵入
 - 5) 危害予告電話の受理
- 2 このマニュアルで「管理者」とは次の者をいう。
 - 1) 全学レベルの管理者：①理事長 ②事務局長 ③学長
 - 2) 現地管理者：①保健医療学部長 ②事務室長 ③各学科長 ④事務室管理職
- 3 このマニュアルで「緊急連絡網」は別紙のとおりとする。

III 危機の際の個別の対応

1 火災の発生

(1) 火災の発見と連絡体制

- 1) 火災の発見者は、直ちに大声で周囲に呼びかけて支援を求めるとともに、自らまたは周囲の者と連携して、事務室および消防署（119番）への連絡を行う。また、火災報知器で警報を発する。事務室：内線3101、外線042-984-4801
- 2) 火災の発見者は、消火器または消火栓から引いた消防ホースを用いて初期消火活動を行う。なお、初期消火活動では無理をしないよう心掛ける。天井に火が届きそうな場合には、消火活動を中止して安全な場所に避難する。
- 3) 連絡を受けた事務室職員は、事務室長に報告した上で、現場に急行して初期消火活動に加わるとともに、状況を把握し事務室長に連絡する。事務室長は学部長に状況報告を行う。
- 4) 初期消火活動が無理と判断された場合は、事務室長は直ちに防災センターおよび日高キャンパス防火管理者への報告を行う。これを受け、防火管理者は法人本部への報告を行う。
- 5) 事務室長は、非常放送設備により、出火付近や建物内の学生・教職員に避難の指示を行う。この際、出火状況、初期消火状況、避難の方法、誘導などの緊急情報について周知徹底を図る。

- 6) 学生・教職員は、避難の指示に従い、速やかにあらかじめ定められた避難場所に退避する。避難時には下記の事項に注意する。
 - ・煙が多い場合には、姿勢を低くして、ハンカチなどで口や鼻を覆い、煙を吸い込まないようにする。
 - ・持ち物は最小限にとどめ、いったん避難を開始したら現場には戻らない。
- 7) 避難場所は、日高キャンパスにおいては創立 30 周年記念講堂前広場、川角キャンパスにおいては図書館横芝生とする。避難場所において、教職員は手分けして学生・教職員の安否を確認する。
- 8) 日高キャンパス防火管理者は、学部長、事務室長と連携し、現地対策本部（自衛消防組織本部）を設置する。現地対策本部は、日高キャンパスにおいては保健医療学部事務室、川角キャンパスにおいては川角事務室を第一候補とする。
- 9) 関係者は以上の他、緊急連絡網により、必要な連絡を行う。

(2) 自衛消防組織の活動

火災時の自衛消防組織の活動手順については別に定める。

(3) 勤務時間外の場合（夜間、休日）

委託している警備会社との警備計画書等による他、次による。

- 1) 火災の発見者は、防災センターおよび消防署（119 番）への通報を行う。また、火災報知器で警報を発する。
- 2) 火災の発見者等は、直ちに消火器等を使用して初期消火活動を行う。
- 3) 初期消火活動では無理をしないよう心がけ、天井に火が届きそうな場合には、消火活動を中止して安全な場所に避難する。
- 4) 関係者は別に定める緊急連絡を行う。
- 5) 関係者は火災の延焼状況により、貴重品の搬出、搬出された物の管理を行う。

2 震災の発生

震災（地震災害）とは、地震動により直接に生ずる被害及びこれに伴い発生する津波、火事、爆発その他の異常な現象により生ずる被害をいい、震災の発生時間が、勤務時間中の場合と勤務時間外の場合に分けて対応を行う。なお、震災では、交通が極めて困難となったり、外部との通信網が途絶する可能性に留意して行動する必要がある。

ア. 勤務時間中の場合

(1) 自らの安全の確保

- 1) 出入り口の確保（可能ならドアを開けておく）
- 2) 手近な机やテーブルの下に身をかかす。とくに頭部を守るようにする。窓ガラスや倒れそうな物のそばは避け、落下物に注意する。

- 3) エレベータの中にいた場合は、各階のボタンを押し、とにかく最寄りの階でおいる。また、廊下や階段では壁際によるが、窓ガラスや落下物に注意する。
 - 4) 屋外にいた場合は、建物から離れ、広い場所に退避する。
 - 5) 車を運転中であれば、前後に注意しながら速度を緩め停止する。必要に応じて車外に退避する場合は、車のキーは抜かずに車検証を持って出る。
- (2) 二次火災の発生防止、二次火災発生時の通報・消火活動
- 1) 火を使っている場合は、直ちに火を止める。
 - 2) 揺れがある程度おさまったら、ガスの元栓を閉めるとともに、使用機器を停止し、コンセントを抜いておく。
 - 3) 二次火災の発生があったら、火災発生時のマニュアルに従い、通報と初期消火活動を行う。
- (3) 同室者や近くの部屋の安全確認
- 1) 同室者について、倒壊・落下物による下敷きや負傷の有無を確認する。
 - 2) 近くの部屋についても、部屋の安全や負傷者の有無を確認する。
- (4) 学内にいる学生・教員の地震発生後の行動マニュアル
- 1) 学生および教員は、室内の火元や薬品、近辺の実験室の安全を確認するとともに、負傷者などで救援が必要な場合は、事務室に連絡する。教員は学生がパニックにならないよう留意する。教員のうち、実験室等の管理責任者は、当該部署の安全確認を行う。
 - 2) 学生は、事務室長（または教員）からの避難指示があった場合は、教員の誘導のもとに最寄りの階段を利用して、速やかに避難場所に移動し待機する。避難場所は日高キャンパスでは創立 30 周年記念講堂とし、川角キャンパスでは図書館西隣の芝生とする。（避難指示がない場合は、授業を継続）
 - 3) 学生は、交通状況などによる帰宅困難が明らかとなった場合は、教職員の指示に従い、学内その他の避難場所に移動またはその場で待機する。また、帰宅困難がない場合は、教職員の指示に従い、適宜帰宅する。
 - 4) 教員は現地対策本部の指示に従い、学生の指導・監督、各種業務の補佐を行う。
- (5) 学外にいる学生・教員の地震発生後の行動マニュアル
- 1) 適切な避難場所に移動する。実習先では現地指導者の指示に従う。
 - 2) 事務室（または指導教員）に自身の安否と居場所・連絡先を連絡する。自宅にいる場合も連絡する。
 - 3) 事務室職員（または指導教員）は、学生・職員の情報を事務室長経由で現地対策本部に報告する。
 - 4) 交通状況などによる帰宅困難が明らかとなった場合は、現地指導者の指示に従い、指定された避難場所に移動またはその場で待機する。また、帰宅困難がない場合は、

現地指導者の指示に従い、適宜帰宅する。なお、何らかの事情で居場所を変更した場合には、忘れずに再連絡を行う。

- 5) 学生に同行した教員は、現地指導者の指示に従い、学生の指導・監督、各種業務の補佐を行う。

(6) 一般職員の地震発生後の行動マニュアル

- 1) 一般職員は事務室長の指示により、学生・教員への対応、事務室および教室の被害状況調査を行う。
- 2) 負傷者等への救援要請があれば、現場に急行して応急救護措置を講ずるとともに、必要に応じて救急車の手配その他を行う。
- 3) 事務室長からの避難指示が出た場合は、自らも避難場所に向かうとともに、可能な限り学生・教職員の避難誘導を行う。
- 4) 避難場所においては、教員の協力のもとに学生の安否確認を行う。
- 5) 現地対策本部が設置された場合は、対策本部長の指示のもとに、法人の危機管理対策本部との連絡・調整、交通情報等の災害情報の収集、学外にいる学生からの連絡への対応等を行う。
- 6) 学外にいる学生からの連絡を受けた場合、安否の確認、居場所と連絡先の確認を行うとともに、移動時には必ず再連絡するよう指示する。
- 7) 交通状況などによる帰宅困難を想定して、学生・教職員の避難場所の確保や水・食料の手配を検討する。
- 8) 交通状況などによる帰宅困難が明らかとなった場合は、対策本部長の指示に従い、学生・教職員の学内その他の避難場所への誘導またはその場での待機をサポートする。また、帰宅困難がない場合は、対策本部長の指示に従い、適宜帰宅を誘導する。

(7) 管理者の地震発生後の行動マニュアル

- 1) 事務室長は、学生・教職員から得られた被災状況をまとめ、学部長、各学科長に報告するとともに、事務局長経由で法人本部に報告する。
- 2) 負傷者があった場合は、応急救護措置のために職員を派遣する。この際、現場付近にいる教員や学生の協力援助を求めることがある。
- 3) 被災状況から避難の必要性ありと判断した場合、事務室長は学部長と協議の上、非常放送設備により避難の指示を行う。
- 4) 事務室長は、学生・教職員の避難の誘導、学外にいる学生からの連絡受理、交通状況等の災害情報収集を職員に指示する。
- 5) 法人本部に危機管理対策本部が設置されたら、事務室長は学部長および同本部と協議の上、現地対策本部を設置する。

(8) 現地対策本部

- 1) 学内に在勤している管理者は、避難完了後、危機管理対策本部の指示に従い、速やかに現地対策本部を組織する。

- 2) 現地対策本部員は管理者および必要な教職員で構成し、現地対策本部長には、Ⅱ「定義」の2に示した現地管理者のうち最上位の者が当たる。
- 3) 現地対策本部は安全で、連絡が容易な場所に設置し、その位置を学内に周知するなお、日高キャンパスにおいては保健医療学部事務室を、川角キャンパスにおいては川角校舎事務室を現地対策本部設置の第1候補とする。
- 4) 現地対策本部は、危機管理対策本部との連絡・調整を図りつつ、引き続き、交通状況等の災害情報の収集、学外学生からの連絡への対応を行うとともに、帰宅困難時への対応、翌日以降の方針の検討、被災の拡大防止、負傷者の救護、行方不明者の捜索、関係者との連絡方法の確立、その他災害の復旧（被災状況の写真撮影を含む。）に必要な措置を実施する。
- 5) 現地対策本部は、緊急連絡網により被災状況、避難状況等の報告を行う。
- 6) 現地対策本部員は、本部長の承認の上、帰宅する。
- 7) 地元被災者の学内への避難には柔軟に対応する。

イ. 勤務時間外の場合＝夜間、休日等

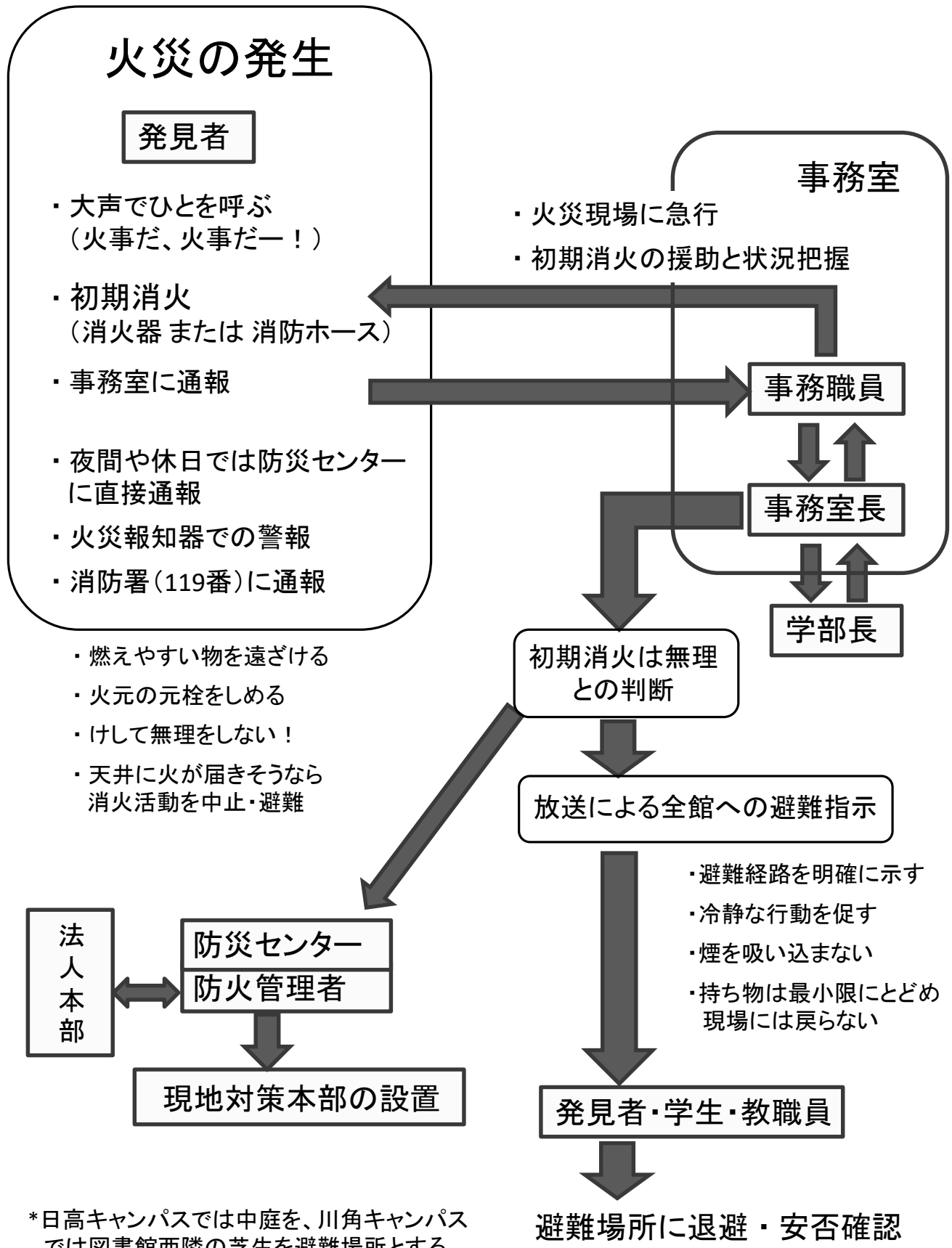
(1) 緊急出勤体制

震災時、教職員で大学に緊急出勤できる者は、近親の安否を確認後、大学に出勤し、災害の拡大防止措置を行う。（二次火災の消火措置など）

(2) 緊急管理体制（現地対策本部）の組織

- 1) 出勤した管理者（管理者が出勤できない場合はその他の教職員）は、被害状況を調査して緊急連絡網により法人本部や他の管理者に連絡するとともに、法人本部と協議の上、現地災害対策本部を組織する。
- 2) その他の事項は、勤務時間中の対応の場合を準用する。

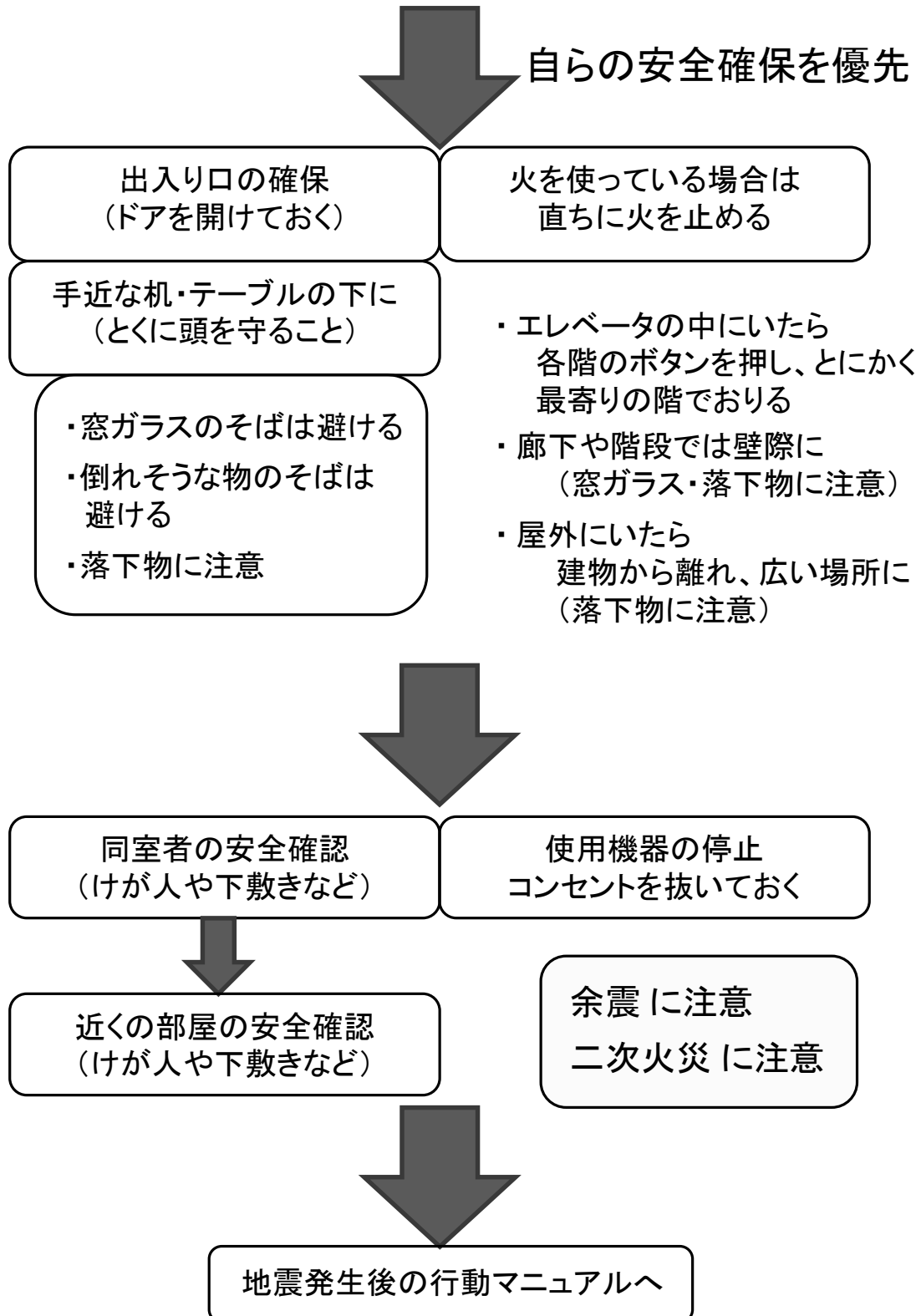
2 火災発生時の行動マニュアル： 学生・教職員



*日高キャンパスでは中庭を、川角キャンパスでは図書館西隣の芝生を避難場所とする。

3 地震発生時の行動マニュアル： 学生・教職員

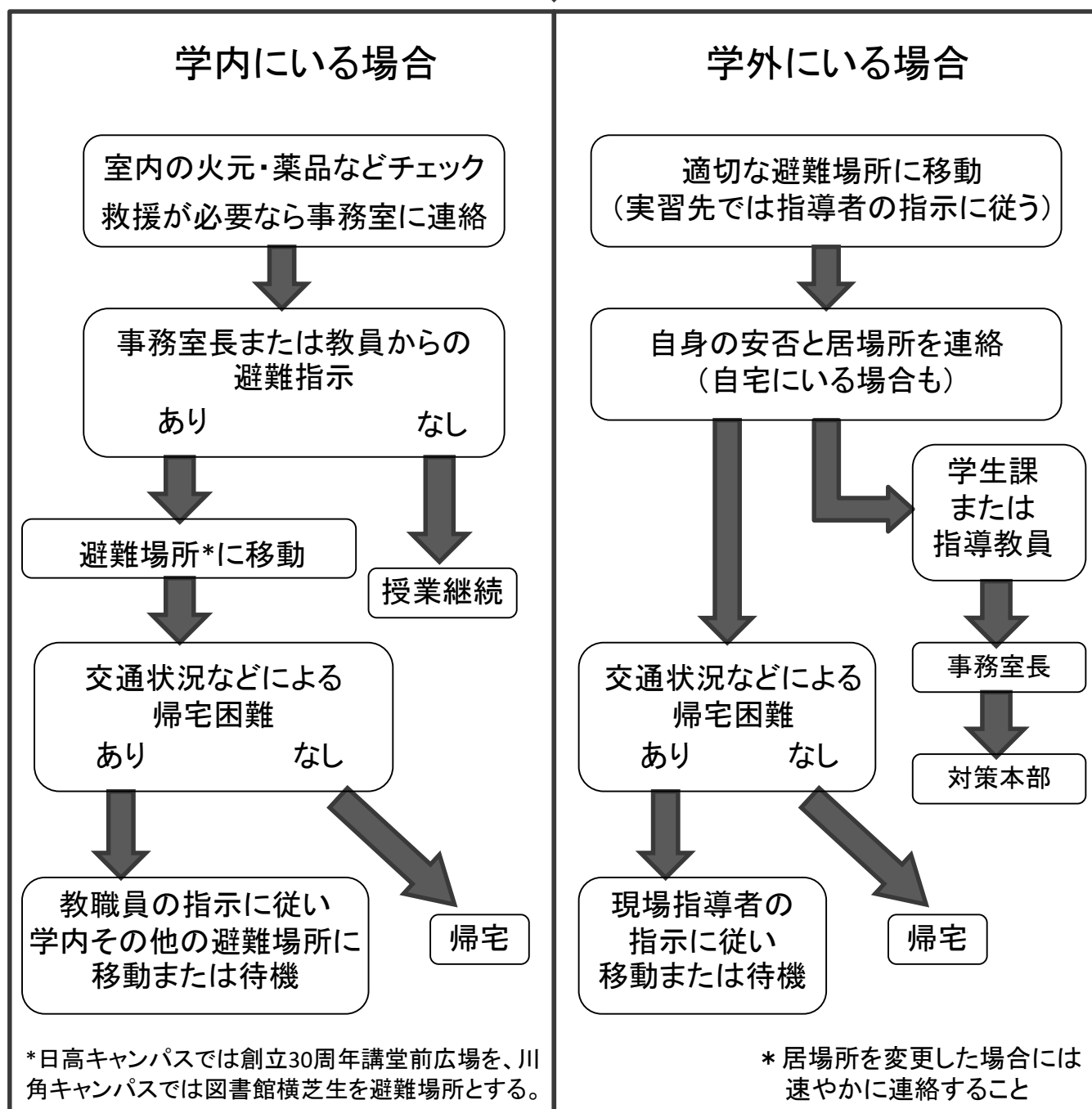
大地震の発生



4 地震発生後の行動マニュアル： 学生

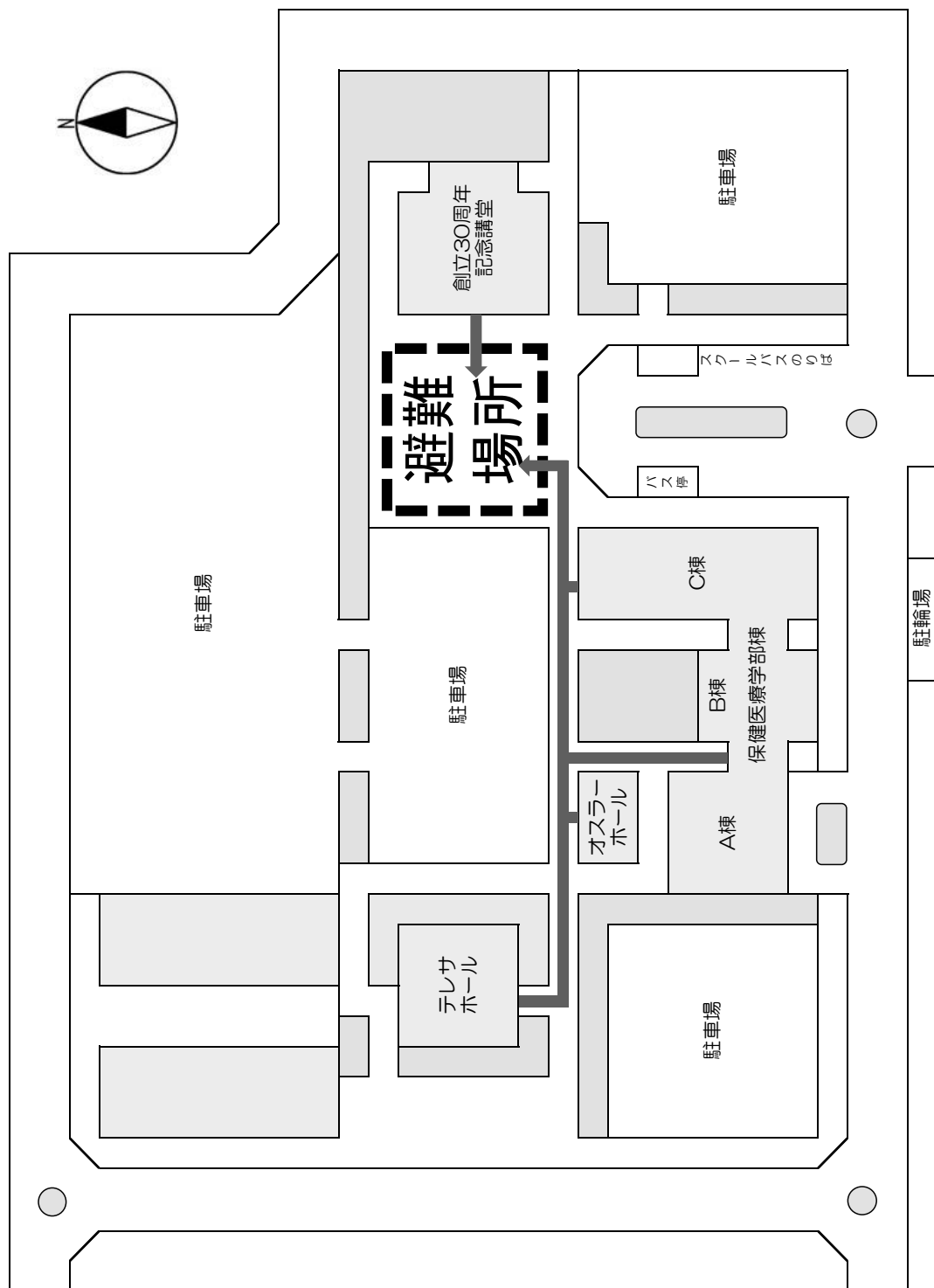
大地震の発生
(とりあえず自身の安全確保)

揺れがおさまったら・・・

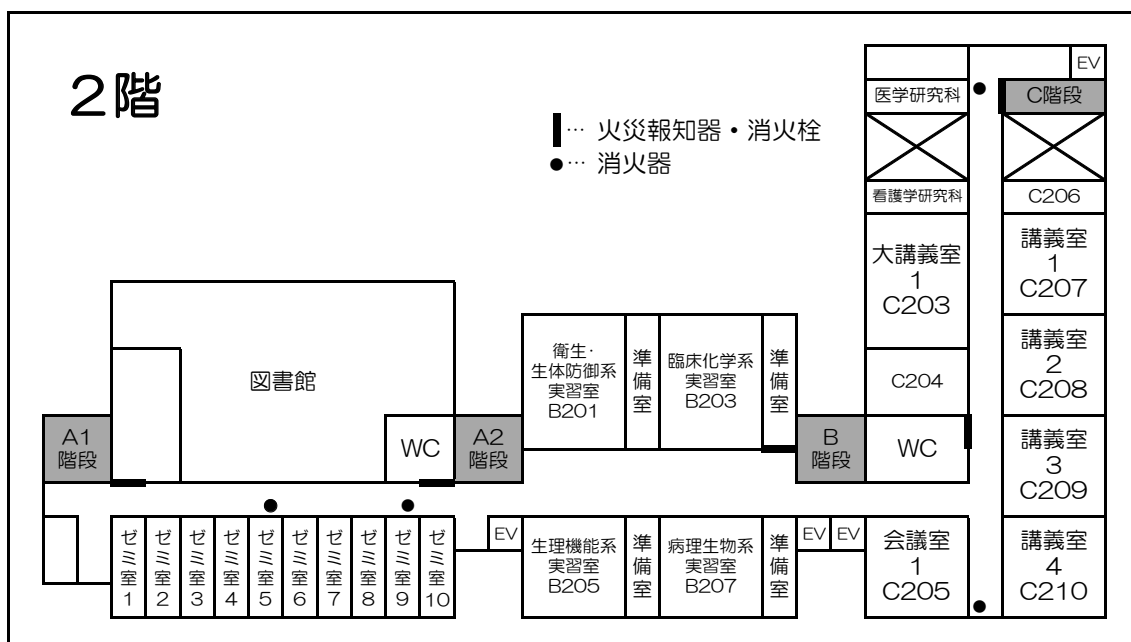
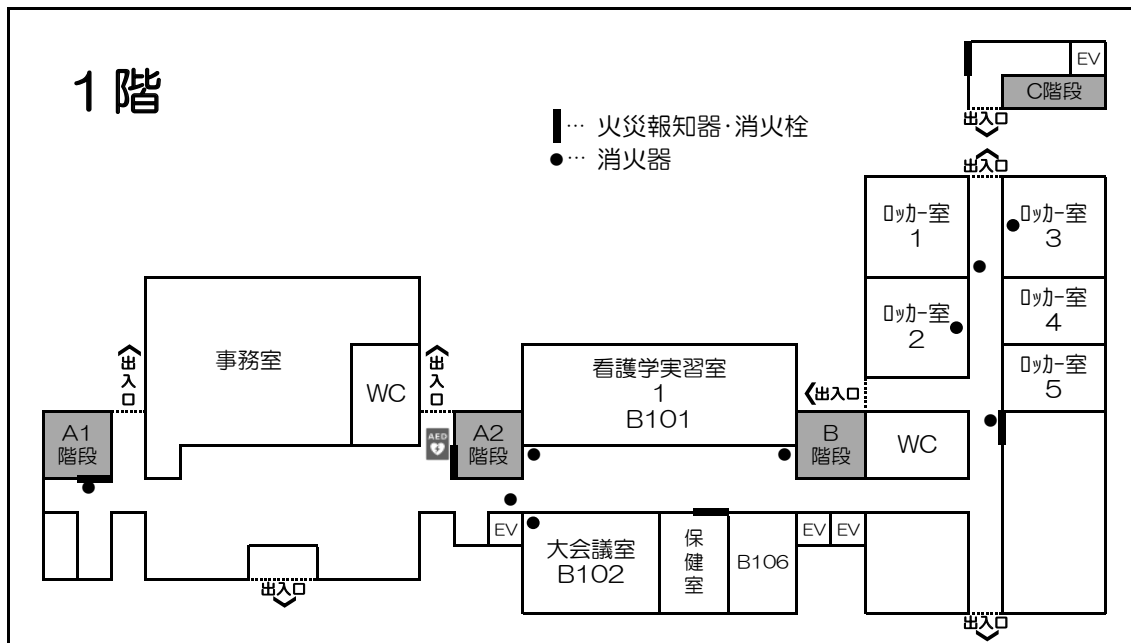


夜間・休日の大地震の場合は、翌朝、大学への連絡を！

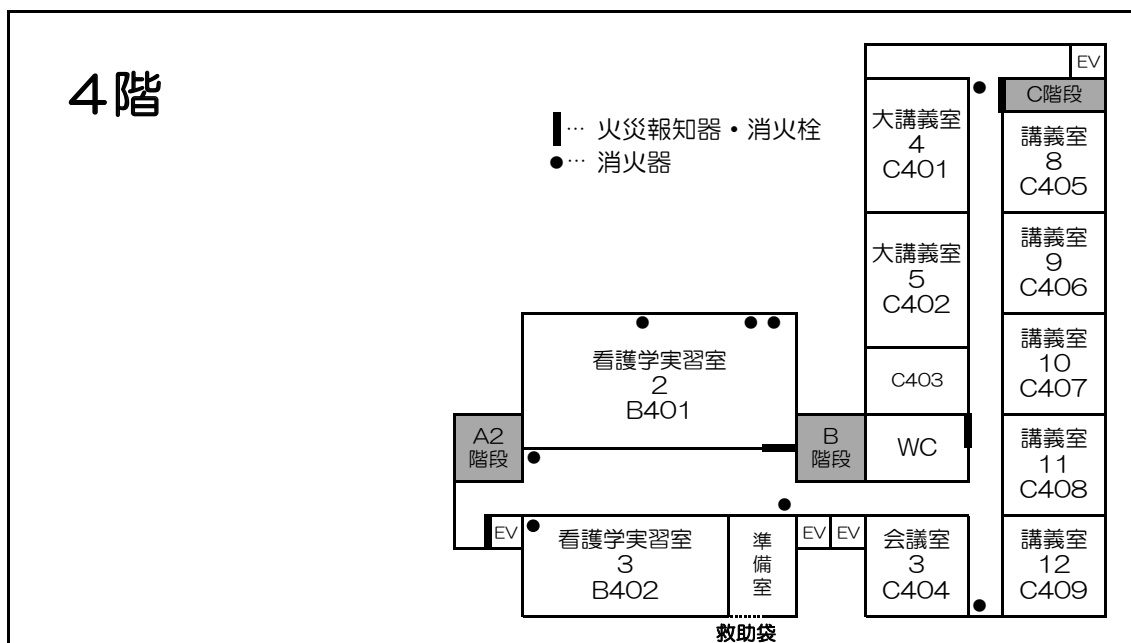
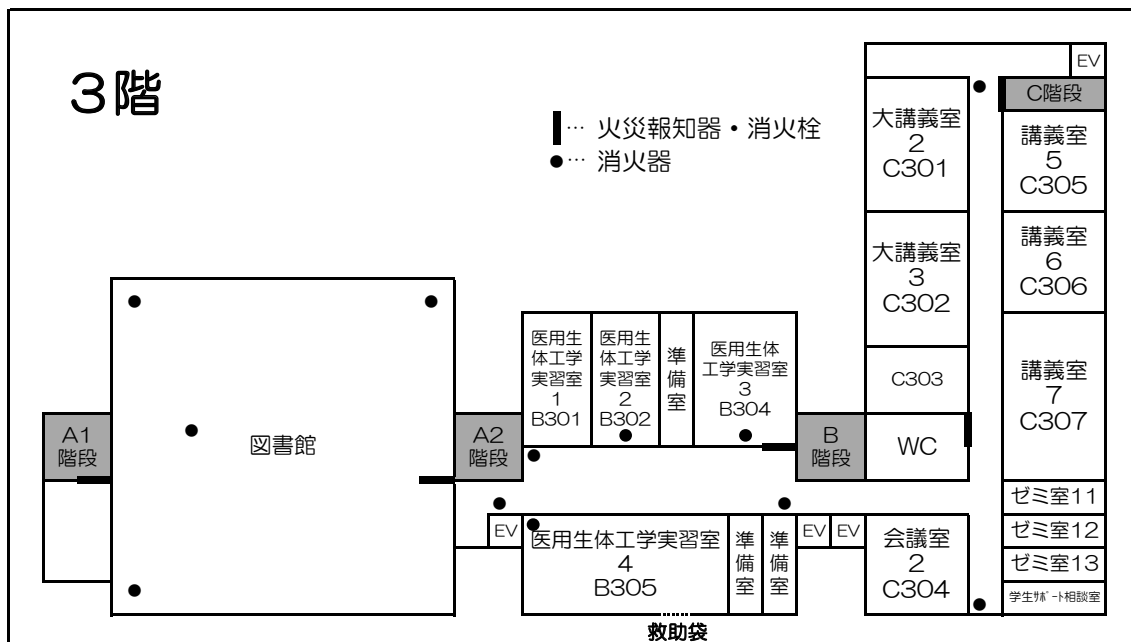
日高キャンパス見取り図（避難場所）



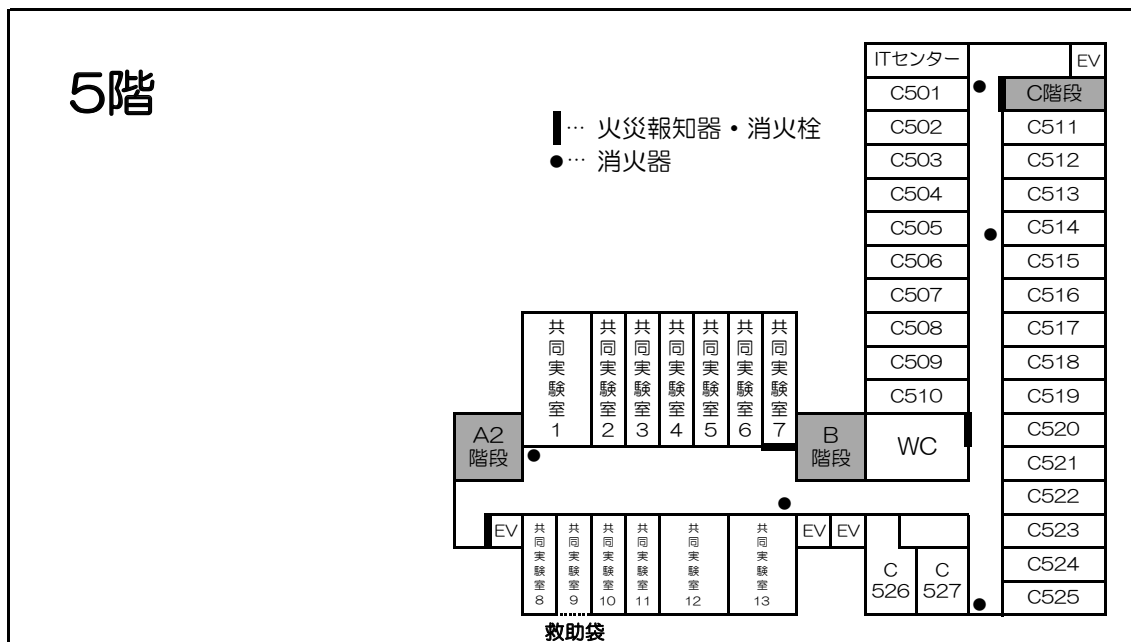
火災報知器・消火栓・消火器の配置図（日高キャンパス保健医療学部棟）



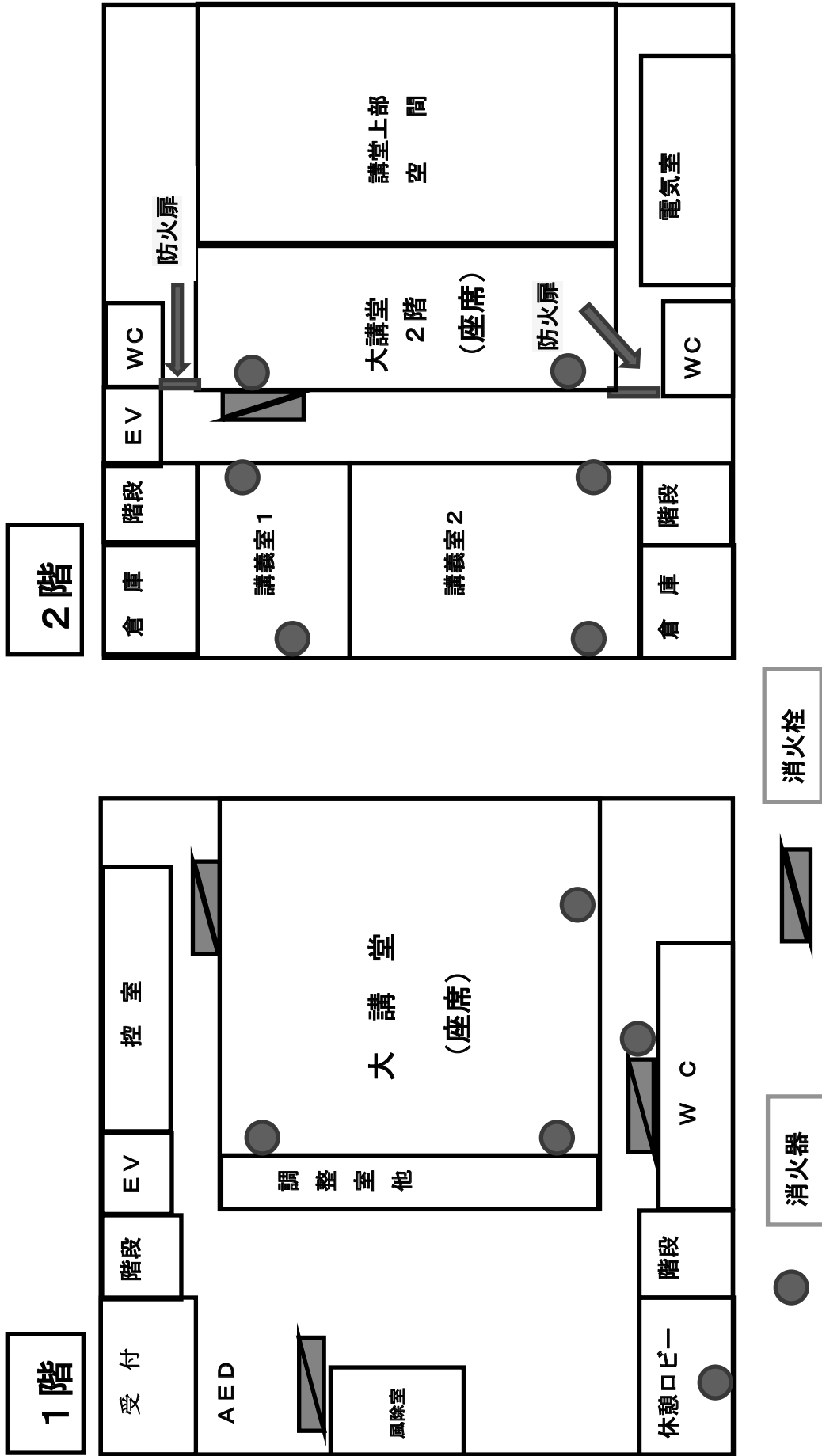
火災報知器・消火栓・消火器の配置図（日高キャンパス保健医療学部棟）



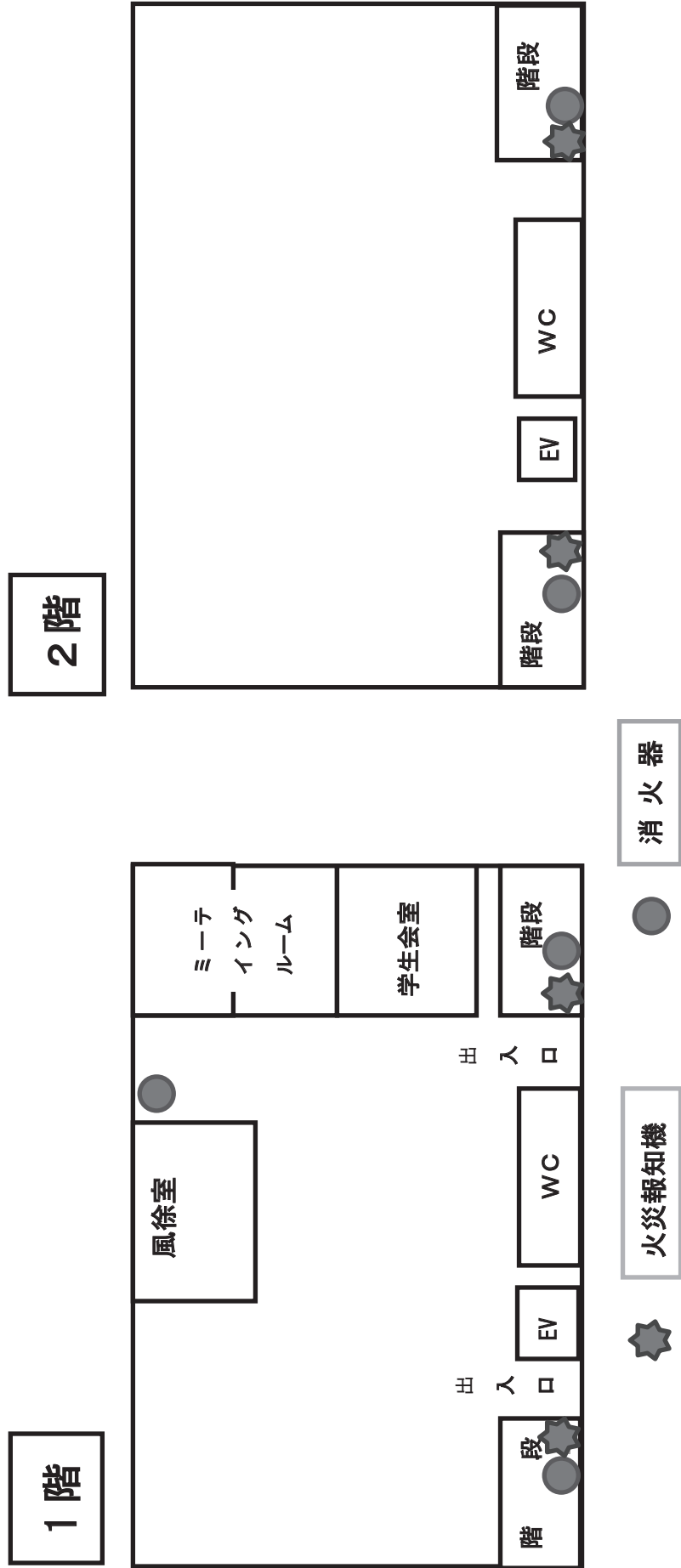
火災報知器・消火栓・消火器の配置図（日高キャンパス保健医療学部棟）



消火栓・消火器・火災報知機の配置図（日高キャンパス・創立30周年記念講堂）

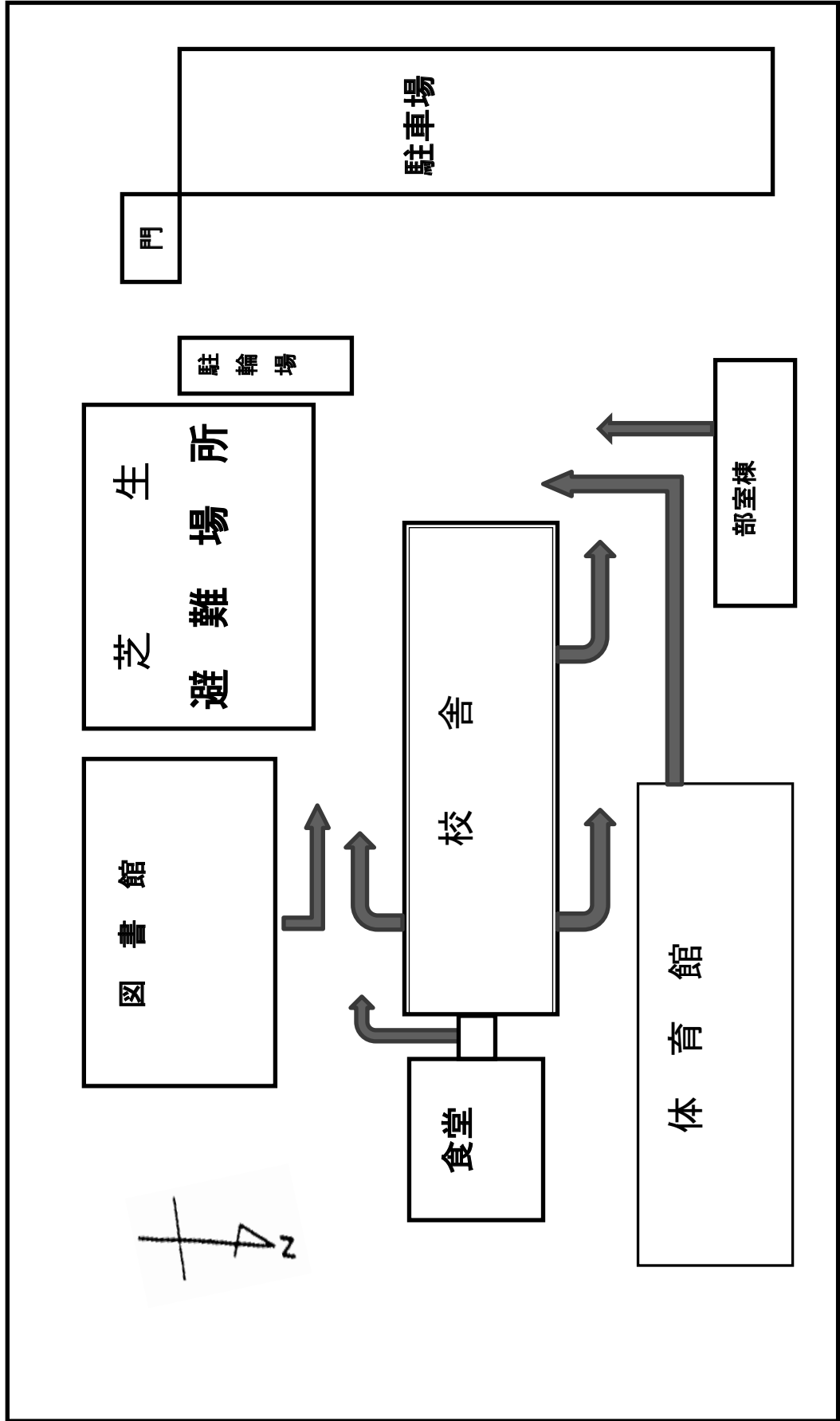


消火器・火災報知機の配置図（日高キャンパス・オスラーホール）



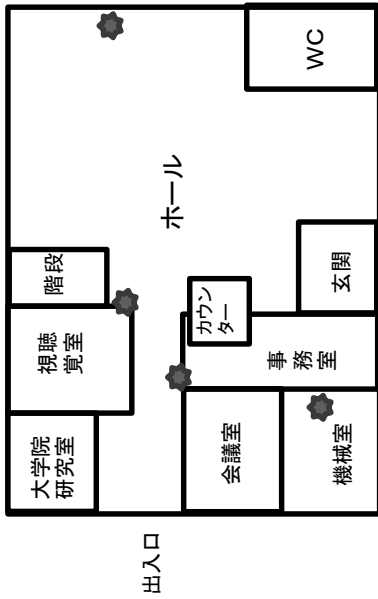
※ オスラーホールには屋内消火栓は設置されていない。

川角キャンパス見取り図（避難場所）



消火器・消火栓・火災報知機の配置図（川角キャンパス）

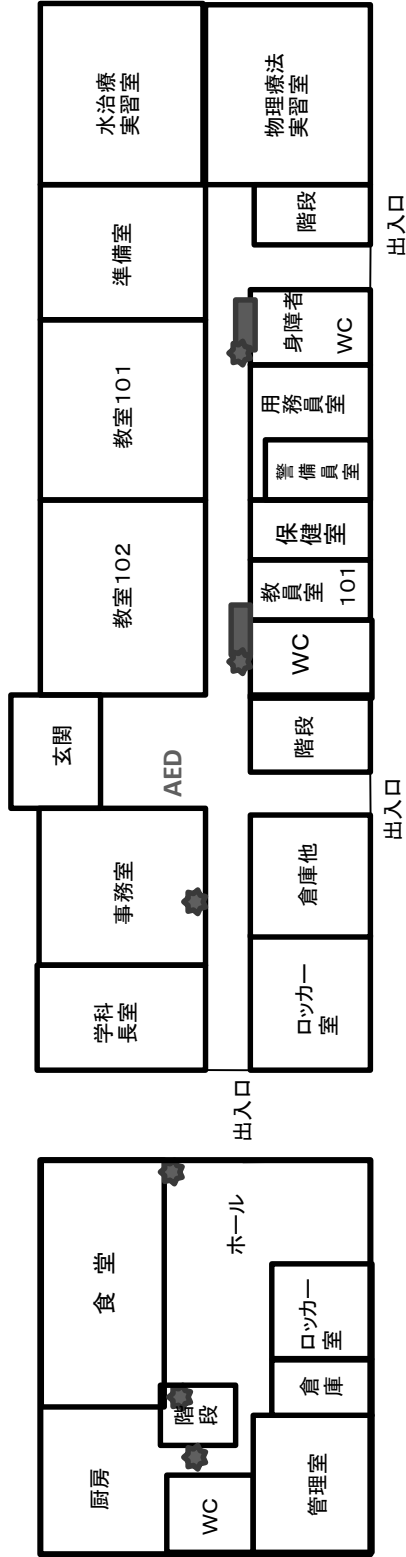
1 階



図書館

-  消火栓
-  消火器

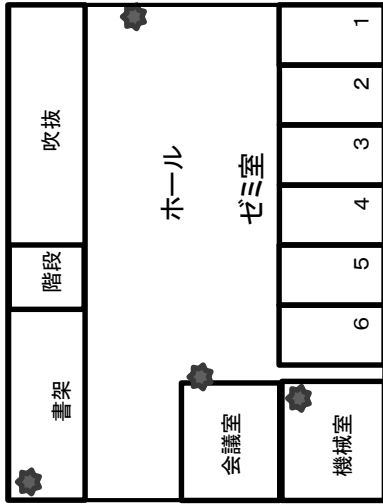
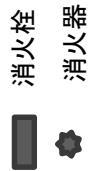
校舎



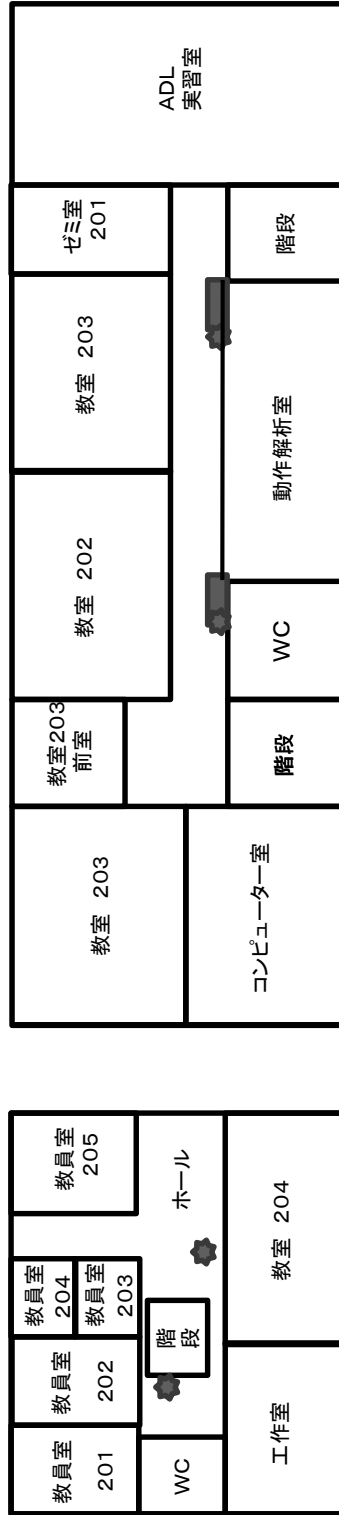
食堂棟

消火器・消火栓・火災報知機の配置図（川角キャンパス）

2階



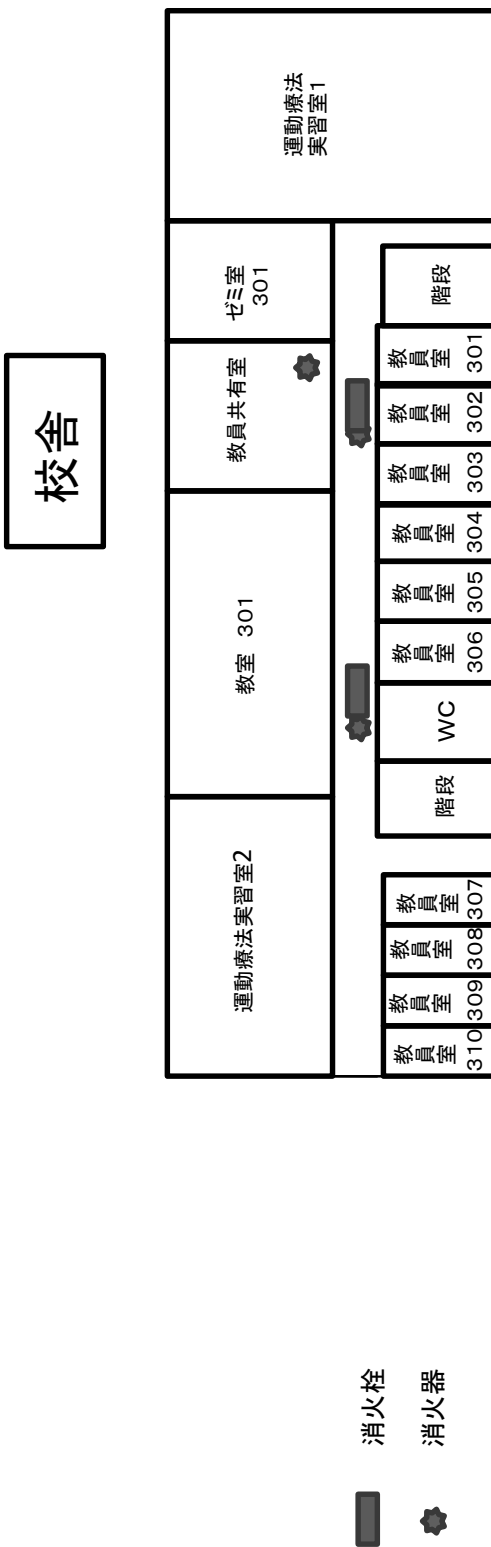
校舎



食堂棟

消火器・消火栓・火災報知機の配置図（川角キャンパス）

3 階



図書館の利用案内

図書館ホームページ：<https://opac.saitama-med.ac.jp/drupal/>

図書館だより：<http://blog.goo.ne.jp/hokenhokusai>

1. 開館時間

日高キャンパス分館 月曜～金曜：8：45～19：00 土曜：8:45～17:00

川角キャンパス分館 月曜～金曜：8：45～17：00 土曜：休館

2. 休館日

- ・ 日曜日、国民の祝日、創立記念日（5月4日）
- ・ 年末年始

※ 開館時間の変更や臨時休館については、掲示や図書館ホームページでお知らせします。

3. 利用上の注意

- ・ 学生証を必ず携帯してください。
- ・ 館内での携帯電話（通話・撮影）の使用は控えてください。
- ・ 館内での飲食を禁止します。ただし、ペットボトルや水筒など密閉できる容器に入った飲み物に限り閲覧席にて飲用できます。ルールを守れなかった場合は、一定期間、全学生が違反のあったキャンパスの図書館への飲み物持ち込みができなくなります。
- ・ 各図書館内の掲示にも気をつけて、ルールを守ってご利用ください。

4. 貸出・返却

(1) 貸出：学生証が必要です。

ア. 貸出期間

図書・視聴覚資料 ----- 2週間

製本雑誌（未製本のバックナンバーを含む） ----- 1週間

新着雑誌 ----- 一夜貸し

※実習に対応した貸出も実施しています。

イ. 貸出冊数：5点まで（図書、雑誌、視聴覚資料の合計点数）

ウ. 貸出延長：予約のない場合に限り、1度だけ延長が可能です。カウンターもしくはマイブラリで延長手続きをしてください。ただし、長期貸出後の延長はできません。

エ. 予 約：カウンターへお申し込みください。マイライブラリでも予約が可能です。
予約図書が返却され次第、学内メールでお知らせします。お知らせ後、7
日間保管します。

(2) 返却

開館中は、カウンターへ返却してください。

閉館中の返却は、ブックポストを利用してください。

DVD などの視聴覚資料や重い資料は、破損防止のためカウンターへ返却してください。

(3) 罰則

返却期限を超過(延滞)した場合、超過日数分の貸出停止になります。

延滞中の資料がある場合は、新しく借りることはできません。

(4) マイライブラリ

マイライブラリを学内外から利用することができます。

図書館ホームページからログインしてください。

◆ マイライブラリでできること

- ・貸出中の資料の確認
- ・貸出延長手続き(返却期限内で予約がない場合、1回のみ可能)
- ・蔵書検索(OPAC 検索)からの貸出中資料への予約

5. 配架

(1) 資料の配置場所

【日高キャンパス分館】

2階 閱覧室 新聞、雑誌、視聴覚資料、
コーナー図書(コミック、国試対策、論文作法など)

3階 閱覧室 一般図書、コーナー図書(医療読み物など)

【川角キャンパス分館】

1階 閱覧室 一般図書、新聞、雑誌、視聴覚資料、
コーナー図書(国試対策、就活、論文作法など)

2階 閱覧室 製本雑誌、コーナー図書(読み物、文庫など)

(2) 資料の配架順

【図書】分類に従って配架しています。

医学と医学関連分野 - 米国国立医学図書館分類法(NLMC)

医学と直接関連のない分野 - 日本十進分類法(NDC)

【雑誌】雑誌名のアルファベット順に配架しています。

日高キャンパス分館 - 日本語雑誌と外国語雑誌に分けて配架しています。

川角キャンパス分館 - 日本語雑誌と外国語雑誌を一緒に配架しています。

6. 資料の探し方

図書館のホームページの OPAC (蔵書検索) で図書や雑誌を探すことができます。

◆ 電子ジャーナル

図書館ホームページの「ジャーナルタイトル検索」から検索が可能です。パソコン等で雑誌論文の全文を PDF などの形式で閲覧できます。

7. 資料の複写

図書館内のコピー機を利用することができます。

「文献複写申込書」に必要事項を記入のうえご利用ください。学習及び研究を目的とした場合に限り、著作権法の範囲内で 1 人 1 部複写できます。

個人のノート、プリント類の複写はできません。

モノクロ - 1 枚 10 円

カラー - 1 枚 30 円 (総合医療センター看護専門学校図書室は 50 円)

8. 文献の取寄せ

学内の他キャンパス図書館や他大学 (機関) で所蔵している資料のコピーを取寄せることができます。カウンターまたは Web 文献手配からお申し込みください。

学内 - 複写料金と同じ

学外 - 複写料金 + 送料 (複写料金は依頼する大学によって異なる)

9. 図書の取寄せ

(1) 学内の図書取寄せ

学内の他キャンパスで所蔵している図書を借りる場合は、カウンターへお申し込みください。

(2) 学外の図書取寄せ

他大学 (機関) の図書を借りる場合は、カウンターまたは Web 文献取り寄せからお申し込みください。ただし、借用できない場合もあります。借用した図書は、館内閲覧のみの利用となります。往復の送料がかかります。

10. 他大学 (機関) の利用

他の図書館を閲覧等で直接利用したい場合は、閲覧願 (紹介状) を発行します。

11. 施設・設備

(1) 情報室の利用 (日高キャンパス分館)

グループ学習に複数人(原則3人以上)で利用することができます。申請書に記入のうえ、カウンターで申し込んでください。また、定期試験期間中は情報室を開放します。

(2) ゼミ室の利用 (川角キャンパス分館)

個人またはグループ学習に利用することができます。申請書に記入のうえ、カウンターへお申し込みください。

(3) 視聴覚室の利用 (川角キャンパス分館)

視聴覚資料の視聴ができます。また、個人またはグループ学習に利用することができます。利用申請書に記入のうえ、カウンターへお申し込みください。

(4) Wi-Fi

フリーWi-Fiが利用できます。* (日高キャンパス分館のみ)

※ SMSNET(埼玉医科大学教育学術ネットワーク)にはアクセスできません。

(5) 電子コンテンツ

様々なデータベースを用い、論文や本を探したり閲覧したりすることができます。学内LANに接続しているパソコン等であれば、図書館ホームページから利用できます。RemoteXsのアカウント登録をすれば、学外から利用することができます。

12. 学内の図書館連絡先

埼玉医科大学内のすべての図書館を利用できます。学生証をお持ちください。

- ◇ 日高キャンパス分館 電話：042-984-4814 (事務室) / 内線 42-3203
- ◇ 川角キャンパス分館 電話：049-295-8243 (事務室) / カウンター内線 41-7-543
- ◇ 毛呂山キャンパス本館 電話：049-276-1417 (カウンター直通) / 内線 41-2482
- ◇ 総合医療センター分館 (総合医療センター3階)
電話：049-228-3641 (カウンター直通) / 内線 43-3335
- ◇ 短期大学図書室 (短期大学7階)
電話：049-276-1537 (事務室) / 内線 3240
- ◇ 埼玉医療福祉会看護専門学校図書室 (専門学校5階) [旧:毛呂病院看護専門学校]
電話：049-276-2057 (カウンター直通) / 内線 3413
- ◇ 総合医療センター看護専門学校図書室 (専門学校2階)
電話：049-228-3816 / 内線 43-3120

諸手続き

1. 願入れ・届け出

学生生活を送るために必要な願入れ・届け出には多くの種類がありますので、関係する規定をよく理解し、記載事項、提出時期、提出先などを誤らないように注意してください。

なお、願入れ・届け出の必要が生じた場合には、次の要領に従って行ってください。

- (1) 事務室に備え付けの所定の用紙を使用してください。
- (2) 所定の用紙がない場合は、A4用紙を使用し、事由を具体的に記載してください。
- (3) 戸籍記載事項の変更を届け出る時は戸籍抄本を添付してください。
- (4) 特に、次の変更については速やかに届け出てください。
 - ア. 学生本人の戸籍記載事項
 - イ. 学生本人の現住所や電話番号
 - ウ. 保証人および保証人の住所

2. 証明書の交付

各種証明書の交付を願入れる時は、「証明書交付願(様式51号)」に必要事項を記入し、事務室に提出してください。なお、交付時期は翌日の午後(金曜日および休日前日の申請の場合は休日明け)を原則としていますが、証明書の種類によっては暫時を要しますので、適宜、窓口で確認してください。

3. 窓口

日高キャンパス 保健医療学部A棟1F事務室

川角キャンパス 川角校舎1F事務室

4. 受付時間

月曜日から土曜日 8:30～17:00

日曜日・祝日・年末年始は取扱いません

願入れ・届け出ならびに証明書交付の概説

1. 身上関係

書類	概説	備考
改姓・改名届 (様式 11 号)	姓または名を変更した場合	戸籍抄本添付
保証人変更届 (様式 12 号)	入学時に提出した誓約書の保証人を変更する場合	保護者連署
保証人住所変更届 (様式 13 号)	入学時に提出した誓約書の保証人住所に変更が生じた場合	保護者連署
住所・本籍変更届 (様式 14 号)	住所や本籍が変更になった場合	本籍変更の場合 は戸籍抄本添付

2. 学籍関係

書類	概説	備考
休学願 (様式 21 号)	疾病その他やむを得ない事由のため、3 箇月以上修学できない場合 (学則第 8 章 第 22 条)	疾病の場合は診断書添付 保護者連署
復学願 (様式 22 号)	休学中の学生が復学する場合 (学則第 8 章 第 23 条)	疾病の場合は診断書添付 保護者連署
退学願 (様式 23 号)	退学する場合 (学則第 8 章 第 25 条)	疾病の場合は診断書添付 保護者連署
転学科許可願 (様式 24 号)	転学科を希望する場合	/
学生証・ネームカード 再交付願 (様式 25 号)	学生証またはネームカードを紛失した場合	発行期間 1 週間 学生証 2,000 円 ネームカード 500 円

3. 授業関係

書類	概説	備考
履修届	履修を行う場合	
履修取消し願	履修登録後に、履修していた科目を放棄する場合	申請期間に留意
忌引届 (様式 32 号)	忌引きが発生した場合	保護者連署
聴講願 (様式 33 号)	履修科目以外の、所属ないし他学科科目の聴講を希望する場合	/
他学科受講願 (様式 34 号)	他学科の科目の履修を希望する場合	/
学外教育活動届 (様式 35 号)	学外での教育活動を行う場合	/

※1. 診断書、病院受診時の領収書、事故証明、遅延証明書など欠席理由を明らかに示せる書類がある場合は添付すること。

4. 証明書関係

書類	概説	備考
証明書交付願 (様式 51 号)	在学証明書	遠隔地保険証の交付や納税手続きを行なう場合など
	成績証明書	就職試験を受ける場合など
	修了見込み証明書	就職試験を受ける場合など
	修了証明書	就職先などに提出する場合など
	単位修得見込み証明書	大学院に進学する場合など
	内申書	大学院に進学する場合など
	調査書	大学院に進学する場合など
	推薦書	大学院に進学する場合など
健康診断書	就職試験を受ける場合など	発行：1～2 週間 手数料：2,200 円

書 類	概 説	備 考
※ 学生旅客運賃割引 交付願 (様式 52 号)	JR 各社の片道で 100 キロメートルを超える区間を乗車する場合	翌日午後発行(金曜日 および休日前日の申 請の場合は休日明け)
通学区間証明書交付願 (様式 53 号)	川角キャンパスへ通学する場合	手数料 0 円
通学証明書(臨床実習用) (様式 54 号)	臨床実習先までの定期券を購入する場合	手数料 0 円

※ 学生旅客運賃割引の使用目的について

交付は、原則として、次の目的をもって旅行をする必要があると認められる場合に限ります。

- (1) 休暇、所用による帰省
- (2) 実験実習並びに通信による教育を行う学校の面接授業及び試験などの正課の教育活動
- (3) 学校が認めた特別教育活動又は体育・文化に関する正課外の教育活動
- (4) 就職又は進学のための受験等
- (5) 学校が修学上適当と認めた見学又は行事への参加
- (6) 傷病の治療その他修学上支障となる問題の処理
- (7) 保護者の旅行への随行

5. その他

書 類	概 説	備 考
通学用自動車等 登録申請書 (様式 71 号)	バイクや自動車を利用して通学する場合	
毛呂山・川越キャンパス 構内駐車場利用願 (様式 72 号)	毛呂山・川越キャンパスの自動車駐車場を利用する場合	
海外旅行届 (様式 73 号)	海外への観光あるいは語学研修で海外旅行をする場合	保護者連署
印刷物掲示・配布願 (様式 75 号)	印刷物を学内掲示する場合および配布する場合	掲示・配布物 のサンプル
教室使用願 (様式 76 号)	研究などで教室使用を希望する場合	
施設使用願 (様式 77 号)	研究などで教室以外の施設使用を希望する場合	
備品使用願 (様式 78 号)	大学の備品などを課外活動その他の目的で使用する場合	
修学上の合理的配慮 申出書 (様式 80 号)	修学上の合理的配慮を希望し、申し出る場合	診断書あるいは障 害手帳の写し添付 保護者連署
事故届 (様式 81 号)	学内および学外で発生した事件や事故を報告する場合	
「学校感染症」 治癒(見込み)証明書 (様式 91 号)	学校感染症に罹患した場合	別綴りの様式を コピーして使用

学生の懲戒処分における標準ガイドライン

本学では、学則第 29 条に定める懲戒処分について、処分の適正と公正を図る観点から、処分の指針となる標準ガイドラインを制定しています。

埼玉医科大学学則第 29 条及び埼玉医科大学大学院学則第 27 条に規定する学生の懲戒の手続きについて

(令和 2 年 3 月 27 日制定)

学長裁定第 4 号

埼玉医科大学学則(昭和 47 年 2 月 16 日制定)第 29 条及び埼玉医科大学大学院学則(昭和 53 年 3 月 24 日制定)に規定する学生の懲戒については、次の手続きによるものとする。

1. 学部長(大学院にあつては研究科長、以下同じ)は、学生の行為が懲戒の対象となりうることを認識した場合、速やかに学長に報告するとともに、学生部長等に対し事実関係の調査を行うよう指示をする。この場合、学長は必要に応じ調査委員会の設置を命ずることができる。
2. 当該学生からの事情聴取にあつては、学生の人権に配慮したうえで行い、弁明の機会を十分に与えるものとする。但し、当該学生が逮捕拘留される等により、直接事情聴取ができない場合はこの限りではない。
3. 調査結果の報告を受けた学長は事実関係の認定を行い、学部長等と協議の上、「学生の懲戒処分における標準ガイドライン」を参考に、懲戒処分の方針を決定する。
4. 学長は懲戒処分の方針について教授会(大学院にあつては研究科委員会、以下同じ)の意見を聴き、処分を確定する。
5. 懲戒処分については、本人に通知するとともに、学内に告示する。
6. 学部長は、学長により懲戒処分が決定されるまでの期間、当該学生を自宅謹慎とすることができる。
7. 無期停学処分を解除する場合、及び有期停学処分を延長する場合についても、学長は教授会の意見を聴いたうえで決定する。
8. 学長は、懲戒決定前に当該学生から退学の申し出があつた場合には、この申し出を受けないことができる。

附則

令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

以上

学生の懲戒処分における標準ガイドライン

区分	非違行為	懲戒処分		
		退学	停学	けん責
犯罪行為	殺人、強盗、放火等の凶悪な犯罪行為（未遂を含む）	○		
	暴力、窃盗、恐喝、詐欺、万引きなどの犯罪行為	○	○	
	薬物犯罪（脱法ドラッグを含む）	○		
	ストーカー、痴漢、盗撮等の犯罪	○	○	
	コンピュータ、SNS の不正使用または不適切使用	○	○	○
交通違反	飲酒運転・無免許運転・暴走運転等の危険運転（事故の有無は問わない）	○	○	
	ひき逃げ	○		
	その他の交通法規違反による人身事故		○	○
	交通法規違反の教唆・幫助		○	○
	本学敷地内・周辺での無断駐車		○	○
飲酒	飲酒を強要し重篤な事態を生じさせた場合	○	○	
	満 20 歳未満の学生と知りながら飲酒を勧める行為、満 20 歳未満の学生の飲酒行為		○	○
試験・授業に係る不正	カンニング等の不正行為 レポート等の盗作や剽窃		○	○
	授業出席に係る不正行為		○	○
学問的倫理	論文等作成における捏造、改ざん、盗用等	○	○	○
ハラスメント	各種ハラスメントによる人権侵害	○	○	○
その他	本学の教育方針に違背する等、学生の本分に反する行為	○	○	○

具体的な処分については、以下を勘案し量定を決定する

- ・懲戒対象行為の動機、態様、過失度合い
- ・他の学生や社会への影響
- ・過去に懲戒対象行為を行っているか

埼玉医科大学学生等個人情報保護規則

(平成 17 年 3 月 26 日制定)

(目的)

第 1 条 この規則は、学校法人埼玉医科大学個人情報保護規程（「以下「保護規程」という。」第 2 3 条に基づき、埼玉医科大学（「以下「本学」という。）が保有する学生等の個人情報の取扱いに関する大学の責務と大学が講ずべき措置について適切且つ有効な実施を図り、個人情報の主体である学生等個人の情報を保護するとともに、個人情報の開示、訂正及び削除の請求権を保証することを目的とする。

(用語の定義)

第 2 条 この規則において「個人情報」とは、保護規程の第 3 条第 1 号により定義されるものうち、本学が業務上取得又は作成したものをいう。

2 「個人データ」とは、個人情報保護法第 2 条第 4 項で規定する「個人情報データベース等を構成する個人情報」をいう。

3 この規則において「学生等」とは、本学において教育を受けている者、これから本学において教育を受けようとする者及び過去本学において教育を受けた者並びに受けようとした者をいう。

(個人情報の収集と利用目的の特定)

第 3 条 個人情報の収集及び利用については、保護規程第 1 1 条及び第 1 2 条による他、本学の学生等に関する個人情報の利用目的は、次の各号のとおりとする。

(1) 学内利用に関する次の事項

- ア 名簿管理に関すること。
- イ 学務に関すること。
- ウ 健康診断に関すること。
- エ 奨学事業に関すること。
- オ 生活指導に関すること。
- カ 賞罰に関すること。

(2) 学外への情報提供を伴う次の事項

- ア 保護者等への学務情報の提供
- イ 同窓会、父母会等関連団体への提供
- ウ 官公庁からの照会に関する事項
- エ 奨学団体への提供
- オ 留学先機関への提供
- カ 研修機関への提供
- キ 外部委託に伴う提供
- ク 本学の広報活動等における利用
- ケ 大学コンソーシアム等の大学間交流、公開講座等への参加に伴う利用

(3) その他、安全管理、教育の向上、および教育サービス等の観点から必要な事項

(4) 本学は原則として次の情報を収集してはならない。

- ア 思想、信条及び宗教に関する事項
- イ 社会的差別の原因となる事項

(個人情報の取得や第三者提供の際の本人の同意)

第4条 本学が保有する学生等の個人情報の利用目的、原則として予め当該本人に通知し、又は公表することとする。

2 前項の通知については、口頭、書面、電子メール等の方法で行う。公表については、学校の掲示板及びホームページ等に掲示する方法で行うものとする。

3 当該本人が、当該個人情報の取り扱いについて承諾する場合は、口頭、書面等により意思表示を行うものとする。

4 次の各号に該当する場合については、本人の同意を得ないことができる。

(1) 法令に基づく場合。

(2) 人の生命、身体又は財産保護のために必要な場合であって本人の同意を得ることが困難な場合

(3) 公衆衛生の向上又は学生等の健全な育成の推進のために特に必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難な場合

(4) 国の機関若しくは地方公共団体等から法令の定める事務遂行に対して協力する必要がある場合であって、本人の同意を得ることにより本学の業務の遂行に支障を及ぼすおそれがあるとき。

(5) 学術研究または統計解析のために利用する場合で、本人の権利利益を不当に侵害するおそれがないと認められるとき。

(6) 学生教育を適切に遂行するため、学務上および事務上の必要があり、本人の権利利益を不当に侵害するおそれがないと認められるとき。

(7) その他、個人情報保護委員会が正当と認めたとき。

(安全管理措置及び従事者の監督)

第5条 本学は学生等に関する個人データを取り扱う従事者及びその権限を明確にした上でその業務を行わせること。

2 学生等に関する個人データは、その取り扱いについての権限を与えられた者のみが業務の遂行上必要な限りにおいて取り扱うこと。

3 学生等に関する個人データを取り扱う者は、業務上知り得た個人データの内容をみだりに第三者に知らせ、又は不当な目的に使用してはならない。

その業務に係る職を退いた後も同様とする。

4 本学は、学生等に関する個人データ管理責任者及び個人データを取り扱う従事者に対し、その責務の重要性を認識させ具体的な個人情報の保護措置に習熟させるため、必要な教育及び研修を行うものとする。

(委託先の監督)

第6条 本学は個人データの安全管理について、十分な措置を講じている者を委託先として選定するものとする。

2 前項の規定の趣旨に従い、委託先が委託を受けた個人データの安全管理のために講ずべき措置の内容が委託契約において明確化されるために、以下の事項を定めるものとする。

(1) 委託先においてその従業者が知り得た個人情報を漏らし又は盗用してはならないこと。

(2) 個人データ取り扱いの再委託を行うに当たっては、あらかじめ文書により本学の下承を得ること。

- (3) 委託先における保管期間等を明確化すること。
- (4) 利用目的達成後の個人データの返却又は委託先における破棄若しくは削除を確実に行うこと。
- (5) 委託先における個人データの加工（委託契約範囲内のものを除く。）、改ざん等を禁止し、又は制限すること。
- (6) 委託先における個人データの複写又は複製（安全管理上必要なバックアップ等委託契約範囲内のものを除く。）を禁止すること。
- (7) 委託先において個人データ等の漏えい等の事故が発生した場合に委託元へ報告義務を課すこと。
- (8) 委託先において個人データの漏えい等の事故が発生した場合に委託先の責任が明確化されていること。

（個人情報第三者提供）

第7条 本学は学生等に関する個人データを同窓会、奨学事業を行う団体その他の第三者に提供する場合には、次に掲げる事項に留意するものとする。

- (1) 提供先において、当該個人データの取り扱いを通じて知り得た個人情報を漏らし、又は盗用してはならないこと。
- (2) 当該個人データの再提供を行うに当たっては、あらかじめ文書をもって本学の下承を得ること。
- (3) 提供先における保管期間等を明確化すること。
- (4) 利用目的達成後の個人データの返却又は提供先における破棄若しくは削除が適切且つ確実になされること。
- (5) 提供先における個人データの複写及び複製（安全管理上必要なバックアップを目的とするものは除く。）を禁止すること。

（保有個人データの開示）

第8条 本学は本人から当該本人の成績の評価、その他これに類する事項に関する保有個人データの開示を求められた場合におけるその開示又は非開示の決定に当たっては、大学における教育活動に与える影響を勘案するものとする。

- 2 本人の法定代理人から本人に関する保有個人データの開示を求められたときは、原則として本人に対し書面又は開示請求者が同意した方法により手続きを行い、全部又は一部について非開示とする旨の決定をしたときには、本人又は開示請求者に対しその旨を遅滞なく通知するものとする。
- 3 次の各号のいずれかに該当する場合は、その全部又は一部を本人に開示しないことができる。
 - (1) 本人又は第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を害するおそれがある場合
 - (2) 大学の運営上、業務の適正な実施に著しい支障を及ぼすおそれがある場合
 - (3) 他の法令に違反することとなる場合
 （本人の利便を考慮した適切な措置）

第9条 本学は本人からの保有個人データの開示請求が円滑に行われるよう、その手続を本人に周知するよう努めるとともに、閲覧の場所及び時間等について配慮しなければならない。

- 2 前項に関する具体的な手続き、請求用関係書類の様式その他の案内等については別に定める。

(苦情の処理)

第10条 本学は学生等に関する個人情報の取り扱いに関する苦情の適切且つ迅速な処理を行うため、苦情及び相談を受付ける窓口の明確化等必要な体制の整備に努めるものとする。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

埼玉医科大学保健医療学部の学生に対するハラスメント等防止規則

(平成19年 3月19日制定)
改正 平成24年 3月16日 令和 6年11月22日

(趣旨)

第1条 この規則は、学校法人埼玉医科大学ハラスメント等防止規程(以下「法人ハラスメント防止等規程」という。)第10条の規定に基づき、埼玉医科大学保健医療学部に在籍する学生(以下「学生」という。)に対するハラスメント等の防止及び排除のための措置並びにハラスメント等に起因する問題が生じた場合に適切に対応するための措置に関し必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この規則において、使用する用語の意義は、法人ハラスメント等防止規程の定めるところによる。

(教職員及び学生の責務)

第3条 教職員及び学生は、この規則に定めるもののほか、法人ハラスメント等防止規程その他別に定める「ハラスメント防止のために教職員が認識すべき事項」及び「ハラスメント等防止のために学生が認識すべき事項」に従い、ハラスメント等の問題を起こし、又は他者が行うハラスメント等を容認してはならない。

(苦情相談)

第4条 保健医療学部事務室(川角キャンパスを含む。)に、学生からのハラスメントに関する苦情の申出及び相談(以下「相談等」という。)に対応するための相談窓口を設置する。

2 前項の相談窓口に、ハラスメント相談員(以下「相談員」という。)複数名を置く。

3 相談員は、教職員のうちから保健医療学部長が指名する者をもって充てる。

4 学生は、第1項の相談窓口のほか、法人ハラスメント等防止規程第5条第1項の全学の相談窓口にも相談等を行うことができる。

(学長への報告)

第5条 相談員は、学生がハラスメント等により著しく学修機会及び教育環境が害され、又は不利益を受けた場合には、保健医療学部長を通じて、学長に報告するものとする。

(雑則)

第6条 この規則に定めるもののほか、ハラスメント等の防止及び排除のための措置等に関し必要な事項は、別に定める。

附 則(平成19年3月19日)

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月16日)

この規則は、平成24年3月16日から施行し、平成23年11月26日から適用する。

附 則(令和6年11月22日)

この規則は、令和6年11月30日から施行し、令和6年4月1日から適用する。

ハラスメント等防止のためのガイドライン

1 ハラスメント等の防止に関して学生が認識すべき事項

1) 基本的な考え方

ハラスメント問題を起こさないように、学生は他の学生や教職員と接するに当たり、次の事項の重要性について十分認識しなければならない。

- (1) お互いの人格を尊重し合う意識を持つこと。
- (2) 対等なパートナーシップを確立する意識を持つこと。
- (3) 相手の性別や社会的地位等の属性に関し、不適切な言動をしない意識を持つこと。
- (4) 気づかないでハラスメントの加害者・被害者になることがあるという意識を持つこと。

【ハラスメントの加害者・被害者にならないための心構え】

① 言動の受け止め方には個人間や男女間、その人物の立場等により差があり、ハラスメントに当たるか否かについては、相手の判断が重要であること。

- ・ 親しさを表すつもりと言動であったとしても、本人の意図とは関係なく相手を不快にさせてしまう場合があること。
- ・ 不快に感じるかどうかには個人差があること。
- ・ この程度のことは相手も許容するだろうという勝手な憶測をしないこと。
- ・ 相手との良好な人間関係ができていると勝手な思い込みをしないこと。

② 相手が拒否し、又は嫌がっている場合には、同じ言動を決して繰り返さないこと。

③ 拒否や不快であることの意味表示が相手からいつもあるとは限らないこと。

ハラスメントを受けたものが、上級生や部活の先輩等との人間関係を考えて拒否することができないなど、相手からいつも明確な意思表示があるとは限らず、拒否の意思表示ができないことも少なくないが、それを同意・合意と勘違いしてはならない。

④ 学内におけるハラスメントにだけ注意するのでは不十分であること。

例えば、学内での人間関係がそのまま持続する部活の歓迎会、コンパ等の場におけるハラスメント行為に注意しなければならない。

2) ハラスメント等の種類

典型的な4つのハラスメントとその他のハラスメント・人権侵害行為があります。

(1) セクシュアルハラスメント

性的な内容に関する発言や行動により、相手に不快感を与えること。たとえ相手に好意があったとしても加害者になり得る。

具体的には、性的な魅力を指摘する、卑猥な言葉を話す、相手の了解を得ずに体に触るなど相手に対する直接的なものに限らず、ポスターを掲示する、動画を無理やり見せるなどがある。

また、性別による差別的な発言（ジェンダーハラスメント）も含む。

(2) パワーハラスメント

地位や権限又は年齢、経験などの優位性を背景に、適正な範囲を超えて、人格と尊厳を侵害する言動を行い、精神的・身体的苦痛を与え、あるいは修学環境を悪化させること。学生間では部活動の中で起こる可能性が高い。先輩と後輩の関係、顧問と部員の関係、レギュラー選手と控え選手の関係、入部や退部の問題で起こりやすいという特徴がある。

(3) アカデミックハラスメント

教育・研究上の権力を濫用し、他の構成員に対して不適切で不当な言動を行うことにより、その者に、修学・教育・研究ないし職務遂行上の不利益を与えることや、その修学・教育・研究ないし職務遂行上に差し支えるような精神的・身体的損害を与えること。

例えば、授業を受けさせない、学生のプライバシーを暴露する、特定の学生に不要な作業を命ずる、不公平な評価をする、指導・指示に従わないと授業単位をやらないと発言する、といったものがある。

(4) モラルハラスメント

言葉や態度などいわゆる「見えない暴力」によって支配下に置いたり、精神的に追い詰めたりする行為を指す。言葉や態度、身振りや文書などによって、相手の人格的尊厳を傷つけたり、修学・研究や仕事の環境を悪化させたりすることをいう。

上下関係にある場合のみならず、対等であるべき友人の間柄でも起こり得るものであり、また、教員や上級生であっても被害者となり得る。

(5) その他のハラスメント・人権侵害行為

・ アルコールハラスメント

20歳未満の者に対して年齢を確認しないあるいは確認したにもかかわらず飲酒を勧めたり強要したりする、アルコールが苦手な人に対して飲酒を強要する、強要を応援するようにはやし立てる、強要する場面を止めずに見て見ぬ振りをする、飲酒を断りにくい環境を設定するといった行為。

・ 性暴力

同意のない性的な行為は、性暴力であり、重大な人権侵害である。人は自分の心と体を尊重される権利を持っており、性暴力はその権利を著しく侵害するものであることを認識しなければならない。

具体的には、同意のない状態でのボディタッチ、キス、性交等やアルコール、レイプドラッグ等の薬物を使用した性暴力、SNS等を通じた性被害、痴漢等があり、性暴力は刑法上の処罰の対象となり得る。

そのほか、ジェンダーハラスメント、ソーシャルメディアハラスメント、エイジハラスメント、マタニティハラスメント、レイシャルハラスメント、ケアハラスメント等がある。

デートDVなどの言動も人権侵害行為になる。

3) 懲戒処分

ハラスメント等の動態等によっては本学の学生としての本分にもとる行為等に該当して、懲戒処分に付されることがあることを十分認識すること。とりわけ性暴力に関しては、退学を含めた厳しい懲戒処分が課されることがある。

2 適正な学修・研究環境を確保するために認識すべき事項

ハラスメントにより学修・研究環境が害される事を防ぐため、教職員及び学生は次の事項について積極的に努めなければならない。

- 1) ハラスメントについて被害を訴えた学生をいわゆるトラブルメーカーとみなしたり、ハラスメントに関する問題を当事者間の個人的な問題として片付けないこと。
- 2) ハラスメントに関する問題の加害者や被害者を出さないようにするために、周囲に対する気配りをし、必要な行動をとること。
 - (1) ハラスメントが見受けられる場合は、そうした言動をとった者への注意を促すこと。
 - (2) 被害を受けていることを見聞きした場合は、声をかけて相談にのること。
 - * 被害者は「恥ずかしい」、「トラブルメーカーのレッテルを貼られたくない」、「仕返しが怖い」などの考えから、他の人に対する相談をためらうことがある。被害者を深刻にしないように、気がついたことがあれば声をかけて気軽に相談に乗ることが大切である。
 - (3) 学内においてハラスメントがあった場合には、第三者として、気持ちよく学修・研究ができる環境づくりをするために、担任教員等の教職員に相談することをためらわないこと。相談しやすいように互いの信頼関係構築に努めること。

3 ハラスメントに起因する問題が生じた場合において学生に望まれる事項

1) 基本的な心構え

- (1) 一人で我慢しているだけでは、問題は解決しないと認識すること。

ハラスメントを無視したり、受け流したりしているだけでは、必ずしも状況は改善されないということをまず認識することが大切である。

被害にあったのは、決してあなたのせいではありません。
- (2) ハラスメント防止に対する行動をためらわないこと。

「トラブルメーカーというレッテルを貼られたくない」、「恥ずかしい」などと考えがちだが、被害を深刻なものにしない、他に被害者を作らない、さらにはハラスメントをなくすことは自分だけの問題でなく、学修・研究するための適正な環境の形成が重要であるとの考えに立って、勇気を出して行動することが求められる。

2) ハラスメントの被害を受けたと思うときに望まれること

学生は、ハラスメントを受けた場合、次のような行動をとるよう努めることが望まれる。

- (1) 嫌なことは相手に対して明確に意思表示すること。

ハラスメントに対しては毅然とした態度をとること。すなわち、はっきりと自分の意思を相手に伝えることが重要である。
- (2) 信頼できる人に相談すること。

まず、同級生や友人、担当教員や保健室（学生健康推進室）職員等の身近な信頼できる人に相談することが大切である。
- (3) 相談しても解決が困難な場合には、「相談員」に相談するためハラスメント窓口（保健医療学部事務室、保健室（健康推進室）、学生サポート相談室）で相談、申し立てをする。なお、相談員に相談するときは、ハラスメントが発生した日時、内容等について記録したり、第三者の証言を得ておくことが望ましい。

学生生活に関する規定 1

— 災害に対する予防と対応 —

1. 災害に対する予防と防災の心得

1) 一般的事項

(1) 登校時の心得

- ① 緊急時に救急車や消防自動車の通行の妨げにならないよう、自転車、自動二輪車、自動車は所定の場所に置くこと。

(2) 下校時の心得

- ① 教室は窓締め等の安全確認を行い、冷暖房のスイッチを切り、消灯のうえ退出する。
- ② 必要のない電気器具のコンセントは抜いておくこと。

(3) 実習室・実験室使用中の心得

- ① 実習室や実験室を使用する際には、実習責任者・実験責任者の指示に従い安全に配慮すること。

2) 火災の予防と防災の心得

(1) 構内は禁煙です。

(2) 構内において許可なく火気を使用しないこと。

(3) 火気の近くには燃えやすいものを置かないこと。

(4) 火気使用後は後始末を完全に行うこと。

(5) 消火器、火災報知機等の設置場所と使用方法を平素から確認し、熟知しておくこと。

(6) 教室、実習室内の整理整頓に心がけ安全な避難路を平素から確保しておくこと。また、避難口の近くや防災扉の前には物を置かないこと。

3) 地震発生に備えての防災の心得

(1) 平常時

- ① 学生間（クラス、部活、友人等）で折に触れて話し合いをすること。
- ② メディア等で地震についての知識を得ておくこと。
- ③ 教室、実習室内の整理整頓に心がけ安全な避難路を平素から確保しておくこと。また、避難口の近くや防災扉の前には物を置かないこと。

(2) 注意報等の発令時

① 学内にいる場合

- ア) 課外活動は中止すること。
- イ) 窓のカーテン、ブラインド類を閉鎖すること。

- ウ) 火気は使用しないこと。
- エ) エレベーターを使用しないこと。
- オ) 大学の指示に従うこと。

② 学外にいる場合

- ア) メディアや地域の緊急非常放送から、正しい知識を得ること。
- イ) 地方自治体を実施する地震防災応急対策の指示に従うこと。

4) 自然災害時の休講基準

(1) 警報または、特別警報が発令された場合、発令後の授業等（講義、実習、演習、試験を含む）は中止とする。

① 授業等の開始予定が午前である日においては、午前6時から授業開始までの、ある時点で警報が発令されていれば、その後解除されても午前の授業等は中止となる。
この場合、午前10時の時点で警報が発令されていれば、その後解除されても午後の授業等も中止となる。

② 授業等の開始予定が午後である日においては、午前10時から授業開始までの、ある時点で警報が発令されていれば、その後解除されても午後の授業等は中止となる。
なお、臨地実習（臨床実習）の場合に限っては、原則として実習は通常どおり実施するが、遅刻や欠席については十分な配慮を行うので、自らの安全を優先しつつ、状況に応じて実習参加の可否を考えて行動すること。

③ 休講の対象となる警報の発令地域は、以下の区分による。

受講場所	警報の発令地域
日高キャンパス	日高市
川角キャンパス	毛呂山町
毛呂山キャンパス	毛呂山町
川越キャンパス	川越市

(2) 警報または、特別警報が発令された場合とは、次のいずれかが発令された場合とする。

① 警報

- ア. 大雨・暴風警報（大雨警報と暴風警報がともに発令された場合）
- イ. 暴風雪警報
- ウ. 大雪警報

② 特別警報

- ア. 大雨特別警報
- イ. 暴風特別警報
- ウ. 暴風雪特別警報
- エ. 大雪特別警報

(3) 事前に大きな被害が予想される場合は、危険性を考慮し、学部長の判断により事前に休講を決定することがある。

※休講等の連絡は、メールにてお知らせいたします。必ず受信できるよう、スマートフ

オン等へのメール転送設定をしておくこと。

5) 自然災害時の学生の対応

- (1) 「自然災害時の休講基準」によって休講かどうかを判断し、休講時は登校しない。
- (2) 授業等の実施中に警報または、特別警報が発令された場合は、学部長の判断に従う。
- (3) 大学外の施設での実習中に当該施設の地域に警報または、特別警報が発令された場合には、担当教員の指示に従う。
- (4) 通学経路に警報または、特別警報が発令された場合は大学（事務室）に連絡を取り、登校せず帰宅する。

◎ 地震から身を守る際の優先順序

- ① まずわが身の安全をはかる（机の下にもぐりこむ等）。
- ② 火の気がある場合には可能な限り火の始末を行う。
- ③ 落下物等に気をつけ、すばやく危険な場所から離れる。
- ④ 避難は徒歩が原則（身軽な格好で）。
- ⑤ 正しい情報をつかむ。
- ⑥ まわりの人たちと冷静に協力しあう。
- ⑦ 大学へ安否等の連絡をする。

学生生活に関する規定 2

— 安全運転および事故遭遇時の対処 —

1. 安全運転の心得

- 1) 自転車、自動二輪車、自動車を運転する場合
 - (1) 交通ルールを守ること。
 - (2) 安全速度を守り、安全運転を心がけること
 - (3) カーブの手前ではスピードを落とすこと。
 - (4) 交差点、踏切、一時停止の場所では必ず安全を確かめること。
 - (5) 横断歩道では歩行者の安全を守ること。
 - (6) シートベルト、ヘルメットを必ず着用すること。
 - (7) 運転しやすい服装で行うこと。

2. 事故遭遇時の対処

- 1) 事故に遇った場合には、先ず人命救助に努めること。その後、事務室へ速やかに報告すること。
- 2) 報告あたっては、以下の事項を落ち着いて正確に伝えること（「事故届(様式 81 号)」の提出）。
 - (1) 学科
 - (2) 学年
 - (3) 氏名
 - (4) 事故遭遇時間と場所
 - (5) 状況
 - (6) 負傷者の有無

ソーシャルメディアの利用に関するガイドライン

インターネットにおけるホームページ(World Wide Web: WWW、WEB)ならびにLINE、Facebook、X、Instagramなどのソーシャルネットワークサービス(SNS)は大変便利なコミュニケーションツールですが、その不適切な利用が倫理的さらには法的に問題となる場合があります。そこで、WEBやSNSのサービス、さらにPCやスマートフォンなどの通信デバイスの取り扱いと個人情報保護の遵守をもう一度確認してください。とくに、大学の名前やロゴを使用してソーシャルメディアで発言してしまうと、閲覧者は貴方の個人的な発言を「埼玉医科大学の発言」として受け取るかもしれません。本ガイドラインを参考にソーシャルメディアの利用の注意事項を十分理解し遵守しましょう。

【スマートフォンやアカウントの利用において遵守すべきこと】

他者のスマートフォンやSNSを無断で使用することは「不正アクセス行為の禁止等に関する法律」によって処罰されることがあります。

1. 不正アクセスされないよう、スマートフォンやSNSのアカウントのパスワードは他者に知られないようにしてください。
2. 他者のスマートフォンを許可なく使ったり、のぞき見る行為はやめましょう。
3. 他人のアカウントを奪うおよび無断で使用する「なりすまし」行為は絶対に行ってはいけません。
4. 安易な気持ちでアカウントを他者に預けることもしてはいけません。「なりすまし」に悪用されないように心掛けてください。
5. パスワードは「強力なパスワード」(十分に長く複雑なもの)を設定してください。
6. パスワードの「使いまわし」(様々なサービスで同一のパスワードを設定すること)は行わないでください。

【WEBやSNSでの情報発信について】

以下の内容を発信しないように注意しましょう。

1. 他者を誹謗中傷する内容
2. 他者のプライバシーにかかわる内容
3. 公の秩序または善良の風俗に反する内容
4. 人種、民族、言語、宗教、身体、性、思想などに関する差別的な内容
5. 教育および研究上で秘密保持が必要な内容
6. 自分および他人の住所、電話番号などの個人情報

【WEBやSNSへの投稿について】

WEBやSNS上は公の場なので一時の感情で投稿することはとても危険です。

1. 一度投稿してしまうと、複製されたコメントや写真が異なるサイトに無断で掲載され拡散する恐れがあります。
2. 安易な気持ちで投稿した内容が他者を傷つける場合があります。さらには、名誉毀損など法的な措置をとられることがありますので、慎重に投稿しなければいけません。

緊急連絡先

- ◎犯罪の場合 1 1 0 (飯能警察署 042-972-0110)
- ◎火災や負傷者の救護の場合 1 1 9 (埼玉西部広域消防本部 042-973-9119)
- ◎日高キャンパス内の連絡先
 - (火災の場合) 防火センター 042-984-4119 (内線 7119)
 - (犯罪等の場合) 警備センター 042-984-4110 (内線 7110)
- ◎大学の連絡先
 - 保健医療学部事務室 042-984-4801 (内線 3010)